

1. 災害記録に関する資料

1－1 富山県の気象災害

1. 明治16年(1883年)～平成20年(2008年)

この年表は、昭和46年3月、富山県・富山地方気象台が発行した『富山県気象災異誌』ならびに「富山地方気象台異常気象報告」から明治16年以降の主要な気象災害（火災を含む）を抜粋したものである。

災害の詳細な内容については上記の災異誌および異常気象報告を参照されたい。なお、火災については焼失戸数200戸以上とした。

年 月 日	災害項目	記 事
明治18年 5月31日 (1885)	大 火	20時15分、富山市餌指町から出火。強い南風にあおられ民家5,925戸、学校、官庁、社寺、その他477棟焼失。類焼範囲52カ町3カ村。死者9名。(南高北低の気圧配置)
明治19年 4月2日 (1886)	大 火	射水郡新湊町中町から出火。山王町、紺屋町に延焼、民家200戸、学校1を全焼。
4月5日	大 火	中新川郡西水橋で12時出火。日本海の低気圧に吹き込む南の強風のため380戸焼失。6日に鎮火。
明治20年 4月1日 (1887)	大 火	12時ごろ滑川領家町から出火。日本海に低気圧があつて南風が強く411戸焼失。
4月21日	大 火	14時15分、富山市荒町から出火。折からの南西風にあおられ23カ町村に延焼。住家801戸、空家46戸、その他倉庫等50棟焼失。(本州は高気圧に覆われ天候良し)
10月1日	大 火	22時、射水郡伏木町湊町から出火。北の風強く400戸焼失。死者2。2日07時鎮火。(日本海に高気圧、本州南岸に低気圧)
明治21年 4月17日 (1888)	大 火	12時ごろ高岡市定塚町から出火。北風にあおられ800戸焼失。(本州は高気圧にて天候良し)。
明治22年 7月24日 (1889)	大 雨	東西に連なる低気圧が本州中部に停滞。このため大雨となり神通川大出水。富山市内11カ町1,400戸が浸水。
明治23年 3月24日 (1890)	大 火	21時、上新川郡上滝町から出火。東支那海に高気圧、北海道に低気圧があつて、気圧傾度が急となり強い西風であつた。200戸焼失。
5月17日	大 火	14時ごろ婦負郡八尾町で出火。南風が強く302戸焼失。18日07時、ようやく鎮火。(関東地方に高気圧、九州地方に低気圧。)
6月3日	大 火	03時ごろ中新川郡上市町から出火。北の風強く、800戸焼失。07時、鎮火。(日本海に高気圧)
10月5日	大 雨	日本海に高気圧、本州南岸に低気圧が停滞し、富山県全般に大雨。伏木の降水量(5日)89.7mm。富山市家屋浸水4,697戸。堤防8ヶ所、道路35カ所、橋梁32カ所。
明治24年 1月18日 (1891)	大 雪	西高東低の気圧配置が顕著となり県下に大雪。積雪三日市町で230cm、伏水で173cm。三日市、生地、村椿で家屋全壊40棟、死者2名、泊で家屋全壊9戸。
7月19日	大 雨	北海道中部の低気圧から南西に伸びる前線の通過により大雨。伏木の降水量

	10月3日	強風波浪	(19～20日)79.5m。諸河川洪水。特に神通川流域にて被害多し。死者16名、家屋流失30戸、同浸水7,596戸、田地流失1,477ha、同浸水3,371ha。 日本海に高気圧、九州に低気圧があつて北風強く沿岸大波。伏木の最大風速NE19.6m/s。射水郡沿岸にて漁船転覆多数。漁夫溺死72名。
明治25年 (1892)	11月10日	大火	02時、富山市東堤町から出火。日本海に低気圧があり南風が強くなっていた。このため14ヵ町村に延焼、全焼474戸、社寺、小学校、その他焼失。
明治26年 (1893)	5月12日	大火	15時ごろ中新川郡東水橋町で出火。322戸焼失。(弱い南高北低の気圧配置)
明治27年 (1894)	9月7日	大火	11時30分ごろ射水郡伏木町で出火。北風が強く370戸焼失。(北海道に高気圧、九州に低気圧)
明治28年 (1895)	4月24日	大火	0時すぎ富山市上り立町から出火。南の強い風にあおられ上り立町、西仲間町、東仲間町、北新町で443戸全焼。(弱い西高東低の気圧配置)
	7月28日	大雨	神通川、常願寺川、黒部川の河川が洪水。家屋浸水5,732戸。田畑数10ha浸水。伏木の降水量98.3mm。
明治29年 (1896)	7月1日 ～ 8月2日	大雨・強風 波浪	この期間大小9回の風水害。特に、6～7日、20～21日は低気圧が日本海南部を通過し大雨となる。 7日、神通川、黒部川出水しこの周辺地区で家屋流失4戸、床上浸水743戸、床下浸水810戸、田畑浸水し、水稻その他農作物に被害。堤防決壊2,700m。 21日神通川再び出水。死者2名、負傷者3名、家屋流失25戸、床上浸水7,062戸、床下浸水1,409戸、堤防破損22ヵ所、同決壊11ヵ所、橋梁流失破損30ヵ所、同日庄川出水、流域にて建物全壊248棟、家屋浸水破損1,569棟、堤防、道路、耕地に被害多し。 8月2日、神通川、庄川出水。家屋流失6戸、床上浸水2,561戸、床下浸水2,282戸、新湊町にて家屋浸水1,036戸、田畑浸水147ha、海岸堤防、道路、橋梁の被害多し。
明治30年 (1897)	7月7日	大雨	本州中部に低気圧。神通川洪水。家屋床上浸水5,006戸、床下浸水396戸。
明治31年 (1898)	4月15日	大火	13時ごろ東砺波郡井波町、15時40分、同郡城端町で出火。南西の強風にあおられ、井波町201戸、城端町282戸焼失。(西日本を高気圧が覆う。)
明治32年 (1899)	5月10日	大火	婦負郡八尾町上新町から出火。南風強く、200余戸焼失。(西日本を高気圧が覆う。)
	8月12日	大火	0時30分、富山市中野新町から出火。猛烈な南の風により、富山市街の約4割を焼失。県庁、市役所、病院、学校、市の中心部は大半を焼失。全焼4,697戸、その他半焼、潰家など119棟。12時ごろようやく鎮火。(太平洋に高気圧、日本海に低気圧があつて南高北低の気圧配置)
	9月8日	大雨	台風が紀伊半島を通り中部地方を横断。各河川出水、県下全般に被害。伏木の降水量(8日)73.9mm。家屋床上浸水3,367戸、床下浸水2,310戸。堤防6ヵ所、橋梁2ヵ所、耕地浸水数10,000ha。
明治33年	5月25日	大火	01時、婦負郡八尾町で出火。南風強く274戸焼失。14時30分ごろ鎮火。(九

(1900)				州地方に低気圧)
	6月27日	大	火	13時20分、高岡市二番町から出火。乾燥した強い西寄りの風にあおられ延焼。焼失建坪23,242㎡。民家3,573戸、官庁3か所、学校1か所、社寺18か所、銀行その他13か所焼失。死者7名、負傷者46名、同日夜半にようやく鎮火。(西日本を高気圧が覆い天候良し)
	8月19日	大	火	20時ごろ東砺波郡出町字太郎丸村から出火。県西部では南風特に強く7か村に延焼。家屋303棟、倉庫45棟、納屋93棟焼失。(九州に台風)
明治34年 (1901)	6月15日	大	火	氷見郡氷見町で出火。西の風が強く200戸焼失。(西日本に高気圧、関東地方に低気圧)
明治35年 (1902)	4～8月	長期異常 低温寡照 (冷害)		4月上旬～8月下旬の気温の高低激しく、4月低温と暴風、5・6月高温、7・8月低温、寡照により水稻、その他農作物の生育不順、病虫害の多発、成熟不良となり凶作。被害面積7,001ha。
明治37年 (1904)	12月	大	雪	県下全般に大雪。伏木の積雪75cm。家屋全壊13戸。死者3名。
明治38年 (1905)	8月7日 ～8日	大	雨	九州西方の海上に台風、日本海中部に低気圧があつて、この影響により県東部に大雨。県東部の河川が洪水となり、下新川郡布施村、魚津町、三日市町で家屋流失2戸、床上浸水144戸、床下浸水687戸、堤防損壊延長11,200m。伏木の降水量(7～8日)212.3mm。
明治39年 (1906)	7月30日	大	火	19時、上新川郡東岩瀬町から出火。北東の烈風にあおられ、200戸余を焼失。死者1名。
明治43年 (1910)	2月9日 ～13日	大	雪	低気圧が北海道付近で急激に発達し、顕著な冬型の気圧配置が13日まで続いた。4昼夜交通機関途絶。家屋全壊45戸、死者3名。
	8月29日	雷・強風 竜巻		19時ごろ上市方面に竜巻が発生、落雷、降ひょう、強雨を伴う。中新川郡寺田村方面より弓庄、音杉、上市、宮川、白萩、南加積、東加積の各町村を経て早月川に入ったと推定される。被害地は、幅1.5km、長さ12kmにわたり家屋、果樹、農作物に多大の被害あり。
	9月7日	大	雨	台風が九州を北上、日本海沿岸に前線停滞し、県全域100～150mm。神通川、庄川などの大河川がはん濫。県全域で家屋浸水1,323戸。堤防決壊244か所、道路、橋梁101か所。伏木の降水量(6日)43.2mm、(7日)68.0mm。
明治45年 (1912)	1月13日	地すべり		01時ごろ氷見郡碁石村大字上余川字一の瀬にて地すべり。家屋倒壊数戸、田畑24ha、山林1.3ha陥没。
	2月26日	大	火	射水郡新湊町で出火。強い北東風にあおられ、放生津で46戸、三日曾根で213戸、長徳寺で20戸焼失。死者1名、重傷者1名。(日本海に中心をもつ優勢な高気圧)
	7月22日	大	雨	富山湾付近の地形性低気圧により県平野部150mm、山間部で250～300mm、県東部の諸河川洪水。県中・東部で死者21名、負傷者4名、家屋浸水床上3,932戸、床下3,170戸、流失全壊107棟。田畑流失1,303ha、同浸水2,850ha。橋梁流失108か所、堤防、道路損壊延長36.4km。伏木の降水量(22日)109.6mm。
大正1年	9月23日	強	風	台風が四国東部に上陸、その後、北東に進み能登半島を通過した。伏木の最低

(1912)		大 雨	気圧 966.2mb。最大風速 W16.0m/s。富山, 高岡, 伏木で被害多し。死者 4 名, 負傷者 35 名, 家屋全壊 69 棟, 同半壊 60 棟, 非住家 71 棟, 堤防 9 か所, 船舶 4 隻, 伏木付近で列車転覆。
大正 3 年 (1914)	8 月 13 日	大 雨	台風が静岡県に上陸, 関東南部を北東進する。伏木の降水量(13 日)192.1mm。県中部で死者 55 名, 行方不明 60 名, 家屋浸水 15,267 戸。田畑浸水約 9,000ha, 堤防決壊延長 15km, 橋梁流失約 50 か所。
	8 月 29 日	強 風 波 浪	台風が愛知県に上陸, 岐阜県東部を北上し日本海に抜ける。伏木の最大風速 NNE19.7m/s。伏木, 新湊, 四方地区で家屋半壊 60 戸, 同浸水 20 戸。
大正 6 年 (1917)	2 月 11 日	雪 崩	高岡市片原横町で雪崩。死者 6 名。伏木の最深積雪(2 月 1 日)116cm。
大正 7 年 (1918)	3 月 18 日	地 す べ り	氷見郡八代村字国見, 小滝, 角間一帯で地すべり。行方不明者 2 名。畑 2.1ha, 山林 10.8ha。
	9 月 24 日	強風・大雨 波 浪	台風, 静岡県西部に上陸, 中部地方を北上し日本海に抜ける。伏木の最大風速 N18.8m/s。県西部と富山湾沿岸地区に被害多し。死者 2 名, 家屋全半壊 183 戸, 床上浸水 200 戸, 床下浸水 83 戸, 堤防決壊約 800m, 橋梁流失 3 か所。
大正 8 年 (1919)	7 月 6 日 ～ 7 日	大 雨	梅雨前線が活発になり県南西, 南東部に 200～300mm の大雨。庄川, 小矢部川, 常願寺川流域に被害多し。家屋床上浸水 114 戸, 堤防決壊約 900m, 橋梁流失 1 か所, 田畑冠水 300ha。
大正 9 年 (1920)	6 月 28 日	大 雨	低気圧が北陸沿岸を北東進し八尾町山間部で 200mm。富山市, 上新川郡で被害大。死者 10 名, 家屋浸水床上 791 戸, 床下 860 戸, 堤防決壊約 1,500m, 橋梁流失 2 か所。
大正 10 年 (1921)	9 月 26 日	強 風 波 浪	台風が紀伊半島に上陸, 北々東に進み石川県を通過。富山平野, 富山湾沿岸海上で被害甚大。死者 18 名, 漁夫行方不明 105 名。家屋 82 棟, 工場 1 か所, 学校 2 か所, 倉庫, 納屋その他全壊 85 棟, 同半壊 92 棟。漁船 105 隻不明。(伏木の最大風速 S13.6m/s)。
大正 11 年 (1922)	3 月 15 日	強 風 波 浪	低気圧が秋田沖で急速に発達し富山湾では西寄りの風が強くなった。伏木の最大風速 WSW14.3m/s。漁船行方不明 8 隻, 行方不明者 44 名。
大正 12 年 (1923)	4 月 8 日	強 風	黄海にあった低気圧が日本海に入って急激に発達した。このため県全域暴風となり沿岸部で大きな被害。伏木の最大風速 WNW18.4m/s。行方不明者 6 名, 負傷者 3 名, 家屋全壊約 8 棟, 漁船行方不明 1 隻。
	7 月 18 日	強 雨	雷雨による。常願寺川, 小矢部川はん濫。伏木の降水量 54.1mm。家屋浸水床上 3 戸, 同床下 679 戸。堤防決壊延長 900m。田畑冠水 80ha。
	10 月 10 日	強 風 波 浪	台風が東海沖を北東に進み関東地方南部をかすめる。富山湾西部沿岸地区に大波。伏木の最大風速 NE24.2m/s。海岸堤防決壊 250m。民家, 倉庫, 漁船に多数被害あり。
大正 13 年 (1924)	9 月 29 日	強 風	台風が紀伊半島に上陸, その後, 北北東に進み能登半島を通過。生地沖合にて漁船行方不明 17 隻。船員 22 名行方不明。

大正 14 年 (1925)	9 月 7 日	大 火	14 時ごろ東砺波郡井波町から出火。強い台風が日本海西部を北上中で、県の南部は強い南風によるフェーン現象が起こっていた。このため、大火となり民家 325 戸が焼失した。
大正 15 年 (1926)	5～7 月 7 月 26 日 ～27 日	長 期 少 雨 (干 害) 大 雨	伏木の降水量 5 月 45.6mm, 6 月 32.9mm で平年の 4 割から 2 割で水不足が深刻になった。水田植付不能, 枯死, 亀裂等 1,894ha。損害 45.1 万円。 梅雨前線が中部地方に停滞, 同前線上を低気圧が進み, 梅雨末期の豪雨になった。平野部 100mm 内外。富山市, 射水郡で家屋浸水床上 251 戸, 床下 990 戸, 橋梁流失 3 か所, 道路損壊 36m, 堤防決壊 48m。
昭和 2 年 (1927)	1～2 月 12 月 24 日	大 雪 波 浪	1 月中旬から 2 月中旬にかけ大雪。伏木の最深積雪(2 月 13 日)159cm。このため列車の立往生, 電信不通等の障害がしばしば発生した。 日本海南部を通過した低気圧が三陸沖で発達した。このため富山湾東部沿岸に寄り回り波。滑川高月で死者 1 名, 家屋浸水 34 戸。水橋で家屋半壊 3 棟。宮崎で国道 36m 損壊。
昭和 4 年 (1929)	1 月 2 日 4 月 22 日 6～7 月	強 風 波 浪 長 期 少 雨 (干 害)	低気圧が北海道付近で 970mb に発達。全県・富山湾暴風雪となる。沿岸部の浪害による被害大(水橋地区)。県下の総被害死者 1 名, 負傷者 19 名。家屋倒壊 16 戸, 同半壊 21 戸, 非住家全半壊 356 棟, 家屋浸水 283 戸。船舶流失 32 隻, 同破損 65 隻。道路損壊 832m。電柱倒壊 2 6 本。 二ツ玉低気圧が北海道東方洋上で 970mb に発達。伏木, 新湊地区に浪害。住家全壊 4 戸, 半壊 10 戸, 非住家全壊 10 棟, 半壊 34 棟。家屋浸水 110 戸。道路損壊 36m。 から梅雨。伏木の降水量(6 月)59.1mm, (7 月)107.7mm。東砺波郡, 婦負郡に被害大。亀裂田 903.5ha, 枯渴田 1,425.5ha。
昭和 5 年 (1930)	7 月 10 日 9 月 5 日	大 雨 大 火	梅雨前線が太平洋岸から北上し中部地方に停滞。県平野部で 100～150mm の大雨。伏木の降水量(10 日)99.0mm。県中部で死者 1 名, 負傷者 6 名, 家屋浸水 70 戸, 堤防決壊 220m, 田畑流失 620ha, 同冠水 75ha。 11 時ごろ, 射水郡新湊町から出火。北西の強風にあおられ 545 戸焼失。負傷者 1 名, 損害 130 万円。(日本海低気圧)
昭和 6 年 (1931)	1 月 10 日	強 風・雪 波 浪	二ツ玉低気圧が北海道南東沖にあり, 960mb に発達し, 日本付近は顕著な冬型気圧配置となり, 10 日未明から北陸一帯は猛吹雪となった。特に沿岸地域で被害が大きく, 死者 5 名, 家屋全半壊 56 戸, 同浸水 300 戸, 堤防決壊 90m, 橋梁流失 1 か所, 漁船転覆破損 20 隻。電信電話はほとんど不通となった。
昭和 7 年 (1932)	6 月 24 日 11 月 14 日	雷・強 風 強 風 波 浪	県中部の小区域に集中豪雨。井田川中域で 150mm。家屋床上浸水 359 戸, 床下 2,785 戸, 道路 23m, 橋梁損壊 3 か所, 水田流失 12ha。 台風が東海沖を北東進。富山湾沿岸の氷見, 伏木, 新湊地区では被害大。住家倒壊 5 戸, 同一部破損 500 戸, 非住家全半壊 38 棟。防波堤, 護岸, 突堤損壊 640m。船舶大破 5 隻。伏木の最大風速 NNE16.0m/s。
昭和 8 年 (1933)	7 月 25 日 ～26 日	大 雨	台風くずれの低気圧が日本海南部を通過し大雨。県下全域で 150～200mm。県全域に被害。家屋床上浸水 113 戸, 床下 370 戸, 橋梁流失 8 か所, 田畑冠水

	9月5日	強 大 波	風 雨 浪	170ha。 台風が日本海南部を北東進。氷見、伏木、四方で浪害。住家全壊 52 戸、同浸水 832 戸、非住家全半壊 31 棟。道路損壊 40 か所、漁船流失 20 隻、田畑冠水 93,000ha。
昭和9年 (1934)	7月12日	大	雨	梅雨前線が中部地方で活発となり県の平野部で 100～150mm、南東山岳部で 800mm の豪雨になった。このため大小の河川がはん濫し、県全域で大きな被害が出た。死者行方不明 31 名、重傷者 9 名、軽傷者 300 名。家屋流失 78 戸、同浸水 9,958 戸、道路損壊 28 か所、橋梁流失 40 か所、田畑流失 1,000ha、同冠水 6,000ha、農作物被害面積 5,627ha。
	9月20日 ～21日	強 波	風 浪	台風(室戸台風)が 21 日 05 時、室戸岬に上陸、08 時、大阪を経て 10 時半ごろ富山を通過した。このため沿岸地域の新湊、伏木と砺波平野北部で被害。住家倒壊 13 戸、同半壊 8 戸、非住家倒壊 29 棟、家屋浸水 210 戸。船舶沈没 1 隻。
昭和10年 (1935)	3月16日	大	火	16 日早朝、下新川郡生地町から出火。強い南西風にあおられ住家 198 戸、非住家 181 棟を焼失。この火災の飛火により椿村吉田で住家 10 戸、非住家 17 棟焼失。負傷者 50 名(日本海低気圧)
	11月12日	波	浪	低気圧が北海道南東沖で発達し、このため富山湾に寄り回り波。伏木、新湊、四方、滑川の各町と倉垣村で大きな被害。死者 1 名、負傷者 17 名、住家流失全壊 34 戸、同半壊 41 戸、非住家全半壊 215 棟、家屋浸水 395 戸、防波堤決壊 1,800m、道路損壊 1,100m、橋梁流失 2 か所、漁船破損 37 隻。
昭和11年 (1936)	1～3月	大 (長期積雪)	雪	前年 12 月中旬から積雪が始まり、1 月 4 日ごろから 3 月中旬にかけては積雪が平年を大幅に上回った。特に 1 月 7 日、16～17 日、30～31 日は猛吹雪となりいずれも 50cm 前後の降雪となり、交通機関の運休、通信回線の途絶等があり混乱した。伏木の最深積雪(2 月 3 日)122cm。
昭和13年 (1938)	9月6日	大	火	0 時 20 分、氷見町下伊勢町から出火。台風が日本海を通過中。このため南の強い風とフェーン現象で大火になった。04 時ごろ突然西風に変って、更に燃え広がり 18 ケ町で住家 1,510 戸を焼失した。死者 5 名、重傷者 258 名、その他神社仏閣 30 か所、非住家 559 棟、工場 9 か所、船舶 12 隻。08 時ごろ鎮火。
	12月24日 ～26日	大 着	雪 雪	低気圧が太平洋岸を通過し銚子沖で発達。顕著な冬型の気圧配置となり風雪が強くなった。着雪と強風によって電線の切断や電柱の倒壊があり富山市を中心に県内で電話 1,800 回線が被害を受け、また、電灯線も同様に被害を受けた。特に魚津、岩瀬間で著しかった。
	12月27日	雪	崩	03 時 30 分ごろ黒部峡谷奥志合谷で大なだれが発生。日電第 3 発電所建設工事飯場(4 階建)の 2 階から上部が飛ばされた。死者 40 名、行方不明 47 名、負傷者 5 名の大惨事になった。
昭和14年 (1939)	8月5日 ～6日	大	雨	台風が関東から北西に進み日本海に抜けた。県東部山岳部で 200～250mm の大雨。上市川、片貝川、小矢部川がはん濫した。下新川、中新川、西砺波、東砺波の各郡で被害。死者 2 名。橋梁流失 1 か所、堤防決壊 640m、道路、石垣等損壊 130 m。
昭和15年 (1940)	1月25日 ～30日	大	雪	1 月中に日本海で発達した低気圧は例年の倍の 12 個に達し、寒気が頻繁に入り降雪が続いた。特に 18 日ころから大雪となり、日増しに積雪が増加し 30 日

				ピークに達した。18 日の富山の降雪 86.0cm, 及び 30 日, 31 日の富山の積雪 208cm はいずれも累年(1939～2001)の極値である。各地の最深積雪は細入 385cm, 八尾 239cm, 小矢部 347cm, 伏木 182cm, 井波 255cm, 利賀 410cm でそれぞれ累年の 1～2 位になった。このため雪害が 25 日ごろから急増した。県下で死者 53 名(家屋倒壊による圧死), 住家倒壊 32 棟, 非住家倒壊 39 棟。交通機関は全面的に止まった。北陸・高山本線は 5～10 日間も運休した。小中学校の休校も行われた。
昭和 16 年 (1941)	3 月 11 日	強	風	日本海西部の低気圧, 本邦東方海上の高気圧がそれぞれ発達し, 本邦付近は気圧傾度が急となり強い南風が吹いた。富山の最大瞬間風速は S28.6m/s。県下で死者 1 名, 負傷者 8 名。住家全壊 15 戸, 同半壊 81 戸, 同一部損壊 736 戸, 非住家被害 41 棟, 倒木 1,605 本。
	4 月 16 日	大	火	14 時 50 分, 新湊町長徳寺から出火。南西の強風にあおられ住家 499 戸, 非住家 155 棟, 漁船 30 隻焼失。死者 1 名, 重傷者 2 名。(日本海低気圧)
昭和 18 年 (1943)	11 月 27 日	大	火	27 日未明, 魚津町から出火。西風にあおられ住家 251 戸焼失。死者 1 名, 負傷者 34 名。
昭和 19 年 (1944)	5 月 7 日 7 月 5 日	大 大	火 雨	西砺波郡藪波村から出火。住家 291 棟, 土蔵 13 棟, 寺社 6 棟全半焼。 梅雨前線が活発となり, 降水量は平野部で 100～150mm, 東部山岳部で 250mm 以上。県東部の中小河川がはん濫し流域に被害。家屋床上浸水 214 戸, 同床下浸水 903 戸, 橋梁流失 9 か所。堤防, 道路, 護岸等の損・決壊 1,292m。田畑浸水 1,148ha。富山の降水量は(5 日)111.2mm。
	9 月 17 日 ～18 日	強 波	風 浪	台風が九州, 四国地方を縦断。富山の瞬間最大風速 SW28.0m/s。死者 1 名。住家全壊 16 戸, 同半壊 18 戸。非住家倒壊 50 棟。漁船行方不明 7 隻。
昭和 20 年 (1945)	1～3 月	大	雪	寒波が頻繁に通過し長期低温となった。降雪が続き 2 月 26 日富山の最深積雪 165cm (累年第 3 位)。県内各地の最深積雪は真川 750cm, 利賀 445cm, 大長谷 400cm で雪害が続出した。富山の月平均気温-1.2℃(1 月), -1.2℃(2 月)は累年(1939～2001)の第 1 位。
	4 月 18 日	大	火	08 時ごろ婦負郡四方町から出火。強い南風にあおられ住家約 400 戸焼失。焼失面積約 8ha。(移動性高気圧の後面)
	9 月 17 日 ～18 日	水	害	台風(枕崎台風)が九州, 四国地方を縦断し能登半島をかすめた。最大風速は富山 SW20.3m/s。主として沿岸部に被害。死者 6 名, 住家全壊 2 戸, 半壊 50 戸, 非住家 50 棟。船舶 2 隻。
昭和 21 年 (1946)	4 月 4 日	融	雪	日本海低気圧により暖気が吹き込み融雪が増大, 庄川がはん濫した。4 月 2～4 日の伏木の平均気温は平年より 7～8℃高かった。堤防決壊 19 か所。
	5 月 21 日	大	火	11 時 30 分, 下新川郡宇奈月町温泉街から出火。強い川風(西風)にあおられ住家 261 戸焼失。14 時ごろ鎮火。負傷者 60 名。
昭和 22 年 (1947)	7 月 10 日	大	雨	熱帯性低気圧が本州中部を縦断。県下の降水量は 100～150mm。特に小河川の増水はん濫が激しかった。中新川, 上新川郡で死者 2 名, 家屋床上浸水 406 戸, 同床下浸水 832 戸。堤防道路損壊 59 か所, 橋梁流失 28 か所, 田畑流失 320ha, 同冠水 2,812ha。

昭和 23 年 (1948)	7 月 25 日	大 雨	梅雨前線が停滞。県中部で 200mm の大雨。県下全域に被害。死者行方不明 8 名、負傷者 104 名、住家全壊 12 戸、同半壊 20 戸、同床上浸水 8,122 戸、同床下浸水 7,960 戸、非住家被害 594 戸、堤防決壊 498 か所、道路損壊 665 か所、田畑流失 2,014ha、同冠水 6,034ha。
昭和 24 年 (1949)	1 月 5 日 ～ 7 日	強風・大雪 着 雪	大陸高気圧の張り出しによる暴風雪。県西部と東部に被害。県西部と黒部、朝日地区では通信線全面的に途絶。北陸配電断線 200 か所、電柱倒壊 50 本。作業所倒壊圧死 2 名、重軽傷者 5 名。
	4 月 3 日	強 風	発達した低気圧が日本海を北東進。このため県東部に暴風あり。富山の最大瞬間風速 S30.2m/s。県下で住家全壊 3 戸、半壊 6 戸、非住家 7 棟。
	8 月	長 期 少 雨 (干 害)	梅雨明け(7 月 14 日)後、夏型の気圧配置が続き、伏木の月降水量は 7 月 47.6mm、8 月 64.5mm でそれぞれ平年の 25%、45%にとどまった。このため県下各地で干害が続出した。氷見、婦負、上新川の各郡で水稻枯死寸前 316ha、水田大亀裂 105ha。
昭和 24 年 (1949)	9 月 1 日	強風・大雨	台風(キティ台風)が本州中部に上陸、佐渡付近の日本海に抜けた。降水量は平野部で 150mm、山岳部では 250mm となり上新川、婦負郡の被害が最も大きく、次いで下新川、富山、中新川の各郡市でも大きな災害となった。富山の降水量(31～1 日)140.9mm。死者 2 名。重軽傷 5 名、住家流失 3 戸、同床上浸水 262 戸、同床下浸水 2,839 戸、堤防決壊 172 か所、道路損壊 167 か所、橋梁流失 47 か所、田畑流失 148ha、同冠水 22,379ha。
昭和 25 年 (1950)	9 月 3 日	強風・大雨	台風(ジェーン台風)が紀伊水道から大阪湾をへて若狭湾に抜けた。富山の最大瞬間風速 SSW32.6m/s。伏木 SSW34.5m/s。高岡、射水、下新川の各市郡で被害が多かった。死者 4 名、負傷者 158 名、住家全半壊 986 戸、床上浸水 27 戸、床下浸水 1,095 戸、非住家被害 897 棟。道路損壊 8 か所、橋梁流失 61 か所、堤防決壊 38 か所、山崩れ 67 か所、電柱倒壊 360 本、船舶流失 6 隻。
	10 月 23 日	竜 巻	顕著な寒冷前線の通過に伴い 16 時ごろ中新川郡三郷村に竜巻が発生。30 分間にわたり同村を襲い、数か所の稲ハサを巻き上げ、籾粒ほとんど無くなる。住家 1 戸損壊。
昭和 26 年 (1951)	7 月 2 日	大 雨	台風(ケイト台風)が四国東部に上陸、瀬戸内海から東進し東海地方で消滅。庄川中流の東砺波郡で被害。死者 1 名、行方不明 2 名。住家損壊 83 戸、浸水 300 戸。田畑浸水 53ha。
	10 月 13 日 ～ 15 日	強風・波浪 (フェーン害)	台風(ルース台風)が九州を縦断し日本海沿岸を北東進した。最大風速富山 S19.4m/s。当地方では暴風と著しいフェーン現象に見舞われた。特に沿岸地域に被害が集中した。死者 1 名、負傷者 2 名、住家全壊 3 戸、同半壊 19 戸、非住家全壊 7 棟。交通機関は強風のため運転中止。通信回線不通 32 回線。稲ハサ倒壊、果樹の落果 3 割。
	11 月 27 日 ～ 28 日	波 浪	発達した低気圧が日本海を通過、その後沿岸に寄り回り波。滑川、新湊、氷見の各市で家屋浸水 552 戸。防波堤決壊 190m。
	12 月 14 日 ～ 15 日	大雪・着雪	低気圧がカラフト付近で発達。顕著な冬型気圧配置。県下全般に 20～60cm の降雪で交通機関の特に通信線に大きな被害。16～18 日まで全面又は区間運休。電柱倒壊 784 本、同傾斜 2,328 本、同折損 1,723 本、断線箇所 5,369 か所、変圧器 118 台。

昭和 27 年 (1952)	7 月 1 日	大 雨	顕著な寒冷前線が通過。東部山岳地帯に 400mm の大雨、黒部川、片貝川がはん濫し下新川郡、魚津市で大被害。死者 7 名、負傷者 91 名、行方不明者 5 名。住家全壊 20 戸、同半壊 78 戸、同流失 11 戸、同床上浸水 4,465 戸、同床下浸水 12,154 戸。非住家被害 1,483 戸。堤防決壊 874 か所、橋梁流失 290 か所、道路損壊 804 か所、山がけ崩れ 311 か所、田畑流失 4,296ha、同冠水 41,920ha、被害額 59 億円の大水害。
	11 月 28 日 ～29 日	波 浪	太平洋岸を発達した低気圧が通過。このため 28～29 日にかけて富山湾では北東の風が強くなり、沿岸一帯に高波が襲った。新湊、堀岡、四方、滑川、魚津で家屋浸水 982 戸。田畑冠水 2ha。
昭和 28 年 (1953)	1 月 12 日 ～13 日	大雨・波浪 融 雪	二ツ玉低気圧の通過による大雨と暖気移流による融雪が重なり、東部の小河川が出水。中新川郡で被害。家屋浸水 427 戸、堤防決壊 8 か所(1,005m)。舟小屋流失 2 棟。
	7 月 22 日 ～23 日	大 雨	本州に停滞した梅雨前線により、県全域に 100～160mm の大雨。県下で住家全半壊 4 戸、同流失 1 戸、同床上浸水 14 戸、同床下浸水 580 戸。堤防決壊 56 か所、橋梁流失 7 か所、道路損壊 49 か所、山がけ崩れ 23 か所。田畑流失 46ha。同冠水 2,298ha。
	8 月 1 日	雷	津軽海峡の低気圧から南西に伸びる寒冷前線が通過。県内各地に雷雲が発達し、富山市内数か所に落雷。住家 4 棟全焼、500 戸電話不通。
	8 月 23 日	強 雨	本州中部は気圧の谷に入り前線活動が活発化し、県西部で 100mm の強雨となり、小矢部川下流域で被害。死者 1 名、負傷者 12 名、住家流失 33 戸、同浸水 315 戸。田畑流失 4ha 潤冠水 547ha。
	9 月 25 日 ～26 日	強風・大雨 波 浪	台風(テス台風)が紀伊半島に上陸し中部、関東、東北地方を縦断。県下暴風雨となり、山岳部で 200～300mm、平野部でも 150mm 内外の大雨になった。また、富山湾では北寄りの強風となり風浪害も加わり、被害総額は、22 億円にもおよんだ。県下全般の被害の状況は、死者 6 名、行方不明 2 名、負傷者 6 名。住家全壊 1 戸、同半壊 46 戸、同流失 5 戸、同床上浸水 3,474 戸。同床下浸水 5,712 戸、非住家被害 90 棟。田畑流埋没 114ha、同冠水 15,932ha。道路・堤防決壊 1,016 か所、橋梁流失 206 か所、山崩れ 232 か所。電柱倒壊 23 本、木材流失 7,108 件。船舶沈没 16 隻、同破損 172 隻、定置網流失 320 件、漁具倉庫流失 39 棟であった。
昭和 29 年 (1954)	2 月 27 日	融 雪	発達した低気圧が日本海に入ったため、南風が強まりフェーン現象を起こし、富山の最高気温は、21.5℃になった。このため融雪が増大し県下の各河川が出水し堤防決壊 47 か所、被害額 5,500 万円。
	3 月 4 日 ～5 日	着 雪	本州南岸を低気圧が通過し、一方、オホーツク海の高気圧が強まったので、北東の風雪が強くなり、5 日早朝から電線着雪が多発した。このため、電柱の折損や傾斜等が続出した。砺波平野で著しく、送電線断線 25 か所、電信電話回線 776 回線断線、電柱の折損 237 本、同倒壊 476 本、同傾斜 1,603 本の被害が発生した。なお着雪の直径は 7cm、比重は 0.7～0.8(北陸電力測定)であった。
	5 月 4 日	雷・ひょう	07 時 50 分ごろ顕著な寒冷前線が通過し突風を伴った雷が発生した。特に 07 時 30 分～08 時にかけては、県内各地に大豆大の降ひょうがあり、野菜、果樹等の農作物に大きな被害があった。被害は、水田苗代 761ha、葉たばこ 218ha、そ菜類 230ha、麦 348ha、馬鈴しょ 93ha、桑園 30ha。死者 1 名、製材機焼失 1 件、変圧器発火のほか配電線が各所で故障した。
	9 月 26 日	強風・波浪	台風(洞爺丸台風)が日本海沿岸沿いに北東進。富山の最大瞬間風速 WSW34.4m/s。富山湾東部沿岸で高波による被害あり。死者 1 名、負傷者 29 名、

			住家全壊 37 戸, 同半壊 18 戸。生地護岸決壊。また, 黒部市では, 南の強風によって大火, 焼失 161 棟。
昭和 30 年 (1955)	1 月 16 日	強風・大雪 着 雪	低気圧が三陸東方洋上で発達, 顕著な冬型気圧配置となり北陸地方は暴風雪。富山地方鉄道黒部線 20 本運休。砺波, 氷見地区で着雪と強風のため電柱折損 16 本, 傾倒 55 本。電信, 電話回線の不通市外線 70 回線, 市内線 500 回線。
	2 月 20 日	波 浪	低気圧が北海道付近で急激に発達(中心示度 982mb)。東部沿岸では, 高波により大きな被害。特に宮崎, 境, 泊は昭和 4 年来の大被害。死者 3 名, 負傷者 1 名, 非住家全壊 13 棟, 同半壊 105 棟。住家床下浸水 30 戸, 耕地被害 15.2ha。堤防決壊等被害額 48 億 66 万円。
	2 月 25 日 ～26 日	雪 崩	移動性高気圧の後面で気温が上昇。富山の最高気温 26 日 18.2℃(平年 7.5℃) 婦負郡大長谷村芋谷でなだれが発生。除雪作業中の人夫 2 人死亡。東砺波郡利賀村上畑で道路通行中の 1 人死亡, 3 人負傷。
	10 月 8 日 ～9 日	波 浪	低気圧が千島列島で発達。大陸高気圧の張り出しにより冬型の気圧配置となり北風が強まる。入善, 朝日町の海岸に高波。家屋半壊 1 戸, 同浸水 7 戸, 浜小屋倒壊 16 戸。船舶破損 7 隻, 田畑被害 28ha, 護岸堤防決壊 18 か所。
昭和 31 年 (1956)	1 月 7 日 ～10 日	大 雪	南岸低気圧が三陸沖で発達。この後, 日本海を低気圧が次々に通過し降雪が続いた。各地の積雪, 富山 107cm, 魚津 130cm, 生地 145cm。特に沿岸部, 平野部で多く交通網が寸断された。死者行方不明 4 名, 負傷者 2 名。住家全壊 3 戸, 一部破損 3 戸, 非住家全壊 7 棟, 電柱倒壊 6 本, 電信施設被害 438 件。
	2 月 11 日 ～12 日	波 浪	顕著な冬型の気圧配置で日本海大しけ。黒部市, 入善, 朝日町の海岸に大波。死者 1 名, 浜小屋全半壊 58 棟。住家床上浸水 2 戸, 同床下浸水 20 余戸。漁船大破 2 隻。
	3 月 15 日 ～16 日	融 雪	発達した日本海低気圧によるフェーン現象で融雪出水。小矢部川, 庄川流域, 砺波地方で被害。富山の最高気温 19.5℃。最大風速 SSE18.0m/s。住家全壊 1 戸, 同一部損壊 31 戸。橋梁流失 3 か所, 堤防決壊 33 か所, 護岸決壊 3 か所。
	7 月 16 日 ～17 日	大 雨	梅雨前線の活動が活発化し県東部山沿いで 200mm 以上の大雨。東部の諸河川が出水し相当な被害。下新川郡, 黒部市, 魚津市で死者 1 名, 家屋一部損壊 2 戸, 同床上浸水 3 戸, 同床下浸水 792 戸, 水田流埋没 12ha, 同冠水 1,087ha, 道路堤防決壊 37 か所, 橋梁流失 2 か所, 崖くずれ 12 か所。
	9 月 10 日	強風・大火	台風第 12 号が日本海を北上。フェーン現象によって魚津大火。19 時 45 分魚津市真成寺町から出火。乾燥した強風にあおられ旧市街の 4 割にあたる 1,705 戸全焼, 50 戸半焼。焼失面積 614,975m ² , 損害見積額 15 億 422 万円。り災者 8,118 人。死者 3 名, 重傷者 15 名。
昭和 34 年 (1959)	1 月 16 日 ～19 日	大 雪 着 雪	発達した低気圧の通過後, 顕著な冬型の気圧配置となり連日大雪。降雪は 16 日には全域で 50cm, 17 日には平地 70cm, 山沿い 100cm 以上, 18 日には 30～50cm。県内では, 死者 4 名, 住家全半壊 6 棟, 非住家被害 3 棟, なだれ 2 件, 電柱損傷 10 件, 高圧線断線 93 件, 低圧引込断線 1,333 件。
	7 月 10 日 ～11 日	大 雨	日本海沿岸に停滞した梅雨前線を小さな低気圧が次々に通過した。このため, 東部山岳および神通川支流の熊野川流域で 300mm の大雨。県中南部にて行方不明者 3 名。住家流失 2 戸。同床下浸水 123 戸, 非住家被害 4 棟。水田流失 4ha, 同冠水 81ha, 道路損壊 11 か所, 橋流失 11 か所堤防決壊 21 か所, 山崩れ 2 か所。
	8 月 26 日	大 雨	低気圧が能登半島を通過。富山の日降水量 71.7mm, 1 時間最大降水量 58.5mm。

	9月26日 ～27日	強風・波浪 高潮	平野部の中小河川がはん濫。死者1名、負傷者2名。住家半壊2戸、同床上浸水210戸、同床下浸水3,246戸。水田埋没流失2ha、同冠水1,402ha。道路損壊10か所、堤防決壊28か所、山・崖くずれ9か所、り災210世帯。 超大型の台風第15号(伊勢湾台風)が26日18時すぎ紀伊半島に上陸、その後三重県西部、岐阜県西方を経て27日0時ごろ富山県東部山岳部を通過、同日01時富山湾沖に進んだ。このため、26日午後から湾沿岸では北東の風が強くなるとともに高波が打上げ、27日未明には最も高くなった。新湊市を中心に高潮による大被害を受けた。県全般の被害は死者1名、負傷者3名、住家全壊21戸、同半壊243戸、同流失4戸、同床上浸水12か所、床下浸水5か所、道路損壊24か所、橋流失9か所、堤防決壊2か所、山・崖くずれ624ha、田畑冠水629ha。船舶沈没流失破損78隻。通信被害107回線。木材流失2,000石。最大風速岩瀬NE33m/s、富山NNE23m/s、伏木NNE23m/s。
昭和36年 (1961)	6月27日	大雨	梅雨前線が南岸から北上し中部地方に停滞、県下全般に300～400mm。富山湾沿岸部に近い平野部と県東部で被害大。行方不明者1名、負傷者4名。住家全半壊49戸、同床上浸水220戸、同床下浸水2,018戸、水田流失埋没48ha、同冠水5,568ha、道路損壊106か所、橋流失12か所、堤防決壊121か所、り災世帯779世帯。
	9月16日	強風・大雨	第2室戸台風。室戸合風(S9.9.21)と同一コースを通過した。16日18時ごろ、東部の新川地方、西部の山沿や砺波平野で南～西寄りの風が猛烈となった。最低気圧、富山965.2mb、伏木966.0mb。最大風速、富山W20.7m/s、伏木WSW21.0m/s。最大瞬間風速、富山W39.6m/s、伏木WSW33.0m/s。県下で死者9名、負傷者178名。住家全壊124戸、同半壊396戸、同床下浸水687戸、一部損壊3,857戸、非住家被害425棟。河川、砂防、道路、橋、港湾の損壊252か所。水稻倒伏32,000ha、果樹落果650ha。電信電話回線故障4,249件。国有鉄道380万円。地方鉄道190万円。電力関係8,037万円。
昭和38年 (1963)	1月 ～ [1月31日 ～2月6日 日県災害 対策本部 設置]	大雪・融雪	昭和38年1月豪雪。大陸の高気圧は1,050～1,060mbの強い勢力を維持し、一方日本海では次々に低気圧が発達して通過、本邦は顕著な冬型の気圧配置が長時間持続した。最深積雪は、富山186cm、伏木225cm、(累年記録それぞれ第2位、第1位)。11～12日は、西部平野部で70cm、15～16日は、県下全般に40～60cm、18～19日は、山沿地方で60～90cm、21～22日は、県下全般に30～60cm、23～26日は、県下全般に連日30～70cmの降雪があり、その後、2月2日から融雪による浸水被害が加わり、大きな被害となった。県下全般で死者13名、負傷者31名、行方不明1名。住家全壊46棟、同半壊28棟、同一部損壊2棟、同床上浸水122棟、同床下浸水822棟。橋流失1か所、山崩れ1か所。北陸本線23～28日ほぼ全面運休。自衛隊に災害派遣を要請。
	3月29日	雪崩	28～29日低気圧が発達しながら日本海を通過。東砺波郡利賀村東俣谷地内で幅40m、長さ10mの雪崩が発生し作業飯場を押し潰した。死者5名。
	6月3日 ～5日	大雨	台風第2号の北上により梅雨前線が活発化し、氷見市、砺波地方北部に200mmの大雨。同地方で死者2名、負傷者2名、住家床上浸水111棟、同床下浸水983棟、堤防道路決壊34か所、水田流埋没19ha、同冠水1,890ha。
	8月3日	雷・ひょう	気圧の谷の通過により東砺波郡利賀村一帯に強雷・降ひょう。水稻穂首折損40ha、畑作物被害20ha。ひょうの直径21～25mm。
昭和39年	7月7日	大雨	能登半島沖を東西に伸びる梅雨前線と、富山県を通過した熱帯性低気圧のた

(1964)	～9日		め平野部で100～150mm、西部で200mm以上。東部山岳部500～600mmの大雨。県西部の砺波平野を中心に県全般に被害。行方不明者1名、住家床上浸水53棟、同床下浸水929棟。水田流埋没49ha、同冠水2,201ha。道路損壊42か所、橋流失6か所、堤防決壊20か所、山崩れ16か所。
[7月16日災害対策本部設置]	7月16日	地すべり	氷見市胡桃地内で150haに及ぶ大規模な地すべりが発生。氷見市女良、岩が瀬の7月1日から20日までの降水量は、女良で503mm、岩が瀬で557mmであった。大正13年、昭和16年に次ぐ規模で被害状況は次のとおり、住家全壊62戸、同半壊25戸。河川損壊3,000m、同施設150m。橋1か所、市道3km。耕地埋没39ha。畜舎全半壊44棟。立木被害6,230m ² 。林道110m。*頭首工10か所、水路12km。溜池7か所、農道8km、学校1か所、被害総額約11億円。自衛隊に災害派遣を要請。
	7月17日～18日	大雨	※とうしゅこう：河川などから用水路へ必要な用水を引き入れるための施設 台風第7号くずれの低気圧が日本海南部の梅雨前線を進み能登沖を通過。県中・西部の平野部と東部山岳部で250mm以上の大雨となり、富山平野・砺波平野で被害が大。死者・行方不明者5名住家全半壊23棟、同床上浸水2,153棟、同床下浸水12,156棟。水田流埋没75ha。水田・畑冠水5,853ha、道路損壊172か所、橋流失39か所、堤防決壊117か所、山崩れ90か所。
昭和40年(1965)	7月1日	雷・ひょう	寒冷前線の南下により県内各地で発雷。富山市金屋口で田の除草中に落雷で1人死亡。婦負郡八尾町一帯に20分間にわたり直径10mm内外の降ひょうがあり農作物の被害3.5ha。また、杉原地内でも4haの被害があった。
	9月10日	強風	台風第23号が室戸岬北西方に上陸、宮津付近から日本海に抜け10日16時、能登沖を通過した。このため南寄りの強風となり県の中部から東部に大きな被害。富山の最大瞬間風速SSE35.0m/s(累年第2位)。死者4名、負傷者56名。住家全半壊81棟、同一部損壊535棟、非住家被害173棟。
	9月17日～18日	強風・大雨波	台風第24号が紀伊半島東部に上陸、中部地方を縦断。県下では、17日夕刻から暴風雨となり、沿岸部に高波。降水量は、平野部150mm、南部山岳部で350mmの大雨になった。県下の全河川がはん濫。高岡市、八尾町、福光町、入善町で被害。死者1名、負傷者5名、行方不明者1名。住家床上浸水183棟、同床下浸水1,048棟。水田流失480ha、同冠水1,677ha。道路損壊50か所、橋流失7か所、山崩れ12か所。
昭和42年(1967)	7月25日	雷	気圧の谷の通過により強雷発生。西砺波郡福光町川原町に落雷し300世帯停電。東砺波郡利賀村、井波町で民家に落雷2戸全焼。1名感電死。
	10月27日～28日	強風・大雨波	台風第34号が渥美半島に上陸し、県下全域暴風雨となり、北東の風強く海岸部では大波。平野部50～70mm、南東および南西の山岳部で150～200mmの大雨となった。富山の最大瞬間風速NNE34.6m/s。県下で死者、行方不明者3名。住宅半壊11棟、同一部破損165棟、同床上浸水201棟、非住家被害32棟。塩害による通信障害524回線、船舶沈没1隻、同流失3隻、同破損1隻。木材流失218m ³ 。
昭和44年(1969)	1月上旬	大雪	発達した低気圧がオホーツク海に停滞し、また優勢な大陸高気圧が張り出し、顕著な冬型の気圧配置が続いた。富山の日降雪量は、1日：41cm、2日：67cm、3日：48cm、4日：38cmで、積雪の深さは8日：110cmとなった。県内の交通機関は2日から9日までまひ状態となった。死者3名、負傷者11名、工場倒壊3棟。
[8月11日県災害対策本部]	8月10日～11日	大雨	北陸地方に前線が停滞し、各地に大雨。県の西部で150～200mm、東部平野部200～300mm、東部山岳部で1,000mmに達する豪雨となった。県東部の大小河川

設置]			は洪水となり、県東部を中心に200億円を超す大被害となった。死者5名、負傷者24名、行方不明者1名。住家全壊50棟、半壊92棟、一部破損121棟、床上浸水2,132棟、床下浸水7,470棟。非住家11棟。田畑流失埋没669.3ha、冠水65.5ha、農業関係被害額10億8,830万円。農地林務関係50億4,170万円。土木被害1,711か所、同被害額124億430万円。電力・通信・鉄道等その他公共施設36億3,700万円。り災9,865世帯。
昭和45年 (1970)	2月1日 ～2日	波 浪	1月31日台風並みに発達した低気圧が本州南岸を北東進し、三陸沖でさらに発達、中心気圧966mbとなった。このため朝日町、入善町、黒部市、滑川市の沿岸に寄り回り波が押し寄せ大きな被害が発生した。負傷者10名。住家半壊18棟、同一部破損4棟、床上浸水236戸、床下浸水156戸。非住家損壊107棟。船舶流失8隻。田畑浸水186ha。堤防決壊18か所。
	4月6日	雪 崩	大きな移動性高気圧後面の南風により気温上昇。宇奈月町仏石地内、関電黒部鉄道線路わきでなだれが発生、除雪作業中の作業員が押し流され12人が重軽傷。
	8月23日	強 雷	日本海中部で消滅した台風第10号の影響により、23日富山県地方は南風が吹いて高温となり夕刻からは強雷の発生により、富山市で集中豪雨となった。富山では、最大1時間降水量75mmを記録した。死者2名、負傷者3名。住家床下浸水110戸。また北陸線、富山地方鉄道は、落雷および浸水により一時不通。停電9,300戸。電話265回線不通。
昭和46年 (1971)	7月24日 ～26日	大 雨	「戻り梅雨」により県内は、23日夜から24日早朝にかけて各地に強い雷を伴った大雨が降り、県下の河川がいっせいに増水し各地で被害が出た。主な被害としては、24日3時～6時の間に黒瀬川、高橋川、角川、布施川、渋江川の中小河川が警戒水位を越え、富山市、滑川市、砺波市等で床上や床下の浸水の被害が出た。
	[7月26日 県災害 対策本部 設置]		国道304号線で大小7カ所のがけくずれがあり、また県道音川線は砺波市で1カ所路肩がくずれたため通行止めになった。 また、小矢部市名畑地内で小矢部川支流砂〇川の左右両岸とも約150mの堤防が決壊したほか、砺波市農協梅壇野支所など3カ所で落雷があった。更には、25日午後から26日午後にかけて県下一帯に大雨が降った。雨量は、県西部で90mm前後、中部東部の沿岸部で100mm、南部と東部の山間部は120～190mmに達し、中小河川は増水し、富山市、高岡市、新湊市では住宅の床下浸水が続出した。また、富山市吉作のがけ崩れで作業小屋1棟が倒壊し、立山町芦峯寺の県道富山～立山公園線で約80m³の土砂くずれにより、レッカー車が土砂で埋没する被害があった。その他水稻の流失、埋没、冠水など農林土木関係でも大きな被害となった。このため、県では、26日災害対策本部を発足させ警戒にあたった。
昭和47年 (1972)	7月12日 ～13日	大 雨	オホーツク海高気圧と小笠原高気圧が共に強まり、本州中部に停滞していた梅雨前線が活発化して、県全域で150mm内外の大雨となった。富山市、高岡市、氷見市など県中西部に被害が発生した。住家床上浸水50戸、同床下浸水160戸。
	9月17日 ～20日	強風・波浪	水田冠水1,200ha。道路、河川堤防、橋等損壊190か所。 台風第20号が16日夕刻紀伊半島南部に上陸。その後、北東進して17日02時ころ富山県を通過し日本海北部に停滞した。18日から20日にかけて富山湾沿岸各地に高波が押し寄せ、氷見、新湊、入善、朝日の地区で大きな被害が出た。負傷者1名。住家一部破損5棟、同床上浸水10棟、同床下浸水132棟。護岸堤2

	12月1日 ～2日	強風・波浪 雷	か所。定置網流失多数。梨、柿の落果 193 トン。 日本海低気圧が北海道付近で急速に発達。強い季節風の吹き出しによる高波と雷により、滑川市、氷見市、朝日町に被害。死者 1 名、負傷者 10 名、住家全壊 5 棟、同半壊 35 棟、同床上浸水 18 棟、同床下浸水 68 棟。農地被害 16.6ha。
昭和 48 年 (1973)	7～8月	少 雨 (干害)	富山では 7 月 5 日から 8 月 18 日までの 45 日間の降水量 420mm(平年の 15%)と非常に少なく、県西部で井戸水が枯れ、城端町・小杉町で飲料水の給水が行われた。農作物被害面積 1,321.2ha 瀬害額約 2 億円。
昭和 49 年 (1974)	4月7日 ～9日	大 雨 融 雪	移動性高気圧の通過後、黄海の低気圧から東に伸びる前線が北陸に停滞。南風の卓越による融雪増大と前線による大雨で県中部・東部の河川がはん濫。富山 8 日の降水量 66.0mm。損壊か所道路 53 か所、橋梁 2 か所、堤防 69 か所、山・がけ崩れ 3 か所・鉄軌道 1 か所。
	7月10日	大 雨	日本海南部の前線上を低気圧が東進。前線の活動が活発となり大雨となった。伊折の 10 日の降水量 161.0mm。河川のはん濫、山・がけ崩れが多発した。死者 2 名、負傷者 2 名。住家全壊 2 棟、同床上浸水 6 棟、同床下浸水 455 棟。耕地流失 1ha、同冠水 1,238ha。道路、橋梁、鉄軌道損壊 112 か所。山・がけ崩れ、堤防損壊等 21 か所。農作物被害 948ha。
昭和 50 年 (1975)	6月9日	雷・ひょう	上層寒気の南下により強雷発生。死者 2 名。送電線に落雷したため、国道 4 本、富山地方鉄道 30 本が遅延、500 戸停電。大山町、立山町、富山市月岡、西番地内に降ひょう。455ha の水稻が折損。
昭和 51 年 (1976)	8月14日	大 雨	前線が日本海中部に停滞、台風第 13 号の影響による湿潤な空気の流失と、北方寒気の南下のため前線活動が活発となりゆっくり南下、沿岸部を中心に大雨。降水量は、富山 137mm、氷見 221mm、魚津 210mm、伏木 184mm、立山 287mm で県下全般に被害。死者 4 名、負傷者 1 名。住家全壊 6 棟、同半壊 15 棟、同床上浸水 101 棟、同床下浸水 1,769 棟。耕地流失 12ha、同冠水 1,074ha、道路損壊 39 か所、橋流失 1 か所、山・がけ崩れ 94 か所。鉄軌道 1 か所。り災 111 世帯。
昭和 52 年 (1977)	1～2月	大雪・異常低 温(積雪・凍 結)	北半球の 500mb では 3 波数循環の大雪型が持続しており、シベリヤ東部から日本海に寒気がたびたび南下したため、大雪の日が多く積雪も多くなった。最深積雪は、富山では 2 月 18 日の 136 cm、利賀では 2 月 7 日の 310cm。県下全般に雪による圧死者が多かった。死者 14 名、負傷者 46 名。住家半壊 26 棟、同床下浸水 322 棟、非住家倒壊 56 棟。運休は、国鉄 1,152 本。富山地方鉄道 263 本。富山空港欠航 70 便。農業被害 1 億 1,000 万円、林業被害 2,093ha。
	3月29日	地すべり	3月29日 10 時 48 分と 13 時ごろに氷見市五十谷で長さ 1,200m、幅 400m、約 40ha におよぶ大規模なすべりが発生。住家全壊 5 棟、非住家全壊 18 棟、耕地埋没 20ha、山林崩壊 20ha。自衛隊に災害派遣を要請。
昭和 53 年 (1978)	1月31日 ～ 2月4日	大 雪 雪 崩	冬型の気圧配置が続き、上空に強い寒気が流入し大雪になった。富山の日降雪(2月1日)46cm、最深積雪(2月4日)88cm。八尾・小矢部・小杉地区では、除雪作業中の転落により 3 人死亡。負傷者 3 名。住家全壊 1 棟。国鉄、富山地方鉄道運休 75 本。国鉄区間運休 45 本。
昭和 54 年 (1979)	3月31日 ～	波 浪	発達した低気圧が日本海を通過後富山湾沿岸に高波(寄り回り波)が押しよ

	4月1日		せた。滑川市高月海岸で死者4名。堤防決壊2か所。
[4月11日 日県災害 対策本部 設置]	4月11日	異常乾燥 (大火)	南高北低の気圧配置によるフェーン現象下、15時54分、西砺波郡福光町西町で出火、乾燥した強い西寄りの風にあおられ大火になった。住家全焼40棟、非住家49棟。住家半焼15棟、非住家12棟。焼失面積3,633㎡。被災57世帯、負傷者11名。被害額8億4,000万円。自衛隊に災害派遣を要請。
	6月28日 ～ 7月3日	大雨	梅雨前線が日本海沿岸に停滞し活動が活発となる。富山の日降水量は6月29日、7月1日、2日それぞれ70～100mm。立山の総降水量414mm。高岡市、砺波市、八尾町で被害が多かった。住家全壊1棟、床下浸水21棟、耕地冠水14ha、道路損壊148か所、橋梁流失2か所、山がけ崩れ3か所、堤防損壊113か所、農林業被害額2億6,475万円、北陸線10本運休。
	9月4日	強風	台風第12号が富山湾を北東進。富山の最大瞬間風速SSW32.8m/s。県全域に被害。死者1名、負傷者11名。住家一部破損21棟。水稻倒伏41.5ha、果樹落果660ha、野菜被害1,320ha、農業被害総額6億5,700万円。
	9月30日 ～ 10月1日	強風・大雨	台風第16号(30日18時30分中心気圧955mb)は30日夕刻室戸岬付近に上陸、その後北東進して1日02時ころ岐阜県北部を通過した。台風の接近に伴い、全県が暴風圏に入り県中部山沿地方を中心に大雨が降り、婦負郡八尾町、山田村、上新川郡大沢野町、大山町で被害甚大となった。八尾の総降水量203mm、最大1時間降水量(1日02時)70mm。死者3名。住家全壊2棟、同半壊3棟、同床上浸水59棟、同床下浸水413棟、非住家損壊18棟。道路損壊47か所、山がけ崩れ51か所。鉄軌道損壊2か所。農作物被害は水稻冠水倒伏641ha、大豆32ha、リンゴ落果20%。
昭和55年 (1980)	4月19日 ～20日	強風	発達した低気圧が大陸から東進し、また三陸沖の高気圧の発達により気圧傾度が急となり、上新川郡では、南風が一時的に非常に強くなった。死者1名(火災)。負傷者1名。住家一部破損16棟。富山地方鉄道富山一上市間11時間不通。大山町桑原で12棟全焼。
	7月 ～ 9月上旬	異常低温 (長期) 寡照 (冷害)	太平洋高気圧の勢力は弱く、オホーツク海高気圧の張り出しが長時間持続した。富山の月平均気温は7月22.5℃(低温順位2位)、8月23.8℃(低温順位2位)、日照時間は7月79.5時間、8月111.0時間(ともに寡照順位累年第1位)、真夏日4日(最少1位)。水稻作況指数94で作柄不良。県南部山間部、西部山沿地方不稔、イモチ病等で収穫なし、45ha。野菜類10～20%の減収。
	12月24日 ～25日	波浪	発達した低気圧が日本海を通過。高岡市国分浜一帯に大波。非住家(舟小屋)全壊流失4棟、同半壊22棟、伝馬船流失36隻、ボート流失破壊23隻。流木により道路200m埋まる。
	12月27日 ～	大雪 着雪	北半球500mb面では3波数循環の大雪型が続き、地上ではシベリヤ高気圧が発達し顕著な冬型の気圧配置となった。強い寒波は12月27～30日、1月2～8日、1月10～14日の3回来襲した。最深積雪は平野部150～200cm、山沿い200～250cm、山間部300～400cmとなり昭和38年豪雪につぐ大雪となった。なお、富山160cm、上市260cm、利賀430cmの積雪を記録した。降雪の深さでは利賀で5日98cm、福光で5日75cm、八尾で12日75cm、富山で29日62cm。全県で雪圧による家屋の倒壊や除雪事故、雪崩等による死者が急増した。死者12名、重傷者135名、軽傷者596名。住家全壊5戸、半壊34戸、一部破損761戸、床上浸水101戸、床下浸水1,338戸。非住家全壊124棟、その他814棟。公共用建物42か所。農業災害208億円、林業災害323億円。その他水産関係にも多大の被害が発生した。交通関係では北陸・高山本線全面不通、遅延、除雪費等国鉄関係124億円。
昭和56年 (1981)	1月20日		
	[1月6日 日県災害 対策本部 設置]		

昭和 57 年 (1982)	3 月 25 日	強 風	全日空欠航、富山地方鉄道関係も大きな被害を受けた。電力、通信関係では送電鉄塔(66,000 ボルト)11 基倒壊、ほかに断線、電柱折損等数億円の被害。自衛隊に災害派遣を要請。
	7 月 2 日 ～ 3 日	大 雨 (がけ崩れ)	発達した低気圧が日本海中部を東進。富山では最大瞬間風速 S28.3m/s。死者 2 名、負傷者 1 名。住家一部破損 1 棟、国鉄運休 4 本。倒木による停電 30 世帯。
	12 月 2 日	強風・波浪	梅雨前線の活動が活発化し、県中部に大雨。富山では 2 日の降水量 96.5mm。負傷者 4 名。住家一部破損 2 棟、同床上浸水 1 棟、同床下浸水 109 棟。耕地埋没流失 3.1ha、同冠水 129ha。道路不通 97 か所、橋梁損壊 2 か所、がけ崩れ 15 か所、堤防決壊等 35 か所。北陸本線不通により 71 本運休。
	3 月 15 日	強 風	本州の日本海沿岸沿いに北東進した低気圧から南西に伸びる寒冷前線が 2 日早朝富山湾を通過、所々で突風が起きた。魚津沖で漁船(12 人乗り組み)が突風と横波を受け乗組員 7 人が海中に転落、うち、6 名死亡。
	6 月 27 日	大 雨	15 日は日本海の低気圧に南風が強く吹き込み、富山・高岡市などでは 20m/s を超す強風となった。富山の最大風速 S12.4m/s、最大瞬間風速 S27.0m/s であった。このため、立山町などで家屋 4 棟破損、負傷 3 名、そのほか山火事 2 件発生 2.6ha を焼いた。また、強風のため富山地方鉄道 30 本運休、富山空港でも欠航がでた。
	8 月 2 日	強風・波浪 強 雨	南鳥島付近から北北東進し、27 日朝関東沖に抜けた台風第 5 号に伴い、日本海の寒気渦上に発生した副低気圧の東進により、県北東部は 27 日未明から局地的大雨となった。嘉例沢の 21 時までの 24 時間降水量は 227.0mm、また、06 時の 1 時間降水量は 55.0mm であった。このため、黒部市の黒瀬川がはん濫し、床上浸水 40 棟、床下浸水 305 棟、家屋一部破損 2 棟、耕地冠水 1,236ha、道路損壊 33 か所、橋流失 1 か所、がけ崩れ 3 か所、堤防決壊 44 か所。農業災害 1 億 1,834 万円。国鉄北陸本線、富山地方鉄道一時不通、運休があった。
	5 月 18 日 ～ 6 月 12 日	少 雨 干害・塩害	2 日 0 時ごろ、渥美半島に上陸した台風第 10 号は、そのまま上陸し、04 時、富山湾に抜けた。富山湾は大しけとなり、イカ釣り漁船が転覆し、死者行方不明 3 名となった。また、北アルプス黒部峡谷「下廊下」の鳴沢出会い付近でビバーク中の登山者 7 人が鉄砲水に押し流され、死亡した。
	7 月 20 日 ～ 27 日	大 雨	日本付近は広く帯状の高気圧に覆われ晴天続きとなった。このため水不足、干ばつ気味となり県内各地で被害が続出した。県全域にわたって植林した杉苗が枯れ 147ha に被害が出た。また塩害のため氷見市十二町地区では水田の苗が枯死し被害が 70ha に達した。
	7 月 27 日 ～ 29 日	地 す べ り	本州に停滞していた梅雨前線の活動が活発となり、20 日から 27 日にかけて断続的に雨が降り続き、梅雨末期の大雨となった。この間の総降水量は富山 332mm、伏水 327mm、泊 312mm、氷見 281mm、魚津 383mm、砺波・八尾 261mm、上市 404mm、福光 273mm、立山 1,060mm の大雨となり、家屋一部破損 4 棟、床下浸水 180 棟、田冠水 671ha、河川 215 か所、道路 178 か所の被害を受けた。
	8 月 21 日 ～ 22 日	大 雨	梅雨末期の長雨で地盤がゆるみ小矢部市内の国道 359 号線が約 2 キロにわたって崩壊し不通となった。
昭和 58 年 (1983)	9 月 5 日	ひ ょ う	本州付近は弱い気圧の谷となり日本海上空に寒気があり、大気が不安定となったため 21 日夜、県西部を中心に大雨となった。床上浸水 12 棟、床下浸水 683 棟、また利賀村栃原の国道 156 号の路肩が崩れたほか、谷水の出水で道路が冠

	9月27日 ～28日	強風・大雨	水して一時不通となった。 大気の状態が不安定なところへ強い日射の影響が加わり、雷雲が急速に発達し、県南西部の福光町、井波町で降ひょうがあり農作物など 239ha に被害が出た。 28日午前10時20分ごろ長崎市に上陸した台風10号は、その後急速に衰え同日午後3時温帯低気圧に変わり、29日早朝関東沖に抜けたが、秋雨前線を刺激したため、県内では28日午後から風雨が強くなり深夜まで続いた。最大風速は富山で28日15時20分、北東15.7m/s、伏木17時50分、北北東14.1m/s、泊17時、北東17m/sを記録した。総降水量は富山156mm、泊132mm、氷見116mm、魚津177mm、伏木162mm、砺波189mm、上市188mm、福光208mm、八尾171mm、立山249mmに達した。
昭和59年 (1984)	1月25日 ～ [2月10日 3月23日 日県災害 対策本部 設置]	大 雪	負傷者3名、床上浸水12棟、床下浸水683棟、道路15か所、橋梁1か所、河川6か所の被害が出た。 冬型の続いた1～3月にかけ数波にわたって強い寒波が襲来し、富山の降雪量合計が692cmに達し、56豪雪に近い大雪に見舞われた。各地の最深積雪は富山で122cm、伏木で95cm、氷見で100cm、福光で172cm、八尾で203cm、魚津で136cmを記録した。 また、雪害状況は死者21名、負傷者87名、住家の全壊3棟、半壊1棟、部分壊32棟、床上浸水16棟、床下浸水216棟であった。
	6月25日 ～ 6月27日	大 雨	梅雨前線の活発な活動で、25日から27日にかけて降った雨量は、平地で80～100mm、山間部から山地にかけて130mm以上の大雨となったためにがけ崩れや道路決壊の被害が出た。
	7月8日 ～ 7月9日	大 雨	梅雨前線の北上で県内では、7日夜から8日午前中にかけて集中豪雨に見舞われ、立山で300mm、平野部でも60mmを超える雨量で、この大雨により高岡市等で床下浸水17棟が出た。
	7月25日 ～ 7月26日	大 雨	発達した雷雲の通過で25日夕方から各地で激しい雨が降り、砺波で18～19時に34mm、富山で19～20時で28mmの雨量を記録し、富山市等で床下浸水346棟が出た。
	9月16日	大 雨	午前中寒冷前線の南下に伴って県西部を中心に断続的に激しい雨が降った。この雨で高岡市伏木では8時40分から10時すぎまでに50mmの集中豪雨に見舞われ浪岡市等で床下浸水35棟の被害を受けた。
	12月25日 ～ 12月31日	大 雪	顕著な冬型の気圧配置が連日続き、激しい雪が降り続いたため、県下各地で降雪が多くなり、空のダイヤ、長距離列車の運行も乱れ洛地で交通マヒ状態となり、住宅の全壊1棟、床上浸水3棟、床下浸水87棟、死者3名、負傷者87名の被害が出た。 第1級の寒波に見舞われた県内は東部、山間部を中心に断続的に雪が強く降り、特に上旬、中旬の中ごろと月末にかけて大雪となった。富山市では30日21時には最深積雪139cmとなり今冬最高を記録、昭和59年大雪の122cmを上回り、富山地方気象台統計開始(昭和14年)以来、月として累年順位5位の記録となった。また、27日には最低気温-8.3℃を記録、真冬日も1月中で5日も現れ、県内はすっぽり冷蔵庫の中。この大雪で国鉄、富山地铁、全日空など交通機関は、運休や遅延など相次ぎ、また北陸自動車道では通行障害のため混乱した。
昭和60年 (1985)	1月4日 ～31日	大 雪	13時50分ごろ県道黒部朝日公園線の下新川郡朝日町湯ノ瀬地内で高さ30m、幅10mにわたって、雪が崩落し、通行中の乗用車を直撃。このため、車の前半部
	2月4日	雪 崩	
	2月19日	雪 崩	

		が埋まり、運転者は左肩の骨を折って 1 ヶ月の重傷、同県道は一時通行止めとなった。
3月28日	が け 崩 れ	18時50分ごろ、国道156号線の東砺波郡平村祖山で高さ50m、幅60mにわたって雪崩が発生、通行中の乗用車を直撃。車は押しつぶされ、運転手を救出したが病院で死亡。同国道が一時通行止めとなった。
6月3日	ひ ょ う	下新川郡宇奈月町宇奈月温泉の上流で、数日前からの雨により地盤がゆるみ、高さ50m、幅60mにわたりがけ崩れが発生し、このため宇奈月温泉に引かれている源泉の引湯管(直径20cmの樹脂製)が長さ60mにわたって破損した。
6月23日 ～26日	大 雨	2時すぎから5時ごろまで、富山市内では雷を伴った激しい雨が降った。この間、市内呉羽地区の追分茶屋一帯ではひょうが降り、富山市特産の呉羽梨に被害を与えた。 活発な梅雨前線が山陰から北陸に停滞したため、雨が断続的に強く降り、県西部を中心に被害が発生した。高岡市を流れる中川がはん濫し、家屋8戸が床下浸水した。小杉町下条川にかかる小杉大橋西詰の町道が陥没し、全面通行止めとなった。山田村清水の県道砺波・細入線で道路わきの水田の側面が高さ4m、幅約20mにわたって崩れて道路を埋め、通行止めとなった。氷見市長坂地内で25日昼ごろから、小規模な地すべりが発生し、水田が長さ40m、段差2mにわたってずり落ちた。
6月29日 ～ 7月1日	大 雨	台風6号の北上に伴って本州南海上の梅雨前線は次第に北上、活動が活発となり、県内では29日夕刻から30日早朝にかけ雷を伴った激しい雨が降った。また、30日15時に四国足摺岬の南約200kmに進んだ台風6号は日本列島に沿って北東進したため、これに伴い再び雨が降り出し7月1日にかけ大雨となった。
7月7日 ～8日	大 雨	このため、県内では家屋の全壊1戸、半壊2戸、床上浸水53戸、床下浸水385戸、道路の決壊14か所、山・がけ崩れ41か所、堤防決壊1か所の被害が発生した。
7月10日 ～11日	大 雨	北陸地方に停滞していた梅雨前線は、8日の明け方から昼ごろにかけて県内を南下した。7日夕方から本降りになった県下の雨は8日夜まで続き、総雨量は県東部と氷見方面で多く、宇奈月278mm、立山251mm、泊218mm、氷見175mmに達した。このため、氷見市柿谷で自宅の裏山で1人で排水作業をしていた老人が突然崩れ落ちてきた土砂に埋まり死亡したのを始め、県東部を中心に堤防決壊8か所、山・がけ崩れ26か所、住家の床上浸水7戸、床下浸水334戸、水田冠水1,423ha、畑冠水48ha、その他の被害が発生した。
7月13日 ～14日	大 雨	日本海中部を前線を伴った低気圧が東進し、県内では10日朝から11日昼ごろにかけて強い雨が断続的に降った。特に寒冷前線の通過した11日の早朝には雷を伴って激しく降った。総雨量は立山160mm、宇奈月154mm、伏木124mm、上市116mm、魚津114mm、氷見105mmに達した。このため、庄川、小矢部川を始め、中小河川が警戒水域を越え、県西部を中心に道路、堤防の決壊5か所、山・がけ崩れ10か所、住家の床下浸水12戸、水田冠水21ha、その他の被害が発生した。
7月20日	落 雷	日本海中部を低気圧が東進し、これに伴う前線が通過した13日の県内は未明から夕方にかけて強い雨が断続的に降った。13日午前1時から14日午前4時までの総雨量は立山212mm、上市122mm、大山105mm、宇奈月99mm、氷見81mm、富山77mmに達した。この大雨で県西部を中心に住家の全半壊3戸、道路決壊4か所、山・がけ崩れ4か所の被害が発生し、富山市、高岡市、氷見市や大沢野町などでは住家の床下浸水48戸、その他の被害が発生した。 県内は20日早朝と夕方から夜にかけて雷を伴った激しい雨が降った。午後5時ごろ、八尾町三ツ松の住家の杉の木に落雷して燃え、近くの物置に移り半焼

昭和61年 (1986)	7月22日 ～ 9月6日	干害・酷暑	した。氷見市松田江浜海水浴場では突風が発生し、浜茶屋2軒のトタン約400枚が吹きとんだ。また、強雷雨に混じって一時的にひょうも観測され、県西部では落雷が変圧器や電線を直撃して停電や電話機の故障が相次いだ。 県内は7月15日に梅雨が明けたあと太平洋高気圧に覆われ、7月下旬にはその勢力が更に強まり、安定した夏型の気圧配置となって暑い晴天が9月上旬まで続き、富山地方気象台統計開始(昭和14年)以来の猛暑の夏となった。また、これに伴い7月22日～9月6日までまとまった降雨は見られず、この期間の降水量は富山市で21.5mmで非常に少なかった。このため、各地で水不足による農作物の被害が発生した。特に、氷見市など8市町村では山間部を中心に水稻、野菜、大豆、飼料作物の枯死や萎ちようの被害が多かった。
	1月4日 ～14日	大 雪	発達した低気圧が1日に日本海北部を通過し、その後は冬型の気圧配置となって大陸から強い寒気が次々と日本海に流れ込んだ。このため、富山県内では4日～6日と9日～11日は平野部を中心に、また、13日～14日には山間部で大雪が降った。これら一連の雪で、県内の積雪は山間部で2mを超え、平野部でも50cm～1mに達した。この雪のため、鉄道やバスの遅延が相次ぎ、航空機の欠航や遅延、高速道路の速度規制等で交通網が混乱したほか、雪下ろし中の転落等による負傷者も3名あった。
	1月21日 ～28日	大 雪	また、13日の朝方は冷え込みが激しく富山市の最低気温は-4.9℃まで下がった。このため、県内の各地で水道管の破裂や凍結が多発し、富山市で51件、高岡市では305件の発生があった。 21日頃から大陸の優勢な高気圧(1,072mb)が日本付近に張り出して冬型の気圧配置が強まり、28日にかけて強い寒気の流入が続いた。このため県内では、この間、平野部で30～40cm、山間部で40～60cmの大雪が漸続的に降った。また、積雪は27日頃をピークに平野部で1m前後、山間部で2m50cmに達した。この雪のため、鉄道の運休や遅延、バスや航空機の遅延、高速道路の速度規制などの交通障害が多数発生した。また、雪下ろし中に屋根から転落したり、屋根から落下した雪に埋まる等の事故で2名が死亡したほか、10名が負傷した。
	2月5日 ～6日	大 雪	冬型の気圧配置が続き、強い寒気が南下したため、5日未明から6日朝にかけては激しい雪が漸続的に降り、県東部の平野部を中心に大雪となった。富山市や魚津市では60cmを超える降雪があり、積雪は富山市で117cm、魚津市で148cmに達し、この冬の最深となった。このドカ雪のため、鉄道の運休や遅延、バスや航空機の遅延が相次ぎ、また、道路では圧雪や凍結による車のスリップ事故が多発し、交通網が混乱した。
	6月17日	強 風	この他、富山市荒川では屋根の除雪作業中、路上に転落して1名が重傷を負った。また、朝日町蛭谷では排雪が用水をせき止めたため、民家2戸が床上と床下浸水し、婦中町では民家の小屋(木造平屋建82.5m²)1棟が約1mの屋根雪の重さで全壊した。
	6月下旬	低 温 寡 照	東シナ海にあった低気圧が発達しながら朝鮮半島南部を経て日本海を北東に進んだため17日の未明から正午頃にかけて、県中央部の神通川と庄川に沿った地域で南よりの強風が吹いた。富山市では10時00分に南の風15.0m/sの最大風速を観測した。また、同時刻に南の風26.6m/sの最大瞬間風速を観測、これは6月として富山地方気象台の観測開始(昭和14年)以来の極値となった。この強風のため、6時57分頃井波町で倉庫を見回り中の老母が壁に激突して重傷を負い、大沢野町では登校途中の小学3年の児童が強風でよろめき、後方から走ってきたトラックに触れ負傷。さらに9時頃砺波市では新築工事中の農作

昭和 62 年 (1987)	～ 7 月下旬		業小屋が倒壊する等の被害が発生した。また、農作物には穂切れするものやその後穂先の枯れるものがあった。 オホーツク海高気圧が連日のように現れ、寒気の入り易い気圧配置が持続したため、県内は6月下旬から7月下旬の梅雨明けまで、顕著な低温と日照不足が続いた。とりわけ、7月上旬には強い寒気が流入したため、2日から5日にかけては4月下旬頃の最低気温が続いた。
	8 月 16 日	大 雨	また、富山市における7月上旬の平均気温と日照時間は、ともに、気象台が昭和14年に観測を開始して以来の低い(少ない)値となった。このため、水稻の成育が全般に抑制され、出稲期は1週間程度遅れた。 16日の午後には上空に冷たい空気が流れ込み大気の状態が不安定となったため、県中部の山沿いで強いにわか雨が降った。八尾町では15時頃から約2時間に51mmの雨が降り、17時までの1時間雨量は38mmに達した。このため、15時40分頃、同町保内の中核工業団地建設予定地の土盛り(高さ、巾とも2m)が長さ10mにわたって決壊し、付近のスーパー農道約1.5kmを20cm位の土石で覆い、さらに福島上野地区にも濁流が流出し2棟が床下浸水する等の被害が発生した。
	8 月 24 日	大 雨	日本海中部の低気圧から南に伸びる寒冷前線が23日夜から24日朝にかけて県内を通過した。このため、富山市付近を中心に短時間に大雨が降り、富山市で24日1時に、上市町では5時にそれぞれ1時間の雨量が40mmを超えたほか、各地に強い雨を降らせた。総雨量は10～50mmの所が多かったが、富山市や上市町では120mmを超えた。この雨で富山市内等を中心に浸水する所が続出、床上浸水5棟、床下浸水334棟をはじめ道路損壊23カ所、田畑の冠水39ha等の被害が発生した。
	8 月 29 日	強 風	29日は台風第13号が朝鮮半島付近で低気圧に変わり、その後日本海北部に進んだ。このため、28日夜から県西部を中心に南よりの風が強まり、特に29日の朝方は強風が吹き荒れ、富山市では6時20分に最大風速11.8m/sと最大瞬間風速19.7m/sの南風を観測した。この強風により、4時55分頃高岡市戸出大清水の市道でバイクで走行中の女性が突風にあおられて転倒して負傷し、また、9時40分頃には山田村白井谷地区で樹木の枝が突風で折れて工事中の作業員に当たり、そのはずみでがけ下に落ちて負傷した。
	9 月 3 日	が け 崩 れ	台風第15号から変わった熱帯低気圧が、3日朝には関東地方に進んだ。この影響で県内は3日の未明から夕方まで雨が降った。総雨量は各地とも30～40mmであったが、6時頃八尾町仁歩地区でがけ崩れが発生し、県道八尾一古川線沿いの斜面が長さ40m、高さ15mにわたって崩れ落ち、約120m ³ の土砂が道路をふさいだ。
	9 月 29 日 ～30 日	大 雨	29日から30日にかけて台風第17号が本州の東海上を北東に進み、北陸地方の上空にはやや冷たい空気が流れ込んだ。このため、県内では大気の状態が不安定となり、29日の夜から30日の夜にかけて強い雨が降った。特に、30日の朝方から午後にかけては1時間に20mm前後の雨を伴い、八尾町や富山市など県の中央部で局地的な大雨となった。総雨量は八尾町で123mm、富山市で101mm、朝日町で68mmに達した。富山市を中心に床上浸水12棟、床下浸水206棟のほか、道路や河川の護岸が9カ所で損壊する等の被害が発生した。
	12 月～ 2 月中旬	少 雪	12月から2月にかけての県内は、冬型の気圧配置は長続きせず、暖かな晴天が多かった。このため、この間の降水量は各地とも平年を大幅に下回り(富山市では平年の37%で130cm)、また、積雪の最深は平野部で20cm前後、山間部でも
	4 月 21 日	強 風 異 常 乾 燥	

4月～ 5月上旬	少 雨	1mに達する所は少なく、県内の各スキー場は開店休業となる所が多かった。 21日9時、朝鮮半島の北部にあった低気圧は、発達しながら日本海を北東に進み、22日9時には宗谷海峡の西に達した。このため、県内は21日の午後から22日の午前中にかけて、南よりの強風が東部の平野部を中心に吹き荒れ、富山市では最大風速が19.1m/sに達し、また、最大瞬間風速は4月の極値となる34.5m/sを観測した。この強風のため、11人が負傷し、家屋の一部損壊8棟、ビニールハウスの全壊232棟などの被害が発生した。また、フェーン現象が顕著となり、空気が著しく乾燥したため、火災の発生が相次ぎ、黒部市では民家1棟と山林10haを焼失するなど県内に8件の火災が発生した。 4月始めから5月12日にかけて県内は、帯状の高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、各地とも降水量が著しく少なかった。富山市におけるこの間の降水量は、45.5mm(平年の25%)で、観測開始(昭和14年)以来、最も少ない記録となった。このため、西部の山沿いを中心に水不足が深刻となり、水田70haが植え付けが出来なかったほか、野菜類に生育の遅れるものが出た。
7月14日 ～15日	大 落 雷	14日～15日は、北陸地方に梅雨前線が停滞し、一方、台風第5号が南西諸島方面から朝鮮半島に向かって北上した。このため、県内は、大気の状態が不安定となり、雷を伴った強い雨が断続的に降り、所々で1時間に30mmを超える大雨となった。総雨量は、細入村で127mmに達し、その他の所でも50mmを超える所が多かった。この雨のため、各地で道路の欠陥(27カ所)、河川の欠陥(15カ所)等の被害が発生した。また、落雷のため、福野町では農家が全壊して1人が大やけどを負った。
8月13日	大 落 雷	13日の県内は、太平洋高気圧の後退に伴い、南からの暖かい湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となった。このため、午後には雷雨が発生し、県の南部で局地的な大雨が降った。とりわけ、細入村では、15時～16時の1時間に富山県の観測史上最も多い78mmの記録的な大雨を観測、また、14時～17時までの3時間の総雨量は114mmに達した。この大雨のため、細入村を中心に床下浸水2棟、砂防施設の欠陥2カ所、道路の欠陥11カ所等の被害が発生した。また、信号機への落雷によりJR高山線が2時間不通になり、八尾町では小学校の国旗掲揚塔に落雷し建造物や電話等に被害を与えた。
8月31日	強 風	東シナ海を北上した大型で強い台風12号は、31日の未明、対馬海峡を通過し、その後、日本海を北東に進み、21時には渡島半島の西方海上に達し温帯低気圧になった。このため、県内は、31日の未明から夜にかけて強い南風が吹き荒れ、富山市では、午前10時50分に最大風速が14.4m/sに達し、8月の観測開始以来の極値を更新した。また、最大瞬間風速は12時10分に29.3m/sを観測した。この強風のため、福光町では1人が負傷し、富山市や婦中町では建物の被害や倒木、停電等の被害が発生し、また、農作物では、庄川、井波町、砺波市を中心に、水稻の倒伏、野菜類の莖葉の折損、果樹の落下および損傷等の被害も見られた。
9月2日 ～3日	大 落 雷	上空に流れ込んだ寒気の影響で大気の状態が不安定となったため、3日夜半頃、県の中央部で、雷を伴った局地的な短時間の大雨が降った。富山市では、4日の午前1時にかけて1時間に34mm、2時間で50mmの雨量を観測した。このため、富山市や婦中町を中心に242棟が床下浸水したほか、落雷により約500戸が3時間余り停電、約2万戸が瞬間停電し、電話回線も110戸で不通となった。
9月17日 ～19日	大 雨	17日～19日は、台風第13号が日本の東海上をゆっくり北東に進んだため、県内の上空には寒気が流れ込み大気の状態が不安定となった。このため、17日の昼頃から19日の午前中にかけて、東部を中心に1時間に20～30mmの強い雨

昭和 63 年 (1988)	10 月 17 日	風	雨	が断続的に降り、総雨量は魚津市と宇奈月町とともに 215mm、朝日町 186mm、上市町 132mm に達した。この大雨のため、滑川市、魚津市等で、床上浸水 12 棟、床下浸水 207 棟、崖崩れ 12 か所、道路の損壊 14 か所、護岸堤防の損壊 22 か所等の被害が発生した。また、JR 北陸本線は富山～滑川間が徐行運転となり、特急電車に最高 20 分の遅れがでた。 17 日未明に四国室戸市に上陸した大型で並の強さの台風第 19 号は、その後、北東に進み、若狭湾を経て、午前 9 時過ぎに能登半島を横断、さらに佐渡島の北西海上を北東に進み、午後 9 時には青森県下北半島に達して温帯低気圧となった。このため、17 日の県内は、昼過ぎから夜にかけて風雨が強まり、午後 2 に朝日町で 17m/s の最大風速が観測され、雨量は多い所で 50mm に達した。これに伴う被害は、土砂崩れによる黒部峡谷鉄道の一時的な不通、また、強風により全日空東京～富山間の 4 欠航、北陸自動車道の速度規制、JR 北陸線の特急の遅れ等で、当県の近傍を通過したわりには、大きな被害を受けなかった。
	12 月 2 日	波	浪	強い冬型の気圧配置となった 2 の午前 5 時 50 分頃、前夜から伏木港の沖合で停泊していた貨物船(福岡市丸二海運所有、697 トン、乗組 7 人)が、2m を超す高波と強風により、伏木港石油基地護岸堤から 40m まで流され座礁した。このため、船底にひびがはいり燃料の重油が流れ出したが、乗組員は全員救出された。
	12 月～ 1 月中旬	暖 少	冬 雪	12 月の月上旬前半から 1 月の月上旬にかけて、県内は、雪の降る日が少なく積雪はほとんど見られなかったが 1 月の月上旬末には一時的に冬型の気圧配置が強まり、平野部で 30cm 前後、山間部で 1m 前後の積雪となった。しかし、その後下旬の初めにかけては再び降雪の無い暖かな日が続いたため、この積雪は急激に減少した。
	4 月 12 日	強	風	このため、県内の各スキー場は、1 月下旬の初めまで雪不足でほとんど営業出来なかった。 12 日は、前線を伴った低気圧が日本海北部を発達しながら北東に進んだ。このため、県内は未明から夜半にかけて南よりの強風が吹荒れ、富山市では 22 時 40 分に最大風速が 15.6m/s に達し、23 時 03 分には、4 月としては第 6 位となる 28.8m/s の最大瞬間風速を観測した。この風は、神通川や庄川の流域で目立って強く、富山市や福光町ではビニールハウス約 500m² が破損、また、強風による送電線障害のため、富山市の北代や八日町で約 2,300 戸で停電する等の被害が発生した。また、北陸自動車道の滑川～砺波インター間は、強風のため上下線とも通行止めとなった。
	6 月 2 日 ～4 日	大	雨	2 日朝、九州の西海上にあった低気圧は、東北東に進んで本州を縦断し、4 日朝には三陸沖に去った。一方、台風第 2 号が台湾付近から北東に進み、3 日 9 時には沖縄本島に達した。このため、本州付近には、南からの暖かく湿った空気が流れ込み、全国的に大雨が降った。 県内は、2 日の夕方から本格的な降雨となり、3 日宵の内をピークに 4 日の朝までやや強い雨が降り続き、この間の総雨量は、上市町の 195mm を筆頭に、大山町で 162mm、宇奈月町で 158mm、魚津市で 149mm、富山市で 133mm を観測した。
	6 月 25 日 ～ 7 月 29 日	寡 低	照 温	このため、大沢野町芦生、大山町小谷、氷見市仏生寺及び山田村宿坊で小規模ながけ崩れが発生したほか、国道 359 号線の富山市有沢、八尾町栗杉、同清水で道路が決壊する等の被害が発生した。また、国道 41 号、160 号及び立山有料道路等の各線は、大雨による交通止めが行われた。 6 月下旬の後半からは梅雨前線の活動がやや活発となったため、曇りや雨の日が続くようになった。7 月上旬末には太平洋高気圧が一時的に強まり、西日本方面では梅雨明けとなる所もあったが、その後 7 月末頃にかけては、オホー

8月17日 ～18日	大 雨	ツク海高気圧が勢力を強めたため、梅雨前線は再び南下した。 このため、この期間の県内は、各地とも日照時間が極端に少なく、平年の50%に満たない所が多かった。富山市と高岡市伏木とも7月の日照時間は観測開始（富山昭和14年、伏木明治26年）以来の最少を記録した。 また、平年をかなり下回る低温の日が続き、富山市における7月の平均気温この影響で、県内の早生、中生の稲の成長が5～6日遅れ、また、葉いもち病が17,530haに発生する等の被害が発生した。 日本海中部に弱い熱帯低気圧が進んできた17日～18日の県内は、南からの暖かい湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となり、両日とも午後、西部を中心に強い雷雲が発生した。 このため、17日の午後1時20分と1時50分頃、福光町地内2か所で落雷があり、それぞれ住宅の屋根等に損傷を与えた。また、18日の夕方には、高岡市を中心に短時間の強い雨が降り、伏木地区を中心に住宅143棟が床下浸水したほか、JR氷見線が一時運休となり、また、落雷のため、福野町、福光町、城端町、砺波市、氷見市等で合わせて18,000戸が、最長2時間にわたり停電する等の被害が発生した。
8月24日 ～26日	大 落 雷	なお、伏木観測所では18日午後5時20分までの10分間に25.5mm、同5時50分までの1時間に72.5mmの雨量を観測、ともに統計開始以来の極値を更新した。 24日～26日は、秋田沖に前線が停滞し、これに本州南東海上の熱帯低気圧から暖かい湿った気流が流れ込んだ。このため、県内は大気の状態が不安定となり、連日、強い雷雨が発生し、落雷による停電や短時間の大雨による浸水、がけ崩れ等の被害が相次いだ。 24日午後3時15分頃、魚津市江口の北陸電力魚津変電所に落雷したため、魚津市、黒部市、宇奈月町等の約22,000戸が7分～2時間余り停電、また、富山地方鉄道の魚津～宇奈月間の電車12本が運休した。 25日朝から午後にかけて降った1時間20～40mmを超える強雨のため、小矢部市と大沢野町で住宅43棟が床上、床下浸水したほか、小矢部市、氷見市、福岡町等では小規模ながけ崩れも発生した。
9月2日	大 雨	26日午前2時頃、八尾町桐谷地内の民家の裏山が幅20m、高さ10mにわたって崩れ落ち、約400m³の土砂が流出して外壁に接した。 また、この間、黒部峡谷の柳又谷から旭岳に向かって3入のパーティが遭難し、死亡または行方不明となった。
10月29日 ～30日	波 浪	2日の県内は、弱い気圧の谷が通過し大気の状態が不安定となったため、夜半前に県の中央部で強い雷雨が発生した。このため、富山市では23時までの1時間に37mm、24時までの1時間に14mmに達する局地的な短時間の大雨が降り、小杉町や高岡市で合わせて住宅数棟が床下浸水する被害があった。 29日から30日にかけて北海道の東海上で低気圧が台風並みに発達し、また、大陸の高気圧が日本付近に張り出し、強い冬型の気圧配置が続いた。このため、日本海北部では強い季節風が吹荒れ、これに伴って発生した風浪が、富山湾特有の寄り回り波となって県東部の海岸を中心に打ち寄せた。 波は29日夕方から急速に高まり、入善町田中では29日22時に、最大波高8.3m、有義波高5.8mを観測、また、新湊市堀岡では30日06時に最大波高が4.1m、08時には有義波高2.3mに達し、波の高い状態は31日の明け方まで続いた。 このため、朝日町境地区の海岸では、堤防の一部が決壊や陥没し、堤防上に係

平成元年 (1989)	11月24日 ～27日	大 落	雨 雷	留されていた小型漁船7隻が後方に押し流されたほか、宮崎漁港では港内に砂が堆積したため大型船が通行不能となる等の被害が発生した。 また、JR北陸本線は名立一入善開で一時列車の運転を見合わせた。 日本付近は24日から27日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、とくに、25～26日は日本海の上空に真冬並の強い寒気(石川県輪島市の上空約5,500mで氷点下35℃以下)が流れ込んだ。 このため、県内は大気の状態が非常に不安定となって雷の発生が相次ぎ、また、この時期には珍しく降水量の多い日が連続し、各地でかけ崩れや落雷による被害が発生した。主な被害は、26日午前11時ごろ、高岡市伏木矢田の民家に落雷があり、住居の一部を焦がした。同日午後3時過ぎ、東京発富山行きの全日空機が富山湾上空で機首部分に落雷を受け、祈り返しの便が欠航した。同日3時半ごろから約1時間にわたり、JR北陸線の西高岡駅近くの車中保踏み切りに落雷したため、遮断機が降りっぱなしとなった。同日午後5時ごろ、福岡町赤丸の柱上トランスに落雷があり、約100戸が停電した。27日午後0時半ごろ、氷見市鞍骨の民家の裏山が25mにわたって崩れ落ちた。
	1～2月	暖 少	冬 雪	1月～2月の県内は、気温の高い日が多く、冬型の気圧配置も長続きしなかったため、記録的な暖冬・少雪となった。 この間、富山市では、気温が平均で平年を2.5℃上回り、また、降雪の深さの合計は平年の17%と非常に少なく、ともに、富山地方気象台観測開始(昭和14年)以来の高温、少雪を記録した。
	3月8日	波	浪	このため、県内では、各スキー場が雪不足となって平年の約40～50%の減収となった。 8日午前1時25分頃、富山湾護岸堤防の沖合い1.3kmに停泊していた小型のタンカーが、強風と高波に流されて護岸堤防北側の波消しブロックに激突して座礁、右舷を堤防側に向けて横転した。
	4月16日	強	風	この船は、東京都千代田区にある昭和油槽船KK所有の昭隆丸約1,000トンで10名が乗り組んでおり、この事故のため、海に投げ出された一等航海士及び甲板員の3名が死亡、他の7名は救助されたが3名が負傷した。 なお、事故当日は西高来低の冬型の気圧配置で、現場付近は、北北東の風が15m/s、波の高さも5m(伏木海上保安部の観測による)と大荒れの状態であった。 低気圧が発達しながら能登半島沖を進み、これに伴う寒冷前線が通過した16日の夕方頃、県内では南～西よりの強風が吹き荒れ、富山市では、午後4時48分に最大瞬間風速が29.5m/sに達し、午後4時50分には西の風16.7m/sの最大風速を観測した。
	7月12日	大	雨	この強風のため、午後3時20分頃、富山新港の西約1kmの沖合で練習中の富山商船高等専門学校のヨット7艇(2人乗り、約4m)が突風にあって転覆し14人が海に投げ出されたほか、午後3時50分頃には、富山市四方の八重津浜沖約200mでもヨット6艇(1人乗り、約4.2m)が転覆、又、入善町下飯野では沖合50mの護岸堤に釣り人2名がとりに残される等の事故が相ついでだが、幸い全員無事に救助された。
	8月17日	大	雨	梅雨前線の活動が活発となった12日の未明、県内の各地で1時間に20～30mmの強い雨が降り、3時～5時の雨量は、宇奈月町で70mm、上市町で54mm、魚津市で50mmに達した。 この短時間の大雨のため、魚津市坪野では県道湯上一坪野線わきの崖が幅6mにわたって崩れ落ち、また、午前8時頃には、小矢部市矢波で県道谷坪野一芹川

		線わきの山から約 200m³ の土が崩れ落ちる等、小規模な土砂の崩壊が各地で発生した。 17日の県内は、大陸方面から流れ込んだ冷たい空気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、高岡市の伏木測候所では、午前2時から3時までの1時間に53mmに達する局地的な強い雨を観測した。 この強風のため、高岡市伏木や隣接する新湊市では、排水溝からあふれ出した雨水が住宅や商店街に流れ込み、合わせて床上浸水4戸、床下浸水52戸の被害が発生した。 日本海沿岸に停滞した秋雨前線の影響で、県内は2日から7日にかけて大雨が降り、この間の総降水量は220～300mmに達した。 雨は、2日の昼頃から4日米明にかけてと5日の夕方から7日の夜にかけて降ったもので、特に前線活動が強まった3日と6日は、所々で日降水量が100mmを超える大雨となった。 この一連の雨により、県内の各地に床下浸水6戸、砂防3か所、道路損壊53か所等の被害が発生した。
9月2日 ～7日	大 雨	
9月18日 ～20日	大 雨	なお、富山市で観測された3日の日降水量126.0mm及び月降水量の481.5mmは、ともに富山地方気象台が昭和14年に観測を開始して以来、9月としても多い記録となった。
10月8日 ～9日	山 岳 遭 難	18日～20日は、台風第22号が本州の南岸沿いを東北東に進んだため、本州上に停滞した秋雨前線の活動が活発となった。このため、県内は18日正午頃から20日の朝にかけて雨が降り続き、この間の総降水量は、山沿いで100mmを超え、平地でも60～80mmに達する大雨となった。 8日～9日にかけて、北アルプス立山連峰真砂岳(標高2,860m)の頂上付近で、京都府と滋賀県からの中高年のパーティ10人(男7人、女3人)が遭難し、このうち、8人が凍死し、2人は救助された。 一行は、8日の午前9時前に登山口の室堂平(標高2,400m)を出発中腹の一の越を経て正午頃雄山頂上に到着、昼食の後、真砂岳に向かったもので、吹雪と疲労から身動きが困難となって遭難した。また、軽装で寝袋やテント等の装備はしていなかった。
11月1日 ～2日	波 浪	8日の日本付近は、本州の東海上を大型で強い台風第25号が北北東に進み、一方、大陸の優勢な高気圧が日本付近に張り出して強い冬型の気圧配置となり、北日本の上空(5,400m付近)には-30℃の真冬並の強い寒気が流れ込んでいた。 このため、8日の県内は、平地では朝方から宵にかけて時々雨の降る肌寒い1日となり、また、山岳方面では、秋から一転して真冬の様相となり午後6時には真砂岳付近で約20cmの積雪が見られた。 発達した低気圧が日本海中部から三陸沖に進んだ影響で、1日夜から2日朝にかけて、日本海北部や北日本方面を中心に北よりの風が強まり、県内の朝日町泊でも1日午後10時に北々西の風11m/sの最大風速を観測した。 一方、この強い風によって発生した高波が1日夜半前から富山・新潟県境付近の海岸を中心に押し寄せ、2日の富山湾は明け方頃をピークにかなり波の高い状態が続いた。[入善町田中の波高観測所(建設省黒部工事事務所管理)では2日午前2時に5.6mの最大波高を観測] この高波により朝日町の宮崎漁港では2,000m³を超える砂が堆積して漁船の航行が出来なくなり、また、2日午後11時50分頃には高岡市伏木国分港で沖合1.2kmに停泊中のタンカーに戻る途中のボートが転覆し、乗っていた4人は全
平成2年 1月1日	山 岳 遭 難	

(1990)	～8日		員救助されたが、2 人が重軽傷を負った。 年末に北アルプス立山連峰方面に入山した京都府立大学山岳部（7 人）、群馬ミヤマ山岳会（4 人）、京都左京勤労者山岳会（2 人）、法政大学山岳部（2 人）、大阪府の会社員（2 人）の 5 パーティが厳しい風雪のために身動きが困難となり、相次いで救助を求めた。 このため、1 日から富山県山岳警備隊を中心に空及び陸路による救助活動が開始されたが、悪天候と深い雪に阻まれて救助活動が難航し、天候が回復した 8 日になって、ようやくヘリコプターで全員無事に救助された。 なお、年末から年始にかけての山岳方面は、冬型の気圧配置で猛吹雪に見舞われる等荒模様の天気が続いた。 前線を伴った低気圧が日本海中部を発達しながら東北東に進んだため、未明から南よりの風が強くなり、特に前線が通過した夕方から夜にかけては、各地で突風が吹き荒れた。 なお、富山市では午後 4 時 26 分に、1 月としては富山地方気象台観測開始（昭和 14 年）以来第 1 位となる最大瞬間風速 29.0m/s（西南西の風）を観測した。 冬型の気圧配置が持続したため、雪が降り続くとともに、厳しい寒さに見舞われた。 特に 24 日～27 日は、石川県輪島市の上空約 5,000 m に氷点下 40～34℃の強い寒気が流れ込んで警報級の大雪が降り続き、また、真冬日（1 日中氷点下）が連続する顕著な低温となった。 この大雪のため、鉄道や路線バスの遅延や運休、飛行機の欠航など交通網が軒並に乱れ、24 日には北陸自動車道で吹雪により視界不良となり乗用車 2 台、トラック 11 台が追突する事故が発生した。 この月は、連日平年の気温を上回る暖かい日が続き、雪は殆ど降らなかった。 このため、1 月下旬にまとまって降った雪も半ば頃には消え去り、県内の各スキー場は雪不足のためスキー競技会や各種イベントの中止が相次いだ。 なお、富山市における月平均気温 5.7℃（平年 2.4℃）は、富山地方気象台観測開始（昭和 14 年）以来第 1 位の高温になり、また、雪日数 3 日（平年 17 日）、降雪量の月合計 11cm（平年 123cm）ともに観測開始以来の最少を記録した。 日本海を通過した低気圧の影響で南風が吹いたり雨が降ったため、道路が 13 箇所被害を受けた。 午前 9 時 45 分頃、剣岳早月尾根の通称カニのハサミ（標高 2,900m）付近で積雪期の山岳遭難救助訓練中の富山県警察本部山岳警備隊員 1 人が幅約 5m、厚さ 50～60cm の表層雪崩に巻き込まれて行方不明となった。現場付近は前夜から雪が降り続いており、4～5m の積雪の上に 50～60cm の新雪が積もっていた。 なお、7 日は日本海北部の低気圧から南西にのびる寒冷前線が午前 11 時頃に県内を通過し、午前 8 時頃から昼過ぎ頃にかけての県内は、南よりの風が強まり、また、気温も急上昇していた。 寒気の流入で不安定な天気となったため、午前 9 時半頃氷見市谷屋の水田で農作業中の婦人が雷の直撃を受けて死亡した。 24 日は、弱い気圧の谷の影響で夕方には一時強い雨が降った。25 日～26 日は、台風 5 号から変わった低気圧が朝鮮半島を経て日本海に進んだため、梅雨前線が北上し前線活動が活発となった。このため、県内の各地でやや強い雨が断続的に降り、道路が 10 箇所に被害を受けた。 15 日は、前線を伴った低気圧が能登半島沖を通過したため、朝と夜を中心に
	1月10日	強風	
	1月22日～28日	大雪	
	2月	暖冬・少雪	
	2月10日～12日	融雪	
	3月7日	山岳遭難	
	4月29日	落雷	
	6月24日～27日	大雨	
	7月15日～17日	大雨	

平成3年 (1991)	8月17日 ～18日	大 雨	雨が降った。16日は北上した梅雨前線の活動が活発となったため、夕方にかけて1時間に10～30mmの強い雨が雷を伴って断続的に降り、細入村では15日午前10時の降り始めから16日午後4時まで115mmの雨量があった。 このため、道路が42箇所、河川が13箇所に被害を受けた。 17日は、日本海に停滞していた前線が南下し、正午頃から夕方にかけて県内を通過したため、1時間に10～30mmの強い雨が雷を伴って断続的に降り、氷見市や高岡市では総雨量が70～80mmに達する大雨となり、その他の所でも20～40mmの雨量が観測された。 このため、氷見市で住家2棟が床下浸水したほか、道路が22箇所、河川が17箇所、砂防施設が2箇所に被害を受けた。 九州の南海上を北東に進んだ大型で強い台風19号は、19日午後8時過ぎ紀伊半島の和歌山県白浜町付近に上陸、その後も北東進を続けて20日午前3時頃には岐阜・長野県境（高山市の南東約30km）を通過、本州を縦断して次第に勢力を弱め、20日の正午前には岩手県の沖合いに去った。 県内は19日午後から風雨が次第に強まり夜半前から20日の明け方にかけては暴風雨となった。20日午前0時3分には高岡市伏木で北北東の風32.7m/sの最大瞬間風速を観測、また、同午前1時20分には富山市で北北東の風20.9m/sの最大風速を観測した。 一方、雨は20日の未明、山沿いを中心に1時間20～30mmの激しい雨が降り続き、降り始めからの総雨量は平村で272mm、立山で173mm、細入村で161mm、上市で139mmに達し、特に県西部で雨量が多かった。
	9月19日 ～20日	大雨・風浪	このため、死者が2人、住家の全壊が1棟、一部破損が8棟、床上浸水が4棟、床下浸水が52棟、道路が227箇所、橋梁が14箇所、河川が183箇所、港湾施設が9箇所、砂防施設が37箇所等が被害を受けた。 4日～10日にかけての県内は、秋雨前線や台風21号の影響で天気がぐずつき、連日雨が降った。特に4日、6日、10日には、それぞれまとまった雨が降り、この間の総雨量は宇奈月町で181mmに達したほか、各地とも100mmを超える多量の雨を観測した。 また、4日～9日にかけては、各地とも日照はほとんど見られなかった。
	10月4日 ～10日	長 雨	この長雨で、収穫期を迎えた県内の大豆は、サヤに水分が入り込み、台風19号の暴風雨による落葉等の影響も加わって、豆が腐ったり黒ずんだりする被害が広範囲にわたって発生した。
	2月16日 ～17日	波 浪	冬型の気圧配置が強まったため、朝日町泊では10m/s前後の強風が続き、海上では風浪が高くなって沿岸に高波が打ち寄せた。 このため、16日午前9時40分頃入善漁港の漁船で漁具を片づけていた人が、防波堤を乗り越えてきた8mの高波にさらわれて港内に転落、水死した。また、16日午後4時50分頃滑川市高塚で高波により住宅7棟が床上、床下浸水し、その後片付けをしていた主婦が護岸堤を乗り越えてきた波に巻き込まれ、頭を強く打って意識不明の重体となり、パトロール中の消防署員も腕などに軽傷を負った。その他、県東部の沿岸を中心に、護岸、離岸堤、防波堤等合わせて39箇所に欠所や沈下などの大きな被害が発生した。又、漁網の損壊、漁船の損傷、漁業施設の破損等の被害も発生した。
	6月12日	竜 巻	寒冷前線が日本海沿岸に停滞し、その前線に向かって南風が吹き込んでフェーン現象となり、大気の状態が不安定となっていた。午後1時頃県西部で発生した雷雲が発達しながら北東進、午後1時30分から50分にかけて滑川市から

			魚津市を通過し、局地的に突風や竜巻が発生した。 魚津市東山では竜巻のため、プレハブの作業小屋が 30m 吹き飛ばされて全壊し、近くで働いていた作業員は飛んできた足場の板が頭に当たって 10 日間のけがをした。又、納屋 1 棟が全壊したほか、住宅等 18 棟が一部破損、半径約 200m 以内では樹木折損等の被害があった。滑川市江尻では倉庫新築現場の足場が強風によって倒れ、JR 北陸本線の架線を切断したため、電車 13 本に最高 2 時間 30 分の遅れが出た。 梅雨前線の活動が活発となったため、県西部を中心に激しい雷雨となり、28 日午後 3 時から 30 日午前 7 時までの総雨量は、砺波 185mm、平 153mm、八尾 151mm、福光 146mm、富山 144mm を記録した。 このため、高岡市 28 棟、富山市 3 棟、福光町、小杉町で各 1 棟が床上浸水、高岡市 100 棟、婦中町 60 棟、富山市 49 棟、小杉町 18 棟、砺波市 12 棟等県内で 262 棟に床下浸水が発生したほか、29 日午前には落雷により富山市、高岡市、大門町で 15 万 5 千戸が停電し、福光町の神社が全焼する被害があった。又、富山市のいたち川が増水して護岸堤が決壊したため、市道が長さ 15m、幅 10m にわたって削られ、氷見市阿尾の国道 160 号線沿いのがけでは高さ約 30m、幅 20m にわたって崩れたため通行止めとなった。この他、17 路線で土砂崩れや雨量規制などで通行止めとなった。 大型で非常に強い台風 19 号は、長崎県佐世保市の南に上陸し、勢力を保ちながら日本海を北東進、28 日午前 2 時に輪島市の北西 170km を通過した。 県内では台風の接近に伴い、27 日夕方から次第に風が強まり、午後 9 時頃から各地で 10m/s を超え、28 日午前 1 時～4 時にかけて突風を伴った 15m/s 以上の暴風が吹き荒れた。台風が最も接近した 28 日午前 1 時～2 時にかけて各地で最大風速と最高気温を観測、又 27 日夜半を中心に顕著なフェーン現象となった。 このため、家屋の損壊や飛来物が当たる等 6 市町で 12 名が負傷、住宅の損壊は 17 市町村で 149 棟に及び、又、小矢部市では強風時に出火し、飛び火等によって全焼 29 棟、部分焼 6 棟の被害があったほか、魚津市でリンゴ、福光町や城端町では柿が大量に落下して 7～8 割の減収被害となり、大豆、水稻、野菜等では倒伏や損傷による被害が広範囲に発生した。その他、ビニールハウスの全半壊 192 棟、農業漁業施設の破損 89 棟、ブロイラーのへい死は 1 万羽。道路は落石や倒木等の影響により 19 路線で一時交通規制が実施された。 JR 西日本鉄道では特急 22 本、急行 3 本、普通 115 本が運休し、富山地方鉄道も一時不通となった。電力は、高圧配電線の切断や電柱の傾斜等により 6 万 6 千戸が停電した。
6 月 28 日 ～30 日	大 雨		
9 月 27 日 ～28 日	強 風		
平成 4 年 (1992)	3 月 1 日	洪 水	
6 月 20 日 ～21 日	大 雨 落 雷		午前 10 時 40 分頃、下新川郡宇奈月町の黒部峡谷・仙人谷ダム上流で雪崩によるとみられる雪混じりの鉄砲水が発生し、同ダムサイトの作業員詰所にいた作業員 1 名が水死、1 名が負傷した。 上空に寒気が入り、大気の状態が不安定となったため、20 日昼頃に南砺地方で激しい雷雨となった。又、夜半過ぎからは神通川流域の幅狭い地域に、発達した雨雲が次々に富山湾から流れ込んで大雨となり、21 日 0 時から 9 時までに富山で 111mm、細入で 61mm、八尾で 55mm を観測した。20 日昼過ぎには落雷のため、南砺地方で住宅の一部破損や JR 城端線に運休や遅れがでたほか、停電等が発生した。又、21 日には富山市で住宅 5 棟が床下浸水した。 南から暖かく湿った空気が本州中部に流れ込み、大気の状態が不安定となっ
8 月 24 日	大 雨 落 雷		

平成5年 (1993)	9月25日	強風	た。このため、昼過ぎから夕方前にかけて激しい雷雨となり、砺波で14時までの1時間に33mm、八尾で15時までの1時間に52mmの強雨を観測した。 この短時間強風の影響で JR 高山線が運転を見合わせたため、列車の運休や遅れが発生したほか、富山市で10棟、大沢野町で1棟の床下浸水があった。 又、落雷により県内の広い範囲で停電があり、高岡市では住宅の一部破損が発生した。 台風19号から変わった低気圧が発達して日本海を進んだため、強い南風が長時間にわたって吹き荒れ、富山で最大瞬間風速29.3m/sを観測した。この強風のため、富山市の4棟で屋根等を一部破損したのをはじめ、砺波市ではプレハブ2棟が倒壊した。又、JR北陸線では一時運転を見合わせたため、9本の列車に遅れがでた。農作物では、果実の落下や野菜の損傷等により5,124万円の被害があった。
	1～2月	暖少 冬雪	
	2月7日	地震	平年よりも大陸の高気圧が弱く、冬型の気圧配置が長続きしなかった。平野部では1月18日まで降雪の日が少なく、富山市での月降雪量の合計は1月49cm(平年196cm)、2月38cm(平年131cm)と少なかった。また、月平均気温は1月3.8℃(平年2.0℃)、2月4.3℃(平年2.2℃)と暖かかった。 7日22時27分に能登半島沖(北緯37.7度、東経137.3度、深さ25km)で地震(マグニチュード6.6)が発生し、富山、伏木で震度4(中震)を観測した。この地震により、富山湾沿岸には津波注意報が発表された。
	4月25日	落雷	JR西日本では一時運行を見合わせたため運休や遅れが生じ、大門町の民家のモルタル壁が崩れたほか、富山市、高岡市、小矢部市で天井や窓ガラス等の建物被害が発生したが、津波による被害はなかった。
	5月14日	大雨	寒冷前線が通過して大気の状態が不安定となり、雷が発生した。落雷により高岡市井口本江の住宅と作業小屋が全焼し、富山市太田中区では民家が半焼した。また、送電線への落雷のため短時間の停電が発生し、57,000戸に影響があった。
	7月12日	大雨	日本海の前線に湿った空気が流れ込んで活動が活発となり、ゆっくり南下したため、13日の降り始めから14日午後3時までの総降水量は宇奈月で158mm、泊で155mm、氷見で120mmに達する大雨となった。 このため、14日午前1時30分頃に氷見市大境の国道160号で土砂崩れが発生し、16時間にわたって通行止めとなった。また、崖側を通過していた水道管が切断され、4地区380世帯が断水した。その他の主要道路5路線6ヶ所でも通行止めとなった。 梅雨前線が北陸付近で停滞し、活動が活発となった。このため、12日朝には1時間20～30mmの強い雨が降り、12日0時から8時までに魚津で72mm、富山で68mmの雨量に達した。日中は小康状態となったが、夕方から14日にかけて断続的に雨が降り、12日から14日にかけての総雨量は立山344mm、宇奈月194mm、平167mmの大雨となった。
	6月4日 ～ 9月15日	寡照 低温	この雨で、富山市41棟、魚津市6棟、滑川市3棟の床下浸水が発生し、魚津市で護岸決壊1ヶ所のほか、県内で4ヶ所の道路欠損があった。また、12日朝にはJR富山港線で運休や遅れが出たほか、13日から15日にかけて黒部峡谷鉄道が全面運休となった。 オホーツク海高気圧の勢力が強く、日本付近に寒気の流れ込みやすい状態が続き、梅雨前線が本州付近に停滞することが多かった。このため、平年を下回る低温の日が続き、各月の平均気温が低くなった。特に富山市では8月の平均気

平成6年 (1994)	9月4日	強風	温が23.3℃と観測開始以来の低温となった。期間の日照時間も少なくなり、富山市の8月の日照時間は平年の51%だった。 この影響で、県下の水稲では不稔籾やいもち病の被害が発生し、作況指数は87の著しい不良となった。また、果樹や野菜も収量減となった。 中型で強い台風13号は鹿児島県に上陸した後、四国・中国地方を通過して日本海に抜け、4日午前9時に輪島市の西南西100kmを通過して夜には秋田沖で温帯低気圧に変わった。県内では、台風の接近に伴って南よりの風が強まってフェーン現象となり、泊で最大風速19.0m/s、伏木で最大瞬間風速31.2m/sを記録した。また、最高気温は魚津で34.4℃、富山で34.3℃となった。 この強風のため、朝日町では走行中の軽トラックが転倒して運転者がけがをし、平村では車庫のトタン屋根が飛んで住宅2棟が破損した。また、鉄道では運休が生じ、空の便は欠航がでた。農業では水稲の倒伏、野菜の損傷、落果の被害が発生し、20棟の農業施設で倒壊や破損の被害があった。さらに、断線のための1,270戸が停電し、49件の電話の不通が発生した。
	2月21日 ～24日	強風 山岳遭難	21日は発達した低気圧が本州の南海上を進み、日本海にも小さな低気圧があって、日本付近は深い気圧の谷に入った。この南海上を進んだ低気圧は、21日夜に三陸沖をとおり、22日朝には北海道の東海上に進んで猛烈に発達した。このため、22日から23日にかけては上空に寒気が流れ込んで、強い冬型の気圧配置が続いた。 21日、北アルプス剣岳において、早稲田大学山岳部の7人パーティーのうち、4人が別山乗越のベースキャンプからルート工作に出発して遭難した。パーティーは20日、天気図から21日の悪天候を予想したが、21日朝には風が弱く視界も良かったことから、午前中は大きく崩れないと判断し行動した。しかし、21日午後、ベースキャンプに帰る途中で天候が急変して猛吹雪となり、視界不良となったためクロユリノコル付近でビバークとなった。簡易テント1張りが強風で破れたが、目もあけられないほど風雪が強くなり雪洞の掘れる状態ではなかったため、1張りのテントに4人の頭だけを隠す状態で過ごし、22日朝には1人が死亡した。3人は22日朝から雪洞を掘ってそのなかで天候の回復を待ったが、24日午後まで吹雪で視界の悪い状態が続いた。1人は24日午後に天候の回復を確認し自力で剣御前小屋に生還したが、残る2人は24日夜、捜索隊により雪洞のなかで死亡しているのが確認された。
	4月12日	強風	東シナ海から日本海に進んだ低気圧が、猛烈に発達しながら北東進し、中心から伸びる寒冷前線が12日午後8時20分に当地方を通過した。このため、12日午前3時過ぎに富山地区から南風が強くなり、夜半前までの長い時間に広い範囲で強風が吹き荒れた。また、フェーン現象となって空気が乾燥し、県内の22市町村で火災警報が発令された。この強風では、12日午後1時ごろ、大沢野町芦生地区の神通川右岸建設現場で、プレハブ作業小屋が突風に飛ばされ、中にいた2人が小屋もろとも15m下の神通川に転落した。1人は自力で岸に泳ぎ着いてけがはすんだが、1人は流されて行方不明となった。また、小屋の外にいて助けようと川に飛び込んだ1人も波にのまれて行方不明となった。捜索により2人は16日までに遺体で見つかった。 午前8時40分ごろ、山田村若土地区で農道を歩いていた65才の女性が、突風にあおられて約10m下の県道に落ち、脳挫傷のため死亡した。そのほか、強風に飛ばされたり飛来物が当たり、富山市や城端町、福光町、庄川町、婦中町、大門町、入善町で16人が負傷した。

6月19日	波	浪	走行中のトラックが横倒れとなる事故が富山市や砺波市、井波町、庄川町で14件発生した。前日に燃やした残り火が原因の野火が砺波市、庄川町で3件発生して雑草を燃やした。 JR 西日本や富山地方鉄道では、運休や遅れが出てタイヤが乱れ、電力関係では強風による飛来物の接触、断線により、富山市、砺波市、小矢部市、大沢野町、福野町、福光町、井波町、井口村で7,500戸が停電となった。農業では、ビニールハウスの全壊142棟、半壊201棟、被覆ビニール破損2,121棟、畜舎等の被害が8件発生した。 優勢な高気圧が樺太付近にあって北日本に張り出し、一方、発達した低気圧が黄海から対馬付近に進んだ。この低気圧から伸びる梅雨前線は、日本付近で北上した。このため、富山では18日夕方から雨が降りだしたが、19日朝の泊、魚津の風は弱かった。また、能登沖の舳倉島の実況は、東北東の風8~9m/s、波浪階級は4(2~3m)となっていた。19日午前6時30分ごろ、入善町吉原海岸の500m沖合でサザエ漁をしていた漁船(入善町吉原漁協所属、全長6.9m、幅1.5m、1.47t)が、網の引揚げ作業中に転覆し、乗っていた1名が行方不明となった。捜索により、21日に海岸線の波消ブロックの間から死体で発見された。 事故発生場所は波の立ちやすい場所であり、操業中、真横に磯波を受けて転覆したと推定されている。
			4,5月は移動性高気圧に覆われて晴れた日が多く、前線や低気圧の影響で雨が降っても崩れが小さかった。6月13日に梅雨前線が北上して梅雨入りとなったが、その後も晴の日が続き、まとまった雨が降らなかった。7月は例年より早く太平洋高気圧が強まって梅雨明けとなり、晴れて暑い日が8月も続いた。8月後半には大気の状態が不安定となって局地的に強い雨が降ったが、県下全域とはなかった。富山での梅雨期間の降水量は74.5mm、4月から8月までの期間降水量の平年比は24%と少なかった。 子撫川ダムからの10%給水制限を受けた氷見市や福岡町では、8月12日~24日までの上水道の10%減圧給水を実施し、高台の一部で水道がでにくくなった。その他、水源地が水不足となった福岡町と上市町の簡易水道では緊急的な対策を実施した。 農作物被害状況は、ほ場の地割れや亀裂の発生、早生品種の胴割粒、乳白粒、腹白粒、背白粒の発生により、水稻収穫皆無が191ha、5程度の減収287ha、2割程度の減収457haと見られており、砺波市、氷見市、山田村の山間地域で被害が大きくなった。野菜(ネギ、ダイコン、サトイモ等)は141ha、果樹(ナシ、イチジク、リンゴ、柿)34ha、飼料作物65ha、その他(ハトムギ、大豆)2haで生育不良が発生した。 農業用水の補給用ダムの貯水率が下がり、一部の中小河川では山間部で取水制限や輪番かんがいを実施した所もでた。 太平洋高気圧が日本付近で強まって勢力を維持し、偏西風帯が例年より北上して日本付近に寒気が流れ込みにくい状態となった。 このため、梅雨明けが早く晴れて暑い日が続いた。また、8月中旬前半にはフェーン現象の効果が加わり富山での日最高気温の記録を更新した。 日射病の症状を訴え病院に救急搬送された人は、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の総合開会式のリハーサルに参加した高校生や、ゴルフ・海水浴・ゲートボールをしていた人など47名となった。 畜産関係では、暑熱により乳用牛14頭、肉用牛4頭、豚16頭、ブロイラー600羽、採卵鶏1,300羽がへい死した。
4~8月	少	雨	
7~8月	高	温	
	多	照	
8月18日 ~23日	落	雷	
	山	崖	
	崩	れ	
	浸	水	

		太平洋高気圧に覆われて晴の暑い日が続いたが、18日より上空に寒気が入り込んで、大気の状態が不安定となった。このため、雷雲が発達して局地的に短時間で激しい雨が降ったため、18日午後3時ごろ、上平村上中田の国道156号線の山川斜面から土砂が流出し、長さ15mにわたって道路に広がり、全面通行止めとなった。復旧作業の結果、午後4時20分から片側交互通行が出来るようになった。また、魚津市大光寺の大光寺中橋付近の路面に直径1mの穴があき、橋台が最大30cm沈んで45cm川中央方向へずれた。激しい水流で河床が削られ、橋台付近の土砂も流される「吸い出し」によるため、18日夕方に降った強雨により発生したと見られている。 18日夕方に魚津市鴨河町等に8棟が、19日夜に砺波市三島町で29棟が、23日未明から朝にかけては新湊市堀岡、作道地区で56棟が床下浸水した。 18日午後5時10分ごろ、JR西日本の滑川、魚津駅で1時間40mmの雨量を記録したため、1時間20分にわたって徐行運転をおこなった。このため、特急5本と普通6本に最大20分の遅れが出た。 18日は氷見、富山、黒部、滑川地区の9,510戸が最長2時間35分にわたって停電し、20日は氷見地区の681戸が最長2時間16分にわたって停電した。 19日午前10時ごろ、氷見市柳田地区で落雷による延焼で、大工作業小屋と農機具置き場の2棟が全焼した。 大型で強い台風第26号は、29日午後7時30分ごろ和歌山県南部に上陸し、勢力を弱めながら奈良、滋賀、福井、石川県を通過して、30日午前3時には金沢市の北北西約40kmの日本海に抜けた。その後、能登半島沖をとおって午後3時には津軽半島西北西120kmの海上に進み、温帯低気圧となった。 富山県地方の風は、最も台風が接近した30日午前2時から3時にかけても強くならず台風の通過した午前4時30分頃から吹き出して、富山で4時40分に最大風速・西南西の11.6m/s、4時39分に最大瞬間風速・西南西の22.9m/sを観測した。また、泊では7時に最大風速・南西の16m/sを記録した。 この強風のため、小学校29校、中学校10校が休校し、多数の小中学校で始業時間を遅らせる措置が取られた。 また、JR西日本金沢支社管内では、29日に特急、急行列車52本、普通列車33本、30日に特急列車6本（部分運休5本含む）、普通列車24本が運休となった。 航空機は、29日の名古屋便2往復と東京からの最終便、30日の東京行第1便が欠航した。 2日には発達中の低気圧が日本海北部を北上し、この低気圧から南西に伸びる寒冷前線が日本海中部を南下して夕方に富山県地方を通過した。その後、3日から6日にかけて冬型の気圧配置が続き、上空には寒気流れ込んだ。このため、2日夕方から雨が振り出し、3日からは時々あられを伴うしぐれの天候が続いた。また、八尾では2日の降り始めから被害の発生した5日午後6時までの降水量が81mmに達した。 5日午後5時ごろ、婦中町牛滑地域の丘陵地でがけ崩れが発生し、午後5時55分ころには木造二階建ての住宅1棟が土砂で押しつぶされ半壊した。けが人等はなかった。住宅は丘陵地の約30m下の斜面に位置しており、丘陵地は長さ約250m、幅約150mにわたって崩れた。雨による地盤の緩みが原因と考えられている。 22日から23日にかけては、低気圧がやや発達しながら本州付近を通過して関東の東海上に進み、23日後半から24日にかけては冬型の気圧配置となった。
9月29日 ～30日	強風	
12月5日	山崖崩れ	
平成7年 (1995)	1月24日	地すべり

2月1日 ～ 3月11日	地すべり	このため、22日朝から雨が降り、24日の日中は雪が混じって15時ごろから雪に変わった。氷見の降水量は、22日に25mm、23日に1mm、24日に3mmであった。 24日午後3時ごろに、氷見市一勿地区で長さ約260m、幅約200mに渡って約50m下方にすべり落ちていることが確認された。北陸農政局、富山県、氷見市が調査した結果、地すべりの規模は約5ha、全体の移動土量は約100万m³、被害額は1億5千万円と推定された。また、この地すべりにより幅7m市道や農道が損壊し、3か所のため池が流された土砂で埋まったほか、田畑2haや山林が崩れ落ちた。しかし、民家まで350m離れていたため住家への被害はなかった。地すべりの起こった地区は、地すべり危険箇所に指定されていた。 3月11日八尾町滝脇地区で地すべりが発生していることが確認された。地すべりは、幅50m、下部の長さが200mで、2～3mすべり落ちていた。この地すべりにより県道50mに渡って損壊し、電柱も移動して倒れかけた。雪解け水による地盤の緩みが原因と見られている。地すべりの起こった地域は、地すべり防止区域（建設省）および地すべり危険箇所（県）に指定されていた。 5月10日宇奈月町の黒部川支流の黒薙川上流で土砂崩れが発生していることが確認された。 土砂崩れは、猪頭山の山頂近くの通称「内山ハゲ」の谷筋急斜面の土砂崩れの発生しやすい地域で、以前一度土砂崩れが発生した所から少し横にずれた所で今回発生した。急斜面を約1.5km崩れ落ち、黒薙川を3分の2ほど埋めた。崩壊した土砂は10万～20万m³に上るとみられ、土石流に結び付く危険性もあるということで、現地を確認した県河川課は入善土木事務所、宇奈月町などに緊急時の連絡態勢などを指示した。 なお、発生期日については不明である。 【参考資料】
7月2日 ～4日	大雨 崖崩れ	宇奈月地域雨量観測所における4月中旬の降水量は157mm、下旬の降水量は109mm、5月上旬の降水量は44mm、この期間中に最も多かった日降水量は4月19日の82mmである。 2日から4日は、黄海方面から進んできた低気圧が日本海中部から三陸沖に進み、梅雨前線の活動が活発となった。 このため、県内は2日正午ごろから4日午前中にかけて強い雨が断続的に降った。特に、3日未明は宇奈月で1時間に32mmを観測するなど、県内各地に10～30mmの強い雨が降った。総降水量は、立山で158mm、宇奈月で133mm、上市で114mmと県東部の山沿いで100mmを超え、その他の地域でも50～100mmの大雨となった。この大雨のため、3日午前11時ごろには大山町有峰の有料道路有峰線折立トンネル付近の道路拡幅工事現場でがけ崩れが発生し、作業員2人が死亡し1人が重傷を負った。また、黒部市池尻では3日午前6時半ごろに県道石田線の片側車線が土砂で埋まり、4日には宇奈月町の黒部峡谷鉄道が、柳橋一森石駅間で土砂崩れのため全面運休した。この他、3日午前6時半ごろには、滑川市関で用水の水があふれ、住宅兼店舗が床上浸水し、JR高山線では富山一高山間の列車が運休や遅延しダイヤが乱れた。
7月7日 ～14日	大雨	県消防防災課の調べによるとこの雨により、道路22か所、河川14か所、砂防4か所に損壊等の被害、その他公共施設にも被害が発生した。 本州の南岸に停滞していた梅雨前線は、7日から次第に北上し、その後14日にかけて日本海沿岸付近に停滞した。このため、北陸地方には暖かく湿った空気が流れ込んで梅雨前線の活動が活発となり、県内7日夜から9日午前中に80～220mm、10日夕方から13日未明に70～550mm、13日夜から14日夕方に20～

7月15日 ～22日	大 落 雷	160mmの断続的な大雨に見舞われた。 とりわけ、梅雨前線が北陸地方に停滞した11日と12日は、宇奈月で11日17時までの1時間に42mm、伏木では12日04時までと同じく45mmを観測するなど、県内各地に激しい雨を断続的に降らせた。この2日間の降水量合計は、県東部の山沿いで特に多く立山では510mm、宇奈月で330mmに達した。 これ等の大雨により、県内各地で、家屋の浸水、河川や道路の損壊、田畑の冠水などの被害が多数発生した。 県消防防災課の調べによると、床上浸水1棟、床下浸水127棟のほか、非住家1棟、道路97か所、橋りょう1か所、河川174か所、砂防26か所の損壊、崖くずれ1か所となった。 なお、8日午前9時ごろ、高岡市伏木矢田新町で4才の幼稚園児が増水した用水に流されて意識不明の重体となった。また、11日午後には、大雨が黒部川を増水させ、宇奈月町猫又谷落合の関西電力猫又工所用合宿所が浸水し、陸路も各所で寸断、作業員ら11人が孤立したが、13日早朝には出動した自衛隊ヘリで無事救助された。この他、黒薙川上流の北又合宿所などの工事関係者ら37人や黒部川上流の温泉、山小屋関係者21人も次々と救助された。 15日から18日にかけては、前線を伴った低気圧が朝鮮半島から東北地方を通過して三陸沖に進んだ。このため、梅雨前線の活動が活発となり、県内は15日夜から18日未明にかけて雨が降り続き、とくに前線が通過した17日明け方頃は各地で1時間10～20mmの強い雨が断続した。この間の降水量は県東部の山沿いで多く、立山で478mm、宇奈月で183mmの大雨となり、その他の地域でも40～110mmとなった。 また、19日から22日にかけても、ほぼ同様の気圧配置となり、再び梅雨前線の活動が強まったため、19日夜から22日正午ごろにかけて1時間10～20mm、宇奈月161mmなど県東部の山沿いで多かった。その他の地域でも80～120mmの大雨となった。 16日には、氷見市桑ノ院の県道高岡・氷見線ががけ崩れのおそれがあるため通行止めとなった。 21日は、富山空港上空が降雨のため視界がきかず、定期便4便が遅延した。 22日午前8時5分ごろには、小矢部市八講田の県道飯生・末友線ののり面が幅3m高さ10mにわたって崩れ落ち通行止めとなった。 22日午前9時半ごろには、上市町柿沢新で民家の車庫二階に落雷し、小鳥部屋約13㎡が焼失した。 また、発生日時は特定できないが、八尾町八十島、小原島、下笹島、平等の4か所で道路が損壊した。
8月10日	地すべり	10日は、日本海から寒冷前線が南下して北陸付近を通過したため、昼頃を中心に雷を伴って短時間に強い雨が降った。泊では13時までの1時間で33mm、立山では11時までの1時間に22mm、同じく大山と細入では14mmの降水量を観測した。 総降水量は県東部で多く20～70mmのまとまった雨量となった。 このため、大沢野町根上地内で地すべりが発生し、約600㎡土砂が道路に流れた。 16日は、東北地方から日本海西部に伸びる寒冷前線が南下し、正午から17時頃にかけて県内を通過した。このため、県内は東部の山沿いを中心に雷を伴って短時間の激しい雨が降った。細入では13時までの1時間に24mm、立山では
8月16日	大 山 崖 崩 れ	

8月21日	大 雨	14時までと同じく 51mm の降水量を観測した。総降水量は、立山 79mm, 細入で 33mm となった。 このため、大山町有峰湖周辺の林道有峰線索道平塚道と坂森ずい道付近の 2 か所で土砂崩れがあり、この 2 か所の間にいたタクシーや車計 28 台が約 2 時間にわたり立ち往生した。また、林道小口川線祐延ダム付近でも土砂崩れが発生し、この日、有峰湖周辺の林道全線は通行止めとなった。 21 日は、九州の南海上を台風第 7 号が北上し、本州上の秋雨前線の影響で不安定な天気となったため、午後を中心に県内の所々で雷を伴って短時間に激しい雨が降った。八尾では 16 時までの 1 時間に 68mm, 魚津では 17 時までの 1 時間に 28mm の降水量を観測した。総降水量は、八尾で 84mm, 魚津で 47mm, 上市と平で 40mm などであった。この大雨のため、八尾町の福島町、諏訪町、東町で 6 棟床下浸水する被害が出た。
8月23日	大 雨 落 雷	23 日は、九州の南海上を台風第 7 号が北上し、本州上の秋雨前線の影響で不安定な天気となった。このため、県内は東部の山沿いを中心に、雷を伴って短時間の激しい雨が降った。細入では 15 時までの 1 時間に 54mm, 八尾では 16 時までに同じく 32mm の降水量を観測した。総降水量は、細入で 77mm, 八尾で 42mm, 宇奈月で 32mm などであった。 このため、午後 3 時 50 分ごろ、婦中町安田の送電高圧線が落雷で切断し、付近の住宅 14 戸が 12 分間、14 戸が 1 時間 48 分間停電した。 また、午後 2 時 40 分ごろ、細入村 JR 高山線猪谷駅で時間雨量が規定値を超えたため、猪谷一楡原駅間で約 3 時間にわたり運転を見合わせた。
8月30日 ～31日	大 雨 地 す べ り	このため、特急 2 本が富山一猪谷間で区間運休したほか、普通列車 2 本運休し、7 本の列車 150 分から 10 分遅れた。午後 3 時 10 分ごろ、落雷のため JR 高山線速星駅一越中八尾間の 9 か所の踏切が故障し、遮断機が下がったままとなった。 30 日から 31 日にかけて前線を伴った低気圧が、朝鮮半島から能登半島を経て北日本方面に進んだため、県内は、30 日夕方から 31 日夕方にかけて 1 時間に 10～20mm の強い雨が断続的に降り、総降水量は 60～190mm の大雨となった。
9月18日 ～19日	大 雨 洪 水	このため、JR 高山線越中八尾駅で規定雨量を超えたため、東八尾駅一速星駅間で約 30 分間運転を見合わせたほか、20 分から 10 分の遅れが出た。 また、31 日 17 時ごろ大沢野町池地内で地すべりが発生し、消防分団の屯所裏に土砂約 45m³ が流れ出た。
11月7日 ～8日	強 風	台風第 12 号が北海道の東海上に去った 18 日夜は、上空に強い寒気が流れ込んで大気の状態が不安定となり、雨雲が県西部の沿岸沿部に停滞した。 このため、18 日宵の内から 19 日の未明にかけて、高岡市や新湊市で局地的な短時間の強い雨が降り、高岡市伏木では 23 時 14 分に 28.5mm の一時間最大降水量を観測した。 また、新湊市では、21 時 30 分から 22 時にかけて、短時間の強い雨のため作道新町で 6 棟、八幡三丁目及び庄川本町で各 3 棟の合計 12 棟が床下浸水した。 7 日夜半から 8 日未明にかけては、日本海を発達しながら北東に進んだ低気圧に伴う寒冷前線の通過で、県内は 9～15m/s の西よりの強風が吹き荒れた。富山では、8 日 00 時 03 分に西の風 26.1m/s の最大瞬間風速を、同 01 時 10 分に西の風 15.7m/s 最大風速を観測した。 この強風のため、魚津市、黒部市、滑川市、上市町、富山市、山田村、小杉町、高岡市、小矢部市の 9 市町村でリンゴ（ふじ）が収穫量の 6.4%に当たる 63.9 t が落下する被害が出た。

平成8年 (1996)	11月9日	落雷	また、福光、城端両町では、加工用の柿（三社柿）が収穫量の2%に当たる10万個25tが落ちる被害が出た。 このほか、山田村や八尾町では、花き栽培用のビニールハウス3棟が一部破損した。 一方「全国大陶器市」開催中の高岡市では、テントや陶器を載せたテーブルが飛ばされ展示中の陶器約2,000点がこなごなに崩れる被害が出た。 9日早朝は樺太付近で低気圧が猛烈に発達して、日本付近は強い冬型の気圧配置が続いた。県内は上空に強い寒気が流れ込んで、大気の状態が不安定となり所々で雷が発生した。このため、9日04時50分ころ入善町入善、東洋紡績工場の集会場の一階天井付近から出火し、木造一部二階建ての約400㎡を半焼した。風が強く火の回りが速かったが入善消防署などでは、落雷によるものと見ている。
	11月24日	落雷	この他、JR氷見線と城端線は、落雷により全線で信号機が故障し、氷見線は05時28分から72分間、城端線は05時55分から39分間運転を見合わせた。 氷見線では普通列車5本が最大70分遅れ、城端線では同1本が運休、両線の利用客約450人に影響が出た。 24日の県内は、冬型の気圧配置となって上空に強い寒気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。 このため、各地で雷雨となり、09時10分ごろには、宇奈月町栃屋の民家の屋根に落雷し、屋根裏約1㎡を焦がした。
	2月1日 ～8日	大雪	また、21時40分ごろには、小矢部市市岡で落雷によるものと考えられる火災が発生し、木造二階建ての住宅230㎡を全焼した。このほか、高岡市では落雷により約440戸が停電した。
	3月17日	強風	1月末（29日）からの非常に強い冬型気圧配置は3日まで継続し、上空には第1級の寒気が居座った。 この大雪のため、雪下ろし中の転落などによる負傷者19人、住家一部破損7棟、床下浸水10棟の被害が発生した。また、空や陸の交通網が乱れ、道路は圧雪や凍結によってスリップ事故が相次いだ。 17日は、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を通過したため、明け方から強風が吹いた。富山では、最大風速南の風15.5m/s、最大瞬間風速南の風28.8m/sを観測した。
	4月2日 ～4日 11日 ～12日	大雪	この強風のため、JR高山線では、05時58分から10時35分頃まで、猪谷一越中八尾間で上下線の運転を見合わせ、猪谷一富山間の普通列車10本が運休し特急1本と普通列車4本に最大3時間25分から20分の遅れが出て乗客約500人に影響が出た。 このほか、大沢野町下夕林の農家の畑では、育苗用ビニールハウスと防風ネットが倒壊する被害があった。 冬型気圧配置となって上空に強い寒気が流れこんだ2日～3日及び11日～13日に季節外れの雪が降った。特に、真冬並の寒気が流入した12日は、東部で20～30cm、西部で2～10cmの積雪となった。このため、県内ではビニールハウスの倒壊、スリップ事故の多発や列車の遅れなどの被害が出た。なお、富山と伏木では、積雪の深さの月最大値、降雪の深さの月・日合計値が、ともに統計開始以来の極値となった。 2日～3日は、1日夜から降り始めた冷たい雨が、2日未明から雪が混じり、日中には本格的な雪となって3日朝まで断続的に降った。特に、3日の早朝は一

5月20日 ～24日	大 雨 融 雪 山 崖 崩 れ	時強く降り、9時の積雪は平野部で5～10cm、東部の山間部（上市）では25cmとなった。 11日～13日は、11日昼頃から雨に混じって時々雪が降り、12日未明から昼にかけて本格的な降雪となった。このため、12日9時には上市で28cm、魚津及び泊で20cm、そのほかの地点は2～10cmの積雪となった。 この季節外れの雪で県東部を中心に水稻の育苗ハウス約3,000棟が全半壊し、被害額は約3億円にのぼった。 20日～21日は、日本付近は気圧の谷の中に入って大気の状態が不安定となったため雨が降り続いた。22日は、低気圧が秋田沖に停滞し雨が降った。 特に、20日の朝方は雷を伴って一時強く降った所があった。総降水量は、30mm～50mmに達した。 23日明け方平村杉尾地内の袖川上流（庄川の支流）で、幅150m、長さ250m（崩壊面積約3ha）、推定崩壊土砂量10万m³の山崩れが発生した。崩壊現場は、国道156号線に架かる袖川橋の上流約2kmの地点で、この山崩れにより、23日09時半頃から18時頃までに断続して4回（規模の大きいものは3回）の土石流が発生した。土石流は、直径2m程度の石れきを含み、19基の砂防ダムを乗り越えて河口に押し寄せ、川底を埋めて袖川橋の下50～60cmまで迫った。人的被害や民家への影響はなかったが、山崩れ現場にいたる林道の路肩やのり面が数か所崩れたほか、袖川橋が埋没する危険が出てきたため、国道156号は23日20時から24日07時まで通行止めとなった。 この山崩れは、20日～22日の降雨（平日の日降水量は、20日は10mm、21日は1mm、22日は23mm）や雪解け水が作用したものと見られる。
6月15日 ～22日	大 雨 山 崖 崩 れ	また、24日05時頃には、井波町大谷の林道赤祖父線で土砂崩れがあり、道路の半分が5mにわたって土砂に埋まった。このため、同町は周辺でも土砂崩れの危険があることから、現場を中心に約2kmの区間を28日まで通行止めにした。 15日は上空に流れ込んだ寒気の影響で、明け方頃雷を伴った強い雨が降った。16日は、大気的不安定な状態が続き所々で雨が降り、17日は、低気圧が発達しながら朝鮮半島に進み梅雨前線が北上したため、朝夕を中心に雨が降った。その後一時梅雨前線の活動が弱まり天気は回復したが、22日は、気圧の谷の影響で所々で弱い雨が降った。総降水量は40mm～120mmに達した。
6月24日 ～26日	大 雨 山 崖 崩 れ 地 す べ り 洪 水	22日02時頃、福光町刀利の山林で長さ約350m、高さ約60mにわたって土砂崩れが発生し、土砂が追幅約4mの県道を埋めたため、同日08時30分、福光町刀利から上平村西赤尾までの県道約25kmが通行止めとなった。 この土砂崩れの発生時に降雨はなかったが、15日から21日にかけて、低気圧や本州南岸に停滞した梅雨前線の影響で断続的にややまとまった降雨があり、この雨で斜面が緩んだことなどが原因と見られる。 24日～26日は、上海付近に低気圧が進んできて、本州の南岸に停滞していた梅雨前線が能登半島付近まで北上し、前線の活動が活発となった。 このため、県内では24日14時から26日14時にかけて雨が降り続き、特に、前線上を低気圧が通過した25日は1時間に10～30mmの強い雨が断続的に降り、東部で150～370mm、西部で130～160mmの日降水量を観測、ほとんどの観測所で6月の日降水量の極値を更新する記録的な大雨となった。
7月3日	落 雷	この大雨による被害は、住家の床上浸水1棟、床下浸水28棟、水田の流失・埋没13ha、道路被害54か所、橋梁3か所、河川被害123か所、砂防19か所。 また、県内の河川は、片貝川など県が管理する16河川で警戒水位に達し、国

		の直轄河川の黒部川, 小矢部川, 庄川, 神通川でも警戒ラインを超えた。 3 日の日中は, 気圧の谷が通過し, 上空に冷たい空気が流れ込んだため, 大気の状態が不安定となった。このため, 県内は昼前頃から夕方にかけて激しい雷雨となり, 西部の山沿いではひょうも降った。富山市では, 12 時 07 分から同 32 分にかけて落雷があった。 このため, 県東部で落雷による停電等の被害が相次いで発生した。富山市弥生町, 南田町, 向新庄, 浜黒崎の 5, 793 戸が停電, 雄山町, 西公文名, 旭町 3 か所の交差点の信号がストップした。 また, 12 時 45 分頃には水橋五郎丸の民家の杉に落雷があり杉の一部を変色させた。一方, 富山空港では, 雷雲回避のため, 福岡便の離発着が 15 分から 25 分遅れた。 このほか, 滑川市辰野では, 13 時 35 分頃空き工場の屋根に落雷して約 1m²を焼き, 魚津市では, 小川寺, 日尾などで停電し, 320 戸が影響を受けた。また, 城端町と利賀村の一部では, 正午前, 局地的に大粒 (直径 2cm 前後) のひょうが降り, 白ネギを折損させる等の被害があった。 大型で強い台風第 12 号は, 14 日 10 時過ぎに熊本市付近に上陸, その後, 北東に進み, 14 日夜遅くには大型で並みの強さとなって日本海に進んだ。この後台風は日本海を東北東に進み, 15 日 04 時頃には能登半島の北部をかすめて通過し, 07 時頃には佐渡島を通過, 09 時頃に新潟県北部に再上陸し, 正午過ぎに三陸沖の太平洋に去った。 このため, 県内は 15 日の早朝を中心に風や雨が強まり, 04 時 45 分に富山で西の風 24.7m/s の最大瞬間風速を, 05 時に泊で南南西の風 17m/s の最大風速を観測した。15 日の夕方にかけては, 1 時間に 10~20mm のやや強い雨が漸続的に降った。14 日の降り始めから 15 日 24 時までの総降水量は, 山沿いの地域で多く立山で 170mm となったほか, 宇奈月で 97mm, 福光で 78mm, 平で 65mm を観測その他の所でも 20~50mm となった。
8 月 14 日 ~15 日	強 大 山 崖 崩 れ	風 雨
9 月 22 日	強 大	風 雨
11 月 14 日 ~21 日	大 山 崖 崩 れ	雨
12 月 5 日	大 融 山 崖 崩 れ	雨 雪

平成9年 (1997)	1月7日	波	浪	このため、降雨や降雪の日が続き、氷見では、11月29日に28mm、30日に29mm、12月1日に29mm、2日に12mm、3日に3mmの降水量を観測、また、12月2日朝には13cmの積雪を観測していた。 5日08時50分頃、氷見市桑ノ院の県道高岡氷見線で、道路わきの高さ30mの山の斜面が長さ20m、幅20m余りにわたって崩れ落ち幅9.5mの道路を約20mにわたってふさいだ。崩落した土砂は約1,000m³。朝から土砂崩れの兆候が見られたため、氷見土木事務所などが同08時半から通行止めにしており、けが人などはなかった。
	5月8日	強	風	7日の朝は、冬型の気圧配置で07時過ぎ頃、秋田県付近に進んだ低気圧に伴う寒冷前線が通過。このため、県内は南のち北の風が強く、東部の沿岸海域は、08時頃から急速に大荒れの状態となった。 7日09時半頃、魚津市経田西町の海岸から約50m沖（経田漁港白灯台付近）で小型の漁船が高波を受けて転覆、乗っていた2人が死亡した。
	5月20日	落	雷	8日は、前線を伴った低気圧が急速に発達しながら日本海を北東に進み南寄りの強い風が吹いた。このため、最大瞬間風速は富山で南の風19.9m/s、伏木で西北西の風18.4m/sを観測した。 暴風の影響で北陸自動車道の朝日一小矢部間が80km/hに規制されたほか富山市丸の内「丸の内会館」横の富山城趾公園西側入り口に植えられていたヒマラヤ杉がこの強い風で倒れ、同会館の電線を切断した。
	6月28日 ～29日	大 強 波	雨 風 浪	20日は、日本海を低気圧がゆっくり通過したため大気の状態が不安定となり、局地的に雷を伴った激しい雨が降った。 落雷のため02時頃から富山市新牛島地区で500戸が停電するなどその他の3地区で延べ3,900戸が最大1時間43分停電した。 中型で並の強さの台風第8号は、28日09時過ぎに長崎県の西彼杵半島に上陸した。上陸後は、東北東に進み、徐々に速度を速め28日22時頃高山市の南西約40km付近を通過、本州を縦断しながら29日03時過ぎに福島県いわき市付近から三陸の東海上に進んだ。県内の風は、28日11時～29日01時頃にかけて10m/sを超える北北東から北東の風が吹いた。19時～22時頃にかけては15m/sを超えた。雨は、28日の18時～23時を中心に強く降り、八尾では28日の19時に時間雨量が40mmを超え、総降水量は180mmを超えた。その他の地点でも、総降水量は50mm～40mmに達した。
	7月8日 ～17日	大 山 崖 崩 れ	雨	強風と雨の影響で富山市では街路樹が倒れ道路をふさいだほか、28日20時～24時の間に高岡市・富山市等の9か所で電線が切れ、2,164戸が停電した。また、氷見市北大町の造船所が高波で一時床下浸水した。29日02時20分頃八尾町角間の県道の角間トンネル南側ののり面が崩れたほか同日氷見市角間の山地の宇波川右岸で、高さ25m、幅120m、深さ5mほどにわたり山が崩れたほか、氷見市、八尾町で地滑りが発生した。氷見市（ウメ）、黒部市（モモ）等で果実が落下。氷見市、富山市等でパイプハウスのビニールが破損した。利賀村で養殖場の送水管が土砂で詰まりイワナ3万匹が酸欠死した。 県内では、水田流失・埋没10ha、道路40か所、河川10か所、砂防1か所、がけ崩れ3か所、海岸11か所、果樹・野菜10haで被害が生じた。 8日から12日にかけて、本州の東海上から西日本を経て東シナ海に伸びる停滞前線の活動が活発となり、大雨となった。日降水量は、8日40mm～130mm、9日40mm～110mm、10日10mm～50mm、11日10mm～20mm、12日30mm～100mmで、総降水量は150mm～300mmに達した。12日09時には、福光で1時間降水量36mmの強

		い雨が降った。 この雨の影響で、12日に床下浸水が、福光町（田中・荒木・太美）で8棟、城端町（南町）で2棟、計10棟発生。 16日から17日にかけては、停滞前線が日本海から本州南岸へゆっくり南下した。県内は16日夕方から17日昼過ぎにかけて大雨となり多い所では100mmを超えた。 17日04時50分頃氷見市大境の国道160号線沿いのり面で高さ15m、幅15mにわたって土砂崩れが発生したため、同市中波～宇波間の5.7kmが、同日05時15分から通行止めとなった。このほか、同日12時30分頃福岡町栃丘の県道押水福岡線で長さ約20m、幅約4.5m、高さ約3mにわたって土砂崩れが発生した。この間の大雨による県内の被害は、床下浸水10棟、水田流出・埋没4ha、道路33か所、橋梁1か所、河川36か所、砂防3箇所、がけ崩れ15箇所など。 北陸地方に停滞していた前線の活動が活発となり、6日には砺波市で1時間に27mmの局地的な豪雨により9棟が床下浸水した。
8月6日 ～8日	大 雨	8日の明け方から朝のうちににかけては、沿岸部を中心に時間雨量が30mmを超える強い雨が降った。総雨量は10mm～90mmで、多いところでは110mmを超えた。水田流失・埋没2ha、道路8か所、河川9箇所などで被害。 11日の県内は、寒冷前線の通過後に上空に寒気が流れ込み、大気の状態が不安定となり所々で雷が発生した。
10月11日	落 雷	11日03時50分ごろ城端町打尾の会社員方の物置に落雷し、木造平屋建て16㎡を全焼した。また、富山市呉羽では04時43分に落雷があつて約2,600戸が約1分間停電した。
11月26日	強 風	25日から26日にかけて、黄海から日本海に進んできた低気圧が、急速に発達しながら日本海を北東に進んだ。このため、県内は26日03時頃から南よりの風が強くなり、富山市では05時前に最大風速南の風17.0m/s、最大瞬間風速南の風28.6m/sを記録した。 この強風で、大沢野町上大久保の町道で06時45分頃、バイクで通勤途中の人が風にあおられ転倒し重症を負った。また、井波町では新築中の住宅（1棟）が倒壊した他、各地で看板・水銀灯・道路標識・街路樹・ガラス窓等の損壊・倒木等の被害が発生した。JR高山線が強風のため特急列車17本、普通列車15本が運休した。庄川町ではトラック（1台）が横転した。果樹の落下、ビニールハウスの破損、鶏舎の屋根が破損する等の被害が発生した。
11月29日	強 風	東シナ海から日本海に進んできた低気圧が、29日発達しながら日本海沿岸を北東に進んだ。このため、県内は11時頃から南よりの風が強くなり、富山では12時過ぎに最大風速南の風13.4m/s、最大瞬間風速南南東の風24.2m/sを記録した。
12月8日	波 浪	富山市牛島で12時頃、自転車を引いて歩いていた人が、風にあおられ転倒し負傷した。JR高山線が強風のため特急列車4本、普通列車6本が運休した。
平成10年 (1998)	1月6日	8日の県内は、寒冷前線を伴った低気圧が日本海を北東に進んだため、沿岸部を中心に10m/s前後の風が吹いた。 8日00時10分ごろ黒部市立野沖で漁船が横波を受け転覆、沈没した。乗組員は近くにいた漁船に助けられ無事だった。 沿海州と日本海の低気圧が発達しながら日本の東海上に進み、日本の上空には強い寒気が流れ込み冬型の気圧配置となった。県内は10m/sを超える季節風が吹き、泊では15時頃一時風は弱まったが、16時頃から再び10m/sを超える

		風が吹き、20 時頃から風向が南西から西南西に変わり 21 時には 15m/s の強い風が吹いた。 20 時 50 分頃、黒部市沓掛で局地的に突風が吹き、工場 2 棟で屋根表面のトタン板の一部が約 100m ほど飛ばされたほか、幅約 10m にわたってめくれ上がり、軽量鉄骨製の倉庫 3 棟はトタン屋根の一部が飛び、合わせて約 760㎡にわたって被害が出た。また、国道 8 号線をはさんでむかいの物置が約 10m 飛ばされたほか、飛ばされたトタンが高压線に触れ、工場全体が一時停電した。 24 日 9 時輪島の上空約 5,000m に氷点下 42.1 度の今冬一番の寒気が入り、強い冬型の気圧配置となった。
1 月 24 日 ～25 日	大 雪	県内は、強い季節風が吹き、また、気温が下がり氷見・上市では氷点下 4.9 度の最低気温を記録した。24 日～25 日朝かけての降雪量は 30～40 cm で、25 日 9 時の積雪は平野部で 30～40cm、上市では 100cm に達した。
2 月 4 日	山 崖 崩 れ	4 日は、日本海北部の低気圧から南西に伸びる前線が通過した。この前線の通過で 3 日の夜遅くから雨が降りだし、4 日の明け方から雨が雪に変わった。
2 月 12 日	融 雪	県内の雨量は 10mm 位であった。 4 日 8 時頃、婦中町千里地内の県道下瀬・小倉線北側の山が幅約 100m、高さ 70m、深さ約 12m にわたって崩れ、土砂が道路をふさいだ。
3 月 14 日	落 雷	12 日は中国東北区と沿海州に発達中の低気圧があつて東北東に進み、その中心から南西に伸びる寒冷前線が日本海に達していた。この前線の通過で県東部に 10～20mm の雨が降った。また、南よりの強い風が吹きフェーン現象が起こり、八尾では最高気温が 14.5 度まで上がった。 12 日八尾町岩屋地内で山腹が幅約 80m、高さ約 50m にわたって崩壊した。 14 日は、北日本は冬型の気圧配置で、日本海には低気圧があつて北東進していた。この低気圧の通過後、上空には寒気が流れ込み大気の状態が不安定となった。富山では夕方から夜遅くにかけて雷雨となった。
3 月 20 日	強 風	14 日 20 時 10 分頃、高岡市の北陸本線踏切の 4 か所が落雷の影響で故障し、上下線とも一時列車の運転を見合わせ、特急・普通列車各 4 本に遅れが出た。また、同日 23 時 20 分頃、富山市下新北町の電線に落雷があり、同町の約 160 戸が約 35 分間停電した。 19～20 日にかけて急速に発達した低気圧が中国東北区から沿海州に進み、さらに発達しながら北上した。20 日の県内はこの低気圧に伴う前線の前面で 15m/s を超える南よりの強い風が吹いた。また、フェーン現象が起こり気温が上昇し、最高気温は 20 度を超え、空気が乾燥した。
4 月 14 日	強 風	県内では、富山市、大沢野町を中心に水稻育苗ハウス、園芸ハウスのビニールが破損する等、合わせて 68 棟に被害が発生した。また、高山線では強風のため 19 日 18 時過ぎ～20 日 10 時にかけて一時運転を見合わせ、特急 1 本、普通列車 7 本が区間運休した。
5 月 2 日	強 風	12～13 日にかけて、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を北東に進んだ。富山では、12 日宵のうちから 13 日の朝のうちにかけて、10m/s を超える南よりの強い風が吹いた。 この強風のため、高山線越中八尾一猪谷駅間が運転を見合わせ、富山発の特急と普通列車 1 本が運休した他、6 本が区間運休した。 2～3 日にかけて、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を通過した。県内は 1 日の昼前～2 日の夕方にかけて 10m/s を超える南よりの強い風が吹いた。富山では最大風速南南西 13.8m/s、最大瞬間風速南南西 26.5m/s を 2 日に観測した。宇奈月では 3 日の雨量が 110mm を超えた。

5月8日	大	雨	2日9時40分頃、大沢野町上三杉で手押し車を押して歩いていた女性が、強風にあおられ転倒し、道路下約1mのコンクリート製側溝で頭部を打ち、田んぼに倒れ込み死亡した。 また、強風のため2日5時15分頃から、高山線の越中八尾一猪谷駅間で運転を見合わせ、特急8本、普通32本が運休した。 8日に日本海の前線を伴った低気圧が日本海を通過した。泊、氷見では7～8日にかけての2日間の雨量が140mmに達した。
7月9日 ～10日	大	雨	8日に氷見市では国道160号線や県道が冠水して通行止めになった他、同日15時頃、婦中町吉谷の国道359号線わきののり面が崩れ片側通行となった。また、高岡市、氷見市で農地が冠水した他、氷見市では農業用施設（水路・道路等）の被害が発生した。 9～10日にかけて、日本海から北陸地方を経て日本の東海上に達する停滞前線の活動が活発となった。県内では9日15時～10日9時にかけて、時間雨量10～30mmの強い雨が断続的に降り続き、宇奈月では2日間の雨量が250mmを超えた。
7月30日	大	雨	住家関係は、黒部市（4）・魚津市（1）で床上浸水5棟、滑川市（47）・黒部市（19）・魚津市（24）・立山町（1）・宇奈月町（1）で床下浸水92棟。鉄道関係では、富山地方鉄道の宇奈月町内山駅で線路約100mが深さ10cmまで冠水し、土砂などが線路をふさぎ上下線合わせて14本ストップした。河川関係では、魚津市木下新の布施川の堤防が約250mにわたってえぐられた他、45か所で被害が発生した。道路関係では46か所で損壊等の被害が発生した。農業関係では、黒部市・魚津市の農地9.4haが冠水した。 30日上空に寒気を伴った低気圧が北陸地方を通過し大気の状態が不安定となった。県内では、30日の5～8時にかけての短時間に東部を中心に強い雨が降った。魚津では7～8時の時間雨量が40mmを超えた。
8月5日	大	雨	住家関係は、魚津市（4）・婦中町（4）で床下浸水8棟、魚津市（110）・立山町（31）・婦中町（13）・細入村（1）で床下浸水155棟。鉄道関係では、北陸線の魚津駅上り線が冠水し、魚津一黒部駅間で急行1本、普通4本が区間運休した。また、高山線でも普通5本が運休した。農業関係では、魚津市の農地1.5haが冠水した。その他に細入村楡原石黒谷地内の神通川の支流の谷のコンクリート壁が崩れた。
8月7日	大	雨	朝鮮半島の北部から日本海を経て北陸付近に伸びる停滞前線の影響で、5月2～9時にかけて、県西部の砺波、福光、八尾で最大1時間降水量が20mmを超える雨が降った。福光では4時までの1時間に54mmの強い雨が降り、日降水量は111mmに達した。 このため、小矢部市、福光町で床上浸水3棟、床下浸水55棟、道路損壊3か所、崖崩れ5か所、山崖崩れ1か所、橋梁流出1か所、通行止め6か所の被害が発生した。 日本海の低気圧から朝鮮半島に伸びる前線が北陸付近に南下し、7日1～9時にかけての1時間降水量が所々で20mmを超えた。富山では8時までの1時間に55mm、上市では9時までの1時間に64mmの強い雨が降り、両観測所の日降水量は100mmを超えた。 このため県内では、床上浸水190棟、床下浸水1,353棟、堤防決壊3か所、道路損壊1か所、崖崩れ10か所、通行止め11路線15か所の被害が発生した。 落雷、停電は、砺波市寿町で落雷があり、木造2階建て約250㎡を全焼した。富山市の大町の74戸が2時間半停電した他、市内約1,200戸が数分間停電。

8月12日 ～13日	大	雨	交通障害は、北陸本線、高山線、氷見線、城端線、富山港線の5線で特急、普通列車合わせて50本が運休（区間運休を含む）。富山地方鉄道や路線バスに遅れが出た。 朝鮮半島から日本海を経て北陸付近に伸びる停滞前線の影響で、12日は県西部を中心に大雨となり、特に7～13時にかけて富山、砺波、八尾、立山は最大1時間降水量が50mmを超え、砺波、上市、八尾、立山では日降水量が130mmを超えた。13日は8～13時にかけて強い雨となり、砺波では最大1時間降水量が40mmを超え、上市では日降水量が150mmに達した。2日間の降水量は、富山、砺波、大山、上市、八尾で200mm超え、立山では341mmに達した。 このため県内では、床上浸水47棟、床下浸水981棟、非住家浸水147棟、非住家一部破壊2棟、崖崩れ36か所、山崖崩れ14か所の被害が発生した。 停電は、12日富山市中心部から南部と婦中町の一部で約10,000戸が15分～1時間停電。 通行止めは、12日道路の冠水、崖崩れ等で国道156、360、471号線で4か所、県道では16路線18か所、13日道路の冠水、崖崩れ等で国道359、471号線の3か所、県道は10路線10か所。 交通障害は、12日北陸本線、高山線、富山港線、城端線の4線で特急、普通列車合わせて35本が運休（区間運休含む）。富山地方鉄道では一部区間で運転を見合わせた。13日は、高山線、富山港線、城端線の3線で特急、普通列車合わせて18本が運休（区間運休含む）。富山地方鉄道は、一部区間で16本が運転を見合わせた。
8月16日 ～17日	大	雨	16～17日にかけて、低気圧が日本海中部から北海道を経て東海上に進んだ。この低気圧から伸びる前線は、ゆっくりと日本海を南下し北陸付近に停滞した。県東部中心の大雨となり、2日間の降水量は多い所で200mmを超え、西部の多い所では120mmに達した。 このため氷見市で、道路損壊2か所、崖崩れ2か所、山崖崩れ1か所、通行止め2路線2か所の被害が発生した。 27日は日本海沿岸に前線が停滞し局地的に大雨となった。福光では、16時までの1時間に45mmの強い雨が降り、日降水量は100mmを超えた。
8月27日	大	雨	床下浸水は、福光町の荒木、田中他で7棟。非住家浸水は、福光町荒木で1棟。交通障害は、福光町荒木の城端線福光駅構内の線路が冠水し普通列車2本に遅れが出た。
9月1日	大	雨	1日は上空の気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となって局地的に強い雨が降った。婦中町（消防署）では同日の18時30分～19時30分までの1時間に55.0mmの雨量を記録した。 1日18時30分～20時30分ごろにかけて、婦中町速星地区で5棟が床上浸水、1棟が床下浸水した。 2日は上空に寒気が入り大気の状態が不安定となって局地的に強い雨が降った。井波町（消防署）では同日の15～17時までの2時間に38.5mmの雨量を記録した。
9月2日	大	雨	2日の夕方ごろ井波町井波と同本町で合わせて1棟が床上浸水、8棟が床下浸水した。 台風第7号は、22日13時過ぎに和歌山県御坊市付近に上陸し、18時頃富山市付近を通過し、23日9時に北海道根室市の南東海上で温帯低気圧に変わった。富山では22日17時30分に最大風速、北東の風21.0m/s、伏木では22日17時25分に最大瞬間風速、北の風40.4m/sを記録した。また、22日15時から20時
9月22日	強 大	風 雨	

平成 11 年 (1999)	1 月 7 日 ～15 日	大	雪	にかけて所々で 1 時間雨量が 20mm を超える強い雨が降った。軽症 6 名、半壊又は一部損壊住家 20 棟、床上浸水 64 棟、床下浸水 703 棟、非住家被害 160 棟、山がけ崩れ、橋の流出、道路損壊、河川の堤防決壊、河川の一部損壊、砂防設備損壊等の被害があった。農林業関係では、水稻の倒伏、大豆の茎葉折損、果樹の落下、ハウスの損壊、野菜・花の葉茎折損、そばの倒伏、飼料作物の倒伏、牛豚鶏舎一部損壊、農地・ため池・水路・農道の損壊、林地崩壊、林道の路肩損壊等の被害があった。交通関係では、JR では 115 本が運休し、富山空港では、7 便が欠航した。道路関係では、国道が 4 路線 6 ヶ所、県道等 24 路線ががけ崩れ、冠水等で一時通行止めとなった。また、黒部市内で高圧線が切斷し、黒部市等で約 32,000 戸が 30 分間停電したほか、富山市などでも一時 3,900 戸が停電した。
	5 月 25 日	強	風	7 日から 11 日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、大雪となった。8 日 21 時には輪島上空 500hPa の気温が-40.5°Cまで下がった。県内では 7 日遅くから雪が強く降り出した。7 日から 11 日までの期間降雪量は、40 から 70cm、平野部の多い所や山沿いでは、150cm に達した。富山では 8 日 21 時までの 24 時間降雪量が 50cm、上市では 8 日 9 時までの 24 時間降雪量が 70cm に達した。最深積雪は、平野部の多い所で 80cm に達し、山沿いでは 130 cm を超えた。
	6 月 29 日 ～30 日	大	雨	低気圧が発達しながら日本海を北東に進み、25 日朝には東北地方から太平洋へ抜けた。このため、県内は 24 日夜遅くから南よりの風が強くなり、25 日未明に前線が通ったあとは南西又は西よりに変わり昼前まで強い風が吹いた。伏木の最大瞬間風速西南西 25.0m/s で 5 月の極値が更新された。また、泊では 25 日 5 時に南西 19m/s の最大風速を観測した。
	8 月 21 日	大	雨	29 日東シナ海にあった低気圧は東北東進し、30 日には能登の北の方に達した。梅雨前線は本州の南岸に停滞しており低気圧の東北東進に伴って本州上まで北上し、活動が活発化した。このため、県内は 29 日の昼前から雨が降り始め、30 日未明 1 時間降水量が所々で 10mm を超え、その後小康状態となったが昼すぎには再び雨が強まり、14 時には宇奈月で 1 時間降水量 28mm を観測した。29 日から 30 日にかけての降水量は、平野部で 60 から 90mm、山間部の多い所では 130mm に達した。神通川の上流の岐阜県で、降りはじめから多い所で 190mm に達し、河川が急に増水し、午前 7 時 45 分から午後 2 時頃まで神通川の水位観測点 2 か所で、警戒水位を超えた。
	9 月 15 日	大	雨	21 日の県内は、太平洋高気圧の縁辺に入り、南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。このため、県内は昼頃から夕方にかけて所々で雷雨となり短時間に強い雨が降った。 短時間に降った強い雨のため、砺波市内では新富町などで 14 時 20 分頃用水のはん濫等により 17 棟が床下浸水したほか、同市山王町の JR 城端線ガード下の路上にはん濫した用水の水が溜まり、そこを通行しようとした普通乗用車 1 台が水没した。
	9 月 21 日 ～22 日	大 雨 ・ 雷		15 日は、北陸地方をゆっくり南下した秋雨前線が台風 16 号の接近に伴い活動が活発となり、県内では、多い所で 200mm を超える大雨となった。 家屋の被害は、富山市で 1 棟、婦中町で 1 棟、利賀村で 1 棟合計 3 棟が床上浸水し、富山市で 5 棟、魚津市で 2 棟、滑川市で 7 棟、大沢野町で 4 棟、上市町で 3 棟、立山町で 2 棟、八尾町で 1 棟、婦中町で 1 棟、山田村で 2 棟、合計 27 棟が床下浸水したほか、6 市町村で合計 16.75ha の田畑が冠水した。交通被害は、JR 高山線の東八尾一楡原駅間の運転を見合わせ特急列車 7 本と普通列車 36 本が運休した。

			21日は秋雨前線が本州付近に停滞したため、県内各地で2日間で200mmの大雨となった。 小矢部市で13棟床下浸水、1棟床上浸水し、滑川市で11店舗が浸水した。 また、県道富山八尾線で富山市鶴島二区一畑中が浸水のおそれがあるとして前面通行止めとなった。また、国道472号線八尾町正間で土砂崩れのため全面通行止め、国道359号線小矢部市五郎丸でのり面崩壊のため全面通行止めとなった。北陸自動車道では、強雨のため、小矢部一金沢東間が午前1時10分から6時まで通行止めとなった。 なお、JR北陸線で普通列車、特急列車合わせて7本が運休し、11本が最大1時間遅れ、約3,000人に影響が出た。高山線で富山一猪谷駅間で2本が運休、普通列車5本が最大22分遅れ約500人に影響が出た。 このほか、21日滑川市田中新町、高塚、東金屋など3地区合わせて168戸が最大3時間半停電したほか上小泉の民家で電話の引き込み線に雷が落ち火花が出てトタンなど一部を焦がした。午前2時40分には新川地区全域で一時停電となった。 中型で強い台風第18号は、24日9時に山口県より日本海に達し、速度を上げながら北東に進んだ。県内は昼過ぎから南の風が強まり、18時頃台風は最も県内に接近した。その後南西から西よりの風となり夜遅くまで風の強い状態は続いた。 台風の強風により、八尾町で84才の男性が風にあおられて転倒、骨折した。65才の男性が車庫で作業中シャッターが外れ軽傷を負った。JR北陸線で午後からの特急列車48本が運休したほか、普通列車は14時から運行予定の半数46本が運休となった。高山線でも14時以降上下25本が全面運休となった。富山空港発着の空の便は16時55分以降全て欠航となった。 また、農作物では、大豆の茎葉折損14ha、果樹の落果63t、果樹の倒伏17本、ビニールハウス損壊25棟、野菜・花茎葉折損8haなどの被害が出た。 このほか、漁船のプロペラ舵等の破損10隻、定置網3ヵ統、地引き網2ヵ統が損傷した。 27日は、低気圧が発達しながら太平洋沿岸を東進した。県内では朝のうちから雨が降り出し同日の19時から28日の1時にかけて所々で1時間降水量が20mmを超える雨となった。伏木、砺波で27日の日降水量が100mmを超え、伏木では27日21時頃まで1時間降水量が57mmを観測した。 住居等の被害は、27日泉川の増水により氷見市上田子で住宅の一部玄関が損壊した。床上浸水は高岡市で29棟、床下浸水は高岡市で353棟、氷見市7棟、砺波市で2棟。非住家では高岡市で11棟床上浸水、99棟が床下浸水した。 このほか、JR城端線、氷見線は上下線とも一時運転を見合わせた。両線で6本が全区間運休、最高1時間55分の遅れが出た。 また、道路では、冠水で11ヵ所、土砂崩れで1ヵ所が通行止めとなった。市道は4路線6ヵ所で損壊し、農道・林道は49ヵ所に被害があった。土砂崩れは9ヵ所で発生した。 なお、北陸自動車道は小杉一金沢東間で、能越自動車道は小矢部砺波JCT一福岡間、東海北陸自動車道は小矢部砺波JCT一福光間で50kmの速度規制となった。
平成12年 (2000)	1月25日 ～27日	雪 害	25日から27日にかけて強い冬型の気圧配置が続いた。26日の21時には輪島の上空約5,300mに-42.5℃の強い寒気が流れ込み、東部の沿岸から内陸部に

2月15日 ～18日	強	風	かけての地域では、26日の夜遅くから27日の明け方にかけて強い雪が降り大雪となった。泊では、27日9時までの24時間の降雪量（積雪差計）は32cm、同日8時の積雪は41cmに達した。25日を中心に、道路関係では積雪のため交通渋滞やスリップ事故が相次ぎ、航空関係では視程障害などによる欠航や遅れが発生した他、鉄道関係では遅れがでた。 日本海と本州の南岸の低気圧は発達しながら日本付近を通過し、15日21時には北海道の東海上へ進んだ。同日21時には輪島上空約5,100mに-42.3℃の寒気が流れ込み、日本付近は次第に強い冬型の気圧配置となった。同日県内の局部地域では最大風速が10m/sを超える西よりの強い風が吹いた。また、15日の夜遅くから18日の昼前にかけて強い雪が降り続き大雪となった。この期間の降雪量は、沿岸部で50cm前後、平野部の多いところでは100cmに達し、山間部の多いところでは150cmを超えた。積雪は、沿岸部で30cm前後、平野部の多いところでは50～60cm、山間部の多いところでは110cmを超えた。強風のため、15日4時ごろ井波町高瀬で神社の境内入り口の高さ12mの木が倒れ一時県道をふさいだ。また、同日4時30分ごろ小矢部市小矢部町で民家屋上のキジの飼育小屋が突風で落ち、配電柱の電線絶縁体のガラスが割れ同町と新富町の278戸が25分から約2時間にわたり停電した。また、この大雪のため、航空関係では視界不良のため、遅れや欠航が相次いだ他、道路関係ではスリップ事故などによる交通渋滞が発生した。
3月8日 ～9日	大	雪	沿海州付近の発達した低気圧から日本海に伸びる前線が、7日の午前中に日本付近を通過した。この低気圧は更に発達しながらオホーツク海へ進んだ。8日9時には輪島上空約5,200mに-36.1℃の寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となった。県内は7日の夕方から雨が雪に変わり、10日の明け方まで雪が降り続いた。3月としては1993年以来7年振りの大雪となった。この期間の降雪量合計は、平野部の多いところで60cm、山間部の多いところでは70cmを超えた。積雪は、平野部で30cm前後、多いところで60cmに達し、山間部では90cmを超えた。この雪のため、国道、県道などの幹線道路を中心に車が渋滞し、スリップ事故などが相次いだ。また、富山空港では欠航、遅延が発生した。
4月24日	落	雷	日本の上空に強い寒気が流れ込み大気の状態が不安定となり、雷を伴い時々雨が降った。このため、15時ごろ、砺波市鹿島の田んぼのあぜ道で、女性1名が落雷に遭い意識不明の重体となった。
6月23日	大	雨	本州の南岸にあった梅雨前線は、22日近畿地方まで北上し夕方から雨が降り始め、23～24日にかけては山陰から北陸地方に停滞した。雨が最も強く降ったのは23日の9～11時ごろで、八尾ではこの2日間に162mmの大雨が降った。23日10時30分ごろ高岡市旭ヶ丘地内で7棟が床下浸水した。この強い雨のため、空の便に遅れが出たほか、有峰林道の2ヵ所で土砂崩れが発生した。また、県道などの4ヵ所が雨量規制などによって通行止めになった。
7月17日	大 強	雨 風	朝鮮半島北部から日本海中部を経て東北地方に伸びる梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流入し、大気の状態が不安定となった。昼過ぎから県東部で雷雲が発生し、局地的に短時間に強い雨が降った。大山では15時までの2時間に69mmの降水量を観測した。また、雷雲の通過に伴い局地的に突風が吹いた。17日14時頃、大山町牧野の住宅裏の斜面が幅約5m高さ7mに渡って土砂が崩れたほか、同町糊ヶ原の町道東福沢小谷線では道路脇の石積みも幅約30mに渡って崩れた。また、同日14時15分頃、滑川市大門の建設会社資材置き場で、清掃作業中の女性が突風にあおられて転倒し、1週間のけがを負った。
8月9日	大 落 強	雨 雷 風	上空に強い寒気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、強い雷雲が発

			生して強い雷や突風を伴い所々で強い雨が降った。富山市で 26 棟が床下浸水したほか、11 時頃から富山市、婦中町、立山町、大山町で約 24,400 戸、高岡市、砺波市、新湊市で約 4,000 戸、滑川市で 14,500 戸合計約 42,900 戸が停電した。17 時頃にはほぼ回復した。10 時 25 分頃砺波市林の住宅に落雷し、木造一部二階建て約 260㎡を全焼した。八尾町のケーブルテレビ八尾では落雷の影響で 10 時 30 分頃から 3 時間近く 400～500 世帯で、番組の視聴やインターネットへの接続、テレビ電話の使用ができなくなった。12 時過ぎ激しい風雨のため上市町若杉の日吉神社の拝殿の横にある県文化財指定で天然記念物の「宮川けやき」の枝(直径 10cm、長さ 5m)5 本が折れ落下した。この際、拝殿の屋根にぶつかり、かわら約 30 枚も落ちた。このほか、JR では高山線の猪谷駅と富山港線の富山駅の信号機がそれぞれ故障したため、両線合わせて特急列車 4 本、普通列車 6 本が全線・区間運休となった。
	9 月 3 日	波 浪	
	9 月 9 日 ～10 日	大 雨	発達した低気圧が日本海を東進し、この低気圧の影響で高波が発生し、うねりが富山湾内に入って沿岸に打ち上げた。3 日 6 時 15 分頃富山市水橋辻ヶ堂の水橋漁港離岸堤で釣りをしていた男性が波が高くなり帰ろうとした矢先に波にさらわれ行方不明となった。
	11 月 1 日 ～2 日	大 雨	東北地方から能登半島を経て山陰地方に伸びる停滞前線の影響で県内の所々で時間降水量が 20～30mm の強い雨が降った。9 日 19 時 20 分頃砺波市西町で 2 棟、三島町で 4 棟が床下浸水した。10 日には、氷見市胡桃の県道良川磯部線の道路ののり面幅 10m 高さ 5m の土砂約 100㎡が崩れた。
			同市の熊無の市道では約 10 m³ の土砂が道路をふさぎ通行止めとなり、同所の市西部清掃センターへの取り付け道路の法面も幅 70m、高さ 40m にわたって滑落し、道路に土砂の一部が落ち、片側通行となった。
			本州南岸に前線が停滞し、2 日には台風 20 号から変わった低気圧がこの前線上を東へ進んだ影響で、所々で最大 1 時間降水量が 10mm 程度の降水が有り、2 日間の合計が 60～130mm の大雨となった。
			国・県・市・町が管理する道路では、のり面崩壊 4 ケ所、路肩欠所 4 ケ所、路肩崩壊 2 ケ所などの被害が出た。県内の県・市・町が管理する河川・砂防では、落差工基礎洗堀 2 ケ所、洗堀による護岸欠壊 3 ケ所、護岸欠損 10 ケ所の被害が出た。また、氷見市中谷内では、住宅 1 戸が床下浸水したほか、国道 160 号の阿尾一中波間が雨量規制のため一時通行止め、また、県道桑院赤毛線の桑院一赤毛間の約 3km が土砂崩落のおそれがあるため通行止めになった。1 日には東京一富山便が富山空港の雨による視界不良のため、小松空港に着陸したため折り返しの便が欠航した。
平成 13 年 (2001)	1 月 3 日 ～6 日	大 雪	
			3 日は冬型の気圧配置となって夕方からみぞれが雪に変わり、4～6 日にかけて強い冬型の気圧配置が続いた。特に 4 日午後から 6 日朝のうちにかけて強い雪が降り、八尾では 5 日 9 時までの 24 時間に 61cm の降雪を観測した。3～6 日にかけての降雪量は、沿岸部 30～40cm、平野部で 60～80cm、多いところでは 130cm、山間部の多いところでは 150cm を超えた。
	1 月 12 日 ～18 日	大 雪	4 日 17 時頃黒部峡谷付近で雪崩が発生し 2 名が死亡、1 名が行方不明となった。また、国道、県道など幹線道路を中心に車が渋滞し、スリップ事故などが相次いだ。5 日には、JR 富山港線では、パンタグラフへの着雪が原因とみられる電気系統故障のため、列車が停止し普通列車 12 本が全区間運休した。高山線では猪谷駅の積雪が規制値に達し、富山一速星駅間の普通列車 2 本が全区間運休した。富山空港では視界不良のため、欠航、遅延が発生した。

		12～18日にかけて千島付近に発達した低気圧が停滞し、日本付近は強い冬型の気圧配置が続いて強い寒気が次々と流れ込んだ。12～14日は山雪型の降り方だったが、15～16日は里雪・山雪型に変わり、特に沿岸部の魚津・氷見で強い雪が降った。魚津では16日9時までの前24時間に68cmの雪が降り、17日8時に最深積雪が119cmに達し、平成2年以来11年振りに積雪100cmを超える大雪となった。 人的被害は、14日7時30分頃、福光町開発で、15時30分頃、滑川市北野でそれぞれ1名が誤って用水に転落し死亡した。また、屋根の雪おろし中に屋根からの転落（14日高岡市石瀬、17日滑川市下大浦、入善町入善、19日魚津市本江新町）や小型ロータリー除雪機のローターに足を巻き込まれる等で9名が重軽傷を負った。魚津市、滑川市、富山市、立山町、入善町で除雪した雪が測溝等にたまったまま解けず住宅等の床下浸水が発生した。交通機関では、道路では、車が渋滞しスリップ事故が多発した。JR北陸本線では、15～18日にかけて全区間運休や区間運休が相次ぎ、17日には15年振りにすべての特急が運休した。富山空港では、視界不良等で14日を中心に欠航が相次いだ。電力関係では、17日に氷見市仏生寺脇之谷内等で約900戸、小矢部市了輪で約50戸、利賀村百瀬で約500戸が未明から早朝にかけて停電した。水道関係では、富山市、高岡市で水道管の破裂や凍結が起きた。農業関係では、ビニールハウスの倒壊が朝日町、滑川市、氷見市を中心に13市町村で79棟が全半壊した。また、7市町村で果樹の主枝折損等の被害の他、魚津市で豚堆肥舎や鶏舎の全壊等が発生した。林業関係では、小矢部市でスギ1000本、黒部市でスギ200本が折損する被害が発生した。 2～4日にかけて冬型の気圧配置となって10～20cmの雪が降った。5日は移動性の高気圧に覆われて晴れた。上市では、この期間に18cmの雪が降り、5日の積雪は52cm、日平均気温は0.3℃（平年比+0.5）、日最高気温は7.0℃（平年比+3.7）まで上昇した。 5日10時40分頃、立山町芦峯寺の称名川右岸（千寿ヶ原の藤橋から約1.5km上流）の出し谷（標高650m）で表層雪崩が発生した。雪崩に巻き込まれたのは3人で、2人は脱出したが1人が行方不明となった。 18～19日にかけて低気圧が沿海州から北海道の東海上へ進み、一方、本州の南海上は高圧帯となって、南から暖かい空気が流れ込み、平均気温は平年に比べて2～4℃高くなった。20日は移動性の高気圧に覆われて晴れた。上市では19日に9mmの雨が降り、75cmの積雪が20日には56cmまで減った。 20日15時頃、立山町芦峯寺の常願寺川右岸の県道富山立山公園線の瀬戸蔵スノーシェッド出口で、雪崩が防止鉄柵を乗り越えて約10m下の道路に崩れ落ち、ライトバンを直撃、車は2.5mの雪の中に埋没、大破した。車から救出された男性1名が首に軽い怪我をした。 14日の県内は、高気圧に覆われ晴れ、日本海の気圧の谷に吹き込む強い南風のため気温が上昇した。14日猪谷の最深積雪は89cm、14日砺波の日平均気温は7.1℃（平年比+2.2℃）、最高気温は16.2℃（平年比+7.3℃）まで上昇した。 上平村小瀬の通称東又谷に溪流釣りに入った男性が雪崩に遭遇し、16日遺体で発見された。 29日の県内は上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し、大気の状態が非常に不安定となり、未明から朝のうちににかけて沿岸部を中心に局地的に雷を伴った激しい雨が降った。高岡市伏木の最大1時間降水量は74.5mm、最大10分間降水量は18.5mmを観測し、共に伏木の6月の第1位を更新した。また日降水量は130.5mmを観測し6月の第2となった。
2月5日	雪崩	
2月20日	雪崩	
3月14日	雪崩	
6月29日	大雨	

			床上浸水 3 (富山市 1, 高岡市 2), 床下浸水 669 棟 (富山市 14 棟, 高岡市 178 棟, 滑川市 457 棟, 入善町 16 棟, 福岡町 4 棟), 高岡市, 万葉ライン城山付近で幅 20m にわたって土砂崩れ, 林道岡田線の路面欠損, 太田渋谷川で土石流が発生。魚津市, 市道金山谷稗畠線で高さ 7m, 幅 15m にわたって法面が崩壊し道路をふさいだ。滑川市, 市道改養寺森野新線が 20m にわたって欠損。福岡町, 宅地法面が崩壊, 滑川市で落雷による出火により納屋の一部と住宅屋根裏の一部を焼いた。高岡市で午前 3 時頃から 1 時間にわたって約 1,700 棟に停電。富山市で道路冠水 (岩瀬天神町地内, 岩瀬古志町地内, 水橋市江新町地内, 水橋東出町地内), JR 氷見線, 雨晴駅付近の信号機が落雷の影響で故障し列車 2 本が最大 48 分の遅れ。北陸本線は 14 本が最大 112 分の遅れ。滑川市など 3 市 1 町の水稲 5.8ha, 大豆畑 31ha が冠水。
	7 月 13 日	落 雷	13 日の県内は日本海に停滞する梅雨前線に向かって太平洋高気圧を回り込むように暖かく湿った空気が流れ込み, 大気の状態が不安定となり所々で雷が発生した。
	8 月 4 日	大 雨	13 日 16 時 15 分頃, 上市町石仏の木造二階建ての納屋に落雷し約 90m² が全焼した。
	8 月 7 日	大 雨	4 日の県内は三陸沖の低気圧から延びる寒冷前線が北陸地方を南下したため, 県東部で 1 時間に 20~30mm 強い雨が降った。 朝日町で町道湯ノ瀬北又線の越道峠付近で土砂崩れが発生し, 一時通行止めになったほか魚津市で用水があふれ 4 棟の倉庫などが床下浸水した。
	10 月 28 日	強 風	7 日の県内は北からの高気圧に覆われたが, 上空に寒気が入り大気の状態が不安定となったため, 局地的に激しい雷雨となった。 富山市で用水が氾濫し, 大町, 中川原町など 24 地区で 100 棟が床下浸水, 常磐町で 1 棟が床上浸水した。
	11 月 2 日	落 雷	28 日は, 前線を伴った低気圧が日本海を北東に進んだ影響で, 県内は南よりの風が強まり, 富山市で最大風速 12.1m/s, 最大瞬間風速 25.8m/s を観測した。 強風の影響で JR 高山線の富山一猪谷間と富山港線の富山一岩瀬浜間で一時運転を見合わせた。高山線では普通列車 3 本が運休, 特急列車 2 本, 普通列車 3 本が区間運休し, 特急列車 2 本と普通列車 6 本が最大 2 時間半遅れた。富山港線では普通列車 2 本が運休し, 4 本が最大 1 時間 20 分遅れた。
	12 月 22 日	落 雷	2 日未明に寒冷前線が県内を通過した影響で, 朝のうちまで所々雷雨となった。 2 日午前 1 時頃, 井波町坪野の民家に落雷し木造二階建て住宅の二階天井裏約 6m² を焼いたが, けが人はなかった。
平成 14 年 (2002)	1 月 7 日 ~ 8 日	強 風 ・ 雷	22 日明け方に北陸付近を寒気を伴った低気圧が通過し, 大気の状態が不安定となったため雷が発生した。 22 日午前 3 時 24 分頃, 福光町荒木の木造二階建ての住宅に落雷し, 一階壁など約 15 m² を焼いた。けが人はなかった。 日本海を発達した低気圧がゆっくり北東に進んだ影響で県内では, 7 日夜になって南西から西よりの風が強まった。8 日後半には低気圧は北海道に進み上空に寒気が流入して冬型の気圧配置が強まった。7 日 21 時 26 分魚津市駅前新町の路上に設置されていた看板が風に飛ばされ商店の従業員の額にぶつかり, 眉間を約 5~6cm 切った。8 日は富山空港では, 雪による上空の視界不良のため富山発着の合計 7 便に最大 1 時間半の遅れが出た。また, 高速道路では, 北陸, 能越, 東海北陸の各自動車道で 50km に速度規制されたほか, 19 時頃富山地方鉄

3月21日	強	風	道の稲荷町ー越中三郷駅間の12の踏切が落雷のため故障し、約2時間10分にわたって遮断機が下りなくなり、踏切前で一時停止して運行したため、電車4本のダイヤが乱れ、最大40分の遅れが出た。JR高山線では、7日16時20分頃笹津駅で風速25m/sを記録したため、越中八尾ー猪谷間の運転を21時40分まで見合わせ、特急列車2本が富山ー猪谷間で区間運休、普通列車8本が運休または区間運休となった。 寒冷前線を伴った発達中の低気圧が日本海北部を通過して、南よりの強い風が吹きフェーン現象となった。この強い南よりの強風で、魚津市役所議場のトタン屋根の一部が飛ばされたほか、砺波市苗加の民家の納屋のトタン屋根の一部も飛ばされた。また、JR高山線笹津駅で風速25m/sを記録したため、同線の富山ー猪谷と富山港線の富山ー岩瀬浜間で一時運転を見合わせた。特急列車4本、普通列車6本が運休や区間運休した。
6月11日	大	雨	前線を伴った低気圧が日本海を東進した影響で日中は曇や雨となった。夜は活動が活発となった前線が県内を通過したため激しい雨が降った。入善町で床下浸水被害家2棟、利賀村道路路肩欠損3カ所（仙野原細島線で延長36m・高さ5m、高沼百瀬線で延長6m・高さ5m、高沼百瀬線で延長10m・高さ6m）、平村道路路肩欠損3カ所（祖山線で延長50m、大島線で延長10m、道谷線で延長10m）
7月3日	大	雨	北陸付近に停滞していた梅雨前線の活動が活発となり、雨で昼前には雷を伴って一時強く降った。高岡市で7棟、小矢部市で6棟が床下浸水した。また、道路の損壊などで数箇所が通行止め、JRでは福岡ー森本（金沢市）間で徐行運転を行った為、列車数本が最大62分遅れた。
7月9日 ～10日	大	雨	北陸付近に停滞していた梅雨前線の活動が活発となり、10日昼前には県内の所々で1時間に20～30mmの強い雨が降った。国道41号線細入猪谷ー楡原間など3ヶ所、県道も一時8ヶ所の通行止め。大沢野町長走の神通川右岸かすみ堤が陥没、魚津市升方の有山用水の護岸が幅7mにわたって崩れた。富山空港では5便が欠航。JRでは高山線などで20本が一部・全区間運休。
7月13日 ～14日	大	雨	太平洋高気圧の縁を回り込む湿った暖かい空気が入りやすい状態となって大気の状態が非常に不安定となったため大雨、強風となった。高岡市で冠水の為、県道など一時通行止め。万葉線で6本運休した。高岡市勝木原ー氷見市吉池間で土砂崩れの為、全面通行止め。氷見市で10棟、高岡市で12棟、新湊市で5棟、砺波市で5棟、富山市で2棟、小矢部市で1棟、小杉町1棟の床下浸水。福岡町で高さ7mの急斜面で、約30mにわたって土砂崩れが起きた。
7月15日 ～16日	大	雨	15日は、梅雨前線が日本海から北陸地方に延びて、九州の南海上から四国の太平洋側を進んだ台風第7号の影響で断続的に雨が降った。16日は、低気圧が朝鮮半島から日本海へ進み、時々雨が降った。氷見市小竹で住宅地裏山の斜面幅約15m、高さ約4mが崩れ、懸札でも住宅地裏山の斜面幅20m、高さ約10mが崩れた。自主避難を含め住民3名が避難した。県道など10カ所で通行止めや片側通行の規制。富山空港では7便に1時間～3時間近く遅れが出た。
7月25日	落	雷	昼過ぎまで晴れたが、九州の南海上を北東に進んだ台風第9号の間接的な影響もあって夕方から大気の状態が不安定となって西部山間部を中心に雨が降り、局地的に激しく降った。15時47分庄川町筏で民家に落雷がありブレーカー付近から出火したが約10分後に鎮火。
8月13日	大	雨	前線が日本海沿岸に停滞、はじめ晴れたが午後から大気の状態が不安定となり東部を中心に強い雨が降った。16時40分頃、大雨の影響でJR高山線（楡原ー東八尾間）の上下線で一時運転を停止。特急1本と普通列車1本の合わせて2本に最大34分の遅れが出た。
9月17日	大	雨	

9月23日	竜巻	日本海を前線を伴った低気圧が東進したため、県東部を中心に大雨となった。黒部峡谷鉄道の鐘釣温泉付近で、大規模な落石が起これ鐘釣橋や前後の線路を直撃し、同橋（鉄橋）の線路の一部が抜け落ち穴が開いているのが、18日朝発見された。このため、黒部峡谷鉄道は1日運行旅客用を17本、作業用（貸し切り）を7本合計24本の運行を18日から3日間、合計72本を全面運休し、21日から折り返し運行した。 竜巻の発生した23日昼過ぎは、北陸地方の上空を寒気が通過中で、大気の状態が不安定となっていたため、富山県では13時頃から16時頃にかけて組織化した雷雲が通過し、強い雨や雷雨となった。この雷雲が通過中の14時30分頃、下新川郡朝日町で竜巻が発生した。この竜巻により住宅一部損壊8棟、非住宅一部損壊5棟などの被害が発生したほか、朝日町草野地内の民家で、庭のブドウ棚が倒壊し、この家の窓ガラスを破損した。同町月山地内の事業所で、廃棄のため屋外に置いてあったスチール製ロッカーが飛び、乗用車2台に当たって損傷させた。なお、この竜巻は、藤田スケールでF1と推定される。
10月5日	落雷	未明に寒冷前線が通過したため、雷雨となった。午前2時55分頃庄川町の民家の屋根に落雷し、出火して木造二階建ての屋根の一部約1㎡を焼いた。けが人はなかった。
10月15日	強風 落雷	活動が活発な前線を伴った低気圧が日本海を東に進み、夜には寒冷前線の通過により天気が急激に変化して雷や強風を伴った天気となった。婦中町で208戸、富山市で100戸、滑川市で66戸が落雷のため、高圧線の断線などで最大2時間余り停電したほか、強風とひょうによる農作物被害では、魚津市で軟弱野菜などのパイプハウス20数棟に被覆材の破損、リンゴにキズや落下の被害が発生し、約20tに及んだ。このほか、ひょうによる農作物被害では、露地野菜のレタス、ネギ、キャベツ、ハクサイなど2haで、葉の損傷や玉割れ、大豆には子実の落下が約12haなどの被害が発生した。また、魚津市金浦町地内の公園の樹木2本が根元から倒木した。寿町地内の住居兼工場の外壁が強風により付近に置いてあった物が当たり一部破損した。
10月19日 ～21日	大雨	本州の南海上に前線が停滞し、この前線上を低気圧が東進した。このため、県西部山沿いを中心に断続的に雨が降り、富山県の栃原雨量観測所で3日間合計で236mmに達した。国道471号利賀村栗当地内で道路の路肩が欠損した。
11月1日 ～16日	大雨 地すべり	1日～14日は、周期的に気圧配置となり、断続的に雨が降った。降水量は、伏木では、11月上旬の平年比の400%以上となった。また、氷見の降水量は、この期間の平年比の300%以上となった。11月15日に氷見市谷屋地区で亀裂が発見され、11月16日22時45分到大規模な地すべりが発生した。地すべりの規模は、幅約200m、奥行約100m、平均深さ約20m地すべり土塊約40万㎡と推定される。この地すべりで、家屋の全壊1棟、半壊1棟、田3,200㎡、畑340㎡、ため池3ヵ所2,600㎡等の損壊、国道415号通行止めなどの被害が出た。16世帯76名が自主避難した。
12月10日	大雪	強い冬型の気圧配置となって雪が降り今冬初めて平野部でまとまった積雪となった。富山空港では、発着便は視界不良のため、6便が欠航し、2便が小松空港に目的地を変更し、東京便は4時間遅れて出発した。また、雪により県内の北陸、東海北陸、能越自動車道では同日朝から全線チェーン着用と50kmの速度規制が敷かれた。
12月25日	落雷	北陸沿岸を東進した低気圧の通過後に上空に寒気が流れ込み大気の状態が不安定となったため、夕方から東部を中心に雷雨となった。18時頃、魚津市江口のパチンコ店一階配電盤から落雷により出火し、停電となった。また、18時

平成 15 年 (2003)	1 月 4 日 ～ 5 日	大	雪	30 分頃、JR 北陸線の魚津駅一入善駅間の踏切 5 ヲ所が落雷により故障し、約 1 時間 20 分にわたって遮断機が下ったままになった。安全を確認するため徐行運転し、特急列車 3 本、普通列車 5 本に約 20 分～30 分の遅れが出た。このほか、富山地方鉄道の電鉄黒部駅一浦山駅間で約 1 時間運転を見合わせ、地鉄新魚津駅一電鉄黒部駅間で徐行運転を行った。 4 日に低気圧が北海道付近に進み、大陸の高気圧が張り出して冬型の気圧配置が強まり、雨から雪に変わって夜は強く降った。5 日は、強い冬型の気圧配置が続き大雪となった。JR 西日本によると午後 8 時現在北陸線の特急列車 2 本、普通列車 33 本と氷見線の普通列車 9 本、高山線の普通列車 9 本いずれも運休・区間運休となった。なお、北陸線の特急列車 68 本、普通列車 48 本、城端線、氷見線、高山線の特急列車と普通列車が最大約 3 時間 40 分遅れた。氷見線では、日中 6 時間にわたって列車が雪に阻まれて動けず運転をストップした。また、4 日夕方から 5 日深夜までに、県内の高速道路でスリップ事故が 50 件相次いだほか、県内の高速道路はいずれも時速 50 km の速度規制が敷かれた。富山空港では、視界不良のため、全便が欠航となった。高岡市伏木一宮の国道 415 号沿いの桜並木の 1 本が雪の重みで倒れた。5 日午後 4 時 45 分頃高岡市西藤平蔵の県道沿いの電線が雪の重みで切れ近くの信号機 1 ヲ所と西藤平蔵、荒見崎、泉が丘、佐野緑町の 320 世帯が約 2 時間にわたって停電した。このほか、新湊市緑町で除雪中の 71 歳の男性が右手を骨折した。 28 日に北海道付近に進んだ低気圧が猛烈に発達し、日本付近は強い冬型の気圧配置となって断続的に雪が降り、上空に非常に強い寒気が入って、28 日夜から 29 日にかけて県内は、大雪となった。JR 西日本によると、29 日午後 5 時現在北陸線の特急列車 53 本、普通列車 51 本が最大 4 時間半遅れ、夜行列車 10 本が運休となった。また、公共交通機関が大幅に乱れたため、県内の各学校は、児童・生徒の登下校に配慮し、始業時間を遅らせたり、下校時間を早めるなどの対応をとった。なお、強い風雪のため、県内の高速道路では、一時全区間で全面通行止めとなったほか、富山空港では、視界不良のため、全便が欠航となった。
	1 月 28 日 ～ 29 日	大 強	雪 風	移動性の高気圧に覆われ晴れて、放射冷却現象により、未明から県西部を中心に濃い霧が発生した。この濃い霧の影響で午前 3 時から 8 時 45 分まで、JR 北陸本線上下線で普通列車 6 本が全区間または区間運休し、特急列車など計 27 本が最大 62 分遅れた。
	2 月 15 日	濃	霧	台風第 6 号と台風第 6 号から変わった低気圧が日本海を北東進し、県内に強い風が吹き荒れた。20 日 5 時 50 分頃強風により女性(85 歳)が転倒し軽傷を負った。
	6 月 20 日	強	風	太平洋高気圧に覆われ、富山市で最高気温 35.3℃を記録するなど猛暑に見舞われ、富山市では 19 歳の女性が、入善町では 30 歳の男性が熱中症にかかり病院へ搬送された。
	8 月 4 日	高	温	停滞前線が東北から能登半島を通り山陰沖にかけてのび、この前線の南下に伴い、県東部に活発な雨雲が侵入。泊では 6 時 50 分から 7 時 50 分にかけて 49mm の強い雨を観測。この雨の影響で入善町入膳では床下(玄関)浸水 3 戸の被害が発生した。
	8 月 5 日	大	雨	県内では 6 日午後から大気の状態が不安定になり、県東部を中心に雷雲が発生。このため県東部で落雷による断線があり、19 時 30 分から 21 時 30 分にかけて上市町荒田で 333 戸、同旭町で 208 戸、黒部市若菜で約 100 戸が一時停電した。
	8 月 6 日	落	雷	
	8 月 31 日 ～ 9 月 1 日	大 落	雨 雷	

平成 16 年 (2004)	9 月 5 日	高	温	前線が北陸付近に停滞し県内で大雨となった。各地の降り始めからの雨量は多いところで魚津 226mm, 宇奈月 225mm, 伏木 218mm, 泊 176mm, 氷見 158mm, 富山 149mm, 福光 127mm に達した。この影響で床下浸水が高岡市で 18 棟, 魚津市で 4 棟, 氷見市で 19 棟, 滑川市, 入善町, 小杉町で 1 棟, 道路冠水が高岡市で 8 か所, 氷見市で 5 か所, 土砂崩れが魚津市で 4 か所, 高岡市で 2 か所, 福光町, 黒部市, 氷見市で 1 か所, 河川堤防破損が黒部市で 1 か所の被害が発生し, また, 河川が氾濫し, 高岡市, 福光町, 魚津市であわせて 0.29ha の田畑に浸水や土砂侵入の被害が発生した。この他, 高岡市では落雷により 264 世帯が停電し, JR の運休 2 本, 遅延 6 本, 航空機の遅延 1 便などの影響が出た。
	9 月 11 日	強	雨	5 日, 県内は高気圧に覆われ気温が上昇し日最高気温が富山で 30.4℃, 魚津で 30.2℃に達した。このため, 熱中症と思われる症状で大門町で中学生 9 人, 富山市で中学生 1 人, 魚津市で高校生 1 人が病院に運ばれた。
	9 月 13 日	強	風	北陸付近に停滞した前線の影響で県西部を中心に強雨が降り, JR 高山線で運休 2 本, 遅延 4 本の影響が出た。県内の雨量は猪谷で 16 時 30 分までの 1 時間に 31mm, 八尾で 15 時 40 分までの 1 時間に 25mm の雨量を観測した。
	1 月 7 日	落	雷	日本海を北東進した台風第 14 号の影響で強風が吹き, 富山では最大風速西南西の風 10.6m, 最大瞬間風速西の風 21.0m を観測した。この強風の影響で富山市岩瀬地区センター内の水が倒れ同施設の窓ガラスが割れたほか, 玄関前の手すりが破損した。また, 同施設前に駐車していた乗用車 2 台の窓ガラスが割れるなどの被害がでた。
	1 月 13 日 ～ 1 月 14 日	強 大	風 雪	7 日夜, 冬型の気圧配置が強まる中, 輪島上空 5,000m で-33℃以下の寒気が流入したため大気の状態が不安定になり県内の所々で発雷。城端町では落雷により民家の 2 階部分約 120m ² を焼いた。
	1 月 22 日 ～ 1 月 25 日	大	雪	13 日から 14 日かけて冬型の気圧配置が強まり, 大荒れの天気となった。13 日, 最大瞬間風速は, 富山で南西 22.3m, 伏木で北西 22.0m を観測した。猪谷では 14 日の最深積雪 42cm を観測した。JR では列車 4 本が運休し, 4 本に遅れが出た。空の便は 9 便が欠航し, 5 便に遅れが出た。富山市では定期バスが 1 本運休し 19 本に遅れが出た。また, 魚津では臨港道路が高波のため一時通行止めとなった。
	2 月 4 日 ～8 日	大 落	雪 雷	22 日から 25 日にかけて強い冬型の気圧配置となり大雪となった。25 日 9 時には輪島上空 5,000m で-40.7℃を観測。24 日の各地の最深積雪は伏木で 64cm, 富山で 43cm, 砺波で 56cm, 猪谷で 84cm を観測した。屋根の雪下ろし中の事故などにより重傷者 3 名, 軽傷者 2 名, 投雪により用水等が氾濫し床上浸水 1 棟, 床下浸水 2 棟, 雪の重みにより非住家の倒壊 1 棟の被害があった。また, 高岡市, 福野町, 小矢部市, 福光町, 福岡町では多量の降雪によりスギ人工林を中心に水が倒れるなどの冠雪害が発生した。JR で運休 361 本, その他特急に最大 6 時間半の遅れを出すなど多数の列車に遅れが出た。航空関係では欠航 17 便となった。また, 道路では北陸自動車道や国道 359 号線で雪のため一時通行止めになった。学校関係では 23 の高校, 29 の中学校, 97 の小学校で始業時刻繰り下げや授業取り止めの処置をとった。
				2 月 4 日から 8 日かけて強い冬型の気圧配置となり, 5 日 9 時には輪島上空に-38.7℃の寒気が流入し県内は大雪となった。7 日, 富山の降雪量(当 9 時～翌 9 時)は 52cm に達し, アメダスの積雪観測では猪谷の 134cm を最大に魚津, 伏木, 富山, 砺波で 50cm を超えた。この大雪のため, 大島町の男性が除雪中に用水に転落し死亡, 大山町と八尾町では男性が屋根の雪下ろし中に転落し 1 名が重

2月13日	濃霧	傷, 1 名が軽傷を負った。また, 大沢野町では投雪により用水が溢れ住家 2 棟が床下浸水し, 八尾町では屋根に積もった雪の重みで非住家 1 棟が倒壊, 大門町では落雷のため民家の一部が焼ける被害があった。JR では除雪作業等のため運休 20 本, 遅れ 9 本, 航空関係では欠航 22 便, 遅れ 7 便の影響がでた。
2月22日 ～23日	融雪 大雨	県内は移動性高気圧に覆われ晴れて, 放射冷却により気温が下がり県西部を中心に濃霧が発生した。富山では 5 時 15 分から 7 時 15 分まで視程 1 km 未満となり, 5 時 30 分から 6 時 50 分にかけては視程 500m 未満となった。このため, JR では 2 本が運休し, 6 本に遅れがでるなどの影響があった。
3月5日 ～6日	強風	22 日県内は日本海低気圧の影響で南よりの暖かい強風が吹き気温が上昇した。夜には前線の通過に伴い, まとまった雨が降った。このため, 井波町では雪解けによる出水のため町道へ山腹の土砂が崩落(L=18m, W=5.5m)し通行不能の状況となった。
4月2日	強風	5 日夜, 日本海西部にあった低気圧が発達しながら東北東に進み 6 日午後には北日本に達した。この影響で県内に暴風が吹き荒れた。最大瞬間風速は富山で 6 日 6 時 16 分に 28.0m, 伏木で 6 日 8 時 9 分に 22.7m を観測した。このため, 富山市の小学校で老朽化し移転新築予定だった体育館のトタン屋根が飛ばされる被害が発生した。けが人等の人的被害はなかった。
4月19日	強風	発達した低気圧が日本海沿岸を北東に進んだ影響で県内で強風が吹き, 最大瞬間風速は富山で 11 時 54 分に 27.7m/s, 伏木で 13 時 1 分に 26.9m/s を観測した。このため, 魚津市でビニールハウスの破損 5 棟(710㎡)の被害があった。その他, JR では強風のため運休 6 本, 遅れ 3 本の影響がでた。
4月27日 ～28日	強風	低気圧が日本海を発達しながら北東進した。この影響で県内に強風が吹いた。最大瞬間風速は富山で 12 時 34 分に 25.0m/s, 伏木で 11 時 53 分 20.6m/s を観測した。このため, 井波町では午後 2 時ごろ県道で強い南風にあおられ, 4t トラックが横転し道路をふさいだため約 2 時間片側交互通行となった。砺波市安川では道路わきの杉が根元から倒れガードレールを壊し県道新湊庄川線をふさいだため道路が約 2 時間通行止めとなった。平村では研究センター屋根のトタン(約 5㎡)がはがれた。大沢野町では乗用車のトランクを開け作業をしていたところ強風にあおられトランクによって頭部及び右肩に軽傷を負った。また, 民家の敷地内にあるプレハブの屋根(約 6㎡)が強風ではがれた。JR では強風のため運休 8 本, 遅延 8 本の影響があった。
5月16日 ～17日	大雨	27 日から 28 日に日本海を発達しながら北東に進んだ低気圧と寒冷前線の影響で強風が吹いた。このため, 27 日の強風により住宅のトタン葺き屋根一部損壊, 物置小屋の倒壊, 水稲用ビニールハウス全壊 3 棟・破損 14 棟, 園芸用ビニールハウス半壊 1 棟・破損 11 棟の被害があった。また, 外れた戸を直す際に強風で戸が顔にぶつかり女性が軽傷を負った。28 日の強風で水稲用ビニールハウス破損 34 棟, 園芸用ビニールハウス 3 棟破損の被害があった。JR 及び私鉄で運休が 17 本, 遅延 10 本の影響があった。
6月29日	落雷	16 日昼頃から 17 日昼前にかけて富山県付近に前線が停滞し, 前線上を東北東に進んできた低気圧の影響で大雨が降った。このため, 16 日 0 時から 17 日 13 時までの富山の総雨量は 92mm となった。前線の影響でまとまった雨となり 17 日に富山市呉羽町の寺院の石積みが高さ 4m, 幅 7m に渡って崩れ市道をふさぎ, 通行止めになった。また, 県道弘法称名立山停車場線, 県道富山立山公園線が雨のため 18 日朝まで通行止めとなった。
7月8日	高温	上空に寒気が流れ込み大気の状態が不安定となり県内の所々で発雷となった。電柱等に落雷した影響で富山市, 婦中町, 新湊市, 下村で計約 1,200 戸が最

	強 大	雨 雨	大約2時間停電した。JR 高山線では信号機が故障した為、遅延5本の影響がでた。 高気圧に覆われ朝から気温が上がり、最高気温は富山で 34.6℃、伏木で 34.7℃を観測。また、夕方には大気の状態が不安定となり局地的に雷を伴った激しい雨が降った。熱中症により入善町で民家の納屋前で倒れていた女性が病院へ搬送されたが翌日死亡。このほか入善町と高岡市で男性が救急搬送された。また、大雨の影響で JR 高山線で6本が運休、4本に遅れが生じた。
7月9日	落	雷	日本海の低気圧に向かって暖かい湿った空気が流れ込み、午後から大気の状態が不安定となり西部北を除く県内全域で雷雨となった。県東部を中心に約1,000戸が停電となった。
7月10日	大 強	雨 雨	日本海沿岸で活発となった梅雨前線の影響で大気の状態が不安定となり大雨となった。新湊市で民家の床下浸水が3棟、道路冠水（冠水道路長 160m）1か所があった。また、JR 高山線で列車の運休4本、遅延3本があった。
7月11日	落	雷	北陸の上空に寒気が入り、大気の状態が不安定となり所々で雷雨となった。砺波市で会社の配電盤に落雷、約1㎡を焼いた。
7月17日 ～18日	大 強	雨 雨	17日夜遅くから18日午前3時頃にかけて、北陸付近を南下した梅雨前線の影響で大雨となった。富山市で床上浸水3棟、床下浸水4棟、宮ヶ谷北押川線で法面崩壊による片側交互通行、上市町で床下浸水1棟、道路の通行止めが4ヶ所、婦中町で床下浸水14棟、立山町では富山立山公園線で土砂崩れ1か所、八尾町で国道471号切詰～県境で山崖崩れによる通行止めがあった。
7月25日	大 強	雨 雨	25日の県内は午後から大気の状態が不安定となり局地的に激しい雷雨となり大雨となった。富山市で床上浸水19棟、床下浸水74棟、新湊市で床下浸水7棟、滑川市で床下浸水2棟、砺波市で床上浸水1棟、床下浸水1棟、大沢野町で床下浸水1棟、婦中町で床下浸水130棟。砺波市では道路の冠水、富山市では JR 北陸線で線路障害があった。落雷による停電が県内で1,145戸あり、大沢野町では農作業場のぼや、滑川市では配電盤より出火するなどの被害があった。交通機関では、北陸線や JR 城端線、JR 高山線で合計20本が運休。また、立山黒部アルペンルートの立山ロープウェイでは落雷の為、制御装置が故障し終日運休となり、立山ケーブルカーでは13本が運休した。
8月19日 ～20日	強 高	風 潮	台風第15号が19日に日本海を東北東に進み県内に夜半頃接近、20日には東北地方に上陸後太平洋に抜け北海道の南海上を東に進んだ。台風第15号による強風等の影響で19日及び20日には高潮により、新湊市で床下浸水や道路及び水田約0.6haの冠水、高岡市では道路及び水田約50㎡の冠水、富山市及び氷見市では道路の冠水があった。また、県東部を中心に果樹の落下被害が、富山市などで果実（梨）の落下約125t、魚津市などで果実（りんご）の落下約45tがみられた。また、強風による停電が県内で500戸あった。
8月30日 ～31日	強	風	台風第16号は九州に上陸した後山口県を通り日本海へ抜け、北東に進み北海道に再上陸した。県内には31日明け方頃最接近した。この台風の影響で、氷見市などで建物の屋根が飛ぶ被害が発生した他、福光町、氷見市で倒木による道路の通行止め、富山市、魚津市などで果樹の落下や稲の倒伏、ビニールハウスの破損などによる農作物への被害が生じた。また、県内1,539戸で停電となった他、交通機関に運休、遅延が生じた。
9月7日 ～8日	強 高	風 潮	台風第18号は、7日9時半頃長崎市付近に上陸し、その後日本海へ抜け北東に進み秋田沖を経て北海道の西海上を北上した。富山県には7日21時頃最も接近した。台風の強風により重傷者が上市町2名、八尾町1名、福光町1名、富山市他5市町で軽傷者15名の人的被害があった。また、富山市62棟、魚津市

	9月14日	大落	雨雷	20棟他8市町村で住家の一部損壊、婦中町13棟他10市町村で非住家の一部損壊などの被害があった。強風によりごみが用水をせき止めた影響で富山市で床下浸水2棟の被害があった。交通機関では砺波市や氷見市で国道、県道及び主要地方道の一部通行止めや航空機の一部欠航、JRや富山地鉄で遅れや運休があった。富山市他15市町村で8,800戸の停電があった。農業関係ではりんご、なしの落果など被害額5億円以上の被害となった。 14日未明から早朝にかけて、日本海にある前線の南下に伴い、県内は激しい雷雨となった。床下浸水が高岡市で21棟、新湊市で3棟、砺波市で2棟、小矢部市で1棟、大沢野町で4棟、道路の路肩や法面崩落の通行止めなどが八尾町で2箇所、大山町及び小矢部市で1箇所あった。氷見市では崖崩れ（幅4m、高さ3m）があったが、住家、道路などへの影響はなかった。道路冠水が新湊市で11箇所、高岡市で4箇所あった。落雷による停電が県内で1,160戸あり、交通機関では、JR高山線で運休5本、遅延7本があった。
	9月20日	大	雨	県内に南海上からの暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり局地的に雨が降った。富山市内で床下浸水4棟があった。
	10月20日 ～21日	強大	風雨	台風第23号は、強い勢力を維持したまま20日13時頃に高知県土佐清水市付近に上陸し、その後近畿、中部、関東地方を通過して21日には千葉県銚子市付近から太平洋に抜けた。台風の北上に伴い、本州南岸に停滞していた前線の活動が活発となった。人的被害は、1名が神通川中洲に取り残されて流され行方不明となり、強風による転倒等で負傷者73名（練習帆船海王丸の負傷者含む）、物的被害は床上浸水147棟、床下浸水343棟、強風による建物被害など54棟、高波や強風により港湾施設や船舶に被害があった。農林水産関係では、果樹や野菜の損傷、園芸施設や畜産施設の破損、小型定置網の破損、漁船の転覆、沈没等の被害があった。また、砺波市周辺では、散居村の特徴の屋敷林（カイニョ）が多数倒木した。交通関係では鉄道・バスの運休がJRでは57本、富山地鉄やその他の交通機関でも多数あった。また、土砂崩れや冠水による道路の通行止めなど85箇所、停電が30,600戸あった。
	11月26日 ～27日	強	風	26日午後から27日午前にかけて、前線を伴った発達した低気圧が日本海を通過した。この低気圧の強風の影響により小矢部市で倒木のため国道が通行止め、氷見市でも倒木により県道が通行止めとなった。また、朝日町では焚火の不始末が原因の山火事が発生し、この強風により山林1.3haが消失した。JR高山線で区間運休が2本、遅延が3本あった。
平成17年 (2005)	1月11日 ～12日	大落	雪雷	冬型の気圧配置が続き、上空に寒気が流れ込み断続的に雪が降った。11日は、富山地方鉄道の音沢から宇奈月温泉駅間で線路脇にある木（高さ15m）が、雪の重みで倒れ送電線を切断したため、特急など含む列車が合計24本区間運休した。12日は、JR滑川駅構内で列車のパンタグラフが雪の重みで下がり発車できなくなり1本区間運休、富山地方鉄道では落雷の為、変電所から送電がストップしたので宇奈月温泉駅から電鉄黒部駅間で7本区間運休、富山空港では視界不良のため8便が欠航した。また、北陸電力から黒部市の工場への専用送電線が11日には雪の重みでたわみ樹木に接触、12日には専用送電線鉄塔の頂部が雪の重みで折れ曲がった影響等で送電がストップしたため、11日は9時間、12日は15時間半の停電となった。
	1月20日 ～21日	落大	雷雪	冬型の気圧配置が強まり20日夜から21日にかけて断続的に雪が降った。20日は落雷のため富山市や婦中町で約7200世帯で停電となった。21日は八尾町武道原地内の国道472号線道路脇の斜面が延長30mに渡り崩れ国道が一時通
	2月1日 ～3日	大雪	雪崩	

			行止めになった。 1日から3日にかけて、強い冬型の気圧配置となり県内では大雪となった。この期間の県内各地の最深積雪は魚津72cm、砺波61cm、伏木59cm、泊54cm、氷見41cmだった。また、富山の降雪日合計の69cmは統計開始以来、2月としては最も多くなった。屋根の雪おろし中転落や除雪中の転倒などで重傷1名、軽傷1名。また、除雪に伴う床下浸水1棟。雪崩により国道471号線砺波市湯谷から押場地の間が通行止め。交通機関では、富山空港では29便欠航、JRでは9本運休。また、各交通機関の遅延等について多数。県内の3分の1に当たる学校では1時間から2時間の下校時間を早めたり、始業時間を遅らせたりなどした。
3月10日	雪	崩	
4月20日	強	風	10日から11日にかけて、高気圧に覆われ穏やかに晴れ、南から暖かい空気が流れ込み気温も上昇した。富山地方鉄道立山一本宮駅間でなだれが発生し線路をふさいだ。このため、立山一有峰口間で普通列車8本、急行1本が区間運休した。
5月10日	落	雷	前線を伴った発達中の低気圧が日本海を北東に進んだ。この影響で朝から時々雨が降り、前線が通過した宵の内まで所々で南よりの強い風が吹いた。富山市で市営住宅のトタン屋根が一部吹き飛ば被害が発生した。また、交通機関では、JR高山線及びJR富山港線で合計14本が運休し、12本の列車に遅延があった。
5月18日	強	風	10日は、上空の寒気の影響で午前中は時々雨が降り、雷雨となったところもあったが、午後は移動性高気圧に覆われ晴れた。富山地方鉄道の宇奈月温泉発富山行き普通電車が新宮川ー上市駅間で、落雷で電気系統が故障したため、後続電車と連結し約1時間後に上市駅に収容した。この影響で昼過ぎまで10分～最大1時間程度の遅れが続き、乗客500人に影響がでた。
6月29日 ～7月1日	大 強 落	雨 雨 雷	日本海西部の発達した低気圧は南にのびる前線を伴い日本海を北東に進んだ。この影響で、所々で南よりの強い風が吹き、昼頃から時々雨が降った。交通機関は、JR高山線の笹津駅ー越中八尾駅間で強い風の影響で、列車10本が区間運休、3本が最大2時間余りの遅延。富山空港では、ソウル便2便が運休した。
7月11日 ～12日	大 強	雨 雨	6月29日夜遅くから7月1日にかけて、日本海中部から北陸、関東へと伸びる梅雨前線が、富山県付近にあって、この前線に向かって、高気圧の縁辺を廻りこむように、暖かく湿った空気が流れ込んだ。このため梅雨前線の活動が活発化し、石川県の西方沖の雨雲が次々と富山県に流れ込み、大雨となった。6月30日は、床下浸水が富山市2棟、高岡市6棟、小矢部市1棟、立山町2棟。富山市山田で作業所裏の斜面崩れ（被害なし）。落雷で氷見市民病院が午前5時頃から全館、昼頃まで停電。また、高岡市では防災無線中継局が落雷により不通。土砂崩れや冠水により道路の通行止め2か所。雨量規制による道路通行止め多数。JR高山線で列車7本遅延、富山港線で列車2本運休、4本遅延。7月1日は、15時頃南砺市城端野下で男児が増水した用水に流され行方不明となり、2日に死亡を確認。また、立山町では増水した栃津川に軽四トラックが流され、運転手が行方不明。南砺市城端で床下浸水1棟。南砺市蔵原地内で民家の裏山が一部崩れ（被害なし）、砺波市福山地内では小規模な土砂崩れ1か所。土砂崩れや護岸欠損等により道路の通行止5か所。雨量規制による道路通行止め多数。JR高山線で列車3本運休、7本遅延。富山地方鉄道立山線立山ー横江間が土砂崩れで不通。 山陰沖から北陸にかけて梅雨前線が停滞し、この前線に向かって暖かく湿っ

8月3日	高	温	た空気が流れ込み前線の活動が活発となったため県内各地で大雨となった。床下浸水が氷見市43棟、高岡市4棟、魚津市1棟、入善町1棟であった。道路の法面崩落や雨量規制による通行止めが多数発生した。交通機関では、JRで運休2本、遅延11本。空港では、4便に遅延があった。
8月6日	大 強 落	雨 雨 雷	高気圧に覆われ、朝から気温が上昇し、最高気温が富山で35.2℃、伏木で37.1℃を記録した。県内は、熱中症と見られる症状で体調不良を訴える人が相次ぎ、各消防署によると12人が病院へ運ばれた。 県内は高気圧に覆われたが、上空に寒気が入り午後から大気の状態が不安定となり広い範囲で激しい雷雨となった。小矢部市で民家の蔵、南砺市で工場、上市町では住宅が落雷により火災が発生。魚津市では床下浸水が住家6棟、富山地方鉄道の電鉄魚津駅で停車中の電車で落雷し火災が発生、停電が500戸。黒部市で床下浸水が住家1棟、非住家1棟あった。交通機関では、富山地方鉄道では落雷により電車が運休し、火災車両の消火作業等の影響で、黒部駅から上市駅間で終日区間運休となりバスで代行運転を行い、JRでも3本が区間運休、14本が遅延となった。
8月11日 ～12日	大 強	雨 雨	日本海西部から東北地方南部にかけ前線が停滞。11日夜から12日にかけて、大気の状態が不安定となり発達した雨雲が県西部などを覆って局地的に激しい雨が降った。小矢部市で県道谷坪・芹川線で法面が高さ10m、幅約25mにわたって崩れた。
8月15日 ～16日	大 強	雨 雨	15日夜から16日にかけて、本州上を寒気を伴った上空の気圧の谷が通過。この影響で県内は大気の状態が不安定となり各地で激しい雨となった。富山市で床下浸水4棟、魚津市で床下浸水4棟、立山町で非住家の床下浸水1棟。土砂崩れなどで道路の通行止め多数。この影響で山間の4集落で9世帯が孤立。交通機関では、JR高山線で7本遅延。富山地方鉄道では、岩峠寺一立山間で盛り土が出水により約10m削られ線路が浮いた状態となり不通。立山ケーブルカーは、立山駅周辺の斜面で土砂崩れの兆候のため運転見合わせた。
8月19日	大 強 落	雨 雨 雷	朝鮮半島から日本海中部にのびた前線に向って南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり夕方から局地的に雷を伴う激しい雨が降った。富山市、立山町、舟橋村、魚津市など県東部で落雷により1700戸が停電となった。また、魚津市水道局の上水道送水ポンプが停電で停止した影響で、1900世帯が一時断水となった。富山市山田で県道が土砂崩れのため一時片側交互通行となった。
9月7日 ～8日	強	風	台風第14号は日本の南海上を北西に進んだ後、進路を北に変え9月6日に九州の西の海上を北上し、長崎県諫早市付近に上陸した。その後九州北部を縦断し、日本海へ抜けたあと、進路を次第に東よりに変え、日本海を北東進した。台風の接近に伴って、この台風にかき込む南からの湿った空気が山越えとなり、フェーン現象が発生し、県内では強風とともに気温も上昇した。強風にあおられて転倒が小矢部市で1名重傷、高岡市で1名軽傷。強風の影響で、6市町で停電が600戸。倒木や落石で県道の通行止め3か所。交通機関ではJR高山線、JR富山港線で12本運休。農業被害では、果樹の落下量がリンゴ173トン、ナシ134.6トン、その他の果樹（カキなど）9.4トン。コシヒカリは130ヘクタール、花（キクなど）0.2ヘクタールが倒れた。野菜は1.7ヘクタールで茎や葉に傷がついた。また、4棟のビニールハウスが損傷。漁業被害では、魚津市で、ブリ定置網の1カ所が台風の際の潮流の影響で破れた。
11月6日	強	風	6日の県内は、日本海にある発達中の低気圧が北東に進み南寄りの強い風が吹きフェーン現象となった。砺波市で強風のため民家裏のスギの木が倒れ、国

11月8日	強	風	道359号を走行中の車に接触し、運転していた男性は足などを打撲した。風にあおられて転倒したり、飛んできたトタン板が顔にあたり3名が軽傷。農作物の被害状況は、南砺市でかき落果272t、砺波市及び富山市でりんご落果23t、りんご樹の倒伏が30本、南砺市できくの倒伏や茎葉等損傷が0.06h、南砺市で園芸施設12棟のビニール破損。交通機関でも強風の影響で、JRの北陸線、高山線、富山港線で14本運休、29本遅延。富山空港では、2便欠航となった。 8日の県内は、日本海の低気圧が発達し、そこからのびる寒冷前線の通過で強風となった。小矢部市で強風のためスギの木が倒れ国道471号を走行中の車に直撃する事故が2件発生、運転していた男性1名が首に軽傷を負った。氷見市では自転車に乗っていた女性が風にあおられ転倒し病院へ運ばれた。高岡市では強風の影響で市役所8階のエレベータホールの窓ガラスが割れた。また、ポスター掲示板2枚が倒れた。砺波市では収穫したゆず90*₀が傷付き商品として扱えなくなった。
11月23日	雪	崩	11月中旬頃から前線の通過や弱い冬型の気圧配置が続き、山岳では雪となっていた。23日は、はじめ高気圧に覆われていたが、日本海を弱い気圧の谷が東進し、富山では曇りで一時弱い雨が降った。23日午前11時30分頃、北アルプス浄土山中腹でスキーをしていた横浜市の男性(51歳)が、雪崩(高さ約20m、幅約30mの積雪が約100m滑り落ちた)に巻き込まれ生き埋めになり約15分後に助け出し病院に運ばれたが、約4時間後に頭部圧迫による窒息で死亡。
12月4日 ～5日	強 落	雨 雷	4日から5日にかけて、発達した低気圧が能登半島沖からゆっくりと南下し、風の強い状態が続いた。また、上空に強い寒気が入り込んだ影響で大気の状態が不安定となった。4日の18時頃、魚津市で傘をさした歩行中の女性が強風であおられ転倒、後頭部に重傷を負った。また、富山空港では4便が遅延。5日は落雷のため、富山市と南砺市で民家2棟で屋根瓦が焦げ破損する小火、高岡市で民家の2階天井板が落ちる被害があった。また、停電が高岡市で200戸、入善町で180戸。富山市で5戸で電話が一時不通。交通機関ではJR城端線で落雷の為、信号機が故障した影響で、列車2本運休、遅延9本。
12月12日 ～15日	大 落	雪 雷	12日から15日にかけて県内上空に強い寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となった。12日午後6時頃、富山空港に着陸直前の飛行機に落雷した影響などで2便に遅れがでた。また、午後7時10分頃富山市丸の内及び諏訪川原交差点信号機が落雷の影響で故障。13日から15日にかけて、南砺市では除雪等で重傷2名、軽傷3名。小矢部市で死亡1名。立山町で重傷1名。雪の影響による停電が富山市320戸、高岡市220戸、氷見市963戸、南砺市160戸。
12月17日 ～19日	大 落	雪 雷	交通機関では雪による倒木等で氷見市三尾地内県道が全面通行止め。JRでは43本運休の他遅延多数。富山地方鉄道では2本運休の他遅延多数。富山空港では欠航3便、遅延16便。
12月22日 ～25日	大 雪	雪 崩	17日から19日にかけてこの冬一番の寒気が県内上空に流れ込み強い冬型の気圧配置となり、大雪となった。除雪作業等により富山市で軽傷5名、高岡市で軽傷1名、氷見市で重傷1名、小矢部市で軽傷1名、南砺市で重傷2名、軽傷1名、立山町で軽傷1名。小矢部市で住家一部損壊が1棟。富山市では道路冠水2箇所。交通機関では遅延が多数。JRで19本運休、富山空港で19便欠航、万葉線の射水市中新湊駅構内で降雪の影響で脱線、2本運休した。氷見市内では県道の5路線が通行止め。雪や落雷の影響で停電が2083戸あった。また、高岡市東海老坂で送電線鉄塔上部が雪の重みで折れ曲がった。

平成 18 年 (2006)	12 月 26 日 ～30 日	強 大	風 雪	22 日から 25 日にかけて県内上空に強い寒気が入り込み冬型の気圧配置が強まり大雪となった。除雪作業等により負傷者が富山市で 6 人、高岡市で 3 人、氷見市で 2 人、滑川市で 2 人、小矢部市で 1 人、南砺市で 3 人、射水市で 2 人、立山町で 3 人、宇奈月町で 1 人。住宅一部損壊が氷見市で 2 棟、黒部市で住家床下浸水 1 棟、その他 5 市で非住家被害 5 棟あった。また、氷見市内で雪崩や雪による倒木のため、県道及び市道 3 箇所が通行止め。交通機関では運休及び欠航や遅延が多数。停電が 7 市町で 4960 戸。 26 日から 30 日にかけて冬型の気圧配置が続き大雪となった。除雪等による負傷者が 8 市町で 25 人。2 市で雪の重みによる非住家損壊 3 棟。氷見市では雪崩による道路通行止め 1 か所。交通機関では強風や雪による影響での運休及び遅延が多数。停電が氷見市で 5 戸、上市町で 10 戸、南砺市で 1290 戸。
	1 月 3 日 ～12 日	大 雪 低	雪 崩 温	3 日から 5 日にかけて北海道の東海上で低気圧が発達し、強い冬型の気圧配置となり西部や山沿いで大雪となった。9 日は晴れ冬型の気圧配置は一時的に緩んだが、12 日までは弱い冬型の気圧配置が続いた。今期間、除雪作業等による死亡者 1 名、負傷者 42 名、住家損壊 7 棟、住家床下浸水 4 棟、国道及び主要地方幹線道路等の雪崩による通行止め 5 か所、水道管破裂 40 件、また交通機関では運休や遅延等が多数。 県内は 13 日から 14 日にかけて、低気圧に伴う雨や南からの暖かい気流の影響で気温が上がり融雪が進んだ。その後、北日本中心の冬型の気圧配置の日もあったが、20 日まで気温が平年より高くなった。この期間は、積雪の多い県内山間部の一部斜面や国道及び主要地方道路で雪崩や土砂崩れが発生した。また、除雪作業等による死亡者 1 名、負傷者 6 名及び積雪による住家の倒壊 10 棟、停電 3 戸、交通機関では降雪や霧などによる運休や欠航などあった。
	1 月 13 日 ～20 日	融 濃	雪 霧	22 日から 25 日にかけて冬型の気圧配置となり、23 日を中心に断続的に雪が降った。除雪作業等で屋根から転落で 1 名死亡、負傷者 7 名。
	1 月 22 日 ～25 日	降 積	雪	4 日から 5 日にかけて県内上空に強い寒気が流れ込み断続的に雪が降った。また、5 日は今冬初めての真冬日となった。今期間、路面の凍結による転倒などで負傷者 6 名。 16 日から 17 日にかけて、山陰地方沿岸にある低気圧が東北東に進み北陸地方を通過した。南砺市で温泉旅館の裏山の斜面が崩れ同旅館建物一部を損壊した。高岡市では県道斜面が崩れ落ち通行止めとなった。
	2 月 4 日 ～5 日	降 積	雪	
	3 月 16 日 ～17 日	大 融	雨 雪	新潟県までのびていた前線が東に抜け、南から太平洋高気圧に覆われたため、県内各地で気温が上昇した。また、朝の内まで降っていた雨の影響で、富山・伏木では湿度も高かった。高岡市の男性が熱中症による心不全で死亡したほか、富山市などで 4 人が熱中症により病院に搬送された。
	7 月 14 日	高	温	北陸地方付近に停滞している梅雨前線の活動が活発となった。15 日から 19 日にかけて、南砺市・富山市でそれぞれ 1 か所山崩れが発生。小矢部市・氷見市はじめ 6 市町で崖崩れが発生した。富山市では 2 か所で落石があった。土砂災害による人命への被害はなかったが、道路への土砂流出等により、幹線道路 8 か所で通行止めとなった。19 日には冠水による通行止めが富山市と高岡市で計 3 か所。雨量規制も含め、道路の通行止めは合計 24 か所におよんだ。また、富山市では 17 日に非住家の物置が、19 日にはホテルのボイラー室が浸水した。18 日からは伏木富山港で流木により船だまりが埋塞され、小型船が入港できなくなったほか、海岸へ大量の流木が漂着し、撤去に数日を要した。
	7 月 15 日 ～19 日	大 強	雨 雨	
	7 月 21 日	大	雨	
				J R は 17 日から 19 日にかけて北陸線で特急・普通列車合わせて 82 本、高山

7月23日 ～25日	大	雨	線では4本が運休。富山空港では神通川の水位が上昇したため、富山発着の全日空3便が欠航となった。 梅雨前線上の低気圧が北陸地方を東北東進し、前線の活動が活発となった。南砺市でのり面崩壊が発生し、県道砂子谷埴生線が全面通行止めとなった。 九州から本州南岸に停滞していた梅雨前線が北上し、活動が活発となった。
7月30日 ～8月27日	高	温	砺波市庄川町において、高さ10m・幅8m・深さ7mにわたって崖崩れが発生し、国道156号線が通行止めとなった。24～25日にかけて、南砺市・立山町で雨量規制による道路の通行止めが計3か所あった。
8月12日	強 落	雨 雷	7月30日の梅雨明け以後、太平洋高気圧に覆われる日が多く、このため県内では気温の高い状態が続いた。8月6日、高岡市の女性が熱中症により病院に搬送されたが死亡したのをはじめ、7月30日から8月27日にかけて、県内では熱中症と見られる症状で病院に搬送された人数は100人を超えた。 上空に強い寒気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり、高岡市伏木では、最大1時間降水量39.5mmを観測するなど、県内の所々で雷を伴った激しい雨が降った。落雷により送電が停止し、富山市・高岡市など4市1町で約4050世帯が最長4時間30分にわたって停電、高岡市で10数カ所、県全体では約25カ所の信号機が停止するなど各地で停電の被害があった。氷見市・小矢部市では側溝から溢れた雨水により、住家・非住家8棟が床下浸水した。小矢部市では道路脇の斜面が2mにわたって崩れ、県道が通行止めとなった。交通機関への影響は、JRでは県内を通過する18本の列車が運休し、富山空港では富山発着の7便に遅れが発生した。
9月6日 ～7日	大 強 落	雨 雷	南岸に停滞していた前線が北上して、南から暖かく湿った空気が流入した。また、上層寒気も流入した影響で大気の状態が不安定となり、県内では6日から7日にかけてまとまった雨となり、7日には県内の所々で落雷があった。JR氷見駅では落雷により信号機が故障、上下線で2本が運休、2本に遅れが出た。高山線・城端線も含め計4本が運休、5本に最大77分の遅れが発生した。また、入善町役場前の信号機に落雷し、約2時間にわたり信号機が使用できなくなった。南砺市と立山町の県道では落石により、高岡市の市道では冠水によりそれぞれ通行止めとなった。雨量規制による5カ所を含め、計8カ所で道路が通行止めとなった。
10月7日 ～8日	波	浪	北海道の東海上には発達した低気圧があつてゆっくり北東進。この低気圧の影響で富山湾の海上では波が高くなっていた。10月8日11時50分頃、高岡市の雨晴マリーナ沖合で、プレジャーボートが波を受け、乗っていた1名が転落し、収容先の病院で死亡。
10月8日 ～9日	波	浪	北海道東海上には発達した低気圧があつてゆっくり東進。この低気圧の影響で富山湾では波の高い状態が続いていた。10月9日07時頃、高岡市太田の雨晴マリーナ防波堤で、釣りをしていた2名が高波にさらわれ海中に転落。1名は救助されたが、もう1名は行方不明となり、後日遺体で発見された。
11月7日	強	風	日本海北部を低気圧が発達しながら北東進し、中心からのびる寒冷前線が県内を通過した。このため、富山市で26.3m/s、高岡市伏木で25.4m/sの最大瞬間風速を観測するなど、県内全般に風が強まった。入善町では強風にあおられた女性が転倒し、右足を骨折。富山市と黒部市では転倒による頭部打撲でそれぞれ1名が病院に搬送された。また、高岡市、魚津市、富山市の果樹園では収穫予定のリンゴが落果するなどの被害があった。交通では、倒木により県道小矢部伏木港線が高岡市内で一時的に全面通行止めとなり、JR西日本では強風による運休や遅れが相次いだ。
12月28日 ～29日	降 積	雪 雪	

平成 19 年 (2007)	1 月 7 日	落 強	雷 風	28 日 09 時、千島列島東海上には発達した低気圧があつて東進。大陸には高気圧があり、日本付近は強い冬型の気圧配置となった。このため、県内は 28 日から 29 日にかけてまとまった降雪となった。富山空港では、降雪による視界不良や滑走路への積雪により、富山発着の 5 便が欠航となり、着陸できなかった 2 便が目的地を変更した。また、3 便に最大 3 時間 40 分の遅れが発生した。
	2 月 14 日 ～15 日	強 波	風 浪	低気圧が発達しながら千島列島付近を北東進。500hPa では強い寒気が流入し、日本付近は強い冬型の気圧配置となった。このため、県内では雷が所々で発生し、また、強風となった。富山空港に着陸する 2 便が機体に落雷を受け、同機を使用する東京行き、札幌行きの各便にそれぞれ 45 分の遅れが発生した。JR 北陸線・信越線・北越急行線では、北陸各県の路線内で規制値を超える風速となったため、運休・遅延が多発した。
	3 月 5 日	強	風	日本海中部を低気圧が発達しながら北東に進み、14 日 21 時には三陸沖に抜けた。このため、県内では 14 日は南から西よりの風、冬型が強まった 15 日には西よりの風がともに非常に強く、海上ではしけとなった。小矢部市では 15 日に女性が強風にあおられて転倒し、大腿骨を骨折する重傷を負った。魚津市では倒木が電線を切断し、320 戸が一時停電。県内の 6 スキー場では営業中止やリフト運転を見合わせるなど、強風による被害が相次いだ。また、黒部市の県道富山朝日自転車道線が越波により全面通行止めとなった。鉄道では、JR 高山線で普通列車 10 本が運休し、富山地方鉄道では架線に木の枝が引っかかり、撤去のため普通列車 4 本に 30 分の遅れが発生した。JR 北陸線や北越急行線などでは北陸各県の強風により、14 日から 15 日にかけて 150 本を超える列車に運休・遅延が発生した。
	3 月 7 日	降 積	雪 雪	前線をともなった低気圧が発達しながら日本海を北東進したため、富山県では南よりの風が非常に強く、富山では、31.0m/s の最大瞬間風速を観測した。この風により、富山市では走行中のトラックが横転、砺波市では作業中の転倒があり、計 2 名が重傷を負った。また、歩行中の転倒・割れた窓ガラスによるけがなど、計 10 名が軽傷を負った。南砺市ではビニールハウスが強風により飛ばされ、電柱を破壊したことにより約 180 戸が停電したのをはじめ、電線の切断により南砺市・富山市で約 2240 戸が停電した。鉄道では、JR 高山線で 16 本が運休となり、北陸線では約 150 本の列車に運休・遅延が発生した。また、強風によるトラックの転倒事故が 6 件発生し、北陸自動車道で発生した事故により富山ー立山 IC 間が一時通行止めとなった。その他に、倒木等により国道・県道で 5 か所が通行止めまたは片側交互通行となった。
	3 月 31 日	落 強	雷 風	6 日の夜以降、冬型の気圧配置は緩んだが、7 日には関東の東海上に低気圧が発生し東進。また、500hPa および 850hPa では寒気が流入したため、6 日の午後から 7 日にかけて断続的に降雪が続いた。富山空港では 7 日、降雪による視程障害のため 1 便が欠航、4 便に最大 3 時間の遅れが発生した。朝日町の北陸自動車道では、雪による乗用車のスリップ事故により、黒部ー朝日 IC が一時通行止めとなった。また、県内各地で計 45 件のスリップ事故が発生し、4 人が軽傷を負った。 31 日 15 時、日本海中部には低気圧があり東進。中心からのびる温暖前線が通過後県内では風が強まり、富山では最大瞬間風速 30.0m/s を観測した。また、寒冷前線の前面に湿った空気が流入し、富山では 15 時過ぎから激しい雷雨となった。落雷により、黒部市で約 1500 戸、入善町で約 450 戸が停電、小矢部市では公民館を全焼する火事が発生した。交通機関への影響は、富山市・小矢

4月18日	雪	崩	部市で信号機への落雷のため道路交通が乱れ、富山地方鉄道では信号機・遮断機への落雷により列車15本に最大20分の遅れが発生した。 また、雷や強風の影響により、JR高山線で普通列車8本が運休、12本に最大4時間30分の遅れが発生、JR西日本では高岡発富山行きの普通列車7本が運休したほか、特急・普通計36本が最大1時間53分遅れた。富山空港では2便が欠航し、2便が最大40分の遅れとなった。 三陸沖に中心を移した移動性高気圧に覆われた。中新川郡立山町の北アルプス剣御前小屋から南西約300mの雷鳥沢で雪崩が発生した。この雪崩に3名のスキーヤーが巻き込まれ、周りのスキーヤー等により救出されたが、心肺停止の状態で救出された男性1名が搬送先の病院で死亡、他の2名は骨折・打撲などの重軽傷を負った。 千島の東にある低気圧の中心からのびる前線が、東北地方南部から能登半島付近を経て朝鮮半島南部に停滞している。この停滞前線の南側に湿った空気が流入し、富山県内では13時過ぎから15時前にかけて雷雨となった。14時25分ころ、富山市八尾町の住宅で落雷が原因と見られる火災が発生し、屋根裏や二階の天井などが焼け、屋根瓦が周囲に散乱した。住人にけがはなかった。
4月22日	落	雷	日本海西部に中心を持つ発達した低気圧が北東に進んでいる。また、日本の南にある前線上に低圧部があり南岸を東北東進。これらの影響により富山県内では午前3時頃から南よりの風が強まった。この強風により、JR高山線では越中八尾ー猪谷間が始発から運転を見合わせ、普通列車6本が区間運休。運転再開後も普通列車5本に最大約30分の遅れが発生した。富山地方鉄道では、富山ー岩峯寺間で徐行運転し、上下線5本に最大約30分の遅れが生じた。また、JR北陸線では、新潟県糸魚川市に設置されている風速計が規定値を超え運転を見合わせたため、富山県内を通過する特急列車・普通列車などに運休・遅延が発生した。
5月17日	強	風	8日09時、日本海西部の上空5700m付近には-18℃以下の寒気を持つ低気圧があり、9日にかけて山陰地方に南下した。このため、富山県内では8日から9日にかけて、断続的に雷雨となった。8日、高岡市手洗野では住宅の二階部分約100㎡を焼く火災が発生し、高岡市中曽根では事務所の電力計が焼けた。9日には射水市宮袋で住宅の屋根や天井約50㎡を焼く火災が発生。また、上市町放士ヶ瀬では住宅の屋根瓦が割れ、付近の電柱への落雷で住宅数軒の電話が一時不通となった。富山地方鉄道では黒部市内の踏切5か所の警報機が故障し、一時的に遮断機が下りたままとなり、普通列車4本に最大14分の遅れが発生した。上記災害における人的な被害はなし。すべて落雷が原因と見られる。
6月8日 ～9日	落	雷	21日15時現在、東北地方～日本海中部～朝鮮半島付近に停滞していた梅雨前線が22日にかけて当地方を南下した。このため、富山県内では21日から22日にかけて雨量がまとまり、多いところで125mmの大雨となった。22日、高岡市羽広のJR北陸線高架橋下の市道で約10～20cmの冠水があり、冠水した場所を含む約150mの区間が09時15分から20時まで通行止めとなった。また、規制雨量を超えたことにより、県道朝日宇奈月線の黒部市宇奈月町音沢から宇奈月温泉間の約1.8kmの区間が22日13時15分から通行止めとなった。
6月21日 ～22日	大 強	雨 雨	29日09時現在、日本海中部には前線を伴った低気圧があり、東北地方を通り29日21時には三陸沖に抜けた。また、低気圧の中心からのびる寒冷前線が29日夜、当地方を通過した。これらの影響により29日から30日にかけて富山県内では大雨となった。特に東部では降水量がまとまり、立山では253mmの降水量を観測した。高岡市羽広のJR北陸本線高架橋下の市道で約30cmの冠水が
6月29日 ～30日	大 強	雨 雨	

8月2日 ～26日	高 温	あり、29日08時10分から通行止めとなった。また、規制雨量を超えたことによる道路の通行止めが29日から30日にかけて4か所あった。29日には立山有料道路（立山町）の桂台－美女平の間が17時30分より、県道朝日宇奈月線（黒部市宇奈月町）の音沢－宇奈月温泉の間が21時30分より、30日には、県道有峰林道（富山市）の全線が06時より、県道弘法・称名立山停車場線（立山町）の飛龍橋－桂台の間が07時よりそれぞれ通行止めとなった。 8月1日の梅雨明け以降、富山県では太平洋高気圧に覆われる日が多くなった。このため、今期間内は県内のほぼ全域で最高気温が30℃以上の日が続いた。また、8月の最高気温35℃以上の日数は富山で14日間となり、これまでの記録を更新した。高温等が原因と考えられる熱中症が多発し、県内で5人が死亡したのをはじめ、13市町で149人が病院に搬送され手当を受けた。8月2日には魚津市で81歳の女性が農作業中に熱中症で倒れ死亡。5日には高岡市でボートの整備をしていた51歳の男性が病院に搬送されたが、熱中症による急性腎不全で死亡した。このほか、15日には富山市で1人、砺波市で1人、20日には入善町で1人死亡し、熱中症による死亡者の合計は5人となった。
8月6日	強 風	日本の東にある高気圧に覆われて、6日の最高気温は、富山で33.9℃、高岡市伏木で32.1℃を観測し、午後から富山県西部を中心に雷雲が発達し、所々で雷を伴った激しい雨となった。15時頃、強い雷雲が通過した高岡市中保では、突風により民家や車庫が全壊・一部損壊等の被害が発生した。現地調査を行い被害状況を確認したところ、この突風はダウンバースト(F1スケール)の可能性が高いとの結論に至った。この突風により、約57㎡の木造トタン張り車庫および軽量鉄骨の事務所約11㎡が全壊したのをはじめ、中保一帯で、住家の屋根瓦・外壁・窓ガラス・シャッターの一部損壊が34件、車庫・納屋・倉庫・物置等の非住家の一部損壊が14件発生した。その他、飛散した瓦により車のリアガラスが全損、フェンスが倒れる等の被害が5件、倒木が2か所で5本、電話線の切断が2か所で発生した。また、ほぼ同時刻に落雷による被害も発生した。高岡市鐘紡町・木津新町・泉町では送電スイッチへの落雷により約1200世帯が1時間40分ほど停電したほか、市内3か所で一時的に信号機が停止した。この突風および落雷による人的被害はなかった。
8月22日 ～23日	大 強 落 雷	22日09時現在、前線がサハリン付近から日本海中部を経て朝鮮半島にのびており、22日夜、北陸地方を通過。この前線の影響により富山県内の所々で22日に最大1時間降水量50mm以上の強雨があり、アメダス5地点で22日から23日にかけての総雨量が100mmを超える大雨となった。また、富山では22日午後から夜遅くにかけては雷を観測している。22日、富山市婦中町および富山市小杉では住家の床下浸水があり、魚津市、氷見市ではそれぞれ1か所で道路が冠水した。23日にかけては、富山市八尾町で国道472号線と県道・市道の4か所で土砂崩れや道路の法面崩壊が発生した。土砂崩れおよび雨量規制などで、県内で通行止めもしくは片側交互通行となった道路は10か所にのぼる。また、高岡市辻では22日、落雷により踏切が故障したため、県道が通行止めとなった。交通機関への影響は、富山空港で雷雲の接近・通過により3便に遅延・目的地の変更が発生し、JR高山線・城端線では一時運転を見合わせた。東海北陸自動車道では、福光－五箇山インター間が一時通行止めとなった。
11月12日	落 雷	11日から12日にかけて、輪島上空の5500m付近にはおよそ-28℃の寒気が流入。また、地上では東北北部に低気圧が停滞し、一時的に冬型の気圧配置が強まった。このため、県内の所々で雷雨となり、県西部では落雷による被害が発生した。12日06時35分ころ、南砺市土生新では住宅に落雷し、一階の押入

平成 20 年 (2008)	12 月 3 日	落 雷	約 2 m²および布団が焼けた。また、小矢部市平桜でも住宅への落雷により、二階屋根瓦および天井に直径約 10cm の穴があいた。鉄道では、JR 城端線の砺波－東野尻間の遮断機 5 箇所が落雷により故障し、最大約 1 時間に渡り遮断機が下りたままとなったが運行に支障はなかった。 3 日 09 時現在、能登半島の北には前線をともなった低気圧があり東進。昼前には寒冷前線が当地方を通過。上空に寒気が入り大気の状態が不安定となり、昼過ぎには県内の所々で雷雨となった。魚津市では、民家の屋根に落雷し、天井板 0.2 m²やテレビアンテナの配線を焦がした。また、ケーブルテレビの伝送路が落雷による被害を受け、約 600 世帯がケーブルテレビの視聴ができない状態となった。鉄道では、魚津市内の JR 北陸線の踏切設備が落雷により故障。並走している富山地方鉄道を含め、上下線 10 本に最大 15 分の遅れが発生した。 12 月 30 日以降輪島上空には-35℃以下の寒気が入り、地上では冬型の気圧配置が強まった。このため、富山県内では 12 月 30 日から 1 月 1 日にかけて断続的に雷をともなった降雪となった。30 日には砺波市の民家敷地内の杉に落雷したことにより、付近の民家を含む 5 棟で窓ガラスが割れるなどの被害が発生した。また、同日、富山空港に向けて飛行中の全日空機に落雷したことにより、機体整備のため同機を使用する札幌便の出発が大幅に遅れた。富山空港ではこのほか、12 月 30 日から 1 月 1 日にかけて、滑走路への積雪や降雪による視界不良により、欠航 4 便、遅延は 19 便発生した。鉄道では着雪による架線・信号機故障などで、富山地方鉄道で 13 本が運休、28 本が遅延したほか、富山ライトレールでも落雷による信号機故障により一時的に全線が運休となった。
	12 月 30 日 ～1 月 1 日	落 雷 大 雪	
	1 月 16 日 ～18 日	低 温 大 雪	16 日以降、冬型の気圧配置が強まり、輪島上空には 18 日にかけて寒気が流入した。このため、県内では 16 日から 17 日の夕方まで断続的に降雪が強まり、16 日 09 時から 17 日の 09 時の積雪深差は砺波で 47cm を観測した。また、県内は 17 日から 18 日にかけて気温の低い状態が続き、両日とも最低気温は氷点下となり、上市では 17 日に最低気温-6.7℃を観測した。路面への降雪・積雪および凍結により、16 日夜から 18 日の朝までに、県内で車のスリップによる物損事故が計 162 件、人身事故が 24 件発生した(これらの事故による負傷者数は不明)。また、富山空港では視界不良などにより、16 日・17 日の両日で計 3 便に最大 40 分の遅れが発生した。このほか、JR 西日本では普通列車が 10 分前後遅れ(遅延本数不明)、北陸自動車道では全線で 50km/h 規制となるなど、交通機関への影響が多かった。 24 日から 25 日にかけて冬型の気圧配置が強まり、上空には寒気が流入した。このため、県内では断続的に雪が降り、富山では 2 日間で計 12cm の降雪量となった。また、気温の低い状態が続き、富山の 25 日の最低気温は-3.3℃、平均気温は-0.7℃を観測した。この降雪および低温により、道路ではスリップ事故が多発し、24 日夕方から 25 日夕方までに計 120 件の事故が発生した。このうち、25 日朝から夕方までの人身事故は 8 件で、延べ 9 人がけがをした。 低気圧が日本の東海上に抜けた後、4 日 3 時には日本海西部に低気圧が発生し、弱まりながら東南東進した。富山では 3 日の午後から夜にかけて雨が降った。その後、翌朝にかけて晴れたため、4 日の朝は気温が下がり路面が凍結した。4 日 7 時前、射水市の国道 472 号で大型トレーラーが凍結した路面でスリップし、道路脇の寺の庫裏に衝突した。この衝撃により、庫裏の部屋にいた女性が軽傷を負った。トレーラーを運転していた男性も軽傷。この事故を含め、3 日夜から 4 日朝にかけて路面凍結による車のスリップ事故が 47 件発生し、12 人が軽傷を負った。
	1 月 24 日 ～25 日	低 温 降 雪 積 雪	
	2 月 3 日 ～4 日	低 温	
	2 月 12 日 ～17 日	低 温 大 雪	

2月24日	波	浪	2月12日から17日にかけて輪島上空には寒気が流入し、地上では冬型の気圧配置が続いた。このため、断続的に降雪が続き、この期間における富山の降雪の深さの合計は65cmとなった(欠測を含む)。また、気温の低い状態も続き、上市では期間の平均気温が-1.9℃となり、平年より2.2℃低くなった。路面の凍結により、県内各地で車のスリップ事故が多発。富山県警察本部の集計では、12日16時から17日16時までに209件の事故が発生。合計22人が負傷した(全て軽傷)。降雪や積雪による交通機関への影響もあった。富山空港では、13日から17日にかけて、富山発着便の5便が欠航、遅延は20便にのぼった。このほか、北陸自動車道・能越自動車道で速度規制が行われた。 2月23日、低気圧が日本海中部を発達しながら東北東に進み、24日には三陸沖に達し、日本付近では冬型の気圧配置が強まった。この発達した低気圧の影響で、23日から24日にかけて北西の風が強く、富山県の沿岸では24日の明け方から、うねりを伴い波が高くなった。24日05時50分ごろ、射水市新湊漁港沖合いで高波を受けた漁船から2人が海に転落した。このうち男性1人が搬送された病院で死亡した。入善町では高波に流された男性1人が行方不明となり、25日遺体で発見された。人的被害は死者が2名、重傷者が1名、軽傷者が15名となっている。また、越波により住家にも被害が発生している。入善町で4棟が全壊、7棟が半壊、46棟が一部損壊したのをはじめ、朝日町・黒部市を含め161棟が床上・床下浸水した。非住家の被害は2市2町で全壊・半壊・浸水など283棟にのぼった。港湾における被害も大きく、伏木富山港において、岸壁や防波堤・消波ブロックが破損・決壊したほか、航路標識の流出、岸壁・緑地・駐車場などに土砂が堆積するなどの被害が11箇所に及んだ。各漁港では、防波堤の堤防損壊や消波ブロックの沈下など19箇所が被害を受け、漁船の転覆・破損が66隻あり、定置網や刺網が流されたり損壊するといった被害もあった。海岸施設でも護岸ブロックの欠損や離岸堤ブロックの沈下などが海沿いの市町で多数発生した。
7月7日 ～8日	大 強 落	雨 雷	7日から8日にかけて、南から暖かく湿った空気が入り、上空を寒気を伴った気圧の谷が通過したため、雷を伴う非常に激しい雨が降り、突風も発生した。県内のアメダスでは7日23時から8日15時までの総降水量が100mmを超えるところがあるなど大雨となった。立山町では、増水した川に流されて1人が死亡した。富山市などの9市町村で、床上浸水7棟、床下浸水213棟が発生した。各地で、土砂崩れにより道路が通行止めとなり、JR各線で列車の運休が53本になり、遅延も発生した。さらに、落雷により872戸が停電した。
7月8日	竜	巻	気圧の谷の通過で、積乱雲が発達し、局地的に突風が発生した。8日14時頃、強い雷雲が発生した高岡市醍醐地区では、突風により住宅の屋根瓦やテレビアンテナの破損、車庫の屋根及びシャッターの全損、ビニールハウスのビニールがめくれる等の被害が5件発生した。現地調査を行い被害状況を確認したところ、この突風は竜巻(F0スケール)の可能性が高いとの結論に至った。
7月28日	大 落	雨 雷	7月28日、未明から北陸地方に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、雷を伴って非常に激しい雨が降った。県内のアメダスの観測では、多いところで1時間に70mmを超える大雨となった。この雨で県内の各地で、床上、床下浸水害、土砂崩れによる家屋の倒壊などが発生した。南砺市では、土砂崩れで住宅の全壊が2棟、半壊などが5棟発生した。富山市では、車が土砂崩れに巻き込まれ乗っていた1名が重傷となった。南砺市などの4市町では、床上浸水92棟、床下浸水273棟が発生した。南砺市では、道路の損壊で孤立集落が発生したり、河川の増水で避難勧告
8月15日	大	雨	

～16 日	強	雨	が発令された。また、各地で土砂崩れにより道路が通行止めとなり、停電 1045 戸や断水、農地の冠水なども発生した。 15 日から 16 日にかけて、日本海に停滞していた前線が北陸まで南下して活動が活発になった。この影響で、雷を伴い非常に激しい雨が降った。県内のアメダスでは、15 日 23 時から 16 日 24 時までの総降水量が 180mm を超えるところがあった。16 日、富山市などの 5 市で、大雨による床上浸水 6 棟、床下浸水 191 棟の被害が発生した。また、各地で土砂崩れや規制雨量の超過で道路が通行止めとなった。道路や農地が冠水し、J R 北陸線や高山線を中心に、列車の運休が 12 本発生した。 県内には暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定になり、局地的に強い雨が降った。小矢部市消防本部の記録では、1 時間に 70mm の激しい雨が降った。小矢部市では、用水があふれて民家 1 棟が床下浸水した。さらに、国道が冠水し水深が 50～60cm になったため、乗用車 1 台が水に浸かって動けなくなつたが、運転していた男性は自力で脱出し無事だった。また、氷見市では農道のり面が崩れるなどの被害が出た。J R 北陸線では、普通列車 4 本が運休、特急 11 本と普通列車 8 本が最大で 43 分遅れ、約 4800 人に影響が出た。 上空への寒気の流入と日中の昇温で、大気の状態が不安定になり局地的に激しい雨が降った。アメダスの砺波では、1 時間に 40.5mm の激しい雨が降った。砺波市では、用水があふれて住宅 3 棟が床下浸水した。さらに、市道が冠水した他、民家 10 世帯で一時停電した。また、南砺市でも住宅 1 棟が床下浸水した。
9 月 6 日	大	雨	
9 月 7 日	大 強 落	雨 雨 雷	
11 月 9 日	波	浪	
11 月 19 日 ～20 日	落 強 降 積	雷 風 雪 雪	北海道の東海上には低気圧が、大陸には高気圧があり、北日本中心の冬型の気圧配置となった。富山県には、波浪注意報を発表していた。射水市海老江の防波堤で、小学生 2 人が高波にさらわれて海に転落した。1 人は頭の骨を折る重傷、もう 1 人は自力で堤防にはい上がりけがはなかった。 19 日から 20 日にかけて、日本付近は冬型の気圧配置が強まり、輪島上空 5400m 付近にはこの秋一番の強い寒気が入った。このため、県内では 19 日は大気の状態が不安定となり所々で雷が発生した。また、19 日から 20 日にかけて南西または西の強風となった。富山市では、落雷のため 19 日 05 時 30 分から最大で 3 時間半にわたり、約 300 戸が停電した。また、19 日 17 時 40 分頃、全日空東京発富山行第 5 便が富山湾上空で落雷を受けた。乗客乗員 271 人にけがはなかったが、機首部分が損傷したため折り返し便の東京行が欠航した。19 日 12 時 10 分ごろ朝日町の製材所跡地で、強風のため高さ約 7m の杉 3 本が倒れ、県道をふさいだ。このため、県道が約 2 時間通行止めとなった。19 日 14 時 10 分ごろ、富山市八尾町の国道で、乗用車ががけから約 70m 下の大長谷川左岸に転落した。乗用車を運転していた男性は全身を強く打ち重傷。路面の一部がシャーベット状になっており、スリップしたかハンドル操作を誤った可能性があるとして警察が調べている。
12 月 14 日 ～15 日		雨	日本の南海上を低気圧が北東に進み、上空には寒気が流れ込んだ。このため、雨であられを伴った所があった。砺波市桧上の県道井栗谷・大門線で、片側の車線約 20m が崩落しているのを住民が見つけた。県によると、2 車線の県道の片側 1 車線約 20m が、ガードレールなどとともに道路下にある和田川まで崩落した。斜面全体は、幅約 40m 高さ約 50m にわたって崩れ落ちた。地盤が地下水などで緩んでいた可能性が高いとみられている。この一帯は、国の地すべり防止区域に指定されている。
12 月 22 日	強	風	
12 月 25 日	落	雷	日本海の寒気を伴った低気圧の影響で、県内では強い風が吹いた。22 日 15

～28 日	降 積 雪	雪 雪	時 50 分ごろ、富山市水橋中村町、舘町など計 13 町内の住宅や事業所 321 戸が停電となり、同 18 時すぎに復旧した。北陸電力などによると、強風で電線同士がぶつかり、高圧電線 1 本が切れたとみられている。 25 日は、寒冷前線の通過に伴い、大気の状態が不安定となり各地で落雷が発生した。26 日から 28 日にかけては、冬型の気圧配置が強まり、山間部を中心に積雪となった。25 日 15 時 40 分ごろ、砺波市東石丸で、落雷により民家の天井約 1 m²が焼けたが、家人が消火しケガ人はなかった。また、ＪＲ北陸線や氷見線・富山地方鉄道・富山ライトレールの各線では、落雷による信号機の故障などで、列車 9 本が運休し、33 本に遅れが発生した。 26 日、全日空東京発富山行き第四便が、富山空港の雪のため小松空港に臨時着陸した。また、富山～札幌便など 3 便が欠航した。さらに、東京行きの最終便が 35 分遅れた。28 日 7 時 10 分ごろ、入善町の北陸自動車道で、スリップによる車 2 台の衝突事故があり、1 名が死亡し、7 名が重軽傷を負った。事故当時、現場付近の路面 にはシャーベット状の雪があり、滑りやすい状態だったとみられる。この事故の前後 1 時間ほどの間に、3 件の単独スリップ事故も相次いだ。
-------	-------------	--------	--

資料：富山地方気象台

2. 平成21年(2008年)～令和6年(2024年)
この年表は、気象災害報告からの出典である。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
平成21年 (2009年) 1月 12日 ～13日	大雪	積雪害 陸上視程不良 害 その他(雪害)	東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 冬型の気圧配置となり強い寒気が流れ込んだため、12日から13日にかけて、県内では断続的に雪が降り大雪になった。 【災害概況】 12日には、視界不良のため富山空港では4便が欠航し、行き先の変更や出発の遅れも発生した。JR北陸線で列車5本が運休し、最大で1時間10分の遅れがでた。朝日町草野のJR北陸線の踏み切りでは、視界不良で誤って線路に入った軽乗用車と普通列車が衝突したが、けが人はなかった。列車は現場に1時間停車し、後続の列車に影響がでた。 13日は、富山空港を発着する空の便は3便が欠航した。富山地方鉄道本線では12本が、運休・区間運休し、遅延も発生した。 12日から13日にかけて、路面への積雪・凍結により高速道路でスリップ事故が相次いだ。この影響で、高速道路が合計5区間で通行止めとなった。高速道路と一般道でのスリップ事故は、物損事故が234件あり、13人がけがをした。
1月 18日	強風	強風害	東部	日本海低気圧	【気象概況】 日本海を低気圧が発達しながら通過したため、18日夕方頃から東部南を中心に風が強くなった。 【災害概況】 18日19時頃、富山市大沢野で強風で電線が切れ、5世帯が約1時間20分にわたって停電した。
1月 19日	雷	落雷害	東部	寒気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 冬型の気圧配置になった影響で、大気の状態が不安定になり雷が発生した。 【災害概況】 入善町では、12時50分ごろ上青小 schools で敷地内の電柱に落雷があり、この衝撃で校舎のガラス3枚が割れたが、けが人はなかった。時計や電話回線にも故障が発生した。同校付近の国道8号バイパスでは、同時刻に信号機などが故障した。 朝日町では、12時55分ごろ特別養護老人ホームで、落雷の振動で給湯室の窓ガラスが割れたが、近くにはおらず入所者などにけがはなかった。
1月 24日	大雪	積雪害 その他(雪害)	東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 冬型の気圧配置が強まり、断続的に雪が降った。 【災害概況】 富山空港を発着する空の便は、富山発の4便が欠航し、富山着の2便が小松空港に行き先を変更した。24日8時30分から16時までに31件のスリップ事故があり、2人がけがをした。
1月 31日	大雨 融雪	山がけ崩れ害	東部 西部	南岸低気圧	【気象概況】 関東の東海上で急速に発達した低気圧の影響で、風が強く、海では波が高い荒れた天気となった。また、雨により山間部を中心に雪どけが進んだ。 【災害概況】 16時30分ごろ、南砺市杉尾(平)の国道156号線の袖川橋(長さ約23m)に、土砂が広範囲に堆積しているのが発見された。橋の上に堆積した土石は高さが80cmに達した。このため、現場付近の約200m区間を通行止めにした。31日未明から降り続いた雨で、地盤が緩んでいたことに加え、袖川に大量の土石が流れ込んだためとみられる。 また、富山市婦中町でも国道の法面が崩壊した。
2月 11日	雷	落雷害	東部	寒気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 寒気を伴った低気圧が、日本海中部を東に進んだ影響で大気の状態が不安定になった。 【災害概況】 20時ごろ、富山市下大久保(大沢野)で落雷により、木造二階建て住宅の一階トイレの壁約0.5㎡を焦がした。
2月 13日	強風	その他(風害)	東部	日本海低気圧	【気象概況】 低気圧が、日本海中部を発達しながら北東に進んだため、県内は南よりの強い風が吹いた。 【災害概況】 JR高山線で、名古屋発富山行きの特急と普通列車の計4本が区間運休し、計8本に最大2時間25分の遅れが発生した。この影響で約250人に影響が出た。
2月 16日 ～18日	降雪または 積雪	積雪害 その他(雪害)	東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 16日から18日にかけて県内は冬型の気圧配置が強まり、16日の昼過ぎから18日の朝にかけて雪が降り、アメダスの猪谷で30cm、砺波では16cmの積雪を観測した。また、17日は今冬一番の冷え込みとなり、朝の最低気温は富山で－3.6℃、高岡市の伏木で－3.1℃を観測した。 【災害概況】 この3日間で、富山空港を発着する航空機6便が欠航し、2便が行き先を変更、2便に遅れが発生した。17日を中心に、計129件のスリップ事故が発生し25人が負傷した。16日21時ごろ、小矢部市の北陸自動車道で発生した乗用車と大型トラックなど計5台が絡む多重衝突事故で、上り線が通行止めとなった。
3月 13日 ～14日	強風	強風害 その他(風害)	東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 13日は低気圧が、日本海を急速に発達しながら北東に進み、この低気圧からのびる寒冷前線が、夜遅く北陸地方を通過した。富山県内は、夕方から夜にかけて、南寄りの強風が吹き荒れた。 【災害概況】 13日20時40分ごろ、立山町の県道・新常願寺川橋でトラックが、強風を真横から受け横転した。南砺市山見(井波)では、道路を歩いていた砺波市の女性が風にあらわれて転倒し、両手や右ひざに軽いけがを負った。富山市月見町の市営住宅ではトタン屋根の一部が飛ばされ、この住宅に住む男性が、近くの公民館に避難した。その他にも、住宅や店舗の一部が壊れる被害が発生した。県農業技術課の調べでは、富山市・高岡市・南砺市などで、農業施設34棟が損壊または一部損壊した。富山では20時13分に最大瞬間風速30.3mを観測した。富山市や新潟県内などの強風で、JR北陸線と高山線で特急など計59本が運休・区間運休し、165本の列車に遅れが生じた。強風で電線が電柱に触れてショートしたため、富山市内の401戸が停電した。また、北陸自動車道富山ー立山インターチェンジ間の上下線が、13日22時から14日1時45分まで通行止めになった。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
3月 14日	雷	落雷害	東部	寒気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 上空に寒気が入り、大気の状態が不安定となったため雷が発生した。 【災害概況】 14日15時40分ごろ、富山湾上空で東京発富山行きの全日空機に雷が落ちた。乗客238人にけがはなかった。折り返しの富山発の東京便は修理で出発が遅れたため、乗客約130人は次の便で東京に向かった。
3月 17日	雷	落雷害	西部	寒気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 北陸地方を、上空に寒気を伴った気圧の谷が通過した。 【災害概況】 17日6時40分ごろ、射水市七美(新湊)で落雷により、木造二階建て住宅の屋根裏約45㎡を焼いた。この火災で消火活動をしていた近くの住民が、煙を吸い病院で手当を受けた。
4月 1日 ～2日	その他(雨)	地すべり害	西部	気圧の谷 寒気の移流	【気象概況】 気圧の谷の通過で、4月1日から2日にかけて雨が降った。 【災害概況】 3日20時15分ごろ、水見市新保で、県道沿い18mにわたって土留めが、道路側に20～60cmほど押し出されていた。現場は、水見市中心部から北西に約5kmの中山間地。市などは、現場近くの4世帯に対し、公民館などに避難するように呼び掛けた。現場から山側に70mほど入った場所には、長さ約20mの亀裂が2ヶ所見つかり、地すべりとみて原因を調べている。現場付近の県道の片側1車線を通行止めにした。 5日に応急復旧工事が完了し、地盤の動きは収まった。
4月 12日	濃霧	陸上視程不良害	東部 西部	その他(高気圧)	【気象概況】 優勢な移動性高気圧に覆われた。 【災害概況】 12日2時ごろ、JR北陸線の石動～高岡駅間と東富山～黒部駅間で濃霧が発生したため、普通列車4本が運休、区間運休した。ほかにも、特急と普通列車計30本に最大55分の遅れが出た。JR西日本金沢支社によると、濃霧は9時30分ごろまでに収まった。計約4,000人に影響が出た。
4月 21日	強風	強風害	東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 日本海西部に発生した低気圧が、発達しながら日本海を北東に進んだため、県内は南寄りの強風となった。 【災害概況】 21日7時55分ごろ、富山市上二杉で木造車庫のトタン屋根(縦約5m、横約3m)が強風ではがれた。同3時ごろには、南砺市山見で車庫のトタン屋根が吹き飛ばされ、近くの民家2軒と別の車庫の屋根や壁などが壊れた。 また、JR西日本金沢支社によると、北陸線は特急を含む18本が運休し、40本が最大で2時間44分遅れた。高山線は20本が運休し、13本に最大2時間29分の遅れが出た。計約11,700人に影響が出た。 さらに、県内各地で農家のビニールハウス等に、計37棟の被害が発生した。南砺市の畑では、約500㎡にわたってカボチャの苗の茎が折れる被害もあった。
4月 25日 ～26日	降雪または積雪 強風	その他(雪害)	東部	二つ玉低気圧	【気象概況】 本州をはさんで、日本海側と太平洋側を2つの低気圧が発達しながら東に進んだ。 【災害概況】 後立山連峰・鳴沢岳(2,641m)方面で、京都府立大学山岳部3人が遭難し、全員の死亡が確認された。3人は25日、長野県側の扇沢駅からトリリーバスで黒部ダムに向かい、鳴沢岳を登頂後、26日午後に扇沢に下山する予定だったが、連絡が取れないことから、大学関係者が長野県の大町署に届けた。鳴沢岳山頂には新雪が積もり、25日以降の山頂付近の天候は吹雪だった可能性が高いとみている。
5月 21日	強風	その他(風害)	東部	二つ玉低気圧	【気象概況】 日本海と四国付近にある低気圧が北東に進んだ。 【災害概況】 22日の県内は、日本海中部を発達しながら北東に進んだ低気圧の影響で、未明から朝にかけて、川沿いを中心に南寄りの強風が吹いた。 6時40分ごろ、JR高山線の猪谷と越中八尾間で風速計が規制値に達したため、約40分間運転を見合わせた。富山と猪谷間で普通列車が2本運休したほか、普通列車5本が最大で1時間10分遅れ、約1,500人が影響をうけた。
6月 15日	波浪	海上波浪害	東部	オホーツク海低気圧	【気象概況】 北陸地方は、サハリンの東海上に中心を持つ高気圧に緩やかに覆われていた。 【災害概況】 15日8時ごろ、プレジャーボートで黒部市の高橋川から富山湾に魚釣りに向かった男性が夜になっても戻らなかった。16日0時30分ごろに、富山市水橋の白岩川河口からおおよそ200m離れた離岸堤に乗りあげているプレジャーボートが見つかり、この男性が所有する船と確認された。行方不明になっていた男性は、20日魚津市の魚津漁港沖合8km付近で遺体で発見された。
6月 22日	大雨 強雨	浸水害	西部	梅雨前線	【気象概況】 梅雨前線の活動が北陸地方で活発になり所々で大雨となった。 【災害概況】 22日夕方から強まった雨の影響で、水見市内の市道3ヶ所が冠水した。21時50分ごろ、同市園の住宅地の道路と、同市柳田の道路がそれぞれ約10cm冠水した。柳田の道路は約200mにわたり、50分間通行止めとなった。22時50分ごろには、同市大浦の市営住宅敷地内の道路が約15cm冠水し、住民がポンプで排水作業に当たった。
7月 4日	強雨	浸水害	東部	寒気の移流	【気象概況】 上空に寒気が入った影響で大気の状態が不安定になり、大雨になった所があった。 【災害概況】 4日17時ごろ、富山市水橋上条新町の住宅地で、大雨のため市道が約100mにわたって冠水した。水橋消防署などが出動し、あふれた雨水をポンプで川に排出した。水橋消防署や住民によると、16時ごろから強い雨が降り、1時間ほどで側溝から道路に水があふれた。深い所で30cmほど水に漬かった。近くの小出川の増水を防ぐための調整池が満水になり、池とつながっている側溝から水があふれた。
7月 10日	大雨 強雨 強風	山がけ崩れ害 強風害	東部 西部	梅雨前線	【気象概況】 10日の県内は、梅雨前線の影響で、早朝から強風を伴う強い雨が降った。 【災害概況】 10日8時35分ごろ、水見市神代で山のノリ面が幅約12m、高さ約8m(約50㎡)にわたり崩落し、近くにある民家の納屋の壁の一部を損壊した。 4時ごろ、入善町道市の県道沿いの街路樹が倒れ、一時道路をふさいだ。7時10分ごろには、高岡市地子木町の市道で、カープミラーが根元から折れているのが見つかった。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
7月 16日 ～17日	大雨 雷	その他(雨害) 落雷害	東部 西部	梅雨前線 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 北陸地方に停滞した梅雨前線の影響で、未明から明け方にかけて雷を伴った強い雨が降った。 【災害概況】 国道156号線の砺波市庄川町小牧－南砺市下梨(平)間21.4kmは、16日夜からの連続降雨量が80mmを超え、17日9時から一時通行止めとなったが、12時半に復旧した。 高岡、射水市を結ぶ路面電車・万葉線は17日、高岡市荻布にある同社の運行管理室の計器類が故障したため、始発の5時半から7時まで上下線とも運行を見合わせた。運休したのは計15本で、同社は代替のバスを運行し、乗客約100人をそれぞれ向かう予定だった駅まで送った。同社によると、同日4時半ごろ、落雷のため計器類にトラブルが発生し、6時58分に復旧した。 17日3時20分ごろ、立山町中林で落雷による火災が発生し、木造2階建て住宅と土蔵を全焼した。家にいた3人は逃げ出して無事だった。
7月 17日 ～18日	大雨 強雨	洪水害	西部	梅雨前線	【気象概況】 梅雨前線がゆっくりと北上し大雨になった。 【災害概況】 18日14時すぎ、砺波市五郎丸で4歳の男の子が自宅から居なくなると砺波警察署に通報があった。通報からおよそ20分後に、通報を受けた警察と男の子の父親が、自宅近くの用水路に流されている男の子を父親が見つけ、自宅からおよそ1.8km下流で救助した。男の子は、救急車で病院に運ばれたが、およそ1時間20分後に死亡が確認された。 砺波警察署によると、用水路は幅がおおよそ4m・高さがおおよそ1m・水深はおおよそ50cmで、17日からの雨で流れが早くなっていた。 警察では、男の子が誤って用水路に転落して流されたのではないかとみて調べている。
7月 21日 ～22日	大雨 強雨	山がけ崩れ害	西部	梅雨前線	【気象概況】 梅雨前線の活動が活発になり雷を伴って大雨となった。 【災害概況】 22日2時30分ごろ、射水市上野(小杉)の北陸自動車道小杉インターチェンジの下り線から料金所までの接続道路で、路肩のノリ面の土砂が5m四方にわたって崩れた。土砂の撤去作業のため、下り線で小杉インターチェンジが8時30分まで約6時間使用できなくなった。中日本高速金沢支社は、連日の雨で地盤が緩くなっていたことが原因とみている。
8月 2日	強雨	その他(雨害)	東部	雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流 暖気の移流	【気象概況】 大気の状態が不安定になり、昼すぎから夕方にかけて激しい雨が降った。 【災害概況】 JR高山線は、越中八尾駅の雨量計が規制値に達したため、普通列車8本が運休・区間運休したほか、特急、普通計10本に最大2時間20分の遅れが出て約350人に影響した。
8月 7日	強雨	その他(雨害)	東部 西部	前線帯 暖気の移流	【気象概況】 北陸付近に発生した前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、昼すぎから夕方にかけて激しい雨が降った。 【災害概況】 7日14時10分ごろ、JR城端線城端駅と、JR高山線猪谷駅で雨量計が規制値に達した。このため、城端線の普通列車4本が運休、3本が最大で2時間55分遅れた。高山線は特急2本が区間運休し、特急1本、普通列車2本が最大で2時間5分遅れて、計500人に影響が出た。
9月 4日	強雨 雷	山がけ崩れ害 浸水害 落雷害 その他(雨害)	東部 西部	雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流 暖気の移流	【気象概況】 富山県内は、上空の気圧の谷に伴う寒気の南下で大気の状態が不安定となり、4日昼過ぎから夕方にかけて、富山県西部を中心に大雨となった。 【災害概況】 南砺市の国道156号線では、15時30分ごろ、山側から流れ込んだ土石が道路上に堆積した。現場では、昨年夏の豪雨による災害復旧工事が行われていたが、けが人はなかった。県砺波土木センターによると、堆積した土石は約100m³。同センターは、15時50分から砺波市庄川町小牧－南砺市下梨(平)の約21.4km区間を通行止めにして、同日の20時40分に解除した。 射水市では、住宅42棟が床下浸水し、非住家(車庫)1棟も浸水したが、人的な被害はなかった。同市戸破(小杉)では、道路や畑が冠水し、市職員らが民家の車庫に水が入らないように土のうを並べた。 交通機関も乱れ、東京発富山行き第4便は、到着地を小松空港に変更した。折り返しの富山発東京行き第4便が欠航し450人に影響が出た。翌日の富山発東京行き第1便は、1時間10分遅れで出発した。JR北陸線は、富山市北代で線路が一時冠水し、呉羽－富山駅間の運行を一時見合わせ、特急10本、普通列車6本に最大で1時間の遅れが出た。約4,000人に影響した。 16時30分ごろ、射水市稲積(小杉)で、落雷により住宅の屋根裏部分約12m²を焼き、約25分後に消し止めた。家の人は逃げ出して無事だった。また、13時50分ごろ、高岡市上麻生の庄川右岸で、アユ釣りをしていた男性の釣りざおに雷が落ちた。男性は足に軽いやけどを負った。落雷の影響で、富山市で1,411戸、高岡市で59戸、射水市で115戸が一時的停電した。
9月 12日	雷	落雷害	西部	雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流 気圧の谷	【気象概況】 寒気を伴った気圧の谷が上空を通過し、大気の状態が不安定になった。 【災害概況】 13日午前0時ごろ、南砺市館(福光)で落雷があり、木造2階建て住宅の屋根裏など約1.5m²を焼いた。アンテナやアンテナ線に焼けた跡があることから、落雷が原因とみている。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況	
10月 8日	強風 波浪	強風害 沿岸波浪害 その他(風害)	東部 西部	台風	【気象概況】 台風第18号の接近で暴風となり、海ではしけとなった。 【災害概況】 魚津市で94歳の女性が、上市町では77歳女性が風で転倒し、足の骨を折る重傷を負った。富山市と射水市でも、強風による転倒などで3名が軽いケガをした。また、富山県内で強風による住宅の一部損壊が7棟、非住家の被害が21棟発生した。射水市の新湊漁港に係留してあった漁船2隻が、波などで岸壁などにぶつかり破損した。リンゴの落果、ビニールハウスの破損といった農業被害や倒木も相次いだ。さらに、樹木の倒壊などによる断線で、県内の延べ36,102戸が一時停電した。 JR西日本金沢支社によると、列車の運休は北陸線213本、城端線20本、氷見線19本、高山線46本の計298本に達した。高速バスは15便が運休した。空の便は、富山空港発着の7便が欠航した。倒木や高波、風雨の影響で、国道や県道などで15ヶ所が通行止めになった。	
10月 17日	強風	強風害	西部	日本海低気圧	【気象概況】 上空に強い寒気を伴った低気圧が、日本海中部を東北東に進み、この低気圧に向かってやや強い南の風が吹いた。 【災害概況】 17日12時30分ごろ、射水市海竜町(新湊)の海竜マリナー沖で、富山大ウインドサーフィンの学生が練習中、風で沖に流されて戻れないと、同マリナーから伏木海上保安部に通報があった。同保安部の巡視船など4隻とヘリコプター2機、県防災ヘリなどが付近を捜索し、14時10分までに、沖合3～4kmの海上で9人を救助した。沖にいたほかの4人は自力で戻った。いずれもけがはなかった。 同保安部と同部によると、部員たちは練習前に風の強さや向きを天気予報などで確認し、同日10時30分ごろから、沖合数百mのところで練習していた。12時前ごろから風が強くなったため、全員で戻ろうとしたが、さらに沖に流されたという。	
11月 2日	強風	その他(風害)	東部 西部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 冬型の気圧配置となり、北よりの風が非常に強まった。 【災害概況】 2日午後、強風のためJR高山線と北陸線のダイヤが乱れた。高山線の特急2本が区間運休したほか普通列車4本が運休。北陸線の特急と普通列車計23本と高山線の普通列車2本が最大75分遅れ、約5,000人に影響が出た。 JR西日本金沢支社によると、富山市内で25m以上の風を計測し、13時10分ごろから富山一越中八尾駅と富山一小杉駅で、13時20分ごろから東富山一魚津駅でそれぞれ10分余り運転を見合わせた。	
11月 21日	雷	落雷害	東部	寒気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 上空に寒気が入り大気の状態が不安定になった。 【災害概況】 21日10時ごろ、富山市大塚の八幡社境内にある高さ約20mのスギに雷が落ちた。割れた木の破片で、20～30m離れた2軒の窓ガラスが計3枚割れ、50～60m離れた2軒で屋根瓦の一部が壊れた。けが人はなかった。	
12月 17日 ～22日	大雪 着雪 強風	積雪害 着雪害 雪圧害 強風害 その他(雪害)	東部 西部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 17日から21日にかけて、冬型の気圧配置が強まり大雪となった。 【災害概況】 朝日町では、76歳の女性が除雪機により右手第2、3指を切断した。降雪や路面の凍結によるスリップ事故が310件発生し、交通事故や転倒で45人が負傷した。立山町では、雪が用水をせき止め、水があふれ住宅兼作業場1棟が床下浸水した。高岡市では、屋根に積もった雪の重さで小屋が半壊した。交通機関では、運休や欠航、遅延が多数発生し、道路の通行止めも発生した。富山市では、強風と着雪による断線で12戸に停電が発生した。	
12月 31日 1月 3日	大雪	積雪害 その他(雪害)	東部 西部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 31日から3日にかけて、冬型の気圧配置が強まり大雪となった。 【災害概況】 31日、富山市田中町の富山地方鉄道本線田中踏切で、軽乗用車が踏切を通過する際、対向車を避けようとして踏切内で脱輪し普通電車を衝突した。この事故によるケガ人はなかったが、稲荷町と東新庄駅間が約1時間50分不通となった。2日南砺市では、自宅の屋根の雪下ろしをしていた64歳の女性が転落し病院で手当を受けた。上市町では、除雪の雪で用水が詰まり床下浸水が1棟発生した。さらに、年末年始にかけて、高速道路のスリップ事故は125件に達した。鉄道や空の便、高速バスに、運休や欠航、遅延が多数発生した。	
平成22年 (2010年)	1月 5日 ～6日	大雪 強風	積雪害 その他(雪害) その他(風害)	東部 西部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 5日から6日にかけて、冬型の気圧配置が強まり大雪となった。 【災害概況】 6日22時ごろ、小矢部市田川で67歳の男性が、自宅近くの用水路脇の田んぼで死亡していた。死因は低体温症だった。小矢部署によると、男性が自宅裏にある用水路に雪を捨てた跡があり、遺体発見場所近くの用水路沿いの雪には、人間がはい上がったようなくぼみがあった。小矢部署は、男性が除雪中に誤って用水路に(幅約50cm、深さ約50cm)に転落し、流されたとみて調べている。 5日の県内は未明から強風が吹き、JR北陸線の東富山と入善駅間で風速25mの規制値を超えたため、始発の5時47分から8時10分ごろまで上下線とも運転を見合わせた。JR西日本によると、特急や普通列車合わせて27本が区間運休した。富山空港を発着する空の便は、5日から6日にかけて、欠航や遅延等が生じた。 6日21時から22時30分ごろにかけて、北陸自動車道の朝日と親不知インターチェンジ間の上下線で、路面凍結によるスリップ事故が3件相次いだ。この影響で、同区間の上下線が通行止めになった。県警高速隊によると、3件はいずれも車の単独事故で、運転手ら5人はいずれも軽傷。 また、なだれのおそれがあるため、1月6日から国道471号(南砺市利賀村百瀬川)と富山市八尾町花房の7.8km)と国道472号(富山市八尾町武道原と同市八尾橋折の3.4km)が、夜間(20時から翌日07時)通行止めになった。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
1月 12日	雪崩	雪崩害	東部	気圧の谷	【気象概況】 日本付近は深い気圧の谷となった。また、先月からの大雪で山間部では積雪が多くなっていた。 【災害概況】 12日11時45分ごろ、富山市原(大山)の富山地方鉄道立山線本宮ー立山駅間でなだれが発生し、線路が約7mにわたって高さ約3mの雪でふさがれた。走行中だった立山駅発の列車の運転士が気付いて非常ブレーキを掛けたが間に合わず、雪に3mほど突っ込んでから停車した。運転士と乗客1人にけがはなかった。 立山線は岩峠寺ー立山駅間で区間運休し、14時38分に復旧するまでバスによる代替輸送を行った。上下線合わせて7本が区間運休し、約50人に影響が出た。
1月 13日	強風 波浪 大雪	沿岸波浪害 積雪害	東部 西部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 13日は、上空に強い寒気を伴った低気圧が北日本に進んだ後、日本付近は冬型の気圧配置となり大雪となった。また、風も強く海では波が高くなった。 【災害概況】 富山空港では、滑走路の除雪などで富山発東京行き最終便の出発が約1時間40分遅れるなど、計6便で約860人に影響があった。 県警によると、12日16時から13日16時までに、スリップ事故が64件発生し1人がけがをした。07時50分ごろ、魚津市湯上の北陸自動車道で、路面凍結が原因とみられるスリップ事故が起き、魚津と滑川インターチェンジ間の上り線が、20時30分から1時間25分にわたり通行止めとなった。 富山県は、強風に伴う高波で15時30分から、入善町の県道富山朝日自転車道線1kmを通行止めにした。同市の海岸沿いの県道など計3.5kmも12時40分から約9時間通行止めにした。
1月 14日 ～15日	大雪	積雪害 凍結害	東部 西部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 14日から15日にかけて、強い冬型の気圧配置が続き大雪となった。 【災害概況】 14日魚津市では、雪が詰まった用水があふれ4棟が床下浸水した。 交通機関にも乱れが生じ、期間中、JRは北陸線を中心に列車の運休や遅延が多発し、富山地方鉄道、富山ライトレールでも列車の遅延などが発生した。また、富山空港を発着する空の便も、欠航や遅延などが相次いだ。新潟県内の上信越自動車道で起きたスリップ事故のため、14日6時に到着予定だった東京と富山を結ぶ高速バスが12時間以上遅れた。 18日南砺市の東海北陸自動車道下り線で、車2台が単独のスリップ事故を起こした。事故処理と凍結防止剤の散布で1時間40分間、福光と五箇山間の上下線が通行止めになった。路面の凍結が原因とみられている。
1月 16日 ～20日	雪崩	雪崩害	西部	暖気の移流	【気象概況】 14日から15日の大雪で山間部では積雪が多くなっていた。 【災害概況】 16日09時ごろ、南砺市大鋸屋(城端)の国道304号でなだれが起き、道路が約20mにわたって雪で覆われ、同市大鋸屋と梨谷(平)の4.4kmが通行止めになった。道路に損傷はなく、雪は撤去されたが、なだれが再発する可能性が高いことから18日まで通行止めとなった。さらに20日、国道471号(砺波市庄川町湯谷と南砺市利賀村高沼の6km)が、夜間(20時から翌日07時)通行止めになった。
2月 2日	強風	その他(風害)	東部	日本海低気圧	【気象概況】 発達した低気圧が日本海を通過した影響で、昼過ぎから夕方にかけて強い風が吹いた。 【災害概況】 JR西日本金沢支社によると、14時ごろから16時ごろにかけて、北陸線の入善と泊駅間と石川県内で最大瞬間風速が25m/sの規制値を超えたため、普通列車計21本が運休した。さらに特急、普通列車計56本が、最大で2時間10分遅れた。このため、約12,000人に影響が出た。
2月 3日 ～6日	大雪 強風	積雪害 その他(風害)	東部 西部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 強い冬型の気圧配置が続き大雪となった。 【災害概況】 3日から6日にかけて、大雪や強風の影響で交通機関に乱れが生じた。期間中、JRは北陸線を中心に列車の運休や遅延が多発し、富山空港を発着する空の便も、欠航や遅延などが相次いだ。また、スリップ事故も多く発生した。
2月 16日 ～17日	大雪	積雪害	東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 冬型の気圧配置の影響で断続的に雪が降った。 【災害概況】 16日から17日にかけて降った雪の影響で、富山空港を発着する空の便に欠航や遅延が発生した。また、16日から17日にかけてスリップ事故が49件発生し、9人がけがをした。
2月 23日	濃霧	陸上視程不良 害	東部 西部	移動性高気圧	【気象概況】 富山県の西部で濃い霧が発生した。 【災害概況】 23日5時ごろ、JR北陸線の石動と呉羽駅間で濃霧が発生し、8時20分ごろまでダイヤが乱れた。JR西日本金沢支社によると、普通列車2本が運休・区間運休したほか、特急・急行・普通列車の計9本が最大35分遅れ、約1,500人に影響が出た。
2月 26日 ～27日	大雨 融雪	土石流害	東部	南岸低気圧	【気象概況】 南岸低気圧の通過で雨が降り、気温が高く融雪も進んだ。 【災害概況】 27日8時ごろ、富山市折谷(大山)の黒川に架かる橋が壊れていると、地元住民が同市大山総合行政センターに通報した。市職員や大山消防署員らが現場に駆け付け、木製の橋(延長約20m、幅約2.5m)を支えるコンクリート製の橋台が倒れているのを確認した。県道から川を挟んで対岸に位置する民家が一時孤立したが、市が14時50分ごろ、仮設の橋を取り付け、孤立が解消された。橋台は、昭和51年に設置されたもので、市や県は26日の雨や雪解け水で、現場から約150m上流にある支流で土石流が発生し、大量の土砂や木などが押し流されてきたとみている。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
3月 9日	その他(雨)	山がけ崩れ害	東部	南岸低気圧	【気象概況】 移動性高気圧が三陸沖に抜けた後、低気圧が四国の南を発達しながら北東に進み、夜には東海道沖に達した。このため、曇りで昼前から雪や雨となった。 【災害概況】 9日10時ごろ、富山市岩稲(細入)の国道41号で、路面に亀裂が入っているのが見つかった。国土交通省富山河川国道事務所が調べたところ、上り線の道路下の斜面が幅約60mにわたって崩れており、11時20分から現場付近約150mの区間を片側交互通行とした。けが人はなかった。同事務所によると、亀裂は3カ所あり、最も長いもので15mに及んでいた。土砂崩れで道路の盛り土が緩み、路面に亀裂が走ったとみられる。同事務所は、道路の擁壁や基礎部分に影響がないことなどから、道路が崩壊する可能性は低いとしている。安全が確認されるまで、片側交互通行を継続する。
3月 15日	強風	強風害	東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 発達した低気圧が日本海を通過した影響で、昼過ぎから夜のはじめ頃にかけて強い風が吹いた。 【災害概況】 フェーン現象に伴う強風が県内各地に吹き荒れた15日、富山市で4人が転倒などで重軽傷を負ったほか、射水市では釣り人2人が防波堤に取り残されるなど、被害が相次いだ。JR北陸線と高山線は特急など67本が運休・区間運休した。 16時50分ごろ、富山市下大久保(大沢野)の市道で、自転車に乗っていた46歳の女性が強風にあおられ側溝に転落。右ひざを骨折する重傷を負った。同市永楽町では、60歳の女性が強風を受けて転び、左足骨折の疑い。同市婦中町島本郷や同市中番(大山)では、36歳の男性と74歳の女性がそれぞれ手や肩にけがをした。 富山市花崎(大山)では、民家のタン屋根(縦約2.7m、横約4.5m)が強風ではがれた。同市田畠(同)でも、機械製造会社のプレハブ小屋のタン屋根(縦約4.5m、横約2.3m)が吹き飛ばされ、隣の家に止めてあった乗用車にぶつかった。 16時25分ごろには、射水市海竜新町(新湊)の海竜マリーナから「沖合の防波堤で、釣り人2人が孤立している」と伏木海上保安部に通報があった。県消防防災ヘリが2人を救助した。同保安部によると、2人は高岡市と砺波市の男性で、岸から沖合の防波堤へボートで渡ったが、強風のため戻れなくなった。富山、高岡両市では500戸余りが停電した。
3月 20日 ～21日	強風	強風害 その他(風害)	東部	日本海低気圧	【気象概況】 20日から21日にかけて発達した低気圧が日本海を通過した影響で、20日昼過ぎから21日朝にかけて強い風が吹いた。 【災害概況】 20日17時40分ごろ、黒部市石田の工事中の市道で、歩いていた79歳の女性が、風で倒れた工事用看板の下敷きになり、黒部市民病院に運ばれたが、左足の太ももを骨折した。黒部署によると、現場の道路は通行止めになっていた。 JR北陸線は21日0時現在、普通列車2本が運休したほか、特急や普通列車計約10本が最大約2時間遅れた。高山線も普通列車4本が運休した。全日空富山ー東京便は羽田空港周辺の強風などのため、4便が最大45分遅れ、乗客計約680人に影響した。 21日、JR北陸線は、新潟県内の強風のため、金沢発新潟行きの「北越3号」など特急2本と普通列車4本が運休・区間運休したほか、特急や普通列車など計21本が最大163分遅れた。全日空富山ー東京便は、羽田空港周辺の強風のため、羽田発第1便と富山発第4便が欠航したほか、計3便が最大で47分遅れた。計916人に影響した。 富山市消防局によると、02時20分ごろ、富山市呉羽町の民家のスギ(高さ約15m)が倒れ、電線にもたれ掛かった。20日夜には、富山市上大久保(大沢野)のガソリンスタンドにある洗車機のシャッターが強風で壊れた。
4月 27日	強風	強風害	東部 西部	気圧の谷	【気象概況】 低気圧が日本の南岸と沿海州にあり東北東へ進んだ。この気圧の谷が本州上を通過したため、夕方から夜遅くにかけて南寄りの強風となった。 【災害概況】 南砺市では女性1名が転倒し重傷、男性2名が軽傷を負った他、タン屋根がめくれたり、車庫が倒壊し道路をふさいだため片側交互通行となるなどの被害が発生した。黒部市の富山地方鉄道宇奈月温泉駅のプラットホームの屋根のトタンがはがれ、架線と接触したため屋根の一部が焦げた。富山市では住家2階の木製ベランダが吹き飛んだ。交通機関ではJR北陸線、高山線や富山地方鉄道で運休や遅延などが発生した。
5月 1日	雪崩	雪崩害	東部	その他(高気圧)	【気象概況】 日本の南海上には高気圧があって、東に移動していた。 【災害概況】 1日 午前7時20分ごろ、上市町伊折(剣岳)早月尾根で登山中の3名のうち1名が、雪崩とともに滑落し死亡した。他の2名にけがはなかった。 午前11時50分頃、立山町芦峯寺(御山谷)で雪崩(幅20m、縦10mほど)があり、登山パーティー10名のうち2名が巻き込まれた。2名のうち1名が死亡、1名が重傷。
5月 6日 ～7日	乾燥 強風	乾燥害	東部	日本海低気圧 その他(高気圧)	【気象概況】 5月に入り6日にかけて、本州付近は高気圧に覆われ晴れて空気が乾燥していた。 6日、中国東北区に前線を伴った低気圧があり、この低気圧に南寄りの空気が吹き込んだ。 【災害概況】 富山市小佐波(大山)の山林で火災が発生し、強風の影響で火勢が強まった。火災は、翌7日まで続き、山林およそ2万3400平方メートル(6か所合計)を焼いた。 この火災で、住家2棟、倉庫など5棟が全焼したが、住家は空家のため負傷者はなかった。
6月 ～7月	その他(雨)	山がけ崩れ害	東部	梅雨前線	【気象概況】 梅雨前線の影響で断続的に雨となり、6月27日～7月7日までの雨量は159ミリ(立山芦峯)となった。 【災害概況】 立山町の称名滝から大日岳(2501メートル)に向う登山道で土砂崩れが発生した。富山県と立山町が9日現地調査を行った結果、牛ノ首付近の登山道は土砂崩れによりふさがれ、通行できないことが確認された。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
7月 1日	高温	酷暑害	東部	暖気の移流	【気象概況】 梅雨前線が、東シナ海から本州の南海上に停滞し、概ね晴れたが暖かく湿った空気が入ったため湿度が高くなった。魚津の日最高気温は27.6℃で平年より2.5℃高かった。 【災害概況】 魚津市で1日の夜に女性(61歳)が自宅裏の畑で倒れているところを発見され、病院に運ばれたが、既に死亡していた。2日に司法解剖が行なわれ、死因が調べられた結果、熱中症であった。
7月 3日 ～4日	大雨 強雨 濃霧	山がけ崩れ害 強雨害 陸上視程不良害	東部 西部	梅雨前線	【気象概況】 梅雨前線が3日から4日にかけて北陸地方を南下したため大雨となった。 【災害概況】 砺波市庄川町湯谷と富山市八尾町兼嶺を結ぶ林道牛岳線の2か所で道路側面が崩れたため、4日11時に国道471号から牛岳トンネルまでの区間が通行止めとなった。富山市では八尾町折所の国道471号線で道路の側面が約4mに渡り崩れて通行止めとなった。また、富山空港では東京発富山行き第2便と富山発東京行き第3便の計2便が視界不良のため欠航し、計280人に影響が出た。
7月 9日 ～10日	大雨 強雨	山がけ崩れ害	西部	雷雨(熱雷) 寒気の移流	【気象概況】 梅雨前線が本州の南岸に停滞し、北陸地方の上空には寒気が入り、大気の状態が不安定となった。 【災害概況】 ・氷見市懸札地内の市道懸札松原線の法面(長さ7m、高さ6m、奥行き2.5m)が崩壊。 ・氷見市平地内の県道平阿尾線に隣接する民家の法面崩壊。 ・氷見市中波地内の市道法面が3か所で崩壊、2か所で路肩崩壊。 ・氷見市中波地内の受高高地で法面崩壊(長さ3m、高さ5m)。 ・氷見市中波地内の住宅敷地法面崩壊(長さ6m、高さ4.5m)。 ・氷見市仏生寺川寺中地内の護岸20mが崩れる(護岸脇の道路が損壊)。
7月 12日	強雨	山がけ崩れ害	西部	梅雨前線	【気象概況】 日本海を東西にのびる梅雨前線上の低気圧が発達しながら北東進した。また、梅雨前線は11日夜から12日朝にかけて北陸地方を南下した。 【災害概況】 南砺市の市道皆葎小瀬線の葎島で、落石により路肩が約40mに渡り崩壊した。
7月 16日	強雨 雷	浸水害 山がけ崩れ害 落雷害	東部 西部	梅雨前線 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 日本海から東北地方にのびる梅雨前線に向って南から暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となった。 【災害概況】 ・富山市 車庫3棟が浸水(八尾町小長谷)、市道新婦1号線の道路法面が崩壊(大久保) 農道の路肩欠損(八尾町新田)、県道掛畑-井田新線で土砂崩れ(八尾岩屋) 富山空港で雷雲のため、富山発東京行の1便が54分遅れた。 ・南砺市 市道上百瀬水無線道路法面が崩壊し、土砂が道路に流出(5か所)、県道利賀河合線で道路法面が崩壊(1か所) ・砺波市 庄川町示野の電柱に落雷があり340戸が停電した。
7月 16日 ～8月 11日	高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が続いた。 【災害概況】 熱中症による被害が続出し、244名が救急搬送され、7月21日、25日、29日に合わせて3名が死亡した。
8月 10日	大雨 強雨	浸水害 山がけ崩れ害 強雨害 その他(雨害)	東部 西部	雷雨(熱雷) 太平洋高気圧	【気象概況】 太平洋高気圧に覆われ午前中は晴れて気温があがった。また、南から暖かく湿った空気が入った影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い大雨となった。 【災害概況】 10日13時30分頃、射水市三ヶで用水が溢れて公民館と住家2棟が床下浸水した。 富山市八尾町や山田の道路で路肩欠損(9か所)や法面崩壊(1か所)が発生した。また、富山市大山地域で道路が冠水した。 JR高山線と北陸線では運転見合わせや一時徐行運転のため、4本が運休・区間運休し、23本が遅延した。
8月 17日 ～9月 6日	高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が続いた。 【災害概況】 熱中症による被害が続出し、148名が救急搬送された。
8月 26日	大雨 強雨 雷	山がけ崩れ害 強雨害 落雷害 浸水害 その他(雨害)	東部	雷雨(熱雷) 太平洋高気圧	【気象概況】 朝鮮半島から日本海をとり三陸沖にのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。 【災害概況】 富山市では、山田宿坊で住家1棟が床下浸水し、山田小島で車庫1棟が浸水した。八尾町宮ヶ島と山田宿坊で土砂崩れが発生したほか、富山市八尾町や山田の道路で路肩欠損(19か所)や法面崩壊(1か所)が発生した。 富山市婦中町外輪野と塩(大沢野)で落雷が原因とみられる住家火災2件が発生した。 富山市婦中町千里前山では、屋外に積まれていた牧草(直径1.5m×高さ1.5mの円筒形)約60個が焼失した。また、富山市赤田の会社事務所の配電盤が焼けた。 JR高山線で12本が運休・区間運休したほか、6本が遅れがでた。 富山空港では、札幌発富山行きが小松空港に着陸を変更したほか、富山発札幌行きが2時間17分遅れて出発した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
8月 31日	大雨 強雨 雷	浸水害 土石流害 強雨害 落雷害	東 部	雷雨(熱雷) 太平洋高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われ午前中は晴れとなったが、昼過ぎからは南から暖かく湿った空気が入り込み、大気の状態が不安定となった。 【災害概況】 富山市の大泉中部などで住家11棟が床上浸水、住家40棟が床下浸水した。富山市星井町や赤田西町などで道路が冠水したほか、県道利賀河合線山側渓流より土砂が流失した。落雷による断線や避雷器の故障で、富山市の計2190戸が停電したほか、信号機の故障で富山ライトレールの上下線4本が運休した。また、長江本町で住家の配電盤が焼けた。富山空港では、東京発富山行きが小松空港に着陸を変更した。また、折り返しの富山発東京行きが欠航した。
9月 8日	高潮 強雨	浸水害 浸水(海水)害	西 部	台風	【気象概況】 台風第9号は、8日11時過ぎに福井県敦賀市付近に上陸後、岐阜県を通過し東海地方へ進んだ。 【災害概況】 台風第9号の接近、通過時に満潮時刻が重なった影響で、西部沿岸部で高潮による冠水があった。氷見市の比美乃江大橋の下を走るアンダーパスに海水が入ったため、終日通行止めとなった。高岡市羽広のJR高架下道路が強雨のため冠水し、一時通行止めとなった。また、台風接近に備え、高岡、魚津、黒部、砺波、朝日の5市町で全小中学校が午後の授業を取りやめ、その他の自治体でも一部で授業時間を短縮した。
9月 12日	大雨 強雨	浸水害 山がけ崩れ害 その他(雨害)	東 部 西 部	前線帯 日本海低気圧 暖気の移流	【気象概況】 日本海に前線を伴った低気圧があり、南から暖かく湿った空気が入り大気の状態が不安定となった。 【災害概況】 大雨のため、黒部市25棟、魚津市11棟、氷見市2棟の床下浸水があった。農地や路肩の法面崩壊が3か所、道路や田畑、駐車場の冠水が多数あった。この影響で、魚津市、氷見市、黒部市内の県道・市道で合わせて4か所が通行止めとなり、2か所が雨量による交通規制がなされた。JRでは、8本が運転取りやめとなった。
9月 22日 ～23日	大雨 強雨	山がけ崩れ害 強雨害 その他(雨害)	東 部 西 部	その他(前線)	【気象概況】 日本海の前線が本州を南下した。このため、22日夜遅くから23日昼過ぎにかけて、県内の所々で強雨となった。 【災害概況】 黒部市若栗地内で法面が崩壊。雨量による道路規制があり、7か所で一時通行止めとなった。
11月 1日 ～2日	強風 大雨	強風害 その他(雨害)	東 部 西 部	日本海低気圧 季節風	【気象概況】 日本海中部を低気圧が発達しながら東北東へ進み、その後千島近海でさらに発達して強い冬型の気圧配置となった。 【災害概況】 1日22時35分頃、強風のため変電施設に避雷器が接触して富山市藤の木、大島地区などで約860戸が停電した。また、金沢湯涌福光線(南砺市立野脇～刀利)で大雨による事前通行規制のため通行止めとなった。
11月 30日	雪崩	雪崩害	東 部	移動性高気圧	【気象概況】 移動性高気圧に覆われて晴れた。 【災害概況】 30日08時55分ごろ、立山町芦峯寺の室堂平の大谷付近(標高2400m)でスノーボードやスキーをしていた6人が雪崩に巻き込まれた。雪崩は立山有料道路に沿って層厚1m、幅約100mにわたり発生した。富山県防災・危機管理課によると6名のうち、生き埋めとなった3名が県消防防災ヘリにより救出・搬送されたが、2名は心肺停止状態。その後1名の死亡を確認、1名は蘇生したが、12月2日午前に死亡した。12月2日現在2名死亡、3名重傷、1名軽傷。
12月 3日	強風	強風害	東 部 西 部	日本海低気圧 寒気の移流	【気象概況】 前線をともなった低気圧が佐渡沖を北東進した。このため富山で13時57分に西の風、最大瞬間風速30.4メートルを観測した。 【災害概況】 射水市で、富山新港の新湊大橋の工事現場で14時ごろ、作業員2名が足場ごと約40^{センチ}下に転落し、病院に運ばれたが、いずれも搬送先の病院で死亡が確認された。そのほか、納屋の半壊があった。富山市で、1名が風による飛来物が目に入り眼球破裂、1名が強風により転倒し膝頸部骨折した。また、強風の影響で富山市、小矢部市の合わせて105世帯が停電となり、JRでは、特急22本が運転取りやめ、普通列車に遅れが出た。
12月 11日	強風	強風害	東 部	寒冷前線	【気象概況】 県内を寒冷前線が通過。 【災害概況】 午前09時50分頃、魚津市石垣の県魚津採種園で杉の枝木を伐採中の男性が、強風により転倒し骨折した。午後03時00分頃、入善町吉原の町道で郵便配達中の男性が、オートバイ運転中に強風により転倒し骨折した。
～平成23年 (2011年) 12月 25日 2月 9日	大雪 その他(雪)	雪圧害 その他(雪害) 浸水害	東 部 西 部	寒気の移流	【気象概況】 12月下旬中頃から1月初めにかけて、上空の強い寒気が次々と日本付近に南下したため大雪となり、その後も、1月末まで冬型の気圧配置が続いた。日本付近に断続的に強い寒気が流れ込んだ影響で大雪となった。 【災害概況】 12月下旬の中ごろから2月初めにかけて、雪下ろし中に転落するなど5名死亡、13名重傷、56名軽傷、積雪による家屋の全壊1棟、半壊4棟、一部損壊17棟、非住家に17棟の被害があった。また、用水路が詰まり、床上浸水1棟、床下浸水3棟があった。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
2月 28日	雪崩	雪崩害	東部	南岸低気圧	【気象概況】 本州南岸には前線を伴った低気圧があって東へ進んだ。 【災害概況】 28日午後1時20分頃、富山県上市町伊折の剣岳・池ノ谷ガリー（標高約2750メートル）で、富山県警山岳警備隊員3人が訓練中に雪崩に巻き込まれた。1人が心肺停止、2人が負傷を負った。負傷者2人は、3月1日に富山県防災ヘリにより救助された。心肺停止となっていた1人は、4月7日に収容され、死亡が確認された。
5月 29日 ～30日	大雨 強風	浸水害 山がけ崩れ害 その他（風害）	東部 西部	南岸低気圧 梅雨前線	【気象概況】 台風第2号から変わった低気圧が、29日午後から30日にかけて本州の南岸を東に進みまし た。この低気圧や、本州の南岸にあった前線の影響で、富山県では断続的に強い雨が降り ました。 【災害概況】 南砺市では用水がはん濫したため、住宅1棟と納屋に床下浸水がありました。また、2か所 で道路わきが崩れ、土砂が道路を覆ったため片側交互通行となりました。富山市と朝日町 で非住家を外壁や屋根の破損があり、富山市では道路わきが崩れ土砂が道路を覆い一時 通行止めとなりました。 JRでは北陸本線で上下2本が運休となり、富山空港では富山発着便2便が欠航、富山着の 1便が引き返しました。
6月 24日 ～26日	大雨 強雨	山がけ崩れ害 強雨害 浸水害 その他（雨害）	東部 西部	梅雨前線	【気象概況】 梅雨前線が華中から朝鮮半島を通過して本州付近に停滞していた。この影響で、24日から26 日にかけて断続的に大雨となった。 【災害概況】 氷見市では、住宅3棟に床下浸水があり、県道で路肩の欠損により片側交互通行となった。 25日午前2時5分ごろ、富山市榎原（細入）の市道で土砂崩れが発生。のり面が崩れ、車道 をふさいだため、15時30分まで通行止めとなった。高岡市では、冠水のため同市四屋の国 道8号下を通る道路では午前9時10分ごろから約1時間10分、同市羽広のJR北陸線高架橋 下の道路は午前8時20分ごろから約2時間10分にわたって通行止めとなった。25日午前、黒 部市内では、阿古屋野の新川広域農道で土砂が崩れ、宇奈月町明日（あけび）の林道明 日線では土砂などが道路をふさいで通行止めとなった。入善町の自然公園内遊歩道で法 面が崩れ、通行止めとなった。 また、JR高山線では、9時3分～10時40分まで東八尾～速星間で運転を見合わせた。
7月 26日 ～31日	大雨 強雨 雷	山がけ崩れ害 強雨害 浸水害 落雷害	東部 西部	暖気の移流 停滞前線 雷雨（熱雷を除く）	【気象概況】 太平洋高気圧の縁をまわって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となっ た。 28日から31日にかけては、前線が朝鮮半島から北陸地方を通過して関東の東に伸び停滞し た。この前線に向かって日本海側から非常に湿った空気が流れ込んだため、前線の活動 が活発となった。このため、断続的に激しい雨が降り、大雨となった。 【災害概況】 26日、高岡市の住家1棟が床下浸水となった。また、落雷の影響で、高岡市と射水市の約 1600戸が最大2時間40分停電した。 30日、富山市の住家3棟に床下浸水、八木山の大沢野中学校南側のり面が崩れ、道路に 流出した。下大久保（大沢野）では、ショッピングセンター裏の農業用水（幅約70センチ）から あふれた水が店内に入り、約2千平方メートルの店舗全体で、深さ5センチほど水がたまっ た。大沢野地域で道路の冠水もあった。 31日には、富山市内の県道で土砂崩れによる通行規制があった。射水市では、アンダーパ スが冠水し、車2台が動けなくなったが人的被害はなかった。
8月 25日 ～26日	大雨 強雨	浸水害 山がけ崩れ害 土石流害 その他（雨害）	東部 西部	停滞前線	【気象概況】 対馬海峡から能登半島付近を通過して東北地方に伸びた前線に南から暖かく湿った空気が 流れ込み、大気の状態が不安定となっていた。このため、25日の昼ごろから夕方にかけて と26日の明け方から昼前にかけて県内の所々で短時間に激しい雨となった。 【災害概況】 25日、住家床下浸水が富山市で8棟あり、南砺市の国道156号線に小規模の土石流が発生 した。 26日、住家床下浸水が富山市で6棟、高岡市で2棟あった。黒部市の県道で降水量が規制 の基準を超え交通規制が行われ、高岡市の県道で山がけ崩れのため交通規制が行われ た。また、射水市でアンダーパス4箇所など6箇所が冠水し、小矢部市で山がけ崩れ一箇所 があった。
9月 21日 ～22日	強風 大雨	強風害 洪水害 浸水害 山がけ崩れ害 その他（雨害）	東部 西部	停滞前線 台風	【気象概況】 21日、本州付近には前線が停滞していた。また、非常に強い勢力の台風第15号が、速度を 速めながら東海沖を北東に進み、14時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、勢力を維持しな がら関東地方を縦断した。21日から22日にかけて、本州に停滞する前線に向かって台風か ら暖かく湿った空気が流れ込んだため、前線の活動が活発となり大雨となり、台風の影響 で強風となった。 【災害概況】 富山市で床下浸水6棟、氷見市で道路の冠水や越流が4箇所、氷見市をはじめ5市2町で法 面崩壊等が合せて35箇所発生し、強風による破損物にあたり2名負傷、転倒により1名負 傷。 JRでは、177本が運休となり、富山空港の発着7便が欠航となった。 国道、県道、高速道路の合せて19区間に通行規制があった。
12月 22日 ～27日	波浪	沿岸波浪害	東部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 冬型の気圧配置が続き、波の高い状態となっていた。 【災害概況】 27日午前9時半すぎ、滑川市高塚の滑川漁港で男性が溺れていると、近くに停泊していた 船の乗組員から消防に通報があった。近くで釣りをしていた人たちが男性を、釣り竿を使っ て防波堤に引き揚げ、病院に搬送されたが、意識不明の重体。 地元警察によると、防波堤に釣りにきていて誤って転落したと思われる。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
～平成24年 (2012年) 12月 24日 2月 21日	大雪	積雪害 その他(雪害) 浸水害	東部 西部	季節風 寒気の移流	【気象概況】 12月下旬から2月上旬にかけて、強い寒気が断続的に入った。 このため、県内は大雪となった。 【災害概況】 降雪と積雪のため、屋根の雪下ろし作業中の落下、除雪中の転倒や用水に転落するなど、合わせて死者2名、重軽傷者72名があった。住家では、積雪の重みで半壊1棟、一部損壊1棟、除雪した雪が用水をふさぎ床下浸水8棟があった。 県内の道路では、凍結等でのスリップ事故が合わせて2580件、北陸自動車道黒部一朝日間、朝日一親不知間で一時通行止めとなった。 また、富山空港では、航空機57便が欠航し、JRの県内支線15本が運休した。
平成24年 (2012年) 4月 3日 ～4日	強風	強風害 その他(風害)	東部 西部	日本海低気圧 寒冷前線	【気象概況】4月3日、前線を伴った低気圧は日本海を急速に発達しながら東北東に進み、この低気圧からのびる寒冷前線が3日昼過ぎから夜遅くにかけて東日本を通過した。その後は、転倒して頭部を強打したとみられる1名が死亡した。また、歩行中に転倒して骨折するなどの重・軽傷者は59名となった。 住家被害は、家屋の一部損壊が36棟となった。 農業被害は、水稲・園芸用ハウスの損壊等が1,587棟に及んだ。 交通では、道路上でのトラックの横転事故が29台となった。また県道、国道10か所で倒木等により全面通行止めとなった。JR線は、北陸本線や高山本線で事前規制等により、多数の運休・部分運休が発生した。航空では、富山空港の離発着7便が欠航となった。 電力では、延べ停電戸数は約24,200戸となった。
4月 11日	強風	強風害 その他(風害)	東部	日本海低気圧	【気象概況】 11日、前線を伴った低気圧が日本海を発達しながら北東に進み、県内の一部では朝から夕方にかけて南寄りのやや強い風が吹いた。 【災害概況】 住家被害では、11日9時ごろ富山市長附の店舗兼住宅のトタン板が強風で飛ばされ、一部が隣家の壁を貫いた。このほか市内では民家の外壁がはがれるなど計6件の被害があった。 交通では、JR高山線越中八尾一笹津間で特急2本と普通列車6本が運休し、普通2本が遅延した。富山空港離発着便は折り返しの2便が遅延した。
4月 22日	強風	その他(風害)	西部	気圧の谷	【気象概況】 22日、本州付近は西から気圧の谷が進んだ。一方、日本の東海上には高気圧が停滞し、西日本を中心に気圧傾度が強まった。県内の一部では、明け方から日中を中心に、南寄りのやや強い風が吹いた。 【災害概況】 交通では、JR北陸線で31本が運休し13本が遅延した。JR高山線は富山一猪谷間で2本が遅延した。
5月 6日	雷	落雷害	東部	雷雨(熱雷を除く) 日本海低気圧 寒気の移流	【気象概況】 6日09時には、日本海に低気圧があつて東北東に進んでおり、低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んでいた。一方、上空に強い寒気(500hPaで-21℃以下)を伴った気圧の谷が日本海西部にあつて、東に進んでいた。このため、県内は大気の状態が不安定となつて明け方前から昼前を中心に雨となり、一部で雷を伴った。 【災害概況】 魚津市三ヶ地内の田圃内で、農作業中の男性が落雷に遭い死亡しているのを付近の住民が発見した。
7月 4日 ～31日	高温(長期) 高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧 その他(高気圧)	【気象概況】 7月は、上旬は梅雨前線の影響で雨の日が多かったが、中・下旬は太平洋高気圧に覆われ晴れて気温が上昇した日が多く猛暑日となった日もあった。県内の7月の平均気温は、平年に比べ「高い」または「かなり高く」なった。 【災害概況】 7月4日～31日までの熱中症とみられる患者の病院への総搬送者数は181名、うち死亡2名、重症7名、中等症49名、軽症123名。日別では4日1名、5日2名、9日2名、10日1名、11日2名、12日4名、13日12名、14日5名、15日8名、16日20名、17日12名、18日14名、19日13名、20日3名、21日1名、22日3名、23日4名、24日2名、25日5名、26日9名、27日13名、28日16名、29日6名、30日10名、31日13名。 死亡事例 4日、射水市新湊地区の60代男性が自宅玄関で倒れているのが発見され、病院で死亡が確認された。死因は熱中症とみられる。 17日、滑川市寺町の工事現場で、50代男性作業員が倒れ、病院で死亡が確認された。死因は熱中症とみられる。
7月 6日 ～8日	大雨 強雨	山がけ崩れ害 浸水害 その他(雨害)	東部 西部	梅雨前線 気圧の谷 暖気の移流	【気象概況】 6日、梅雨前線が朝鮮半島を通過して西日本にのびた。7日、梅雨前線を低気圧が東に進んだ。県内は6日から8日未明にかけて大雨となり激しく降った所があった。 【災害概況】 人的被害、住家被害はなし。 6日夜、高岡市大田の民家の裏手で土砂崩れが発生。石積みが崩れ、住民が近くの公民館に自主避難した。同市羽広地区などでは道路の冠水が相次いだ。冠水箇所数は不明。 6日20時50分頃、氷見市大浦では車庫1棟が浸水した。 7日4時55分頃、富山市山田若土の県道で法面が幅3m高さ5mにわたり崩落し片側の車線を塞いだ。 7日17時25分頃、上市町浅生地内で高さ2mの法面が崩れ、土砂4立米が県道主要地方道宇奈月・大沢野線の幅員4mの半分を埋めた。 このほか、魚津市古鹿熊の県道で法面が崩落しているのが見つかった。 一般道路関係で、通行止めはなし。 高速道路では、富山県側が小矢部ICより西側で事前規制により通行止めとなった。 鉄道では、富山地方鉄道立山線本宮一立山駅間で線路上に土砂が流入し9本が区間運休した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
7月 20日 ～21日	大雨 強雨	浸水害 山がけ崩れ害 その他(雨害)	東部 西部	暖気の移流 オホーツク海高気 圧	【気象概況】 太平洋高気圧の縁を回って暖かく湿った空気の流入が続いたことと、上空に寒気が入ったことにより、大気の状態が非常に不安定となった。20日昼過ぎから21日にかけて断続的に激しい雨が降り、高岡市高岡付近では20日昼過ぎに約100ミリの猛烈な雨を観測した。降り始めからの総降水量は、西部を中心に200ミリを超えた所が多くあった。 【災害概況】 人的被害はなし。 住家被害は、高岡市、氷見市、射水市で床上浸水103棟、床下浸水1,037棟となった。農林業の被害は、林道の崩落等23箇所、水田畔の崩壊等46箇所、農地の浸水、冠水等618haとなった。 山がけ崩れ害は、高岡市を中心に46か所で発生した。 道路では、市道と県道19箇所で法面や路肩が崩れ通行止めとなった。 鉄道では、事前規制により、城端線、氷見線、高山本線で合わせて23本の普通列車が運休し、29本が遅延した。
8月 1日 ～31日	高温(長期) 高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 8月は太平洋高気圧の勢力が強く、本州付近に張り出したため、県内の気温の観測地点のいずれかで猛暑日となった日が7日間、真夏日となった日が28日間となった。特に15日以降は、すべての地点で真夏日が続いた。月平均気温の高い方からの統計では、すべての地点で10位以内となり、魚津を除いて過去10年では2010年(平成22年)に次いで高い値となった。 【災害概況】 3日16時10分ごろ、魚津市で農作業中の80代の女性が倒れて死亡しているのが見つかった。また、5日11時ごろ小矢部市で農作業中の80代の男性が倒れて死亡しているのが見つかった。いずれも死因は熱中症とみられる。 その他、8月中に県内では171名が熱中症とみられる症状で病院へ搬送され、死者は2名、重症2名、中等症・軽症は164名となった。
8月 22日	雷	落雷害	西部	雷雨(熱雷)	【気象概況】 22日、日本の東に中心を持つ高気圧に覆われ晴れて気温が上昇し、午後は大気の状態が非常に不安定となって、所々で強い積乱雲が発生した。 【災害概況】 22日午後4時ごろ、南砺市遊部で木造一部2階建ての納屋から出火し全焼した。 警察によると当時、南砺市では雷が鳴り響いていて、被災者は警察に対して「ドーンという音がして外に出たら納屋が燃えていた」と話しているということで、警察は、落雷が火事の原因とみている。
9月 1日	強雨 雷	浸水害 その他(雨害) 落雷害	東部 西部	雷雨(熱雷)	【気象概況】 高気圧に覆われて日中は晴れたが、湿った空気や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となって夕方から雷雨となった所があった。 【災害概況】 1日夜のはじめ頃、砺波市と射水市で7棟が床下浸水した。 JR越中八尾駅で18時37分頃、雨量規制値に達し、速星～東八尾間で快速など計10本が運休したほか、計8本が最大で2時間26分遅れた。 JR城端線も18時44分より大雨により戸出～福野間で運転を見合わせ普通列車4本が運休、5本が最大で2時間49分遅れた。 JR高岡駅では18時頃、構内のエレベーターの扉が開かなくなり、市内の男性が30分にわたって閉じ込められた。同18時半頃には砺波市柳瀬の車庫で電気メーターを焼いた。どちらも落雷が原因とみられる。
9月 1日	高温(長期) 高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 9月は太平洋高気圧に覆われて晴れて気温の上昇した日が多く、県内の各観測所の9月の月平均気温は魚津と上市が観測史上3位その他は観測史上1位の高温となった。 【災害概況】 9月は熱中症とみられる症状で38名が救急搬送され、死者なし、重症は1人、中等症8人、軽傷29人となった。
9月 3日	強雨	浸水害 その他(雨害)	東部 西部	雷雨(熱雷)	【気象概況】 高気圧に覆われ晴れたが、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり昼過ぎから雷雨となった所があった。 解析雨量では、氷見市付近における最大は、15時30分までの1時間に44ミリ、16時までの3時間に81ミリとなった。 【災害概況】 氷見市で、住家1棟が床下浸水する住家被害が発生した。 JR越中八尾駅で13時15分頃雨量が規制値を超えたため、速星～八尾間で徐行運転し、この影響により臨時快速4本が運休し、特急や普通列車5本が最大35分遅れた。
9月 11日	大雨 強雨	浸水害 その他(雨害)	東部	前線帯 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 秋田沖には低気圧があつて、秋雨前線が北陸地方から近畿地方にのびていた。 富山県内では前線の通過や大気の状態が非常に不安定となって雨となり、雷を伴い猛烈な雨の降った所があった。 【災害概況】 11日夕方、滑川市内を流れる沖田川が増水し、17時10分、はん濫危険水位を超えた。このため付近の住宅で床上・床下浸水計41棟の住家被害と、道路冠水により市道や県道5か所で一時通行止めとなった。このほか、JR滑川駅で雨量規制を超え普通2本が運休し特急など20本が遅れた。また富山地方鉄道本線では滑川駅構内の線路が冠水し11本に遅れが出た。
9月 23日 ～24日	強雨 大雨	浸水害	東部	前線帯 気圧の谷 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】(災害速報第1報では簡潔でよい) 23日、日本の南には秋雨前線が停滞し、前線を低気圧が東に進んだ。また日本海西部にも別の低気圧があつてゆっくり東に進んだ。一方、日本の上空には寒気を伴った気圧の谷が進み、大気の状態が非常に不安定となった。県内は所々で積乱雲が発達し、激しい雨が降った所があった。 【災害概況】 富山市住友町では朝方の雨で住宅1棟が床下浸水した。また朝夕、市内の用水が増水し、消防団員らが警戒に当たった。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
9月 ～10月	30日 1日 強風 大雨 強雨	強風害 その他(雨害) その他(風害)	東部	台風	【気象概況】 台風第17号は19時頃に愛知県東部に上陸し、その後夜遅くにかけて関東甲信地方を通過し、1日未明には東北地方に達した。県内は曇りで昼過ぎから雨となり、夕方から一時風雨が強まった。 【災害概況】 19時6分、富山地方鉄道本蔵線下立駅～愛本駅間(電鉄富山駅から約46.6km地点)において、強風による倒木の枝が電車に接触した。このため浦山駅～宇奈月温泉駅間が区間運休となり8本が運休した。 JRでは北陸本線などで台風の影響により52本の運転を取りやめた(富山の状況のみによるものではない)。 富山空港離発着便は5便が台風のため欠航した(富山の状況のみによるものではない)。道路では、県道と国道の6箇所、事前通行止めとなった。
11月 ～8日	7日 ～8日 雷	落雷害	東部 西部	雷雨(熱雷を除く) 暖気の移流	【気象概況】 日本海中部には上空に強い寒気を伴う低気圧があってほとんど停滞していた。この低気圧に向かって下層では暖気が流れ込み大気の状態が不安定となった。県内は7日明け方から8日朝にかけてとどこころで雨となり一部で雷を伴った。 【災害概況】 県内は落雷による被害が相次いだ。人的被害、住家被害はなし。 交通では、JRの富山駅と石動駅で信号が故障し、北陸本線と高山線で特急、普通合わせて18本が運休または部分運休し、45本が遅延した。航空では富山湾上空で富山空港行き定期便が被雷し修理が必要になり折り返し1便が欠航した。 このほか、富山市では230戸が停電した。
11月 ～14日	13日 ～14日 雷	落雷害	東部 西部	雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 13日の夕方から14日の昼過ぎにかけて、上空に強い寒気を伴った気圧の谷の影響で、県内の所々で雷雨となった。 【災害概況】 13日夜から14日昼にかけて富山市、氷見市、南砺市、砺波、小矢部、高岡、中新川郡上市町で落雷により約4,000戸が停電した。 鉄道では、14日、富山ライトレールと富山地鉄の信号機、JR北陸線の東滑川駅の計器がそれぞれ落雷により壊れ9本が運休または部分運休し、特急、普通61本が遅延した。
12月 6日	強風	強風害 その他(風害)	西部	日本海低気圧 季節風	【気象概況】 6日、日本海を低気圧が急速に発達しながら北東に進み、前線からのびる寒冷前線が明け方にかけて県内を通過した。また、その後は強い冬型の気圧配置となった。 【災害概況】 氷見市では、強風により小学校の体育館の屋根の一部が損壊した。また、樹木が倒れ一時農道をふさいだ。 交通機関では、JR北陸線の高岡～富山間で普通2本が強風により運行を取り止めた。
12月 ～11日	8日 ～11日 強風 大雪 雷	強風害 その他(雪害) 落雷害 陸上視程不良 害	東部	日本海低気圧 雷雨(熱雷) 季節風	【気象概況】 8日、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を進み、県内は強い風が吹いた所があった。その後、11日にかけて冬型の気圧配置が続き、断続的に強い雪が降り一部で雷を伴い、平地でも大雪となった。 【災害概況】 電力では、8日、富山市、砺波市、魚津市など6市町村で強風に飛ばされたものが当たって電線が切れるなどして1523世帯が停電した。(送電線切断件数は不明) 交通では、8日、射水市の庄川鉄橋で強風により路面電車万葉線の架線が切れ代行バスを運行した。 また、9日、強風により富山地鉄本線の富山～稲荷町間の配電線が切れ、始発から約2時間40分運転を見合わせた。いずれも運休本数は不明。 航空では、富山空港離発着便が、8日、視程不良により3便が欠航し2便が遅延した。9日は視程不良により7便が欠航、1便が上空で被雷し、この影響により2便が遅延した。10日、前日の欠航の影響で9便が遅延した。11日、機体被雷により1便が遅延した。
～平成25年 (2013年)	12月 2月 9日 26日 その他(雪)	その他(雪害)	東部 西部	季節風 寒気の移流	【気象概況】 12月上旬の終わりに強い寒気が入って冬型の気圧配置が強まった。1月は低気圧通過後に冬型の気圧配置になりやすかった。2月は低気圧通過後に一時的に冬型の気圧配置となる日があった。このため、県内は降雪となった日が多く積雪状態となった。 【災害概況】 除雪中の事故(屋根の雪下ろし中に転落、除雪作業中に腰をいためたものや転倒、誤って除雪機に巻き込まれたもの及び誤って用水に転落等)により県内6市町で1名が死亡し8名が負傷する人的被害が発生した。
平成24年 (2012年)	12月 24日 大雪	陸上視程不良 害	東部	季節風 寒気の移流	【気象概況】 24日は強い冬型の気圧配置となって、東部を中心に大雪となった。 【災害概況】 交通では、富山空港離発着予定の8便が、降雪のため欠航となった。
平成25年 (2013年)	1月 25日 ～26日 大雪	陸上視程不良 害 積雪害 その他(雪害) 浸水害	東部	寒気の移流 季節風	【気象概況】 25日、日本海を低気圧が発達しながら北東に進み、寒冷前線が午前中に北陸地方を通過した。その後、26日にかけて冬型の気圧配置が強まった。前線の通過後は雨の所も雪に変わり、26日にかけて断続的に強い雪が降り大雪となった。 【災害概況】 住家被害は、26日、黒部市宇奈月町地内で付近の用水があふれ、住宅の床下まで浸水した。交通では、北陸自動車道朝日～糸魚川間が圧雪のため26日16時から約7時間にわたり通行止めとなった。 富山空港離発着便は降雪による視界不良で、25日3便が欠航した。
3月 1日	強風	その他(風害)	東部	日本海低気圧	【気象概況】 日本海で発達中の低気圧に向かって、暖かい南寄りの風が吹き込み、県内は強い風が吹いたところがあった。 【災害概況】 JR高山線で風速の規制値を超えた所があり、越中八尾駅～笹津駅間で一時運転を見合わせ、特急2本が区間運休となったほか、特急2本と普通2本が遅延した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
3月 13日	強風	その他(風害)	東部	日本海低気圧	【気象概況】 日本海で発達中の低気圧に向かって南寄りの風が吹き込み、県内は強い風の吹いた所があった。 【災害概況】 JR高山線では、風速が規制値を超え越中八尾～笹津駅間で一時運転を見合わせ特急4本、普通6本が運休し、普通7本が遅延した。また、JR北陸本線でも風速が規制値を超え東富山～魚津駅間、小杉駅～東富山駅間で運転を見合わせ、普通3本が運休し、特急9本、普通10本が遅延した。
3月 18日	強風	その他(風害)	東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 日本海で発達中の低気圧に向かって南寄りの風が吹き込み、県内は強い風の吹いた所があった。 【災害概況】 道路では、射水市の新湊大橋で風速が規制値を超え一時通行止めとなった。JR北陸本線と高山本線は、風速が規制値を超え特急26本、普通15本が運休し、特急4本と普通23本が遅延した。
4月 6日 ～7日	強風	強風害 その他(風害)	西部	二つ玉低気圧	【気象概況】 6日から7日にかけて日本海と太平洋側を低気圧が発達しながら東に進んだため、県内では強い風の吹いたところがあった。 【災害概況】 高岡市では、非住家2棟で強風により屋根や雨どいの破損があった。災害発生日時は不明。 交通では、6日、北陸本線と高山線で特急と普通合わせて54本が運休し10本が遅延した。7日、北陸本線で特急29本が運休し、20本が遅延した。
4月 24日	強風	強風害 その他(風害)	東部	日本海低気圧	【気象概況】 24日、日本海を低気圧が発達しながら北東に進んだため、県内では強い風の吹いたところがあった。 【災害概況】 富山市では住家1棟で屋根のトタンが飛ばされた。 交通では、JR高山線で特急と普通合わせて6本が区間運休し、2本が遅延した。
6月 1日 ～30日	高温(長期) 高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 6月は、月の半ば以降は本州上に梅雨前線が停滞し雨となった日があったが、全般には高気圧に覆われて晴れた日が多かった。 月平均気温は、平年よりかなり高くなったところが多かった。【災害概況】 6月中に熱中症とみられる症状の病院への搬送者数は25名。うち中等症8名、軽症17名。 日別 は、2日1名、6日2名、9日1名、12日1名、13日3名、14日2名、15日1名、16日3名、17日1名、23日1名、24日1名、25日3名、27日2名、29日1名、30日2名。
6月 18日 ～19日	大雨 強雨	浸水害 その他(雨害) 洪水害	東部 西部	梅雨前線 日本海低気圧 暖気の移流	【気象概況】 18日から19日にかけて、日本海に梅雨前線がのび、前線を低気圧が東に進んだ。県内は19日午前中を中心に大雨となり、一部では激しい雨を伴った。 【災害概況】 氷見市は19日11時過ぎ、女良、宇波、八代の3地区に避難準備情報を出し、33人が自主避難した。市内の論田ではため池の堤上部が幅5mにわたって崩れた。 住家では、黒部市で2棟(内非住家1棟)、氷見市で7棟が床下浸水した。 道路では、国道160号が氷見市で、国道156号が南砺市で、立山黒部アルペンルートは桂台～美女平間で雨量の事前規制により通行止めとなった。 鉄道では、JR氷見線・高山本線、城端線で大雨により速度を落として運転し一部に遅延が発生した。遅延本数は不明。黒部峡谷鉄道は午前9時以降のすべての列車を運休した。 農業では、富山市、射水市、入善町、氷見市で大豆畑等76.55haが冠水した。入善町では農道3箇所が冠水した。
6月 21日 ～22日	大雨 強雨	山がけ崩れ害	西部	梅雨前線 気圧の谷	【気象概況】 21日から22日にかけて、日本の南海上に梅雨前線が停滞し、前線を台風第4号から変わった低気圧が東に進んだ。県内は梅雨前線と気圧の谷の影響により21日から22日にかけて一時激しい雨を伴って大雨となった。 【災害概況】 21日、10時30分、氷見市幸町で市道の下土砂が流され路面が陥没しているのを市の巡視員が発見した。この影響で付近の道路が通行止めとなった。 21日、19時頃、氷見市森寺の民家裏山で土砂崩れが発生した。人的・物的被害はなし。
7月 1日 ～31日	高温(長期) 高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 7月の前半を中心に、高気圧に覆われ晴れて気温が平年に比べかなり高くなった所が多かった。 【災害概況】 県内では105名が熱中症とみられる症状で病院に搬送され、内訳は重症3名、中等症26名、軽症76名となった。日別搬送者数は、1日1名、4日4名、5・6日3名、7日1名、8・9日5名、10日4名、11日6名、12日14名、13日6名、14日1名、15・16日3名、17日4名、18日2名、20日4名、21日7名、22日1名、23・25・26日4名、27日2名、28日4名、29日1名、30日4名、31日5名。
7月 27日	強雨 その他(雨)	強雨害	東部	雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流	【気象概況】 27日は上空に寒気を伴った気圧の谷が通過した。県内は大気の状態が非常に不安定となって、午後、山間部を中心に強雨となった。 【災害概況】 道路では、富山立山公園線の藤橋一桂台で道路への土砂流出があり16時50分より通行止めとなった。弘法称名停車場線では桂台～飛龍橋間で13時50分より事前規制により通行止めとなった。 鉄道では、富山地方鉄道立山線の立山～有峰口駅間で14時10分から事前規制により一時運転を見合わせ、9本が区間運休し、15本が遅延した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
7月 29日 ～30日	大雨 強雨	強雨害 その他(雨害)	西部	梅雨前線 暖気の移流	【気象概況】 29日から30日にかけて、梅雨前線が本州上に停滞し、この前線に向かって湿った空気が流れ込み、29日の明け方から30日の朝にかけて、県内は所々で激しい雨が降って大雨となった所があった。 【災害概況】 鉄道では、29日、JR北陸本線がで事前規制により3本の部分運休と1本の遅延が発生した。 道路では、29日、県道福光・上平線の南砺市刀利一西赤尾町、県道金沢・湯涌・福光線の野分一刀利間がそれぞれ事前規制により通行止めとなった。 高岡市羽広では鉄道高架橋下の市道が冠水し通行止めとなった。
8月 1日	高温 高温(長期)	酷暑害	東 部 西 部	太平洋高気圧	【気象概況】 8月は、太平洋高気圧が日本の南海上から西日本を中心に張り出した。特に上旬後半から中旬にかけては勢力が強まり、県内は晴れて厳しい暑さが続き猛暑日となる日もあった。 【災害概況】 県内では176名が熱中症とみられる症状で病院に搬送され、内訳は重症3名、中等症40名、軽症133名となった。10名以上が搬送された日と搬送者数は6日11名、7日14名、9日11名、10日14名、11日11名、19日19名となっている。
8月 5日	強雨	その他(雨害)	西部	雷雨(熱雷を除く) 暖気の移流	【気象概況】 日本の東に中心を持つ高気圧に覆われ日中は晴れたが、湿った空気が流れ込んだ影響で朝晩は雷雨となった所があった。 【災害概況】 5日20時頃、JR城端線城端駅(南砺市)で雨量が規制値(50mm/h)に達したため一時運転を見合わせ、普通7本が遅延した。
8月 6日	強雨	その他(雨害)	東 部	気圧の谷 雷雨(熱雷を除く) 暖気の移流	【気象概況】 東海道沖には低気圧があって、ゆっくり東南東に進んだ。また、日本の南には高気圧があって、ほとんど停滞していた。本州付近は気圧の谷となり、湿った空気が入り込んで大気の状態が不安定となり、夕方は東部の山間部で雨が非常に激しく降った。 【災害概況】 道路では弘法称名立山停車場線の桂台～美女平間が16時30分より雨量規制により全面通行止めとなった。
8月 23日 ～24日	大雨 強雨 雷	浸水害 山がけ崩れ害 強雨害 その他(雨害)	東 部 西 部	停滞前線 暖気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 23日から24日にかけて、日本海に前線が停滞し、この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、北陸地方では大気の状態が非常に不安定となった。県内は23日朝から24日朝にかけて大雨となり、23日朝は非常に激しい雨が降った。23日の日降水量は氷見市で165.5ミリを観測したほか、伏木207.5ミリ、立山芦峰188.5ミリ、富山181.5ミリを観測し、8月の平年の降水量を上回る地点があった。また、極値を更新した地点も多くあった。日最大1時間降水量は氷見で39.5ミリの激しい雨を観測したほか、伏木60.0ミリ、富山53.0ミリの非常に激しい雨を観測した。 【災害概況】 家屋被害は、富山市で床上浸水1棟があったほか、床下浸水が富山市4棟、高岡市20棟、氷見市4棟、南砺市1棟、射水市26棟となった。 交通は、23日JRで85本が運休し151本が遅延したほか富山地方鉄道でも運休や遅延が発生した。富山空港離発着便は2便が欠航した。また、道路では事前規制や土砂崩れにより通行止めとなったところがあった。 土砂災害件数は、がけ崩れが7か所、地滑り2か所、土石流1か所発生した。 農業では、農作物やハウスへの冠水等の被害が発生した。 電力では、23日落雷により1494戸で停電が発生した。 自治体の対応では氷見市と立山町で避難準備情報が発令された。
8月 30日 ～31日	大雨 強雨	浸水害 その他(雨害) 山がけ崩れ害	東 部 西 部	停滞前線 暖気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 30日から31日にかけて、日本海の前線を伴った低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で大気の状態が不安定となり、一時的に激しい雨の降った所があった。 【災害概況】 住家では、30日、床下浸水が黒部市で1棟、射水市で2棟。31日、床下浸水が富山市で2棟、南砺市で1棟となった。 道路では、30日、高岡市で市道3か所、氷見市で市道5か所、射水市で1か所が冠水により通行止めとなった。また事前規制により、黒部市の朝日宇奈月線、氷見市の氷見田鶴浜線が通行止めとなった。氷見市角間万尾脇方線では土砂崩れが発生した(詳細は不明)。 鉄道では、JR北陸本線が事前規制により普通2本と特急2本が遅延し、特急7本と普通6本に遅延が発生した。JR氷見線、高山本線、城端線にも速度を落とすなどして一部遅延が発生した(遅延本数不明)。富山地鉄本線は普通2本が遅延、万葉線にも一部遅延が発生した(本数不明)。
9月 3日 ～4日	強雨 雷 大雨	浸水害 山がけ崩れ害 その他(雨害) 落雷害	東 部 西 部	台風 停滞前線 南岸低気圧	【気象概況】 3日、北陸付近に前線が停滞し昼過ぎから雨となった。4日、台風第17号は4日9時温帯低気圧となって西日本の太平洋沿岸を進んだ。この低気圧から前線が、四国付近から西日本、北陸地方を通過して北日本にのびていた。昼過ぎから雨となり、雷を伴い激しく降った所があった。 【災害概況】 3日、高岡市でがけ崩れが1件発生した。 4日、住家では、床下浸水が富山市で23棟・非住家10棟、滑川市で1棟発生した。また富山市南部で9万3千戸が一時停電した。 交通では、JR高山線が事前規制により、10本が遅延し、3本が遅延した。JR北陸線は19本が遅延し、富山地方鉄道は2本が遅延した。 道路では、富山市八尾町東葛坂の県道で土砂が道路を塞いだため通行止めとなった。
9月 4日 ～29日	高温 高温(長期)	酷暑害	東 部 西 部	太平洋高気圧	【気象概況】 9月は日本の南海上の亜熱帯高気圧が平年より強く、また偏西風も平年より北を流れたため、中・下旬を中心に晴れて気温の高い日が多かった。 【災害概況】 県内では11名が熱中症とみられる症状で病院に搬送され、内訳は中等症1名、軽症10名となった。日別では4日、13日、21日、25日それぞれ1名、14日4名、29日3名となっている。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
9月 15日 ～16日	大雨 強雨 強風	土石流害 浸水害 山がけ崩れ害 その他(雨害) 強風害	東部 西部	台風 暖気の移流	【気象概況】 台風第18号は、16日8時前、愛知県豊橋市付近に上陸し、その後、夕方にかけて関東甲信・東北地方を縦断した。県内は15日の明け方から雨が降りだし、16日の夕方にかけて大雨となった。特に16日明け方から朝にかけては非常に激しく降った所があった。また、15日夜遅くから16日昼過ぎにかけて強風となった。 【災害概況】 住家の被害は、南砺市城端で4棟が床下浸水した。富山市で1棟のトタン屋根が強風で飛ばされた。 道路では、国道や県道30か所が事前規制や土砂崩れ、冠水で通行止めとなった。また、富山市八尾の伊田川にかかる橋の橋脚が洗掘により傾いた。 農業被害、富山市婦中で排水が追いつかず田畑が冠水したほか、強風による果実の落下被害があった。 交通では、JR北陸線で特急92本が運休した。JR城端線と高山線も事前規制により一部区間で運転を見合わせた。富山空港離発着便6便が欠航した。 南砺市は福野、井波両地域の182世帯に避難勧告を出した。
10月 9日	強風	強風害	東部 西部	台風 日本海低気圧	【気象概況】 9日、台風第24号から変わった温帯低気圧が日本海を東北東に進んだ。県内は各地で強風が吹いた。 【災害概況】 富山市で10時15分ごろ、強風により転倒して1名が軽症。正午ごろ中新川郡立山町室道平で強風により転倒し1名が重症。 住家では、富山市で1棟が一部損壊。 農業では、果樹(リンゴ、なし、柿)に76tの落下被害がでた。被害面積は5.6ha。 鉄道では事前規制によりJR北陸線、高山線、氷見線および城端線で25本が運休し59本が遅延した。 6市町が小中学校の下校時間を早めた。
10月 15日 ～16日	強風 大雨	強風害 その他(雨害)	東部 西部	台風	【気象概況】 15日、日本の南海上を北北東に進んだ台風第26号は、16日、強い勢力を保ったまま関東の東の海上を北上し午後には三陸沖で温帯低気圧に変わった。県内は15日の昼過ぎから雨となり、16日の明け方から朝にかけては強い雨を伴って荒れた天気となった。 【災害概況】 16日、富山市では1名が強風により転倒し重傷となった。また、交通では事前の雨量規制により道路の通行止めが18か所、鉄道ではJR北陸線と高山線で運休・遅延が発生した。航空では、悪天により国内・国外便に欠航が生じた。教育機関では、84の小中学校が始業時間を遅らせ、1校は休校となった。農業では強風による果実の落下が5.9トン、野菜(ねぎ)の折損が1.3haとなった。
11月 17日 ～22日	大雨 雷	山がけ崩れ害 落雷害	西部	雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流	【気象概況】 17日、前線を伴った低気圧が日本海を通過し、その後22日にかけて冬型の気圧配置が続いた。上空には寒気を伴った気圧の谷が次々と通過し大気の状態が不安定となって県内は断続的に雨となり、この期間の降水量は200mmを超えた所があった。 【災害概況】 氷見市で、19日の朝と20日4時15分ごろ土砂崩れが各1件、21日は2件の土砂崩れが発生し、市道2か所、県道1か所、農道1か所が通行止めとなった。そのうち市道1か所が損壊。 JR氷見線では、雨晴駅構内で落雷により信号機が故障し、一時運転を見合わせ、8本が運休した。
11月 27日	強風	強風害	東部	日本海低気圧 寒気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 27日、上空に寒気を伴った低気圧が発達しながら日本海を北東に進み大気の状態が不安定となり、県内はやや強い風の吹いたところがあった。 【災害概況】 富山市で住家のトタンが飛ばされる被害が1件発生した。
12月 11日 ～14日	強風	強風害	東部	日本海低気圧 寒冷前線 季節風	【気象概況】 11日から14日にかけて、日本海を進んだ低気圧や冬型の気圧配置となった影響で、強い風の吹いたところがあった。 【災害概況】 13日の朝、立山町で自転車で行走中の1名が風にあおられ転倒し軽傷を負った。
平成26年 (2014年) 1月 9日 ～10日	その他(雪)	その他(雪害)	西部	季節風 寒気の移流	【気象概況】 1月9日から10日にかけて一時的に冬型の気圧配置が強まった。県内は雪となり山沿いでは大雪となった所があった。 【災害概況】 射水市で、トラック荷台の雪下ろし中に転落して1名が軽傷を負った。
5月 1日 ～31日	高温(長期) 高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 5月は高気圧に覆われて晴れた日が多く特に下旬を中心に本州の南海上の高気圧が勢力を強め、真夏並の暑さとなる日があった。 【災害概況】 5月中に熱中症と見られる症状での病院への搬送者数は12名。うち、中等症7名、軽症5名。日別は、19日2名、24日2名、27日1名、28日1名、30日4名、31日2名。
5月 8日 ～9日	強風	強風害	東部	日本海低気圧	【気象概況】 日本海を低気圧が発達しながら東に進んだ影響により、県内は西よりのやや強い風の吹いたところがあった。 【災害概況】 魚津市で水稲育苗ハウス2棟の被覆が破損した。
5月 12日	強風	強風害	東部	二つ玉低気圧	【気象概況】 日本の東には高気圧があって南東に進み、一方、本州の南岸と中国東北区には前線を伴った低気圧があって北東に進んだ。本州付近には気圧の傾きが急になり県内は南寄りのやや強い風の吹いた所があった。 【災害概況】 富山市では農業用パイプハウス2棟に被覆破損の被害が発生した。 鉄道では、JR高山線の越中富山―笹津の上下線で一時運転を見合わせたため、特急2本が運休し、特急2本と普通列車7本が遅延した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
6月 1日 ～30日	高温(長期) 高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 6月は上旬の前半を中心に、高気圧に覆われ晴れて気温が平年の値を大幅に上回った。また、中旬の半ばも気温の高い日があり、月平均気温がかなり高くなった所が多くなった。 【災害概況】 6月中に熱中症とみられる症状の病院への搬送者数は35名。内重症1名、中等症は6名、軽症28名。日別は1日10名、2日1名、3日4名、6日1名、7日1名、8日1名、10日3名、16日3名、17日1名、19日1名、21日1名、23日1名、25日1名、27日3名、28日1名、30日2名。
6月 12日 ～13日	大雨 強雨	浸水害	東部 西部	寒気の移流 雷雨(熱雷を除く) 気圧の谷	【気象概況】 12日、上空に強い寒気を伴った気圧の谷が通過した。このため県内は大気の状態が非常に不安定となって断続的に雨となり、特に夜になって激しい雨となったところがあった。 【災害概況】 住家では、射水市で6棟、富山市で1棟が床下浸水する被害が発生した。道路では、射水市で5箇所が冠水した。
7月 2日 ～31日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 7月は高気圧に覆われ晴れて気温が高くなった日があり、特に9日と25日はフェーン現象の影響もあって各地で猛暑日となった。 【災害概況】 7月中に熱中症とみられる症状で112名が病院に搬送された。各地で猛暑日となった9日は15名、25日は36名が搬送された。搬送者の症状の内訳は死者2名、重症3名、中等症23名、軽症84名となった。
7月 19日 ～20日	大雨 強雨 雷	浸水害 山がけ崩れ害 土石流害 落雷害 ひょう(あられ) 害	東部 西部	寒気の移流 雷雨(熱雷を除く) 日本海低気圧	【気象概況】 7月19日から20日にかけて、上空に強い寒気を伴った低気圧が、日本海を南東に進み、20日9時には能登半島付近まで進んだ。19日の夜遅くから20日未明にかけて、断続的に非常に激しい雨が降り、魚津では19日23時54分までの1時間に83.0ミリの猛烈な雨を観測し、降り始め(18日09時)からの総降水量は280.5ミリとなった。また、解析雨量では、砺波市砺波付近で20日2時までの1時間に約120ミリ、高岡市高岡付近で約100ミリの猛烈な雨を解析した。 【災害概況】 住家では魚津市で3棟の床上浸水のほか、5市町で137棟の床下浸水が発生した。土砂災害は、護岸の損壊などにより県内21箇所で公共土木施設被害が発生した。道路では、県道9路線で法面崩壊や冠水により片側・全面通行止めが発生した。北陸自動車道は砺波―小杉間が通行止めとなった。農業では、冠水や浸水、ひょうによる農作物被害と、法面崩壊などの農地被害が発生した。鉄道では、JR北陸線が普通6本が運休または部分運休、特急と普通18本が遅延した。航空では、富山空港離発着便2便が機体への落雷等により遅延した。
7月 27日	強雨	その他(雨害)	東部	寒冷前線	【気象概況】 27日、北海道付近を東に進む低気圧からのびる前線が北陸地方を通過した影響により、曇りで昼前まで雨となり、明け方には激しく降ったところがあった。 【災害概況】 JR高山線では、午前5時頃、越中八尾駅で雨量が事前規制値を超えたため、速星―東八尾駅間で徐行運転を行い、普通2本が運休し3本が遅延した。
8月 1日 ～29日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 8月は上旬の前半と、中旬の終わりから下旬の前半にかけて、高気圧に覆われ晴れて気温の高くなった日があった。 【災害概況】 8月中に県内では、148名が熱中症と見られる症状で病院に搬送された。搬送者が多かったのは19日44名、20日17名、1日15名、2日14名、3日10名(以下略)となっている。症状の内訳は重症2名、中等症35名、軽症111名。 (平成26年9月12日作成)
8月 8日	大雨 強雨	山がけ崩れ害 浸水害	東部 西部	停滞前線 暖気の移流	【気象概況】 8日、日本海の前線が南下し、北陸地方沿岸で停滞していた。この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、県内は雨となり激しい雨が降った所があった。 【災害概況】 氷見市論田では午前7時25分ごろ、市道論田中央線で土砂崩れが発生との連絡が住民より市に入った。市によると斜面が高さ3メートル、幅17メートルにわたって崩れ、約50立方メートルの土砂や樹木が道路をふさぎ、約150メートルが通行止めとなった。また、富山市では午前8時25分ごろ、JR北陸線の呉羽-富山駅間にある呉羽トンネルの呉羽駅側出口付近の線路が約50メートルにわたって冠水し、一時運転を見合わせた。この影響により特急と普通列車合わせて6本に最大38分の遅れが出た。
8月 10日 ～11日	大雨 強雨 強風	強風害 浸水害 その他(雨害)	東部 西部	停滞前線 台風 暖気の移流	【気象概況】 10日、東北地方から西日本にかけては、前線が停滞していた。また台風第11号は10日朝に高知県に上陸し、その後西日本を横断し昼過ぎに日本海に抜けた。台風はその後、北に進み、11日朝には日本海北部で温帯低気圧に変わった。県内は10日から11日にかけてやや強い風を伴って断続的に雨となった。 【災害概況】 水稻の倒伏、大豆やそばの浸水と冠水、果樹の落下などの農業被害が発生した。交通では、JR北陸線、氷見線、高山線に雨量規制による運休や遅延が発生した。
8月 16日 ～17日	大雨 強雨 雷	山がけ崩れ害 その他(雨害) 強雨害 浸水害 落雷害	東部 西部	停滞前線 暖気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 16日から17日にかけて、本州上に停滞した前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が非常に不安定となって、県内は大雨となり雷を伴って激しく降った所があった。 【災害概況】 氷見市、南砺市、高岡市でがけ崩れが発生した。農業では、南砺市や富山市で水稻の倒伏や大豆の浸水などの被害が発生した。交通では、JR北陸線、高山線、城端線で運休や遅延が発生した。富山空港離発着便は、機体への落雷により一部が破損したため2便が欠航した。
8月 22日	強雨	その他(雨害)	東部	寒冷前線	【気象概況】 22日、日本海を発達しながら北東に進んだ低気圧の閉塞点からのびる寒冷前線が県内を通過した。この影響により雷を伴って激しい雨が降った所があった。 【災害概況】 JR高山本線では、雨量が事前規制値を超えたため、14時23分から16時10分まで東八尾駅～楡原駅間で運転を見合わせ、普通列車2本が運休した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
8月 26日 ～27日	大雨 強雨	浸水害 山がけ崩れ害 その他(雨害)	東部 西部	日本海低気圧 閉塞前線 暖気の移流	【気象概況】 26日、山陰沖に前線を伴った低気圧があつてゆっくり東に進み、27日には北陸地方でほとんど停滞した。県内は断続的に雨となり、特に26日の朝から昼前にかけて雷を伴って激しい雨が降った所があつた。 【災害概況】 氷見市で3箇所、高岡市で2箇所のがけ崩れが発生した。 道路では、氷見市で市道5箇所、高岡市で市道4箇所が土砂の流入や冠水により通行止めとなった。鉄道では、JR氷見線が雨量の事前規制により午前中1時間30分運転を見合わせ2本が運休し2本が遅延した。万葉線は、射水市の東新湊駅そばで線路が冠水し6本が運休した。 富山空港離発着便は、悪天候により3便が欠航した。
8月 30日	強雨	その他(雨害)	西部	気圧の谷 寒気の移流	【気象概況】 30日、地上では北陸付近には気圧の谷があつて停滞し、湿った空気が流れ込んだ。一方、上空には強い寒気があつて大気の状態が非常に不安定となった。県の西部では明け方を中心に激しい雨が降った所があつた。 【災害概況】 JR高岡駅では、4時20分に雨量が事前規制値に達したため、JR氷見線とJR城端線が始発から全区間で運転を見合わせた。北陸線は越中大門～福岡駅間で徐行した。この影響で城端線6本、氷見線で5本、北陸線で2本運休し、北陸線で14本、城端線2本が遅延した。
9月 1日 ～30日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	移動性高気圧	【気象概況】 9月は移動性の高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。気温は中旬は平年より低かったほかは、平年並か平年に比べ高かった。 【災害概況】 県内では、18名が熱中症と見られる症状で病院に搬送された。搬送者が多かったのは28日8名、6日2名でその他の日は各1名であった。症状の内訳は重症1名、中等症4名、軽症13名であった。また、発生日は上旬と下旬に限られており、気温が平年より低かった中旬の発生は無かった。
9月 24日 ～25日	強風	強風害	東部	日本海低気圧	【気象概況】 台風第16号から変わった温帯低気圧が日本海を東に進んだ影響により、24日から25日にかけて県内では局地的にやや強い風が吹いた。 【災害概況】 中新川郡立山町で、強風による果樹(りんご)の落下被害が発生した。
10月 5日 ～6日	強風 大雨	強風害 その他(雨害)	東部 西部	台風	【気象概況】 大型で強い台風第18号は、6日06時には尾鷲市の東南東の海上を北東に進み、08時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸した。その後も勢力を維持したまま関東地方南部を速度を速めながら北東に進み、昼過ぎには関東の東海上に抜け、21時には日本の東で温帯低気圧に変わった。この台風の影響により県内では大雨となった所があり、また局地的に一時強い風が吹いた。 【災害概況】 交通では、雨量が規制値を超えたため、砺波市庄川町小牧一南砺市下梨の国道156号が通行止めとなった。富山空港離発着便は4便が欠航し7便が遅延した。 農業では、南砺市で水稲が強風により倒伏した。 教育機関では、氷見市、南砺市、砺波市、小矢部市で小・中学校56校が臨時休校した。
10月 13日 ～14日	強風 大雨 波浪 その他(海象)	強風害 その他(雨害) 海上波浪害	東部 西部	台風	【気象概況】 台風第19号は、13日8時半頃、鹿児島県枕崎市付近に、14時半頃に高知県宿毛市付近に、20時半頃に大阪府岸和田市付近に上陸した。その後本州を横断し、14日6時には三陸沖を北東に進んだ。 【災害概況】 人的被害は、13日、高岡市で、女性1名が風にあおられ転倒して重症。 交通では、事前規制により、14日1時30分から国道156号の砺波市庄川町小牧一南砺市下梨、同日8時30分から南砺市下梨-南砺市西赤尾町、同日6時から国道304号の南砺市梨谷-下梨が通行止めとなった。 農業では、滑川市、射水市、上市町、立山町で果樹の落下被害、射水市と入善町でパイプハウスの被覆破損の被害が発生した。 漁業では、魚津市で2ヶ所、朝日町1ヶ所、入善町で2ヶ所の計5ヶ所で定置網が波浪や速い潮流によって破れた。 教育機関では、14日、高岡市のすべての小・中学校・特別支援学校を休校、射水市、入善町、朝日町は始業時間を遅らせた。
12月 1日 ～7日	大雨 大雪	地すべり害	西部	日本海低気圧 寒気の移流 季節風	【気象概況】 1日日本海で低気圧が急速に発達し、その後は寒気移流が強まり7日にかけて冬型の気圧配置が続き、雨や雪の日が多くなった。 【災害概況】 断続的な雨や雪が続いた影響で、7日午後、南砺市井栗谷の県道井栗谷・大門線で道路と周りの水田が100m高さ30mにわたって崩れているのが見つかった。道路は全面通行止めとなった。
12月 5日	雷	落雷害	東部	寒気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 日本付近は冬型の気圧配置で、富山県では大気の状態が不安定となっていた。 【災害概況】 気象台の観測でも明け方から複数回雷を観測していた。 魚津市で落雷により屋外作業中の男性1名が一時心肺停止となった。その後復活。
12月 5日 ～26日	その他(雪) 大雪	その他(雪害)	東部	大陸高気圧 季節風	【気象概況】 12月の県内は、断続的に強い寒気が流れ込んで冬型の気圧配置となった日が多く、度々の降雪により積雪状態となった日が多くなった。 【災害概況】 除雪中の事故(屋根の雪下ろし中の転落、除雪中の用水への転落、除雪中の転倒等)により県内7市で6名が死亡し9名が負傷した。
12月 5日 ～7日	大雪	雪圧害	東部 西部	大陸高気圧 季節風	【気象概況】 5日から7日にかけて上空に強い寒気が流れ込み冬型の気圧配置が続き、県内は大雪となったところがあった。 【災害概況】 降雪により、農作物では砺波市と南砺市で白ねぎの茎葉凍損が0.7haと、魚津市をはじめ7市でリンゴの枝折れ等樹体被害が281本発生した。また施設被害では、魚津市でぶどう棚の全壊1棟、一部倒壊が2棟発生した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
12月 16日 ～19日	強風 波浪 異常潮	沿岸波浪害 副振動害	東部 西部	日本海低気圧 季節風	【気象概況】 16日から19日にかけて、低気圧が急速に発達しながら日本海から北海道の東に進み、日本付近は強い冬型の気圧配置となって富山県では海上を中心に強い風が吹いた。また、「寄り回り波」と呼ばれる副振動が発生した。 【災害概況】 魚津市沖と朝日町沖の海上の4箇所で激しい潮により定置網が破損した。また、射水市の富山新港の突堤護岸の被覆石が、「寄り回り波」により長さ30m幅5mにわたって飛散した。
1月 2日 ～14日	その他(雪)	その他(雪害)	東部 西部	大陸高気圧 季節風	【気象概況】 1月は上旬を中心に冬型の気圧配置の影響により雪の日が多くなった。 【災害概況】 除雪中の事故(屋根からの転落、転倒等)により県内5市町で6名が負傷した。内訳は、2日2名軽傷、3日1名軽傷、4日1名重傷、5日1名重傷、14日1名軽傷。
1月 6日	強風	その他(風害)	東部	日本海低気圧	【気象概況】 6日、低気圧が発達しながら日本海を進んだ影響により、県内は南寄りの強風となった所があった。 【災害概況】 JR高山線では、越中八尾―笹津駅間で風速が規制値を超えたため、9時30分頃から約35分間運転を見合わせた。列車の遅延はなかった。
2月 9日 ～18日	大雪 その他(雪)	その他(雪害)	東部 西部	大陸高気圧 季節風	【気象概況】 2月は上旬を中心に冬型の気圧配置の影響により雪の日が多く、大雪となった日もあった。 【災害概況】 除雪中の事故(転倒、転落、除雪機)により県内4市で6名が負傷した。内訳は、9日2名軽傷、10日3名軽傷、18日1名重傷。
3月 1日 ～13日	その他(雪)	その他(雪害)	東部	大陸高気圧 季節風	【気象概況】 3月は上旬から中旬にかけて、一時的に冬型の気圧配置が強まった影響により積雪となった日があった。 【災害概況】 除雪中の事故(除雪機によるもの、側溝への転落)により、県内東部の4市町で1名が死亡、1名が重傷、3名が軽傷を負った。内訳は1日1名軽傷、10日1名死亡、11日1名重傷、1名軽傷、13日1名軽傷
3月 8日 ～10日	大雪 着雪	積雪害 着雪害 その他(雪害)	東部 西部	季節風 大陸高気圧	【気象概況】 8日の夜から10日にかけて強い冬型の気圧配置が続いた影響により、県内は各地で大雪となった。 【災害概況】 富山空港離発着便は、9日13便が欠航、10日5便が欠航し4便が遅延した。鉄道では、9日14時30分頃、JR北陸線の高岡―西高岡間で普通列車のパンタグラフが雪の重みで下がり立ち往生し、特急7本と普通4本の計11本が遅延した。道路では、北陸自動車道五箇山―白河郷間がスリップ事故の影響により、9日12時40分から2時間55分通行止めとなった。このほかにもスリップ事故が相次いだ。教育機関では、一部の小中学校で9日と10日に始業時間の繰下げと終業時間の繰上げを実施した。一部の高校では10日に行なわれた入試の開始時間を遅らせた。
4月 3日	強風	強風害	東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 4月3日、日本海北部を前線を伴った低気圧が発達しながら東北東に進んだ影響により、県内は強風となった所があった。 【災害概況】 農業では、富山市、魚津市、立山町でハイブハウス17棟の被覆物破損の施設被害、富山市で大根の茎葉折損0.01haの農作物被害が発生した。(市町村毎の集計は無し) 鉄道では、JR高山線が10本運休し、7本が遅延した。あいの風とやま鉄道は、小杉駅―東富山駅間で運転を見合わせ、22本が運休し45本が遅延した。 道路では、富山市の神通川にかかる新保大橋が9時30分から一時通行止めとなった。
4月 20日	強風	強風害	東部	日本海低気圧	【気象概況】 4月20日、低気圧が発達しながら日本海を北東に進んだ影響により、県内は日中を中心に強風となった所があった。 【災害概況】 交通では、JR高山線の越中八尾駅―笹津駅間で一時運転を見合わせ、4本が運休、部分運休し、3本が遅延した。
4月 26日 ～30日	高温	酷暑害	東部 西部	移動性高気圧	【気象概況】 4月の下旬は21日が雨となった他は高気圧に覆われ晴れとなった。気温は平年に比べかなり高く、24日と26日以降は夏日となった。 【災害概況】 県内では27日から29日にかけて、熱中症とみられる症状で4名が病院に搬送された。内訳は27日軽症2名、28日中等症1名、29日軽症1名となった。
5月 1日 ～31日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	移動性高気圧	【気象概況】 5月は、移動性の高気圧に覆われ晴れた日が多く、また中旬は太平洋高気圧の勢力が強まったことから、南から暖かな空気が流れ込み易くなった。この影響により県内の観測地点では5月の月平均気温と月間日照時間が観測開始以来の第1位となった所が多く記録的な高温と多照となった。 【災害概況】 5月中に県内では、18名が熱中症とみられる症状で病院に搬送された。症状の内訳は、重傷1名、中等症7名、軽傷10名となった。日別搬送者数は1日、7日、14日、16日、22日、30日がそれぞれ1名。2日、8日、24日、26日、27日、29日がそれぞれ2名。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
5月 12日	強風	強風害	東部 西部	その他(低気圧) 台風	【気象概況】 12日、中国東北区には発達した低気圧があつて北東に進んだ。また、台風第6号が日本の南海上に北東に進んだ。一方、日本の東には高気圧があつて東に進み本州上は気圧の傾きが急となった。この影響により県内は昼頃を中心に強い風が吹いた所があつた。 【災害概況】 農業では、富山市でパイプハウスの被覆物の破損、富山市と南砺市及び砺波市で大麦の倒伏、野菜や花きの茎葉葉損の被害が発生した。 交通では、JR高山線が、越中八尾―笹津駅間で風速が規制値に達し、特急と普通12本が運休や部分運休し、普通6本が遅延した。あいの風とやま鉄道は普通17本が遅延した。 富山空港離発着便は、2便が欠航した。 道路では、射水市の新湊大橋、富山市の新保大橋と新婦大橋が風速の事前規制により通行止めとなった。
6月 13日 ～30日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	移動性高気圧	【気象概況】 6月は、梅雨前線が日本の南海上に停滞することが多く、県内は梅雨前線の影響を受けにくかつたため、中旬を中心に晴れて暑い日があつた。 【災害概況】 県内では、17名が熱中症とみられる症状で病院に搬送された。症状の内訳は、中等症5名、軽傷10名。特に真夏日となった所が多かつた13日から14日にかけては9名が搬送された。 日別搬送者数は14日7名、13日と25日2名、15日、16日、18日、20日、24日、30日がそれぞれ1名。
6月 16日	強雨	山がけ崩れ害	東部 西部	気圧の谷 寒気の移流	【気象概況】 16日、上空を寒気を伴つた気圧の谷が通過した影響により、午後は大気の状態が不安定となつて、短時間に激しい雨の降つた所があつた。解析雨量では、南砺市の事例は災害発生時、付近の時間雨量は約30ミリ、3時間積算で約40ミリ、朝日町の事例は、16日の災害場所付近の最大は、時間雨量約40ミリ、3時間約50ミリの降水量となつていた。 【災害概況】 16日15時30分、南砺市利賀村上畠で、水田の畦畔が1ヶ所崩れその下の法面も崩壊する被害が発生した。 下新川郡朝日町では、町道湯ノ瀬北俣線で4箇所の法面や路肩の崩壊があり通行止めとなつた。
7月 2日 ～31日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 7月は、中旬以降、日本の南東海上で太平洋高気圧の勢力が強まり、高気圧に覆われやすく、晴れて暑い日が多くなつた。7月中に県内のいずれかの観測所(10地点)が真夏日となつたのは19日あり、7日は猛暑日となつた。13日は全地点で猛暑日となつた。 【災害概況】 この酷暑により、県内では、中・下旬を中心に174名が熱中症とみられる症状で病院に搬送された。症状の内訳は、重症3名、中等症50名、軽症121名。日別搬送者数(10名以上)は、12日12名、13日28名、14日10名、15日17名、20日16名、21日12名、24日11名、26日17名。
8月 1日 ～9月 15日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 8月上旬は、太平洋高気圧が本州付近に張り出し、晴れて気温が高くなつた日が多く、日最高気温が35℃以上の猛暑日となつた日もあつた。 【災害概況】 酷暑により、県内では、8月上旬を中心として9月15日までに120名が熱中症とみられる症状で病院に搬送された。症状の内訳は、死者1名(9日、氷見市)、重症11名、中等症42名、軽症66名。日別搬送者数(10名以上)は、1日と2日11名、4日と6日10名、7日14名、9日10名。
8月 17日	強雨	その他(雨害)	東部 西部	前線帯 暖気の移流 日本海低気圧	【気象概況】 17日、北陸地方の沿岸を低気圧が北東に進んだ。また、本州の南岸には前線が停滞した。県内には南から湿つた空気が流れ込み大気の状態が不安定となつて、夜のはじめ頃を中心に非常に激しい雨が降つた所があつた。 【災害概況】 鉄道では、雨量の事前規制により、JR高山本線が18時32分から速星―東八尾間で運転を見合わせ、4本が運休し7本が遅延。JR城端線は18時01分から福野―城端間で徐行、18時08分から戸出一福野間で徐行、18時29分から戸出一福野間で運転見合わせとなり2本が運休した。
9月 3日	強雨	その他(雨害)	西部	前線帯 南岸低気圧 寒気の移流	【気象概況】 3日、前線が本州の南岸から東シナ海に停滞した。また、四国付近には前線上の低気圧があつて東北東に進んだ。県内は曇りで朝晩は雨となり、夜は激しく降つた所があつた。 【災害概況】 JR氷見線では、伏木駅で20時30分頃、雨量が事前規制値(40ミリ)に達したため一時運転を見合わせた。普通2本が運休し4本が遅延した。
9月 9日	強風	強風害	東部 西部	台風	【気象概況】 9日、台風第18号は10時過ぎに愛知県知多半島に上陸し、21時には日本海で温帯低気圧に変わった。県内は日中強い風が吹いた所があつた。 【災害概況】 人的被害は、12時20分頃、高岡市で強風にあおられ転倒し軽傷1名。 鉄道では、9時頃から、JR氷見線が強風により一時運転を見合わせ、2本が運休、3本が遅延した。 道路では、日中、射水市の新湊大橋が強風により通行止め。7時50分頃、富山市興人町の市道で木が倒れ一時通行止めとなつた。 農業では、パイプハウスの被覆の破損が朝日町と入善町で4棟、水稲・大豆・そばの倒伏、なしやりんごの落下、りんご樹体の倒伏が、高岡市・小矢部市・朝日町・入善町・黒部市・射水市・氷見市で発生した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
10月 1日 ～2日	強風 大雨 強雨	強風害 その他(雨害)	東部 西部	日本海低気圧 寒冷前線	【気象概況】 1日から2日にかけて低気圧が急速に発達しながら日本海を北東に進んだ影響により、県内は南寄りの風が強まり非常に強い風となった所があった。また、低気圧からのびる寒冷前線が1日夜遅くから2日の未明にかけて県内を通過したため大気の状態が不安定となって、激しい雨が降った所があった。 【災害概況】 人的被害は、1日22時15分頃、入善町で1名が強風で転倒し重傷を負った。 農業被害は、パイプハウスの被覆物の破損と穀類の倒伏や落葉、果樹の落下が発生した。 交通への影響は、あいの風とやま鉄道が14本が運休、15本が遅延した。JR高山線・城端線でも一部区間で最大30分の遅延が発生した。富山空港離発着便は、強風により2本が欠航した。 電力では、風雨により富山市110戸、黒部市230戸、入善町190戸、高岡市430戸が停電した。 このほか、国土交通省黒部川河川事務所は2日、宇奈月ダムの洪水調節を行った。
12月 3日 ～4日	強風 雷	強風害 落雷害	東部 西部	二つ玉低気圧 雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流	【気象概況】 3日、前線を伴った低気圧が日本の北と南を発達しながら東に進んだ。低気圧の通過後は上空に強い寒気が流れ込み、4日にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置となり等圧線の混んだ状態となった。県内は、3日から4日にかけて南寄り、または西寄りの強い風が吹いた所があった。また、所々で雷が発生した。 【災害概況】 農業では、滑川市、富山市、射水市、高岡市で果樹(りんご)の落果被害が発生した。 航空では、3日夜、富山空港着陸便が富山湾上空で被雷し、修理のため翌日折り返し便が欠航した。
平成28年 (2016年) 1月 1日 ～2月 29日	その他(雪)	その他(雪害)	東部 西部	大陸高気圧 季節風	【気象概況】 1月中旬から下旬にかけてを中心に冬型の気圧配置の影響により雪の日が多くなった。 【災害概況】 1月28日富山市で除雪中の転倒により1名が軽傷、2月17日高岡市で除雪中の屋根からの転落により1名が軽傷。
1月 23日 ～25日	大雪 強風	浸水害 その他(雪害) 積雪害 陸上視程不良 害	東部 西部	局地性じょう乱 寒気の移流 季節風	【気象概況】 1月23日から24日昼前にかけて小さな低気圧が北陸地方の沿岸に次々に発生して東に進み、24日昼過ぎには冬型の気圧配置となった。 24日21時には輪島上空約5000メートルに氷点下43.9度の強い寒気が入り、25日にかけて非常に強い冬型の気圧配置となった。 この低気圧の影響により、23日夜から平地で雪が降り大雪となった。また強風を伴った所があった。 【災害概況】 人的被害は、除雪中の転倒等により5名が軽傷を負った。 家屋被害は、黒部市若栗で用水が排雪で詰まり住家・非住家それぞれ1棟が床下浸水した。 道路では、積雪や視程不良により高速道路5区間で全面通行止め。国・県道は5路線で全面通行止めとなった。また23日08時30分から26日08時30分の間に385件のスリップ事故が発生した。鉄道と航空では24日から25日にかけて積雪と除雪が追いつかないことによる運休や遅延が発生した。学校では、25日休校7校、授業打ち切り7校、始業時間の変更12校となった。 電力では、24日深夜から25日にかけて、氷見市で降雪での倒木による断線で450戸が最大6時間20分停電した。
4月 7日	強風	強風害	東部	日本海低気圧	【気象概況】 前線を伴った低気圧が日本海を発達しながら東北東に進み、県内は強風となった所があった。 【災害概況】 住家では、7日12時ごろ、富山市西長江で、民家の屋根のトタンの一部が強風によりめくれた。また7日13時ごろ、富山市向新庄町で、社員寮の屋根のトタンが強風により全部めくれた。 鉄道では、JR高山本線で、9時から14時にかけて断続的に風速が規制値に達したため、4本が運休または部分運休したほか5本が遅延した。 農業では、富山市でパイプハウスの被覆破損の施設被害が発生した。 電力では、11時頃、富山市と立山町で、電線のショートによる10戸未満の停電が発生した。
4月 17日	強風	強風害	東部 西部	日本海低気圧 寒冷前線	【気象概況】 17日、前線を伴った低気圧が、急速に発達しながら日本海を北東に進んだ。県内は、明け方から南よりの風が強まり、昼過ぎから西よりの風にかわり非常に強く吹いた。 【災害概況】 強風により、 人的被害は、滑川市で9時10分頃、強風にあおられ転倒し1名が死亡、このほか重傷2名、軽傷24名となった。 住家では、82棟が一部損壊。 鉄道では北陸新幹線で33本が運休、19本が遅延した。あいの風とやま鉄道42本が遅延。JR高山本線運休17本、JR城端線運休24本、JR氷見線運休4本、富山地方鉄道運休9本、ライトレール運休11本、万葉線運休74本。 航空では、東京ー富山、千歳ー富山それぞれ1便欠航 道路では、北陸自動車道の滑川ー砺波間が9時15分から7時間通行止めとなった。 文教施設では、40校でがらが破損した。 農業では、パイプハウスの倒壊や被覆物破損、野菜と花卉の茎葉折損等の被害が発生した。
5月 1日 ～31日	高温	酷暑害	東部 西部	移動性高気圧	【気象概況】 5月の県内は、高気圧に覆われ晴れた日が多く、日照時間は平年の110～120%、月平均気温は全ての観測地点で平年に比べかなり高くなった。 【災害概況】 5月中に県内では、23名が熱中症とみられる症状で病院に搬送された。症状の内訳は重症1名、中等症8名、軽症19名となった。日別搬送者数は26日11名、29日3名、21日と24日が2名、2日、13～16日、22～23日、25日、28日、31日それぞれ1名。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
5月 3日 ～4日	強風	強風害	東部 西部	その他(低気圧) 寒冷前線	【気象概況】 5月2日、黄河下流で発生した低気圧は、ボツ海から黄海付近を通過した2日午後から、中国東北区を進んだ3日昼頃にかけて急速に発達し、その後は発達することなく東北東に進んだ。この低気圧からのびる寒冷前線が、4日未明に北陸地方を通過した。県内は、3日夕方から4日の未明と、4日の日中を中心に南または西よりの強風が吹いた。 【災害概況】 人的被害は、3日と4日、風に煽られての転倒などにより6市で10名が軽傷を負った。住家被害は、3日、富山市で屋根瓦の破損などの一部損壊が22棟となった。鉄道では、3日、JR城端線・氷見線・高山線で131本が運休、あいの風とやま鉄道は34本が運休した。道路では、3日、北陸自動車道滑川ー富山西インターチェンジ間が通行止めとなった。富山空港離発着便は、3日1便が欠航した。農業では、県内全域で、パイプハウスの全半壊、被覆物破損、露地野菜の茎葉葉損等の被害が発生した。
5月 16日	強風	強風害	東部	日本海低気圧	【気象概況】 16日、日本海を低気圧が発達しながら北東に進んだ。県内は日中を中心に南または西寄りのやや強い風が吹いたところがあった。 【災害概況】 家屋被害は、富山市で倉庫外壁のトタンのめくれが3件発生した。鉄道では、JR高山線の越中八尾駅ー笹津駅間で、9時46分から10時02分、10時47分から11時29分、12時58分から13時37分にかけて断続的に運転見合わせし、一部列車に遅延が発生した(遅延本数は不明)。
6月 1日 30日	高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 6月の県内は、全般に気温が平年に比べ高い日が多く、特に中旬は全ての観測地点で平年を2～3℃上回り、「かなり高い」階級となった。 【災害概況】 6月中に県内では、34名が熱中症とみられる症状で病院に搬送された。症状の内訳は重症2名、中等症7名、軽症25名。日別の搬送者数は、12日9名、8日8名、21日4名、18日3名、11日と4日がそれぞれ2名、17日、19～20日、26～27日、30日がそれぞれ1名となった。
7月 1日 ～31日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 7月の県内は、暖かい空気に覆われたため、全ての地点で月平均気温が平年を上回った。階級区分では、八尾と魚津が平年並となった他は、平年に比べ高くなった。 【災害概況】 7月中に県内では、114名が熱中症とみられる症状で病院に搬送された。症状の内訳は重症2名、中等症51名、軽症60名、その他1名。日別の搬送者数は、24日と28日が14名、31日が13名、2日と30日が11名、29日9名、6日6名、12日5名、10日と25日4名、1日、19日、22日、27日が3名、11日と14日が2名、3日、7日、13日、16日、18日、21日、23日が1名となった。
7月 13日	大雨 強雨	その他(雨害)	東部	雷雨(熱雷を除く) 梅雨前線 寒気の移流	【気象概況】 13日、西日本の日本海沿岸から東日本にのびる梅雨前線がゆっくり南下した。また日本海には上空に寒気をもった低気圧があって東に進んだ。このため大気の状態が不安定となって、所々で雷雨となり、雷を伴って激しく降った所があった。 【災害概況】 JR高山線は、19時15分頃、富山駅で雨量が事前規制値を越えたため、21時50分頃まで富山ー速星駅間で運転を見合わせ、6本が運休し3本が遅延した。
7月 14日	強風 大雨 大雨	強風害 浸水害 その他(雨害)	東部	雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流	【気象概況】 7月14日、上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、活発な積乱雲が発生した。東部を中心に所々で雷雨となり、突風が吹いた所や、非常に激しい雨が降り大雨となった所があった。 解析雨量では14日16時までの1時間に上市町付近で約70mmとなった。 【災害概況】 17時30分頃、富山市小杉で、民家のトタン屋根5m×5mが50m飛ばされた。人的被害はなし。 中新川郡上市町では、床下浸水1棟の被害が発生した。 鉄道では、JR高山線の越中八尾駅で17時50分頃、雨量が事前規制値を超えたため富山ー猪谷駅間の運転を19時30分頃まで見合わせ、6本が運休、4本が遅延した。 【調査結果】 富山市小杉で突風が発生し、住家の屋根のトタンの飛散の被害があり、7月15日富山地方気象台は現地調査を実施した。 調査結果から、この突風をもたらした現象は、特定に至らなかった。また、この突風の強さは、不明であった。
7月 26日 ～27日	大雨 強雨	浸水害 山がけ崩れ害 その他(雨害) 洪水害 強雨害	東部	暖気の移流 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 26日、日本海中部には低気圧があってゆっくり東に進んだ。またボツ海にあった停滞前線上の低気圧は27日にかけて沿海州に進んだ。停滞前線は27日には日本海中部にのび、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で県内では大気の状態が不安定となった。26日の夜遅くから27日未明を中心に、非常に激しい雨の降った所があり、立山芦峯では7月27日01時16分までの1時間に60.5ミリの非常に激しい雨を観測し、26日00時から27日09時までの総降水量は217.5ミリとなった。解析雨量では、中新川郡立山町で26日00時から27日09時までの積算で約250ミリの降水を解析した。 【災害概況】 住家では、用水の溢れにより、富山市で67棟、立山町で6棟が床下浸水した。文教施設では立山町で小学校校舎内が床上浸水した。 鉄道では、富山地方鉄道は富山市原地籍で線路上に土砂が流入し千垣ー立山駅間が不通となった。 JR高山本線は、富山駅の時間降水量が事前規制値を越えた事と路線の基盤がかなりの降水を含んだため、富山ー猪谷間で運転を見合わせ24本が運休した。 路線バスは、27日、室堂線、有峰線が道路通行止めにより全便運休となった。 道路では、立山町で町道3ヶ所が冠水により通行止め、富山市では、県道富山上滝立山線が舗装や側溝の破損により通行止めとなり路線バスが運休した。また鉄道高架下が冠水し県道が一時通行止めとなった。 この他、河川では立山町で河川の護岸等一部損壊や農業で畦畔の崩れや農作物の浸水被害が発生した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
8月 1日 ～31日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 8月の県内は、太平洋高気圧に覆われ月間日照時間は平年並か平年に比べ多く、気温は平年並が高くなり、猛暑日となった日もあった。 【災害概況】 8月中に県内では、154名が熱中症とみられる症状で病院に搬送された。症状の内訳は重症8名、中等症57名、軽症89名。1日あたり10名以上が搬送されたのは、7日が22名、8日が16名、22日が11名、25日が10名となった。
8月 3日	強雨	その他(雨害)	東部	雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流	【気象概況】 湿った空気と上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となって、朝のうち雷雨になった所があった。富山市では7時までの1時間に約50ミリの降水が解析された。 【災害概況】 JR高山本線では、東八尾一速星駅間で、6時から9時頃にかけて雨量の事前規制により運転を見合わせた。見合わせによる運休と遅延の本数は不明。
8月 26日 ～27日	大雨 強雨	その他(雨害)	東部	停滞前線 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 26日の午後、停滞前線が北陸地方を南下した。県内は26日夕方から27日の午前中にかけて雨となり非常に激しく降った所があった。 【災害概況】 JR高山本線では、猪谷一笹津駅間で、26日18時頃、雨量が事前規制値に達したため一時運転を見合わせ、2本が運休、3本が遅延した。
9月 1日 ～27日	高温 高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 9月の県内は、月の初めは高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が多くなった。 【災害概況】 9月中に県内では、36名が熱中症とみられる症状で病院で搬送された。症状の内訳は重症2名、中等症7名、軽症27名。1日あたりの搬送者が多かったのは1日10名、2日6名、3日と4日は4名となった。
9月 5日 ～10月 10日	寡照(長期) 長雨	その他(湿度・日照害) 長雨害	東部 西部	前線帯	【気象概況】 9月5日頃から10月10日頃にかけて、日本付近の偏西風は大陸東岸で南に蛇行し日本の東では北へ蛇行したため暖かい空気が流れ込みやすくなった。県内は低気圧や前線及び台風の影響により曇りや雨の日が多かった。 【災害概況】 寡照と雨の日が多かった期間に、県内で栽培される大豆の内、エンレイという品種を中心に成熟期と収穫期にあつたため、莢組織内の菌糸の進展が進み紫斑粒が発生し、刈り遅れにより腐敗粒が発生した。 10月31日現在県農林振興センター調べによると、腐敗粒等被害発生程度別ほ場割合は、20%未満が2428ha、20～50%が933ha、50%以上が1351haとなった。
9月 8日	大雨 強雨	その他(雨害) その他(大気現象害)	東部	南岸低気圧 雷雨(熱雷を除く) 暖気の移流	【気象概況】 8日、台風第13号から変わった温帯低気圧が日本の南岸を東進した。また、若狭湾付近で発生した低気圧が北陸地方を通過した。暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により朝から昼過ぎにかけて雷を伴って激しい雨の降った所があった。 【災害概況】 JR高山線は、12時10分頃、越中八尾駅で雨量が規制値(30ミリ)に達し、速星一東八尾駅間で運転を見合わせ、6本が運休、1本が遅延した。 富山空港離発着便は悪天のため2便が欠航、2便が遅延した。
9月 17日 ～21日	大雨 強雨	その他(雨害) 山がけ崩れ害	東部 西部	停滞前線 台風	【気象概況】 17日から21日にかけて、日本付近に停滞した前線と、台風第16号の影響により県内は大雨となった。17日降り始めから21日9時にかけての総降水量は100ミリを超え、東部と西部の山間部では240ミリを超えた所があった。 【災害概況】 道路では、20日、立山町の県道2ヶ所が道路の崩壊と路肩欠損があった。砺波市では、山間部の市道で法面から崩れた土砂が道路を覆い通行止めとなった。 農林水産施設では、20日、小矢部市で水田の法面崩壊が1ヶ所、農道の法面崩壊が2ヶ所となった。 交通では、JR高山線が19日の朝と20日の夕方、雨量が規制値を超えたため徐行運転した影響で18本運休、14本が遅延した。JR城端線は19日朝、雨量が規制値を超えたため運転を見合わせ12本が運休した。黒部峡谷鉄道は降雨が続いたため19日と20日全面運休した(本数不明)。富山空港離発着便は、3便が遅延した。
10月 2日	高温	酷暑害	東部	移動性高気圧	【気象概況】 気圧の谷の影響により朝まで雨の降った所があったが、その後は高気圧に覆われて晴れた。このため夏日となった所が多く湿度も高かった。 【災害概況】 滑川市で、1名が熱中症と見られる症状で搬送され軽症。
10月 5日 ～6日	強風	強風害	東部 西部	台風 日本海低気圧	【気象概況】 台風第18号と、この台風から変わった低気圧の影響により、県内は5日夜のはじめ頃から雨より又は西よりのやや強い風が吹き始め、夜遅くには更に強まり風速20メートル以上の暴風の吹いた所があった。 【災害概況】 人的被害は、5日夜、砺波市と高岡市でそれぞれ1名が飛散物により軽傷となった。 住家では、黒部市で住家1棟が一部破損した。 農業では、施設30棟にビニールハウスの損壊、被覆破損、畜舎屋根の破損等、農作物は倒伏、果樹の落果(主にリンゴ229tとかき18t)、茎葉の棄損等により被害面積709haとなった。樹体被害はリンゴとかき25本に倒伏、主枝の折損が発生した。 交通では、JR高山線の富山一猪谷間で普通7本運休、JR城端線が城端一高岡間で4本運休、JR水見線は高岡一水見間で3本運休、新幹線は金沢一新高岡間で1本運休、11本が遅延した。あいの風とやま鉄道は15本が運休、富山地方鉄道は12本が運休、高速バスは7便が運休。富山空港離発着便は2便が欠航した。 その他、停電が約850戸発生した。
11月 28日 ～29日	雪崩	雪崩害	東部	季節風 大陸高気圧	【気象概況】 28日から29日にかけて日本付近は冬型の気圧配置が続いた。この期間、県内は曇りや雨となり、標高の高い所では雪が降った。 【災害概況】 29日8時30分、北アルプス立山室堂付近から雄山を目指した大学生6名が室堂平から一の越の間で表層雪崩に巻き込まれ4名は自力脱出、2名が救出され、1名が死亡、1名低体温症、1名は軽傷。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
12月 22日	強風	強風害	東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 22日、日本海低を前線を伴った低気圧が発達しながら北東に進んだ影響により、県内は強風となった所があった。 【災害概況】 人的被害は、22日午前、強風にあおられ転倒するなどして砺波市で軽傷1名、滑川市軽傷1名、南砺市重傷1名となった。 交通では、JR高山線で風速の事前規制により18本が運休した。あいの風とやま鉄道は、泊一糸魚川駅間で2本が運休し4本が遅延した。 農業では、富山市、魚津市、南砺市でパイプハウスの被覆物破損等の被害が3棟発生した。
平成29年 (2017年) 1月 8日 ～17日	その他(雪) その他(雨)	地すべり害	西部	その他	【気象概況】 1月上旬から中旬にかけて、低気圧や気圧の谷、或いは冬型の気圧配置の影響により雨や雪の日が多くなった。 【災害概況】 南砺市利賀村上百瀬の旧利賀スキー場で16日地滑りが発生。地滑りはその後も続き2月23日現在住家被害は1棟が全壊、1棟が半壊となっている。 南砺市は1月20日14時20分に付近の6世帯10名に対し避難勧告を発令した。 1月24日現在自主避難含め14名が避難している。
1月 12日	雷	落雷害	東部	雷雨(熱雷を除く) 季節風 寒気の移流	【気象概況】 12日、冬型の気圧配置となって、県内は雨又はみぞれが降り一部で雷を伴った所があった。 【災害概況】 魚津市では、住家屋根への落雷により屋根瓦や屋内の電気製品に被害が発生した。
1月 13日 ～16日	大雪 着雪 その他(気温)	積雪害 雪圧害 着雪害 その他(気温害) 陸上視程不良害	東部 西部	大陸高気圧 寒気の移流 季節風	【気象概況】 13日から16日にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置が続いた。このため県内は大雪となった所があった。 【災害概況】 14日、交通機関では、万葉線のレールが寒さで一部が変形し一時運転を見合わせた。富山空港離発着便は降雪のため2便が遅延、4便が欠航した。15日、JR高山線は7本が運休、JR氷見線の一部に遅延、富山地方鉄道は倒木により一時運転を見合わせた。富山空港離発着便は6便が欠航した。 万葉線の運休本数、JR氷見線と富山地方鉄道の遅延本数のとりまとめはなし。
1月 16日 ～29日	大雪 その他(雪)	その他(雪害)	東部 西部	大陸高気圧 季節風	【気象概況】 1月中旬以降は、冬型の気圧配置の影響により雪の日が多くなった。 【災害概況】 除雪中の事故(転倒、転落、埋没、除雪機)により県内4市で9名が負傷し、1名が死亡した。内訳は、16日1名軽傷、17日1名死亡、1名軽傷、19日1名軽傷、23日1名重傷、25日2名軽傷、26日1名重傷、27日1名軽傷、29日1名重傷。
1月 20日 ～21日	強風 波浪	強風害 海上波浪害	東部	日本海低気圧 寒気の移流	【気象概況】 20日、上空に寒気を伴った低気圧が日本海を東に進み、夜遅くには北陸地方に接近した。低気圧はその後、不明瞭となったが、日本の南を東に進んだ別の低気圧が関東の東海上で発達し等圧線が混み、県内は21日未明から北寄りの強風となり海上は高波となった。 【災害概況】 21日1時30分ごろ、魚津港沖1.5km付近で、漁船の乗組員の1人が誤って海へ転落し、死亡する事故が発生した。
1月 23日 ～25日	大雪 着雪	雪圧害 着雪害 陸上視程不良害	東部 西部	大陸高気圧 季節風 寒気の移流	【気象概況】 23日から25日にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置が続き、県内は大雪となった所があった。 【災害概況】 あいの風とやま鉄道では、24日14時15分頃、西高岡駅で雪の重みでパンタグラフが垂れ下がり、一時運転を見合わせ5本が遅延した。 富山空港離発着便は24日2便が降雪のため遅延した。
1月 27日	強風	強風害	東部	日本海低気圧 寒冷前線	【気象概況】 27日、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海北部を東に進み、寒冷前線が夕方にかけて北陸地方を通過した。県内は日中を中心に強風となった所があった。 【災害概況】 27日、11時30分頃、下新川郡入善町で、歩行中に強風に煽られて転倒し1名が軽傷を負った。
2月 11日 ～12日	大雪 その他(雪)	その他(雪害)	東部 西部	大陸高気圧 季節風	【気象概況】 2月月中旬を中心に、一時的な冬型の気圧配置となって雪となった日があった。 【災害概況】 除雪中の事故(重機、除雪機)により県内2市で2名が負傷した。内訳は11日1名軽傷、12日1名重傷。
3月 30日	雪崩	雪崩害	東部	二つ玉低気圧	【気象概況】 東海道沖及び日本海北部に低気圧。 【災害概況】 規模:高さ3m、幅5.4m、長さ20m 除雪により30日21時55分復旧。人的被害無し。
4月 17日 ～18日	強風	強風害	東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】日本海を低気圧が発達しながら北東に進んだ。県内は17日夜から南よりの風が強まり18日朝から西よりにかわり強風が続いた。 【災害概況】強風により、 農業では、富山市でパイプハウスを覆っているビニールが破損(18日) 鉄道ではJR高山線3本運転とりやめ(18日) 停電(小矢部市80戸、南砺市280戸)(17日)
4月 30日	雪崩	雪崩害	東部	その他(高気圧)	【気象概況】 30日は高気圧に覆われ県内は概ね晴れ 【災害概況】 30日午後2時5分ごろ、富山県の北アルプス・剣岳(標高2999メートル)の源次郎尾根(同約2700メートル)で雪崩が発生し、男性登山者1人が巻き込まれたのを、富山県警山岳警備隊員が目撃した。男性は同県消防防災ヘリで救助されたが約3時間後、搬送先の富山市内の病院で死亡が確認された。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
5月 20日 ～22日	高温	酷暑害	東部 西部	移動性高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われて晴れ、気温が上昇した。 【災害概況】 20日から22日にかけて晴れて気温が上昇し、県内ではこの3日間に12人が熱中症の疑いで病院に搬送された。
6月 30日 ～7月 5日	大雨	浸水害 山がけ崩れ害	東部 西部	梅雨前線	【気象概況】 活発な梅雨前線が北陸地方に停滞し、1日から4日にかけて大雨となった。 【災害概況】 1日、氷見市で浸水害 1日、小矢部市の県道214号線で土砂崩れ 1日、南砺市の県道42号線で土砂崩れ 1日、黒部市宇奈月町黒薙で土砂崩れ 1日、鉄道で一時運休(城端線一時運転見合わせ、北陸新幹線長野富山間で一時運転見合わせ) 3日、水稲など農作物冠水 3日、富山市の神通川で釣りの男性行方不明
7月 24日 ～26日	大雨	山がけ崩れ害 浸水害	東部 西部	梅雨前線	【気象概況】 梅雨前線が北陸地方に停滞した影響で県内のところどころで大雨となった。 【災害概況】 高岡市の万葉ラインで土砂崩れの影響で一部通行止め。 高岡市城光寺3-1で県道に至るまで土砂崩れが発生。 床下浸水1棟(高岡市戸出町) 道路冠水(富山市松若町) 呉羽山付近の民家の基礎部分まで土砂が押し寄せ、近くの4世帯11人が自主避難(富山市五福) JR高山線、JR城端線、JR北陸線、雨量計が規制値に達し、運転見合わせ。 あいの風富山鉄道線の倶利伽羅-石動間で線路沿いに土砂が流れ込み運転見合わせ(小矢部市)。 北陸自動車道小杉インター-富山西インター間の上下線で通行止め。
8月 25日	大雨 強雨	浸水害 山がけ崩れ害 強雨害	東部 西部	寒冷前線 暖気の移流	【気象概況】 25日朝、低気圧から延びる寒冷前線が富山県をゆっくり南下し、前線に向かって暖かく湿った空気が入り県内は大雨となったところがあった。 【災害概況】 富山市で床下浸水5棟、射水市で床下浸水1棟 南砺市で市道土砂流出により通行止め、砺波市で林道牛岳線法面崩壊 高岡市、富山市、小矢部市で道路が冠水 JR線は北陸、城端、高山、氷見など各線あわせて特急22本、普通48本が運休 あいの風とやま鉄道は上下線8本で運転取りやめ、上下線15本で最大3時の遅れ
9月 18日	強風	強風害	東部 西部	台風	【気象概況】 17日から18日にかけて台風第18号が本州を北東に進み、18日未明に富山県を通過して北海道に進んだ。 この影響で富山県の所々で強風となった。 【災害概況】 水稲の倒伏や収穫前のりんごやなしの実が落下するなど農作物に被害が発生した。 電車が運休になるなど交通機関に影響がでた。17日は特急列車33本、普通列車31本運休。 高岡市や入善町で倒木が発生。
10月 22日 ～23日	強風 大雨 強雨	強風害 山がけ崩れ害 浸水害 沿岸波浪害	東部 西部	台風	【気象概況】 台風第21号が本州の南海上を北上し、23日未明に静岡県に上陸し、関東地方を通過した影響で富山県では北北東の非常に強い風が吹き、また、大雨となった所があった。 【災害概況】 ○人的被害:死者1名(小矢部市1)、軽傷6名(富山市4、南砺市2) ○住家被害等:一部破損42件、床下浸水5棟 ○公共土木施設:地すべり防止施設の一部崩落1箇所、県道の路肩欠損・土砂流出・倒木11箇所、県立公園内の施設破損・倒木6箇所、県管理河川・海岸の堤防欠損等22箇所、港湾施設の損傷17箇所 ○農林関係:田の法面崩壊等22箇所、農道への土砂流入等16箇所、ため池の管理道路崩れ等3箇所、パイプハウス、堆肥舎、牛舎などの破損164施設、海岸の松の倒木120本、山腹崩壊等15箇所、林道の路肩崩壊・法面崩壊42路線、散居景観関係被害5件7本 ○その他:富山港で外国船舶が座礁。乗組員19人に人的被害なし。関西電力成田発電所(南砺市)の施設に土砂流入。国指定文化財等の一部破損(瑞龍寺、勝興寺等)。県有施設・県立学校等で倒木、施設の一部・ガラス窓破損など。水路破損等33箇所。22日午後11時現在、あいの風富山鉄道は上下線13本、JR西日本金沢支社は上下線で特急30本と普通57本運休。 ・空の便は富山-東京便3便欠航。
12月 17日	大雪	積雪害	東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 冬の気圧配置が強まった。 【災害概況】 富山空港周辺の降雪で富山空港発着の全日空東京便や札幌便の計10便が最大で2時間37分遅れ、あわせて977人に影響がでた。 北陸自動車道の小矢部ICから金沢森本IC間は正午から下り線が2時間半、上り線は4時間にわたり通行止めとなった。 高速バスでも運休や遅れが出た。
平成30年 (2018年) 1月 9日	強風	強風害	東部 西部	季節風 寒気の移流	【気象概況】 冬の気圧配置が次第に強まった。 【災害概況】 強風のため、富山市の5つのスキー場が営業を取りやめた。 路面電車万葉線は午後2時半頃、風で飛ばされたビニールが架線に付着したため、一時運転を見合わせた。上下線で計2本が区間運休した。 午後3時頃高岡市戸出栄町で高さ12mのヒマラヤスギが市道側に倒れ電話線にもたれかかったため、高岡市が伐採した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
1月 11日 ～12日	大雪	積雪害 雪圧害 その他(雪害)	東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 上空の強い寒気が日本付近に流入し、冬型の気圧配置が強まった。 【災害概況】 1.人的被害 重傷2名(砺波市)除雪作業中に負傷 軽傷4名(南砺市、砺波市、小矢部市)除雪中、倒木の撤去作業中に負傷 2.道路関係 ○北陸自動車道富山ICから丸岡ICまで通行止め ○東海北陸自動車道小矢部砺波JCT～福光JCTまで通行止め ○能越自動車道小矢部東IC～小矢部砺波JCTまで通行止め ○県道7箇所まで通行止め(高岡市2箇所、氷見市3箇所、小矢部市2箇所) いずれも12日に発生 3.公共交通機関 ○12日、JR城端線、JR氷見線始発から運休、あいの風鉄道午前中運休、万葉線始発から運休、路線バス、高速バス大幅な遅延または運休 4.農業関係 ○パイプハウス全壊2棟(高岡市、氷見市)半壊1棟(射水市) ○果樹棚半壊1棟(射水市) ○りんご、日本なし主枝折損(射水市)
1月 23日 ～25日	強風 大雪	積雪害 強風害	東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 23日、北陸地方の上空5500m付近に氷点下33℃以下の強い寒気が入り、冬型の気圧配置が強まった。 【災害概況】 1.人的被害 1月23日重傷1名(入善町) 2.公共交通機関 1月24日 JR高山本線運休36本、城端線運休7本、氷見線運休1本、あいの風とやま鉄道・区間運休2本、富山地方鉄道運休2本、富山地方鉄道高速バス運休9便、加越能高速バス運休3便、空港東京便(全便欠航)、札幌便(全便欠航) 1月25日 高山本線運休1本、城端線運休12本、富山地方鉄道高速バス運休26便、加越能高速バス運休4便、空港東京便(欠航1便) 3.農業施設 強風により小矢部市内の鶏舎の屋根が破損
1月 29日 ～30日	低温	凍結害	西部	寒気の移流	【気象概況】 北陸地方の上空に強い寒気が入り、冬型の気圧配置が続いた。 【災害概況】 氷見市で水道管の凍結や破裂が原因とみられる断水が30日正午の時点でおよそ500世帯で起きていて市は給水車を出して対応している。
2月 4日	強風	強風害	東部	寒気の移流	【気象概況】上空に強い寒気が入り、冬型の気圧配置が強まり、大気の状態が不安定となった。 【災害概況】 ・黒部市堀高地区で住家や車庫など5棟の屋根などに被害があった。
2月 5日 ～7日	大雪	積雪害 雪圧害 その他(雪害)	東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 北陸地方の上空に強い寒気が入り、冬型の気圧配置が強まり、県内では5日から7日にかけて大雪となった。 【災害概況】 ○人的被害重傷1名、軽傷1名いずれも雪下ろし中に負傷 ○交通障害 6日JR氷見線、城端線終日運行取りやめ、あいの風富山鉄道始発から夕方まで運休、北陸新幹線富山-金沢間2本運休 7日JR氷見線、城端線、高山本線の一部運休、あいの風富山鉄道金沢-高岡間で運休 6日東海北陸道の五箇山-福光IC間の上り線が通行止め 6日富山空港全便欠航 ○農業関係 パイプハウス全壊3棟(入善町、富山市)
3月 1日	強風 雷	強風害 落雷害	東部 西部	日本海低気圧 寒気の移流	【気象概況】 1日、日本海北部と三陸沖を低気圧が発達しながら北東へ進み、次第に冬型の気圧配置となった。 【災害概況】 南砺市でゴミステーションが強風で飛ばされ、自動車2台に衝突。 黒部市で火の見櫓の屋根が風で飛ばされた。 立山町で落雷の衝撃により、窓ガラスが破損。 けが1名(女性79歳)、黒部市卸売市場シャッター破損。 北陸新幹線一時運転見合わせ。 あいの風とやま鉄道運休11本。 富山空港欠航3便
4月 14日 ～15日	強風	強風害	東部	日本海低気圧	【気象概況】 14日、前線を伴った低気圧が日本海を発達しながら北東に進んだ。 【災害概況】 (14日) 富山市内で約940世帯が停電した。 富山市内の婦中町郷と奥井町で民家のトタン屋根が剥がれた。 JR高山線特急3本、普通11本運休(午後4時50分ころから)。 あいの風とやま鉄道上下線18本に遅れ。運転とりやめ2本。 富山空港東京行き最終便欠航。東京発最終便が63分遅れて到着。
4月 22日	乾燥 高温	乾燥害 その他(気温害)	東部 西部	移動性高気圧	【気象概況】 22日、県内は高気圧に覆われて晴れとなった。 【災害概況】 22日午後2時10分ころ、砺波市増山の亀山城跡周辺の山の斜面で、枯れ草や倒木など約5.6アールを焼いた。県消防防災ヘリや砺波消防署のポンプ車などが出動し、約1時間20分後に消し止めた。けが人はいなかった。 22日、魚津市で開かれた魚津しんきろうマラソンで、出場者4人が熱中症とみられる症状で病院に搬送され、手当てを受けた。 22日午後1時35分ころ、富山市町袋の常願寺川左岸の河川敷で、下草約640平方メートルを焼き、約40分後に消し止めた。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
7月 1日 ～31日	高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 富山県内は高気圧に覆われ、晴れて気温が高くなった。 【災害概況】 熱中症による搬送者数 7月1日～31日の間に378人が病院に搬送され、その内死亡4人、重傷8人であった。
7月 2日	高温	酷暑害	西部	太平洋高気圧	【気象概況】 日本の東に高気圧があって日本付近に張り出しています。 【災害概況】 7月4日、高岡署は高岡市国吉の畑で2日に遺体で発見された男性について司法解剖し、死因は熱中症とみられると発表した。県消防課によると県内で熱中症による死者は今年初めて。
7月 4日 ～7日	大雨 強雨	浸水害 強雨害	東部 西部	梅雨前線	【気象概況】 北海道付近に低気圧があって東へ進んでいます。また前線が東日本にのびてゆっくり南下しています。 【災害概況】 大雨により富山市の住宅2棟、宿泊施設1棟が床下浸水した。水橋地域では河川氾濫の恐れがあるとして38世帯57人が小学校などに避難した。また、県内では土砂が河川に崩落するなど土砂災害が多数発生した。 富山地方鉄道:5日17時ごろ土砂崩れが発生したため、岩峯寺-立山駅間の運転見合わせ。 一部区間運休11本 JR:北陸線特急終日運休、高山線5日運休31本、6日終日運休、城端線5日運休24本、6日終日運休。 黒部峡谷鉄道:トロッキ電車3往復運休 幹線道路:国道41号富山市猪谷-片掛間が通行止め。南砺市付近の国道156号で通行止め。 高速道路:東海北陸自動車道は午後6時半から福光IC-白川郷ICの上下線が通行止め。 空の便:5日、雨による視界不良で東京発の最終便に遅れ。6日の東京行き第1便欠航。
7月 14日	高温	酷暑害	西部	太平洋高気圧	【気象概況】 本州付近は高気圧に覆われていた。 【災害概況】 射水市の男性一人が熱中症の疑いがあり、射水市民病院に運ばれたが、死亡が確認された。
7月 15日 ～23日	高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 本州付近は高気圧に覆われ晴れています。また、15日以降は気温の非常に高い日が続いています。 【災害概況】 21日午後4時頃高岡市姫野の路面電車万葉線の中新湊駅付近で運行中の電車が脱線した。運転手と乗客4人にけがはなかった。国土交通省北陸信越運輸局などは、猛暑でレールの温度が上がってゆがみが生じた可能性もあるとみて、原因を調べている。 22日、県内では熱中症とみられる症状で16人が救急搬送された。この他、富山、高岡、射水、滑川、小矢部、立山、入善の7市町村で10～80代の計14人が熱中症の疑いで搬送された。 23日、県内では熱中症とみられる症状で12人が救急搬送された。同日、滑川市の女性が熱中症で病院に搬送されたが死亡が確認された。この他、富山、高岡、射水、滑川、立山、南砺の6市町村で10～80代の計11人が搬送された。
8月 1日 ～31日	高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 8月中、富山県内は高気圧に覆われ、晴れて気温が高い日が多かった。 【災害概況】 8月1日から31日の間、富山県内では熱中症とみられる症状で201人が病院に搬送され、その内重傷4人、中・軽傷197人であった。
8月 18日	その他(海象)	該当なし	東部	移動性高気圧	【気象概況】 日本海に中心を持つ高気圧に覆われていた。 【災害概況】 18日午前、朝日町の海岸で海水浴をしていた53歳の男性が溺れて死亡しました。入善警察署などによりますと、18日午前11時前、朝日町境のオートキャンプ場近くの海岸で、海水浴をしていた男性が溺れたと妻から110番通報がありました。男性は消防などに救助されましたが、搬送先の病院で死亡が確認されました。男性は子ども2人をゴムボートに乗せて、自分自身はボートにつかまりながら海水浴を楽しんでいたところ、ボートが転覆したということです。子ども2人は、転覆したボートとともに岸まで流されて無事でした。警察は、死因や転覆の原因を調べています。(北日本放送webページより引用、一部修正)
8月 24日	強風	強風害	東部 西部	台風	【気象概況】 24日、台風第20号が西日本から日本海を北上した。 【災害概況】 強風によりはがれた屋根のトタンが電線に接触し、約350戸で停電が発生したが、復旧した。(小矢部市) 公共土木施設の被害 福光福岡線で倒木により車線をふさぐ、国道471号で街路樹が傾き幅員減少(南砺市) 公共交通機関 ・JR24日、高山本線2本運休、城端線3本運休 ・あいの風富山鉄道泊駅-糸魚川駅間運休4本 ・富山地方鉄道24日、立山線の本宮駅～立山駅間で区間運休4本

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
8月 ～9月	29日 1日 大雨 強雨	浸水害 山がけ崩れ害 強雨害	東部 西部	停滞前線	【気象概況】 前線が朝鮮半島から北陸地方に停滞していた。 【災害概況】 29日水見市で床下浸水住家4棟 29日高岡市で床下浸水非住家1棟 31日床下浸水20棟(富山市2、水見市15、射水市3)一部破損1棟(水見市) 高岡市太田の山中で土砂崩れで市道をふさぎ通行止めとなった。 土砂崩れ(水見市5箇所、滑川市1箇所) 農業用施設路面崩壊8箇所 農作物冠水約42ha 森林・林業被害土砂災害10箇所 29日JR水見線大雨の影響で午前8時40分頃から約2時間10分運転を見合わせた。 上下線の普通列車4本が運休し、3本に遅れがでた。 31日JR高山本線8本運休、城端線9本運休、水見線10本運休 あいの風とやま鉄道4本運休
9月	4日 強風	強風害	東部 西部	台風	【気象概況】 台風第21号が四国から近畿地方を北上し日本海に抜け北海道付近に進んだ。 【災害概況】 人的被害軽傷3件 住家被害一部破損4棟 非住家被害一部破損9件 JR北陸新幹線強風のため18時15分より長野駅～金沢駅間で運転見合わせ 20時53分運転再開 高山本線21本運休、城端線18本運休、水見線17本運休 あいの風とやま鉄道14時以降全て運休 とやま地方鉄道13時以降全て運休 富山空港航空便 東京便5便欠航札幌便1便欠航
10月	7日 強風	強風害	東部 西部	台風	【気象概況】 6日夜から7日未明にかけて大型の台風第25号が日本海を北東に進んだ。 【災害概況】 富山県内では砺波市で男性1人がけがを負ったほか、各地で停電が起きたり交通機関が乱れた。 7日朝、JR高山線上下線計15本運休、あいの風とやま鉄道計6本運休。 高岡市、小矢部市、南砺市、射水市の4市で計1800戸が停電した。 富山市、砺波市、南砺市の3市で計2.3トンのリンゴの実が落ちた。 南砺市、砺波市ではビニールハウスが破損した。
12月	25日 ～31日 強風 その他(雪)	陸上視程不良害 強風害 その他(雪害)	東部	季節風 寒気の移流	【気象概況】 27日から28日にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置となり、富山県では山間部を中心に積雪が多くなった。 【災害概況】 富山県にある北アルプス剱岳に登山に向かった男性2人が今月25日から下山できなくなっていて、警察がヘリコプターなどで救助を試みているが、吹雪などの影響で現場に近づけず、救助活動は難航している。警察によると、2人は富山県にある北アルプス・剱岳に登山に向かい、今月25日、途中の標高およそ2550メートルの池ノ平山の山頂付近に着いたが、「凍傷になって動けなくなっている」と携帯電話で救助を要請した。警察では、これまでヘリコプターを飛ばしたり山岳警備隊が現場に向かったりして救助を試みているが、吹雪などの影響で現場に近づくことができないということである。また2人とは現在、携帯電話で連絡が取れる状態で、食料や燃料は30日くらいまでもつと話しているということである。12月31日に県警のヘリで2人は救助された。2人はいずれも意識がはっきりしていて命に別状はない。
平成31年 (2019年)	3月 13日 雷	落雷害	西部	寒冷前線 雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 日本海には前線を伴った発達中の低気圧があって、東北東に進んでいます。 【災害概況】 13日午前7時10分ごろ、高岡市、水見市の両市で約1100戸が停電し、同8時までに復旧した。北陸電力によると落雷が原因とみられる。
3月	21日 強風	強風害	東部	日本海低気圧	【気象概況】 前線を伴った低気圧が日本海を発達しながら東北東へ進んだ。この影響で富山県では、南寄りのやや強い風が吹いた。 【災害概況】 ・JR高山線では10時10分ごろから、越中八尾と猪谷間で特急2本と普通列車2本が運転を取り止めた。 ・滑川市の「ほたるいか海上観光」観光船や富山市の松川遊覧船が運航を中止した。 ・富山市金泉寺の国道8号線高架橋上に設置されている雨雪を防ぐ柵が一部破損した。 ・富山市消防局によると、住宅のトタン板が飛ばされそうになっているという通報が3件あった。 ・富山市(総曲輪、旅籠町、平吹町、丸の内)で17時04分から18時42分にかけて約250戸が停電した。
4月	27日 ～28日 その他(雪)	その他(雪害)	東部	寒気の移流	【気象概況】 本州付近は西高東低の気圧配置。 【災害概況】 27日午後3時半頃、北アルプス北ノ俣岳で吹雪のため遭難した男性が意識不明の重体で救助されたが、その後死亡した。また、28日午前5時頃、北アルプス雷鳥沢で雪に埋もれ意識不明となっている男性を登山中の女性が見つけた警察に通報し、県警ヘリで救助されたが、その場で死亡が確認された。
令和元年 (2019年)	5月 1日 高温(長期)	その他(気温害)	東部 西部	太平洋高気圧 その他(高気圧)	【気象概況】 富山県は高気圧に覆われ、気温の高い日が続いた期間があった。 【災害概況】 富山県内では5月中に熱中症とみられる症状で30人が病院に搬送された。
5月	25日 その他(風)	その他(風害)	西部	移動性高気圧	【気象概況】日本付近は高気圧に覆われており、高岡市伏木では最高気温が30.2度に達していた。 【災害概況】テントが飛ばされ、生徒4人、先生2人が軽傷を負った。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
6月 1日 ～30日	高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧 その他(高気圧)	【気象概況】 富山県は高気圧に覆われて気温の高い日が続いた期間があった。 【災害概況】 富山県では6月中旬に熱中症とみられる症状で26人が病院に搬送された。
6月 6日	その他(風)	その他(風害)	西部	その他(高気圧)	【気象概況】 日本海中部に中心を持つ高気圧に覆われていた。 【災害概況】 6日午後2時前、体育大会を行っていた高岡市の高岡龍谷高校で鉄パイプで組んだ入場門が風で倒れ、生徒4名が怪我をした。
7月 1日 ～31日	高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 富山県では梅雨明け以降、高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が続いた。 【災害概況】 富山県では7月中旬に熱中症とみられる症状で87人が病院に搬送された。
8月 1日 ～31日	高温(長期)	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 富山県内は、太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が続いた。 【災害概況】 富山県では8月中旬に熱中症とみられる症状で267人が病院に搬送された。
8月 20日	大雨 強雨	洪水害 強雨害 浸水害	東部 西部	停滞前線 暖気の移流	【気象概況】 20日、北陸付近に前線が停滞し、暖かく湿った空気が流入した影響で富山県内では大雨となった所があった。 【災害概況】 ・小矢部市と高岡市の境の黒石川が氾濫し、周囲の田んぼが水につかった。 ・富山市内の用水などの水があふれ、住宅や店舗が浸水した。 ・農作物(水稲、大豆、そば、こまつな)冠水(高岡市、射水市) ・JR特急・普通電車合わせて26本運休。 ・あいの風とやま鉄道6本運休。
9月 1日 ～30日	高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 9月中、富山県では高気圧に覆われて、晴れて暑くなった日が多かった。 【災害概況】 9月中、富山県では熱中症とみられる症状で72人が病院に搬送された。
9月 23日	強風	強風害	東部 西部	台風 日本海低気圧	【気象概況】 23日、台風第17号から変わった温帯低気圧が能登沖を北東に進んだ。 【災害概況】 ・人的被害重症1名(黒部市) ・街路樹倒木(射水市1本、富山市1本、高岡市1本) ・照明灯1基倒れた(富山市) ・住家のトタン屋根が剥がれる(富山市) ・鉄道運休 JR西日本運休特急26本、普通26本 あいの風とやま鉄道16本 ・停電富山市婦中町約1300戸、魚津市木下新約100戸 ・果樹の落下りんご、なし、ぶどうなど116トン
10月 11日 ～13日	強風 大雨	強風害 浸水害 強雨害	東部 西部	台風	【気象概況】 台風第19号の影響により大雨、暴風の発生した所があった。 【災害概況】 (1)人的被害 重傷1人(富山市で強風にあおられて用水路に転落し、背骨を折った。) (2)住家被害 床下浸水1棟(朝日町) (3)農林水産関係など 果樹の落下、やさいの茎折損、水稲の倒伏など パイプハウスの半壊・一部倒壊、パイプハウスのビニール破損など (4)土木施設の被害状況 朝日町元屋敷地内、笹川の右岸側護岸が欠損し、横を走る町道が陥没 他、林道の法面崩壊複数発生 (5)停電 富山市、射水市、魚津市、南砺市で計4730戸停電 (6)交通機関 JR西12日、北陸新幹線32本、特急78本、普通列車180本運休 あいの風とやま鉄道48本運転取りやめ 空の便東京-富山間全便欠航、富山-札幌間1便欠航
11月 23日	その他(雪)	その他(雪害)	東部	移動性高気圧	【気象概況】高気圧に覆われて晴れていた。雄山付近は積雪状態だった様子(ライブカメラでも確認) 【災害概況】 11月23日正午ころ、北アルプス雄山の山頂付近の登山道で男性が雪で足を滑らせ滑落して、ヘリで病院に搬送されたが死亡した。この日は朝から快晴で現場付近の積雪は70cm。男性は登山靴の底に滑り止めのアイゼンを装着し、ピッケルを持っていた。
令和2年 (2020年) 1月 8日	強風	強風害	西部	日本海低気圧	【気象概況】(災害速報第1報では簡潔でよい) 日本海を前線を伴った低気圧が発達しながら東に進んだ。 【災害概況】 ・強風の影響で、高岡市、氷見市で転倒などにより4人が負傷した。 ・8日午後6時までに砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市で計延べ2100戸が停電した。 ・南砺市で住宅の屋根のトタンが飛ばされた。 ・高岡市で木塀が倒れた。 ・交通機関の影響 あいの風とやま鉄道6本運休、23本遅延。 JR西日本特急45本、城端線6本、高山線2本運休。 万葉線一時運転休止

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
2月 8日 ～9日	降雪または積雪融雪	山がけ崩れ害	東部	寒気の移流 その他	【気象概況】 日本付近は冬の気圧配置となっていた。 【災害概況】 富山市八尾町で9日朝、市道脇の斜面が幅約10メートル、高さ約10メートルにわたって崩れ市道をふさぎ、4世帯8人が一時孤立状態となった。 同日正午前に土砂を撤去し、孤立状態は解消。 市道を管理する市土木事務所は9日、現場を確認。崩れた斜面に腐った切り株が落ちていたことから、切り株に積もった雪の重みが影響したか、地中で凍っていた水分が解けだして崩れた可能性があるとみている。(北日本新聞より)
6月 1日 ～30日	高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧 その他(高気圧)	【気象概況】(災害速報第1報では簡潔でよい) 富山県は高気圧に覆われて気温の高い日が続いた期間があった。 【災害概況】 富山県では6月中旬に熱中症とみられる症状で31人が病院に搬送された
7月 1日 ～31日	高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧 その他(高気圧)	【気象概況】 高気圧に覆われて気温の高い日があった。 【災害概況】 富山県では7月中旬に熱中症とみられる症状で35人が病院に搬送された。
7月 8日 ～9日	大雨 強雨	山がけ崩れ害 強	東部 西部	梅雨前線	【気象概況】 梅雨前線が日本海側から本州を南下し、西日本から東日本にかけて停滞し、湿った空気の影響を受けたため、県内の所々で激しい雨となった。 【災害概況】 8日、黒部市宇奈月温泉街の黒部川対岸を走る市道うなづき湖線の「琴音トンネル」の上部で土砂崩れが発生した。市は安全確認のため、午前10時半から関係者以外通行止めとした。 高岡市内では、山川と福岡町土屋の市道、二上山万葉ラインの3か所で土砂崩れが起き、山川と堀を通行止めとした。 小矢部市菅ヶ原の県道は落石でふさがれ通行止めとなった。 空の便では、全日空富山ー東京便は、河川敷にある富山空港では大雨により神通川の水位が上昇したため、8日午前に発着する東京発第1便と富山発第2便を欠航した。 鉄道では、あいの風とやま鉄道は、大雨の影響で福岡ー石動間で上下線とも徐行運転を行い午前8時半時点で数本に最大約50分の遅れが出た。また、JR西日本の氷見線と城端線では大雨のため、高岡駅～氷見駅間で一部列車に約30分の遅れ、高岡駅～城端間で一部列車に約60分の遅れがでた。 9日、氷見市では、空き家含む住宅の床下浸水2棟、納屋や車庫などの浸水4棟。 戸津宮の県道沿いで、正午ごろ斜面が高さ約20メートル、幅約25メートルにわたり崩れ、片側交互通行となった。白川の県道と数田、床鍋の市道沿いでも土砂崩れが発生、片側交互通行や通行止めとなった。
8月 1日 ～31日	高温	酷暑害	東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】(災害速報第1報では簡潔でよい) 太平洋高気圧に覆われて晴れたため気温が上がり、県内では、最高気温が35度以上の猛暑日となった日があった。 【災害概況】 富山県では8月中旬に熱中症とみられる症状で、死亡1人、重症9人を含め、296人が病院に搬送された。
11月 3日	強風	強風害	東部	寒気の移流	【気象概況】 西高東低の気圧配置となり、寒気が流れ込んだ。 【災害概況】 人的被害:なし 建物被害:住家1棟、非住家2棟 その他:普通自動車の窓ガラスの破損、4台
12月 12日 ～19日	その他(雨)	地すべり害	西部	寒気の移流 気圧の谷	【気象概況】 12日頃から気圧の谷や低気圧の影響で雨が降り始め、14日以降は冬の気圧配置となり雪が続いた。 【災害概況】 19日午後0時40分頃、砺波市井栗谷で地滑りが発生し、山の斜面が長さ約200メートル、幅約100メートルにわたって崩落し、空き家1軒が全壊した。けが人はいない。 付近では、今年7月にひび割れを確認し、地面の動きを調べる装置を設置していた。 県砺波農林振興センターによると、今回の地滑りについては、現場の積雪が15～20cmと少なかったことから雪が影響した可能性は低いと分析。これまでに降った雨が地面に浸透して地盤が緩んでいたことが原因とみている。(北日本新聞より) 砺波市は、2世帯を対象に地すべりによる崩落拡大が予想され家屋等の倒壊の危険性があることから、21日9時に梅檀山地区(中尾)2世帯7名に「警戒レベル4避難指示」を発令。この地すべりの影響により、市道峰中尾線砺波市井栗谷地内、約1.3km区間で通行止めとなった。(解除時期未定)
～令和3年 (2021年) 12月 30日 1月 3日	着雪 大雪	着雪害	東部	寒気の移流	【気象概況】 日本付近は冬の気圧配置が続き、大気の状態が不安定となっていた。 【災害概況】 2日夜、黒部市宇奈月温泉の市道で、倒木が発生。倒れた木は1本で、太さ約1メートル、長さ約10メートル。倒木により、市道に停めてあった軽乗用車1台が下敷きになった。けが人はいない模様。また、倒木が電線を巻き込み、周辺で停電が発生した。北陸電力送配電によると、2日19時20分頃から黒部市宇奈月温泉で10戸未満が停電となった。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
令和3年 (2021年) 1月 7日 ～12日	大雪 着雪	積雪害 着雪害	府県区内 の全域 東部 西部	寒気の移流	【気象概況】1月7日に低気圧が日本海を急速に発達しながら東北東に進み、同日午後には前線が西日本から東日本を通過して以降、10日にかけて強い冬型の気圧配置となり、県内は大雪となった。 【災害概況】 ・人的被害死者4名、重傷27名、軽傷53名、 ・住家被害等一部破損9棟、床下浸水3棟。非住家被害全壊3棟、半壊2棟 ・農業施設被害全壊661棟、半壊又は一部損壊125棟 ・公共交通機関2903本以上運休。JR：北陸新幹線と特急が262本運休。あいの風・富山地方鉄道・万葉線等：8日～12日で多くの鉄道等が終日運休。 ・交通（航空）被害8日～10日全便欠航。 ・8日に国道8号、県道富山高岡線、県道富山小杉線、国道359号など県内各地で大幅な交通渋滞が発生 ・9日15時15分ごろに東海北陸道より線で約200台の立ち往生発生 ・道路規制北陸自動車道（滑川IC～柏崎IC）通行止め。東海北陸自動車道（福光IC～小矢部井IC）通行止め。能越自動車道（高岡IC～氷見IC、小矢部東IC～小矢部砺波JCT）通行止め ・県管理道路（県道）通行止め42か所 ・その他被害孤立集落氷見市（6地区）、小矢部市（1地区） ・停電最大戸数富山市150戸、高岡市170戸、氷見市280砺波市80戸南砺市10戸 ・災害救助法適用市町村：氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市（適用日令和3年1月9日）
3月 1日 ～2日	強風	強風害	府県区内 の1/2程 度 東部	日本海低気圧	【気象概況】日本海低気圧の影響で、富山県では強風となった。 【災害概況】富山市大沢野地域の70代女性が強風で外れた車庫の扉の下敷きとなった。あいの風とやま鉄道：上下線計24本が計画休止、8本遅れ。架線トラブルで2本運休。富山市内路面電車：架線の不具合により30分程度運用見合わせ。JR北陸線：3本運休。JR高山線：8本運休。
3月 26日	雷	落雷害	府県区内 の大部分 東部 西部	寒気の移流 雷雨（熱雷を除く）	【気象概況】日本海には上空に寒気を伴った低気圧があって南東に進んだ影響で、夕方にかけて大気の状態が不安定となり雷雨となった。 【災害概況】富山県朝日町大家庄の西心寺から出火し本堂全焼及び境内の建物一部を焼いた。本堂の屋根に雷が落ちるのを見た。入善町140戸と砺波市20戸で落雷の影響で停電が発生した。
4月 13日	強風	強風害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部	日本海低気圧	【気象概況】発達中の大気圧が日本海を北東に進み、中心からのびる寒冷前線が富山県を夜に通過し強風となった。 【災害概況】富山市呉羽町で市長選、市議選のポスター掲示板が強風で倒れた。JR高山線で越中八尾～猪谷間で普通列車4本運転取りやめ。富山一名古屋間の特急2本運休。
4月 18日	強風	強風害	局部地域 西部	寒気の移流	【気象概況】日本海に発達中の低気圧があって北東に進んだ。 【災害概況】高岡市能町でJR氷見線沿線の工事現場の足場が風であおられ、線路そばの電線に倒れ掛かった。この影響で、JR氷見線は約2時間運転を見合わせ、上下線計6本が運休した。
5月 9日	強風	強風害	局部地域 東部 西部	日本海低気圧 寒冷前線	【気象概況】日本海を寒冷前線を伴った低気圧が東北東に進んだ。 【災害概況】2時40分頃、朝日町の宮崎沖で釣りをしていた小型船が転覆し、4時頃救助された。7時半頃、滑川市浜町の沿岸部で釣りをしていたミニボートが強風で戻れなくなり、2時間後に救助された。
5月 16日	強風	強風害	局部地域 西部	その他（低気圧）	【気象概況】黄海には前線を伴った低気圧があって東北東に進んだ。 【災害概況】06時15分ごろ小矢部市の桜町、畠中町などで風雨で電線がショートし約180戸が停電し、08時50分ごろ復旧した。
7月 11日	大雨 雷	浸水害 強雨害 落雷害 山がけ崩れ害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部 西部	梅雨前線 雷雨（熱雷を除く）	【気象概況】本州付近に梅雨前線が停滞し、暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が非常に不安定となった。 【災害概況】魚津市で3棟、黒部市で1棟のあわせて4棟（住家3棟、非住家1棟）が床下浸水した。あいの風とやま鉄道で上下線12本、JR高山線で上下線8本が、大雨のため一部区間で運休した。富山地方鉄道不二越上滝線の月岡駅近くで発生した架線への落雷のため、約3時間運転を見合わせ。富山市と南砺市であわせて約950戸が停電。富山市は、八尾地域と大沢野地域で自主避難所を3か所設置（11日18時にすべて閉鎖）。富山市八尾町道畑の県道のり面が幅約10メートルに渡って崩れた。氷見市鞍骨で山腹が崩壊し鞍骨川（河川幅3.0m）を3/4程度閉塞。
7月 20日 ～21日	高温	酷暑害	局部地域 西部	太平洋高気圧	【気象概況】本州付近は高気圧に覆われて晴れた。 【災害概況】20日午前11時20分ごろに、高岡市戸出町のJR城端線戸出駅で、高温で伸びたレール同士がつなぎ目で接触し異常な電流が流れ信号異常発生したため、高岡駅～城端駅の全区間で5時間50分にわたり運転を見合わせた。21日に、射水市で熱中症患者1名の救急搬送があり後日死亡が確認された。
8月 7日	雷 高温	落雷害 酷暑害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部 西部	雷雨（熱雷を除く） 太平洋高気圧	【気象概況】高気圧に緩やかに覆われているが、台風第10号が日本の南を北東に進んだ影響で、湿った空気が流れ込み大気の状態が非常に不安定となった。 【災害概況】14時30分ごろ高岡市で落雷が相次ぎ、280戸で停電が発生した。また、魚津市と入善町で熱中症とみられる症状（中等症）で2名が搬送された。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
8月 8日	強雨 雷	強雨害 落雷害 浸水害	局部地域 西部	雷雨(熱雷を除く) 太平洋高気圧	【気象概況】 高気圧に緩やかに覆われているが、台風第10号が伊豆諸島付近から関東の東に進み、湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり雷雨となった所があった。 【災害概況】 JR水見線、運休14本。遅延2本:09時10分ごろ、落雷が原因とみられJR水見線能町駅(高岡市)で運行管理システムが故障し信号が赤のままとなり、上下線で14本が運休し2本が最大7時間遅れた。道路冠水2か所:09時50分ごろ、高岡市内免の市道のアンダーパス(2カ所)が冠水し、うち1カ所で車が立ち往生した。約3時間にわたり通行が規制された。
8月 9日 ～10日	強風 強雨	強風害 強雨害 海上波浪害	府県区内 の1/2程度 東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 台風第9号から変わった温帯低気圧が、日本海を発達しながら北東に進み、9日21時には能登半島沖、10日6時には秋田沖に進んだ。このため、海上を中心に屋過ぎからは風が強まり、夜には激しい雨が降った。 【災害概況】 JR西日本は城端線、水見線、高山線で始発から運休。あいの風鉄道では、9日夕方から10日朝にかけて、上下線合わせて28列車が運休した。 万葉線は、上下7本運休。黒部峡谷鉄道は倒木のため運転を休止した。県営渡船は欠航、タクシーでの代替え輸送 砺波市の国道156号線など5カ所が雨量規制で通行止めとなった。 黒部市三日市の市道で街路樹(高さ4メートル)が倒れて歩道をふさいだ。 高岡市蓮華寺の県営住宅では、漏水とガラスの破損。 農作物等の被害では、日本なし(20.8t)、りんご(4.3t)、西洋なし(0.2t)、もも(0.04t)が落果した。
8月 12日 ～15日	大雨 その他(雨)	浸水害 山がけ崩れ害 強風害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 西部 東部	停滞前線	【気象概況】 前線が華中から西日本を通過、東日本へのび停滞した。 【災害概況】 ○12日JR西日本高山線で上下6本運休。 ○13日JR西日本(水見線、城端線、高山線)上下53本運休。あいの風富山鉄道が上下19本運休 水見市内で国道160号線の一部区間と市道通行止め12カ所(冠水3カ所、倒木および崩土1カ所、雨量規制9カ所) 水見市十二町で床下浸水2棟。 ○14日JR西日本(水見線、城端線、高山線)終日運休(108本)。あいの風とやま鉄道は終日運休(106本) ○15日JR西日本(水見線、城端線、高山線)上下50本運休 ○9月3日現在 水見市のり面崩壊、土砂崩れ計90カ所。小矢部市土砂崩れ6カ所、地滑り1カ所、のり面崩落2箇所。朝日町のり面崩落1カ所
9月 6日	ひょう (あられ) 強雨	ひょう(あられ) 害 強雨害	局部地域 西部	雷雨(熱雷を除く)	【気象概況】 寒気を伴った上空の気圧の谷が北陸地方を通過したため、富山県西部では激しい雨やひょうが降った。 【災害概況】 農業施設被害」砺波市:パイプハウスと鉄骨ハウス被覆物破損49棟(被覆物破損5785㎡) 農作物被害」砺波市 合計0.2ha。南砺市 合計337.8ha。
12月 8日		大雨 強風 波浪	局部地域 東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 伊豆諸島付近の低気圧が東に進み、上空に寒気が流れ込んだ影響で富山県東部で大雨となった。 【災害概況】 富山市の国道41号線猪谷～片掛間で8日午前3時からの降水量が120ミリを超えたため、富山河川国道事務所が午後1時50分から同8時半まで通行止めとした。また、8日午前11時ごろには、富山市片掛の市道(国道41号線の迂回路)の斜面で小規模の土砂崩れが発生した。この影響で路線バス8本が運休した。 射水市の越の湯一堀岡を結ぶ富山県営渡船は8日は荒天のため、午前6時44分堀岡発の始発から欠航し、一時運航を再開したが、再び、午後4時37分越の湯発便から欠航となった(69便中61便欠航)。
12月 17日	降雪または 積雪	積雪害	府県区内 の全域 東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 17日から18日の屋過ぎにかけて富山県は強い冬型の気圧配置となり、断続的に雪が降り各地で積雪となった。 【災害概況】 立山町で雪かき中の男性が誤って用水に転落したとみられ遺体で見つかった。 富山空港では、18日の全日空富山ー東京第1便を運休とした。 中日本高速道路は福光ー白川郷インターチェンジ間の通行止めを18日未明に解除した。県警によると、スリップ事故が17日午後4時から18日午前8時まで17件発生した。
12月 25日	大雪 降雪ま たは積雪	積雪害	府県区内 の大部分 東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 日本付近は、25日から27日にかけて強い冬型の気圧配置となった。 【災害概況】 富山県内は、強い冬型の気圧配置の影響で大雪になった所があった。 この影響で、26日にJR西日本は高山線上下で普通列車5本と特急2本を区間運休にした。また、富山空港では、発着の全便(東京6便、札幌2便)が欠航した。 27日午前に富山地方鉄道不二越・上滝線で倒木が見つかり開発駅ー岩峯寺駅間で区間運休した。 富山空港では27日も発着の全便(東京6便、札幌2便)が欠航した。 県内では26日の朝から27日朝にかけて雪によるスリップ事故が84件起き、11人がけがをした。
12月 31日	降雪または 積雪	積雪害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 日本付近は強い冬型の気圧配置となった。 【災害概況】 強い冬型の気圧配置となった影響で、JR西日本は除雪のため城端線の普通列車上下線6本を砺波駅ー城端駅間で運休、JR高山本線の富山駅ー名古屋駅を結ぶ特急列車は、上下線8本を富山駅ー高山駅間で運休した。また、富山空港では、発着の全8便が運休した。高速バスでは、富山ー京都・大阪線の1便が運休した。

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
2022年 1月 1日 ～2日	降雪または積雪 低温	積雪害	府県区内の大部分 東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 1日は強い冬型の気圧配置となったが、2日は次第に高気圧に覆われた。 【災害概況】 1日～2日の県内は気温が下がり路面が凍結した影響で、車のスリップ事故が64件発生した。このうち1件は人身事故で1人がけがをした。 富山空港発の富山ー東京便は1日の第1便が欠航し、2日は富山空港発の第1便が4時間50分遅れた。
1月 13日 ～14日	降雪または積雪	積雪害	府県区内の大部分 西部 東部	寒気の移流	【気象概況】 日本付近は強い冬型の気圧配置となった。 【災害概況】 富山・石川県境付近の国道で、冬用タイヤを装着していないトラックなどがスリップした影響で、午後7時頃から国道8号線の約16キロの区間で車両が断続的に動けなくなった。渋滞は13日午後11時50分に解消した。 中日本高速は、北陸自動車道の小矢部ICー砺波IC及び東海北陸自動車道の福光ー砺波JCTが一時通行止めとした。この影響で国道8号線に迂回したトラック等により渋滞に拍車をかけた。 JR高山線は特急・通勤列車の8本を区間運休した。また、富山地方鉄道は除雪のため立山線の上下線5本で千垣駅ー立山駅間を運休とした。 富山空港では降雪の影響で7便が欠航した。 県警によると、13日午後4時から14日午前8時までにスリップ事故が64件起き、1人が軽傷を負った。 14日は、まとまった雪の影響で、富山地方鉄道の本宮駅ー立山駅間で倒木があり、上下19本が運休、JR高山線では特急上下線8本が富山駅ー高山駅間で運休した。 富山空港では第1便が欠航した。
1月 18日 ～20日	大雪 低温	積雪害 凍結害	府県区内の大部分 東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 日本付近は冬型の気圧配置となった。 【災害概況】 寒気の影響で路面が凍結し、県警によると18日午後4時～19日午前8時半に256件のスリップ事故が発生し、20人が軽いけがをした。19日午前8時半～同日午後4時にもスリップにより物損事故が45件起きた。 20日の県内は各地でまとまった雪が降り、富山地方鉄道は本線電鉄黒部ー宇奈月温泉駅間の上下線6本と、立山線の岩峯寺ー立山駅間の上下線10本運休した。JR高山線の越中八尾ー猪谷駅間では、大雪のため上下線2本が運休となった。
2月 5日 ～7日	大雪 降雪または積雪 その他(雪)	積雪害 その他(雪害)	府県区内の大部分 東部 西部	寒気の移流	【気象概況】 日本付近は強い冬型の気圧配置となった。 【災害概況】 5日は雪のため、あいの風とやま鉄道は上下線の列車8本が運休し、14本に遅延が発生し最大70分の遅れが出た。 富山地方鉄道は、立山線の岩峯寺駅ー立山駅間で午前11時ごろから約2時間40分間運転を見合わせ上下線で6本が運休し、本線では電鉄黒部駅ー宇奈月温泉駅間で約2時間運転を見合わせ上下線で6本が運休した。 JR高山線では、飛騨古川駅ー猪谷駅間で運転を見合わせた影響で上下16本が運休した。 国道304号では、雪で動けなくなった大型車両が道路をふさぎ、南砺市大鋸屋ー下梨間で約10キロが通行止めになった。 6日は雪の影響で、富山空港を発着する2便が欠航し、JR高山線では飛騨古川駅ー猪谷駅間で運転を見合わせた影響で上下23本が運休した。 富山県警によると、5日午前8時半からの24時間で83件のスリップ事故が発生し1人がけがをした。また、6日午前8時半からの24時間では、75件のスリップ事故が発生し1人がけがをした。 富山県南砺市では、6日午前5時50分ごろコンバインで除雪をしていた男性が、コンバインごと田んぼに転落して下敷きになり死亡した。また、7日午後6時15分ごろ、射水市本江の用水路内で倒れているのを近くの住民が発見した。射水署では除雪中に誤って転落した可能性があるとしてみている。
3月 26日	強風	強風害	府県区内の大部分 東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 低気圧が日本海を発達しながら東北東に進み、富山県では荒れた天気となった。 【災害概況】 ・人的被害 死亡1名(南砺市1)、重傷7名(富山市3、立山市4)、 軽症30名(富山市18、滑川市1、砺波市3、南砺市7、立山市1) ・住家被害 62戸(富山市52、魚津市3、滑川市5、砺波市1、南砺市1) ・非住家被害(半壊以上のもの) 6戸(富山市6) ・火災 全焼:住家8戸(小矢部市8)、非住家9戸(小矢部市9) ・交通被害 26日の県内は、低気圧が日本海を発達しながら東北東に進んだ影響で、北陸新幹線や在来線などの鉄道のダイヤが乱れ、建物の損壊や倒木、トラックが横転するなどの被害が発生した。 航空交通欠航4便、鉄道運休約133本(新幹線13本、あいの風71本、JR高山線39本、JR城端線10本) 北陸自動車道では、富山ー立山IC間が上下線で約10時間通行止め。砺波市で11時50分ごろ4tトラック2台が風にあおられて横転。 ・停電 富山県約3900戸が停電(南砺市2700戸、立山町440戸、砺波市360戸、富山市350戸) ・農業被害 農業用施設:パイプハウス等の全壊17棟、半壊・一部倒壊19棟をはじめとする被害415棟

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
8月 13日	大雨 強雨	浸水害	局部地域 東部	停滞前線 暖気の 移流	【気象概況】 13日の富山県内は日本海に停滞する前線の影響で、夕方から夜のはじめ頃まで、局地的に雷を伴う激しい雨が降った。 【災害概況】 住家被害等:富山市J床上浸水19棟、床下浸水81棟 農林水産被害:魚津市J畦畔崩落2か所、土砂埋没1か所、小矢部市J1.2ha冠水 交通機関:北陸新幹線J遅延11本、JR城端線J運休8本、あいの風とやま鉄道J運休16本、遅延10本 富山空港発着便J欠航3便
8月 20日	大雨 強雨	浸水害 山がけ 崩れ害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部 西 部	寒冷前線 暖気の 移流	【気象概況】 20日9時に日本海にある低気圧からのびる寒冷前線が、20日21時頃から北陸地方を通過した。富山県では、20日昼前から夜のはじめ頃にかけて、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み大雨となった。 【災害概況】 住家被害等:床上浸水1棟(富山市1棟)、床下浸水30棟(富山市25棟、高岡市4棟、滑川市1棟) 土砂災害:がけ崩れ(氷見市5か所、魚津市1か所) 交通機関:JR(高山線、城端線、氷見線)56本運休、あいの風とやま鉄道21本運休
12月 22日 ～26日	大雪	積雪害	府県区内 の1/2程 度 西部	寒気の移流	【気象概況】 日本付近は強い冬の気圧配置となり、23日の県内は強い寒気が流れ込み、県西部を中心に大雪となった。 【災害概況】 富山、石川両県を結ぶ国道8号が集中除雪のため通行止めとなり、車は迂回(うかい)を余儀なくされた。あいの風とやま鉄道など交通機関のダイヤが乱れたほか、県内で2千戸以上が停電した。
2023年 4月 25日 ～26日	強風	強風害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部 西 部	日本海低気圧	【気象概況】 26日の県内は低気圧の影響で未明から朝にかけて強風が吹き、10観測地点のうち7地点で最大瞬間風速15m/sを超えた。 【災害概況】 (交通機関) JR高山線運休11本 あいの風とやま鉄道運休16本遅延27本 (農業被害) パイプハウスの被覆物破損(富山市2件、南砺市2件) (その他) 街路樹倒木、解体中の家屋一部倒壊によりブロック塀破損(富山市)
5月 1日 ～31日	高温	酷暑害	府県区内 の全域 東部 西 部	移動性高気圧 日本海低気圧	【気象概況】 高気圧に覆われて晴れて気温が上昇した。 【災害概況】 5月1日から5月31日の熱中症による救急搬送患者数:27名 5/3の熱中症による救急搬送患者数:3名 5/4の熱中症による救急搬送患者数:2名 5/5の熱中症による救急搬送患者数:1名 5/16の熱中症による救急搬送患者数:1名 5/17の熱中症による救急搬送患者数:7名 5/18の熱中症による救急搬送患者数:4名 5/19の熱中症による救急搬送患者数:1名 5/21の熱中症による救急搬送患者数:2名 5/24の熱中症による救急搬送患者数:1名 5/27の熱中症による救急搬送患者数:1名 5/28の熱中症による救急搬送患者数:4名
6月 1日 ～30日	高温	酷暑害	府県区内 の全域 東部 西 部	太平洋高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇した。 【災害概況】 6月1日から6月30日までの富山県の熱中症による搬送者数は55名(重症1名、中等症22名、軽症32名)であった。 6/1の熱中症による救急搬送患者数:2名 6/4の熱中症による救急搬送患者数:4名 6/5の熱中症による救急搬送患者数:1名 6/7の熱中症による救急搬送患者数:2名 6/8の熱中症による救急搬送患者数:2名 6/10の熱中症による救急搬送患者数:3名 6/13の熱中症による救急搬送患者数:5名 6/17の熱中症による救急搬送患者数:1名 6/18の熱中症による救急搬送患者数:9名 6/21の熱中症による救急搬送患者数:1名 6/22の熱中症による救急搬送患者数:1名 6/24の熱中症による救急搬送患者数:1名 6/25の熱中症による救急搬送患者数:1名 6/26の熱中症による救急搬送患者数:3名 6/27の熱中症による救急搬送患者数:8名 6/28の熱中症による救急搬送患者数:5名 6/29の熱中症による救急搬送患者数:6名

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
6月 28日 ～29日	大雨	強雨害 浸水害 洪水害	局部地域 東部	太平洋高気圧 気圧の谷	【気象概況】 6月28日は、日本の南にある高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気と上空約9000メートルに氷点下33度以下の寒気を伴った気圧の谷の影響で、富山県では大気の状態が非常に不安定となり、富山県東部山間部を中心に大雨となった。 【災害概況】 ○人的被害・住家被害等 人的被害：なし、 住家被害：床上浸水立山町2棟、床下浸水立山町10棟 ○県内公共交通機関の運行状況 JR西日本高山本線特急運休1本、富山地方鉄道本線運休2本、立山線運休28本、路線バス富山地方鉄道(谷村口～伊勢屋間)運休5本 ○県有施設 富山南高校：雨漏り、上市カヌー競技場：湖面水位の上昇により浮桟橋と審判艇・作業艇が陸に打ち上がったほか、大雨により大量の流木が湖面に滞留 、立山博物館：施設の雨漏り、倒木 ○その他報告 立山町 農地施設19箇所、林道33箇所被災、町道の路肩欠損等5路線、橋の破損2箇所(藤塚橋、日館橋)、町道通行止め3路線(町道日中柴山線、町道日中支線、町道谷伊勢屋線)、ケーブルテレビ立山町で停波が7世帯で発生 魚津市 魚津市立西部中学校にて落雷によりナイター照明の電源動作不能
7月 1日 ～31日	高温	酷暑害	府県区内 の全域 東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇した。 【災害概況】 7月1日から7月31日までに富山県の熱中症による搬送者数は245人(重症4名、中等症82名、軽症159名)であった。 7/2の熱中症による救急搬送患者数：5名、7/3の熱中症による救急搬送患者数：2名 7/4の熱中症による救急搬送患者数：5名、7/6の熱中症による救急搬送患者数：8名 7/7の熱中症による救急搬送患者数：2名、7/8の熱中症による救急搬送患者数：3名 7/9の熱中症による救急搬送患者数：2名、7/10の熱中症による救急搬送患者数：6名 7/11の熱中症による救急搬送患者数：3名、7/12の熱中症による救急搬送患者数：2名 7/13の熱中症による救急搬送患者数：5名、7/14の熱中症による救急搬送患者数：4名 7/15の熱中症による救急搬送患者数：5名、7/16の熱中症による救急搬送患者数：14名 7/17の熱中症による救急搬送患者数：11名、7/18の熱中症による救急搬送患者数：11名 7/19の熱中症による救急搬送患者数：4名、7/20の熱中症による救急搬送患者数：5名 7/21の熱中症による救急搬送患者数：5名、7/22の熱中症による救急搬送患者数：5名 7/23の熱中症による救急搬送患者数：9名、7/24の熱中症による救急搬送患者数：16名 7/25の熱中症による救急搬送患者数：16名、7/26の熱中症による救急搬送患者数：16名 7/27の熱中症による救急搬送患者数：18名、7/28の熱中症による救急搬送患者数：13名 7/29の熱中症による救急搬送患者数：20名、7/30の熱中症による救急搬送患者数：13名 7/31の熱中症による救急搬送患者数：17名
7月 12日 ～14日	大雨	洪水害 浸水害 山がけ崩れ害	府県区内 の全域 東部 西部	梅雨前線	【気象概況】 7月12日に朝鮮半島から東北地方へとのびた梅雨前線は、13日朝には北陸地方まで南下し停滞した。12日は、前線に向かって西から暖かく湿った空気が流れ込む一方、北陸地方の上空約5500メートルには氷点下6度以下の寒気が流入したため、大気の状態が非常に不安定となった。このため、12日夜には石川県と富山県で線状降水帯が発生し、その後も県内では翌13日未明にかけて非常に激しい雨が観測された。 【災害概況】 ○人的被害 南砺市：死者1名 ○建物・道路被害 富山市：床上浸水18件、床下浸水402件、土砂崩れ2件、高岡市：床上浸水26件、床下浸水135件、土砂崩落・冠水による通行止め、砺波市：床下浸水4件、市道通行止め14路線、小矢部市：床上浸水2件、床下浸水3件、土砂崩れにより道路閉鎖、南砺市：床上浸水5件、住家一部破損、土砂崩れにより空家倒壊、市道通行止め、射水市：床下浸水24件、土砂崩れ8件、道路陥没3件、氷見市、滑川市、上市町、舟橋村：土砂崩れ、立山町：床下浸水8件、農地農道農業施設33箇所、林道2箇所 ○その他 7/12 あいの風とやま鉄道 7/12運休下り3本、上り5本、7/13運休下り34本、上り34本 7/12 JR西日本 北陸新幹線：(21:50頃、新高岡駅～金沢駅間に設置されている雨量計が規制値に達したため、富山～金沢駅間の上下線で運転見合わせ、13日2:07に運転再開)、城端線：運休5本、氷見線：運休4本、高山本線：普通列車4本運休 7/13 城端線：普通列車42本運休、氷見線：普通列車36本運休、高山線：特急8本、普通列車42本運休 7/14 城端線：普通列車8本運休、高山線：2本運休 (路線バス) ・富山地方鉄道 7/13 山田線：音川～山田間、土砂崩れによる通行止めのため、音川折り返し運転、八尾高校線、国立高専射水キャンパス線：休校により全便運休 7/14 国立高専射水キャンパス線：休校により全便運休 ・加越能バス 7/13 第一高校線、国立高専射水キャンパス線：休校により全便運休、南砺一金沢線10本運休 7/14 高岡-射水高専線：休校により全便運休

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
8月 1日 ～31日	高温(長期)	酷暑害	府県区内 の全域 東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇した。 【災害概況】 8月1日から8月31日までに富山県の熱中症による搬送者数は392人(死亡1名、重症8名、中等症141名、軽症242名)であった。 日ごとの救急搬送患者数 1日:19名、2日:16名、3日:17名、4日:19名、5日:16名、6日:12名、7日:14名、8日:15名、9日:21名、10日:23名、11日:6名、12日:10名、13日:7名、14日:8名、15日:12名、16日:5名、17日:7名、18日:15名、19日:23名、20日:20名、21日:22名、22日:20名、23日:11名、24日:10名、25日:13名、26日:10名、27日:3名、28日:4名、29日:6名、30日:3名、31日:5名
8月 26日 ～27日	雷	落雷害	府県区内 の1/2程度 東部 西部	雷雨(熱雷)	【気象概況】 暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定になり、激しい雨が降った。夜には各地で雷が発生した。竜巻注意情報を発表した。 【災害概況】 砺波市、南砺市、富山市、氷見市、射水市で停電が2150戸発生。 落雷が原因とみられる部分焼け2件(富山市山田宿坊、富山市花木)
9月 1日 ～30日	高温(長期)	酷暑害	府県区内 の全域 東部 西部	太平洋高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇した。 【災害概況】 9月1日から9月30日までに富山県の熱中症による搬送者数は53人(死亡1名、重症0名、中等症12名、軽症40名)であった。 日ごとの救急搬送患者数 1日:1名、2日:4名、3日:3名、4日:5名、5日:4名、6日:1名、7日:1名、8日:1名、9日:2名、10日:5名、11日:4名、13日:1名、14日:1名、15日:1名、16日:8名、17日:7名、19日:1名、20日:1名、27日:1名、30日:1名
9月 5日	大雨	浸水害 強雨害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部 西部	停滞前線	【気象概況】 日本の東には低気圧があって、この低気圧からのびる前線が北陸地方を通して西日本の日本海側にのびていた。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、大気の状態が非常に不安定となった。 【災害概況】 富山市:床下浸水住宅7棟 富山市:土砂崩れ・のり面崩壊2件(大山地域の農道、八尾地域の市道) 南砺市:停電200戸 JR北陸新幹線(長野ー富山)遅延7本 JR高山線(富山ー猪谷)遅延14本
9月 6日	大雨	浸水害 強雨害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部 西部	停滞前線	【気象概況】 日本の東には低気圧があり、この低気圧からのびる前線が北陸地方を通して西日本日本海側にのびていた。前線が北陸地方を南下し、前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、大気の状態が非常に不安定となった。 【災害概況】 ○交通障害 JR氷見線:遅延6本 JR高山線:遅延6本 あいの風とやま鉄道:遅延2本 ○農作物等の被害 滑川市:水稲倒伏0.3ha1箇所 魚津市:りんご主枝折損1箇所
10月 5日	竜巻	竜巻害	局部地域 東部	寒冷前線 寒気の移流	【気象概況】 寒冷前線が北陸地方を通過し寒気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となった。活発な積乱雲が発生し、突風が発生した。 現地調査の結果、竜巻と認められる。 その強さは風速約30m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF0に該当。 【災害概況】 被害状況 黒部市:住家被害9戸 黒部市:車(飛散物による損傷)4台 黒部市:停電約440戸
10月 15日	雷	落雷害	局部地域 西部	気圧の谷	【気象概況】 上空約5500メートルに氷点下18度以下の寒気を伴った気圧の谷が北陸地方を通過し、大気の状態が非常に不安定となった。 【災害概況】 小矢部市:停電260戸
10月 21日	竜巻	竜巻害	局部地域 東部	寒気の移流	【気象概況】 上空約5500メートルには氷点下18度以下の寒気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。活発な積乱雲が発生し、突風が発生した。 現地調査の結果、竜巻の可能性が高いと判断。 その強さは風速約40m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF1に該当。 【災害概況】 黒部市: 建物瓦飛散7棟 軽自動車横転1台 車(飛散物による損傷)2台
10月 27日	雷 ひょう(あられ)	落雷害 ひょう(あられ)害	局部地域 東部 西部	寒気の移流 気圧の谷	【気象概況】上空約5500メートルに氷点下21度以下のこの時期としては強い寒気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり雷雨となった。 【災害概況】 停電 富山市:約13800戸、高岡市伏木地区:約200戸 農作物被害 富山市:りんご5.3ha葉の破れ、傷果

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象の状況	概 況
11月 6日	強風	強風害	府県区内 の1/2程 度 東部	日本海低気圧	【気象概況】 日本海北部へ進む低気圧からのびる寒冷前線が夜にかけて北陸地方に接近し、南寄りの強風となった。 【災害概況】 ○負傷者 富山市で風にあおられ転倒し後頭部にけが、負傷者1名。 ○停電 富山市で停電が約920戸発生。 ○交通障害 JR高山線:運休20本(特急8本、普通12本) 富山地方鉄道:遅延3本(立山線、本線、不二越/上滝線は1本ずつ遅延) 全日空は1便遅延 ○農作物等の被害 そば倒伏50ha(富山市)、落葉2ha(南砺市) 白ねぎ茎葉折損0.4ha(砺波市) にんにく茎葉折損1ha(南砺市) 青ねぎ茎葉折損0.4ha(南砺市) りんご落果33.7t(富山市、滑川市、砺波市、小矢部市、南砺市、射水市、上市町、立山町) かき落果10.0t(南砺市) りんご倒伏2本(南砺市)、主枝折損6本(砺波市、小矢部市、射水市) パイプハウス被覆物破損20か所(富山市) ガラスハウスガラス破損1か所(小矢部市)
12月 21日 ～24日	大雪 強風 着雪	積雪害 強風害 着雪害	府県区内 の全域	寒気の移流	【気象概況】 日本付近は強い冬型の気圧配置が続き、23日にかけて北陸地方の上空約5500メートルには氷点下30度以下の寒気が流れ込み、富山県では大雪となった。 【災害概況】 ○人的被害 富山市:除雪作業中に負傷2件、屋外歩行中に転倒により負傷2件 氷見市:倒木で重傷1件 南砺市:除雪作業中に負傷1件 県内各地:スリップ事故207件負傷4件 ○停電 12/21 富山市:約460戸 12/22 小矢部市:10戸未滿、氷見市:10戸未滿 12/23 黒部市:10戸未滿、魚津市:約30戸、射水市:約330戸、入善町:10戸未滿 12/24 高岡市:10戸未滿 ○農作物等の被害 樹体 りんご:枝折損60本(高岡市、魚津市、射水市、南砺市、黒部市、小矢部市) もも:枝折損35本(魚津市、黒部市、入善町、射水市、小矢部市) 施設 パイプハウス全壊300㎡(富山市) ○交通被害 ・JR西日本 普通4本運休 ・北陸新幹線 上下線あわせて9本最大90分以上遅れ ・あいの風とやま鉄道 上り2本、下り2本運休、上下あわせて3本一時不通、上下あわせて15本最大2時間の遅れ ・富山地方鉄道 市内電車53本運休、高速バス22本運休 ・加越能バス 路線バス19本一時不通、高速バス8本運休 ・イルカ交通 高速バス6本運休 ・航空機4便欠航
2024年 1月 15日 ～16日	大雪 その他(気温)	積雪害 その他(気温害)	府県区内 の全域	寒気の移流	【気象概況】 強い冬型の気圧配置となり、上空に強い寒気が流れ込んで気温が下がり、山間部を中心に大雪となった。 【災害概況】 ○人的被害 負傷者:軽傷2名 ○交通被害 富山地方鉄道:鉄道遅延54本(遅延証明書を元に、時刻表による推定) 車のスリップ事故117件
1月 19日	波浪	海上波浪害	局部地域 東部	大陸高気圧	気象概況】 冬型の気圧配置が緩み、大陸から張り出した高気圧に覆われていたが、海上では北寄りのやや強い風が吹き、波もやや高かった。 【災害概況】 場所:富山市岩瀬諏訪町所在 富山東防波堤灯台から東方約1,000メートル付近海上(岩瀬浜の沖合約200m) 貨物船座礁:1隻 乗組員:異常なし 船体損傷:認められず 2/16(16:00頃)現地油防除業者から伏木海上保安部に連絡 船体から濃い油膜(黒い油)が流出し、岩瀬浜海岸沿いに広く漂着 貨物船の燃料油抜き取り、貨物取り出し、タグボートで曳航 6/25貨物船撤去完了
3月 28日 ～29日	強風	強風害	府県区内 の1/3～ 1/4程度 東部 西部	日本海低気圧	【気象概況】 低気圧が日本海を北東に進んだ影響で、県内の一部では南寄りのやや強い風となった。 【災害概況】 ○停電 砺波市:180戸、立山町:270戸 ○交通被害 JR西日本高山本線:運休2本

年 月 日	異常気象名	気象災害名	発生地域	総観気象的状况	概 況
5月 4日 ～27日	高温	酷暑害	府県区内 の全域	移動性高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇した。 【災害概況】 5月の富山県の熱中症による搬送者数は18名（重症2名、中等症5名、軽症11名）であった。各日の救急搬送者数は以下のとおり。 5/4:1名、5/8:1名、5/9:1名、5/10:1名、5/11:2名、5/15:1名 5/18:2名、5/19:1名、5/23:1名、5/26:6名、5/27:1名
5月 28日 ～29日	大雨 強雨	その他(雨害)	府県区内 の大部分	その他(低気圧)	【気象概況】 華中で発生した前線上の低気圧が、28日から29日にかけて、発達しながら西日本から東日本の太平洋側を東北東に進んだ影響により、県内の広い範囲で大雨となった。 【災害概況】 ○交通被害 JR ・5/28、JR西日本：城端線、氷見線、高山本線26本運休 ・5/29、JR西日本：城端線、氷見線、高山本線37本運休 雨量規制による通行止め ・有料道路1路線(立山有料道路、桂谷から美女平) ・国道3路線(41号：富山市猪谷一片掛間1.6km、156号：南砺市利賀村栃原－南砺市大崩島間10.2km、砺波市庄川町小牧－南砺市利賀村栃原4.1km) ・県道2路線(福光上平線：南砺市刀利－南砺市中河内6.2km、金沢湯涌福光線：南砺市立野脇－南砺市刀利5.0km) ○その他 5/29、高等学校が5校休校
6月 1日 ～30日	高温	酷暑害	府県区内 の全域	移動性高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇した。 【災害概況】 6月の富山県の熱中症による搬送者数は56名（重症1名、中等症20名、軽症35名）であった。各日の救急搬送者数は以下のとおり 6/1:2名、6/7:1名、6/8:2名、6/11:5名、6/12:4名、6/13:11名、 6/14:2名、6/15:4名、6/16:3名、6/17:1名、6/19:4名、6/20:8名 6/21:1名、6/22:1名、6/24:1名、6/26:3名、6/27:1名、6/29:1名 6/30:1名
7月 2日 ～31日	高温	酷暑害	府県区内 の全域	移動性高気圧 太平洋高気圧	【気象概況】 高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇した。 【災害概況】 7月の富山県の熱中症による搬送者数は240名（重症7名、中等症84名、軽症148名、その他1名）であった。各日の救急搬送者数は以下のとおり。 7/2:2名、7/3:16名、7/4:7名、7/5:13名、7/6:9名、7/7:11名、7/8:2名、7/9:6名、7/10:1名、7/11:1名、7/12:3名、7/13:1名 7/14:4名、7/15:3名、7/16:2名、7/17:2名、7/18:12名、7/19:23名、7/20:4名、7/21:16名、7/22:12名、7/23:15名、7/24:4名、7/25:11名 7/26:14名、7/27:25名、7/28:7名、7/29:4名、7/31:10名

資料：富山地方気象台